

大正四年九月刊行



(非賣品)

造船協會會報

第拾七號

造船協會役員

會長
理事(主事)
理事(編輯主任)
理事(主計)
監事
監事
評議員
評議員
評議員
評議員
評議員
評議員
評議員
評議員
評議員
評議員
編輯委員

八代準	島谷敏郎	加藤知道	山本開藏	須田利信	横田成年	藤島範平	斯波忠三郎	末廣恭二	堤正義	今岡純一郎	進經太郎	井口在屋	湯河元臣	福田馬之助	近藤基樹	寺野精一	赤松則良	男爵
-----	------	------	------	------	------	------	-------	------	-----	-------	------	------	------	-------	------	------	------	----

地方委員

通信委員

長崎山宗吉	長崎德大寺則磨	大阪松田清一	大阪熊倉達郎	神戸鶴田傳次郎	浦賀柴岡喜一郎	函館小林晉	舞鶴伊藤安吉	長崎江崎一郎	佐世保横山一	吳山口德次郎	神戶田中泰董	大阪福地文一郎	横須賀田原得三	横濱小野俊夫	山本武藏	中川健二	生島莊三
-------	---------	--------	--------	---------	---------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	--------	------	------	------

會員名簿に關する廣告

本會々員數逐年增加致し御關係の業務も多方面に涉り居候に就ては會員相互の便宜を圖る爲め本年度より名簿の體裁を改め度候間別箋各欄に夫々御記入の上來る十月末日迄に御發信相成度候

造船協會會報 第拾七號

大正四年九月刊行

目次

▲講演

歐洲戰亂と社外船……………山下汽船
含名會社長 山下龜三郎君一頁

歐洲戰爭と船舶……………正員工學博士 今岡純一郎君九
正員工學士 渡邊行太郎君九

巴奈馬運河……………協同員法學士 島田乙駒君六

▲討論

「歐洲戰爭と船舶」に對する討論

▲第一回討論會 (七七頁—一二三頁)

座長寺野精一君、今岡純一郎君、寺島成信君、中里重次君、杉谷安一君(代讀)、松方幸次郎君、岡崎忠雄君、市村富久君、渡邊行太郎君、加茂正雄君、今岡純一郎君、座長寺野精一君。

▲第二回討論會 (一三三頁—一七六頁)

座長寺野精一君、藤島範平君、加藤知道君、東海勇藏君、原正幹君、堤正義君、斯波忠三郎君、末廣恭二君

中里重次君、今岡純一郎君、座長寺野精一君。

▲參考資料

船價調査會決議案

一七

建白書

一六

▲前號會報の講演目次

潜水艇の概念……………工學士 本原耿介君

船舶傾斜測定裝置……………工學博士 末廣恭二君
工學士 山本武藏君

ディーゼル機船第三橫須賀丸に就て……………

……………工學士 平山 敢君

……………工學士 青木 保君



造船協會々報 第拾七號

大正四年九月刊行

講 演

歐洲戰亂ト社外船

山下汽船合名會社長 山下 龜三郎

本日私ガ此講壇ニ立チマスノハ甚ダ光榮ニ存ジマス、且ツ恐縮ニ存ズル次第デゴザイマス、閣下竝諸君ニ向ヒマシテ謹ンデ敬意ヲ表シマス、實ハ「モーニングコート」ト云フモノハ今日初メテグライナ男デゴザイマス、此間中揉メテ居リマシタアノ相撲デゴザイマス、此頃始メマサウデゴザイマスガ、此相撲ニ於キマシテハ四十八手ノ手捌キヲ必要ト致シマス、是ハ木村庄之助或ハ式守伊之助ノ役デゴザイマス、決シテ三段目ノ禪擔ギノ當ル所デナイノデゴザイマス、然ルニ此禪擔ギガ此所ニ立チマシテ閣下竝諸君ノ清聽ヲ汚シマスコトニ相成リマシタコトハ、私ノ同郷ノ友人末廣博士ニ實ハゴマカサレタノデゴザイマス、造船協會ニ來テ話ヲシナイカト云フコトデゴザイマシタノデ、實ハ僕ハ喜ンデ御話ヲシマシヤウ、斯ウ云フコトデアリマシタ、然ルニ取組番附ヲ見マスルト平生私ドモガ戦々兢々トシテ拜謁ヲ願ハネバナラヌ今岡博士竝渡邊學士島田學士ト云フ取組ミデアツテ殆ド當惑イタシマシタ、併ナガラ一旦御請ケヲ致シタコトデゴザイマスカラ、今日夕暮ニ「モーニングコート」デ細君ト水杯ヲ致シテ出マシタノデゴザイマス、深ク御懇察ヲ願ヒマス、此所ニハ私ドモガ殆ド師匠同様ニシテ教ヘテ貰ヒマシタ先輩ノ緒明圭造君ナドモ御居デニナツテ居リマスカラ、猶々タジノ致ス次第デゴザイマス、仕方ガゴザイマセヌカラ前座ヲヤリマス。

此ノ社外船ト申スノハ説明ヲ申上ゲナクトモ御承知ノコト、存ジマス、此社外船デ成立ツテ居リマス日本船主同盟會ト云フモノガゴザイマス、此社外船ノ行動ニ付キマシテハ即チ日本船主同盟會ノ所屬ノ船ト御承知置キテ願ヒマス、數字ヲ申シマシテモ矢張り日本船主同盟會所屬ノ數字ト御承認ヲ願ヒマス、此社外船ト申シマスモノモ二十三年前ハ微々タルモノデゴザイマシタ、其時分ニハ私ハマダ學校ニ居ツタグラキデゴザイマシタ、アトカラ聞キマスノニ、二千噸以上ノ船ハ濱中八三郎ト云フ人ノ東洋丸、淺野總一郎君ノ萬國丸ト云フクライナモノデゴザイマシタ、其後ニ話ヲ聞キマスト東洋丸ガ唐津カラ香港ニ石炭ヲ積ンデ行ツテ歸リニ香港カラ神戸ニ來ヤウトシタ所ガ船員ノ技術ヲ疑ハレテ保險ガ利カナイ、遂ニ契約ガ調ハナカッタト云フ話ヲ聞イテ居リマス、其時分ハ八九艘ト云フヤウニ聞イテ居リマス、ソレガ、社外船トシテ認メラレタノハ二十七八年ノ戰役ニ付キマシテ多少ノ數字ヲ認メラレタヤウニ思ヒマス、即チ二十七年デニ於キマシテ三萬七千噸ヲ計上イタシテ居ルヤウニ存ジマスサウシテ二十九年ニ相成リマシテ十一萬七千餘噸、大正四年度即チ本年ニ至リマシテ二百三十八艘、五十八萬一千噸ヲ計上イタシマス、其他ニ船主同盟會ニ這入ツテ居リマセヌ非同盟船ト申スモノガ百三十艘、合計約七十七萬噸ヲ計上スルヤウニ存ジマス、丁度明治二十七年ノ三萬七千噸カラ見マスレバ二十倍ノ増加ヲ來タシテ居リマス、今昔ノ感ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス、但シ此山下汽船ハ其中ノ小部分デゴザイマス、即チ三段目ノ仕事デアリマス

此社外船ガ此度ノ歐洲ノ大戰ニ付キマシテ如何ナル影響ヲ受ケ、如何ナル働キヲ爲シツ、アルカト云フコトヲ大略御話イタサウト存ジマス(店デ馬鹿ヲ言ツテ話ヲシテ居ルノト大變調子ガ違ヒマス)其七十萬噸ノ船ガ如何ナル影響ヲ受ケタカト云フコトヲ御話申スニ付キマシテハ甚ダ私ト致シテハ生意氣デアリマスガ、己ムヲ得ズ此戰爭以前ノ歐洲ノ船ハドンナモノデアツタカト云フコトヲ御話シタイト思ヒマス、ソレヲ御話イタシマセヌト、日本ノ社外船ニ移ツテ參ラヌヤウニ存ジマス、私ハ海運業者トシテ倫敦ノ取引先キト始終電報書翰ノ往復ヲ致シテ居リマス、其自分ノ商賣カラ感ジマシタノデ、何モ物ニ依ツテ調ベタリ、統計ヲ取ツタヤウナ譯デハゴザイマセヌ

昨年ノ七月頃、即チ戦争開始以前ニ於キマシテハ歐羅巴ノ船主モ大分困ツテ居リマシタヤウニ存ジマス、即チ西貢一馬耳塞、南米一歐洲、「カージフ」「ポートセッド」ト云フ航路ニ付テ西貢歐洲ハ二十一志、又南米歐洲ハ十一志「カージフ、ポートセッド」ハ七志半ヲ稱ヘテ連モ算盤ガ取レマセヌ爲ニ國際的繋船ヲシヤウデハナイカト云フコトヲ言ツテ居ツタヤウデゴザイマス、左様イタシテ居ル際ニ歐羅巴ノ戦争ガ始リマシタ、私ドモ船主ト致シテモ極日ノ淺イコトデアツテ明治三十六年ニボロ船ヲ一艘持ツタヤウナ次第デ、斯ウ云フコトニ遭ツテ居リマセヌカラ船ト云フモノハ戦争ガ始ツタラ宜イ、運賃ガ高クナル、宜イニハ相違ナイガ、ドウナルドラウト云フコトヲ考ヘツ、頻ト倫敦ノ取引先キニ電報ヲ打タセマシタ、平生ハナカク電報料ヲ吝ンデ居リマスガ、モウ其頃ハ殆ト狂亂ノ如ク電報ヲ打タセマシタガ、更ニ見込ガ付カナイ、又打タセテモ見込ガ付カナイ、又打タセテモ見込ガ付カナイ、ドウモ見込ガ付カヌト云フコトデゴザイマシタ、ソレデ其後手紙ニ或ハ雜誌ナドヲ翻譯シテ見マスト戦争ガ始ツテモドウモイケナイ、御承知ノ通り總テノ商賣ノ機關ガ止リ、爲替ガ止リ、銀行モ金ヲ貸サヌ、斯ウ云フコトデ八月中ト云フモノハ各船主ハ手ヲ空ウシテ眺メテ居ルヤウナ有様デアツタヤウニ存ジマス左様イタシテ九月ニ至リ十月ニ至ツテ如何ニ戦争ト申シテモジツトシテハ居レナイト云フ所カラ海上保險法モ出來、或ハ英蘭銀行ノ一割ヲ稱ヘタノモ六朱ニナルト云フヤウナコトデ、少シヅ、品物ガ動イテ來マシタ、サウシテ十一月頃ニナツテ稍々船主ノ見込ガ付イタヤウデゴザイマス、即チ十一月頃ニ相成リマシテハ大分「タイムチャーター」モ出來マシテ、三志半、戦時保險ヲ船主ガ持テバ四志、重量噸數ニ對シテ四志ト云フヤウナ「チャーター」ガ出來マシタ、ソレカラ十二月ニ至リ一月ニ至ツテ段々調子ガ宜クナリマシテ、丁度一月七日デゴザイマシタ、神戸カラ歐洲ニ至ル富國丸ハ西貢佛蘭西ヲ三十六志三片ト決メテ置カウト云フコトヲ申シテ參リマシタ、丁度戦争前ガ二十一志トスレバ五割増シニ相成リマシタ、ソレカラ一週間モ經チマスト三十六志半ト決マリマシタ、西貢佛蘭西ガ四十五志ニナリ、又五十志ニナリ、五十五志ニナリ、昨今ニ於キマシテハ八十五志ヲ稱ヘテ居ルノデゴザイマス是ハモウ少シ細カク申上グルト宜イノデゴザイマスガ、此種ノ御話ヲ申上グルノガ主デゴザイマセヌカラ、此邊

デ御話ヲ止メテ措キマス。

左様イタシマシテ日本ノ船ハドウデアツタカト申シマス、戦争前ハ門司濱ノ標準相場ハ五十錢ヲ取ツテ居リマシタ、甚ダ弱カツタヤウデアリマス、ソレガ八月半バニ相成リマシテ御用船命令ガ下リマシテ、丁度社外船デ御用船ニ相成リマシタノガ四十八艘デ十三萬二千七百三十四噸ヲ計上シタヤウニ心得マス、此御用船ガゴザイマシタ爲ニ戦争前ニ五十錢デゴザイマシタ門司濱ガ一圓六十錢ヲ稱ヘルマデニ至リマシタ、所ガ青島ガ落チマシテ御用船ガ解除ニナリマスト共ニ又ダラノ下リヲ致シマシテ、八十錢ニナリ七十錢ニナリ、五十五錢グラキマデニナツタト思ヒマス、ソレカラ又凱旋兵ヲ積ミマス爲ニ半數グラキデゴザイマシタガ、其數字ハ覺エテ居リマセヌガ、二十三艘ノ御用船ヲ取ラレマシタ爲ニ一時門司濱ハ八十錢グラキニ相成リマシタ、其凱旋兵ノ輸送モ濟ミマシテ、十二月一月ノ霜枯時ニ相成リマシテ、今度ハ五十錢ヲ割リマシテ四十錢、何デモ三十八錢デ積ンダ人ガアルト云フコトヲ聞キマシタ、其時ニ至リマシテ私ドモハ如何ニ考ヘテ船ヲ操縦シタラ宜イカ、是ハドウモ奇體ナコトニ相成ツタ、成ルホド戦争ガアツテモ世界ノ船ガ四千萬噸モ計上スルニ至ツテハ世界ノ一隅ニ戦争ガアツタ所デ世界中ニ影響スルコトハ無イトハ思ツテ居ツタガ、今殆ド世界未曾有ノ大戦争ガアルニモ拘ラズ日本ノ船ハ其影響ヲ受ケナイト云フ事ハナイ、自分ドモガ商賣ヲ始メテカラ初メテ三十八錢トカ四十錢トカ云フコトデ積マナケレバナラスト云フコトハ實ニナサケナイ話デアル、是ハ非常ニ考ヘラ要スルコトデアラウト信ジマシテ、私ドモ幹部ノ者ヲ集メテ種々苦慮討議シタ次第デゴザイマス、他ノ同業者モ同様ナコトデアツタト存ジマス、左様ニ苦慮イタシテ居ル中ニ段々神戸ノ同業者ナドモ蹶起イタシマシテ、一ツ何トカシテ歐羅巴ニヤツテ見ヤウデハナイカト云フヤウナ相談ヲ致シマシタ、私ドモ先輩ノ岸本君ナドガ先年濠洲ノ者ニ船ヲ貸シタコトガアリマシガ、ドウモ甚ダ結果ガ良クナカツタカラ減多ニヤレナイト云フコトデ、皆苦シミナガラモアト退キヲ致シテ居リマシタ、其中ニ先キホド申シマシタ富國丸ガ西貢佛蘭西ヲ決メマシタ、ソレカラ暫ク致シマスト第八乾坤丸、總噸數四千八百噸、重量噸數七千七百噸ノ船ト記憶シテ居リマスガ、此船ガ一年ノ「タイムチャーター」ガ二萬圓デ

決マリマシタ、五シリングデゴザイマス、即チ重量噸數一噸ニ付二圓五十錢ニ相成リマス、ソレガ抑モ私ドモノ社外船ニ火ガ付イテ參リマシタ初リノヤウニ心得マス、ソレカラ靖國丸報國丸ト云フ六千噸以上ノ年代ノ新シイ船ニズン、火ガ付イテ參リマシタ、第八乾坤丸ハ五志、其後六志ニ當ルノモ出來マシタ、六志半ニ當ルノモ出來マシタ、左様イタシテ居ル中ニモウ年代ノ新シイ大型ノ船ガ段々無クナリマシテ、今度ハ四千噸型ノ船ヲ持ツテ參ルヤウニナリマシタ、ソレガ三月頃デアリマス、二月ノ初メカラ三月頃ニ相成リマシテハ四千噸型ノ船デモ宜イカラ「タイムチャーター」ヲシタイ、八志出スト云フヤウナコトヲ言ツテ參リマシテ、私ドモノ武州丸トカ同業者ノ建國丸トカ一記憶イタシマセヌガ、四千噸型ノ船ガ大分出來マシタ、其後今度ハ大型ノ船デサヘアレバ年代ヲ構ハナイ、大型ノ船デ「ロイド等級」サヘアレバ年代ハ構ハナイト云フコトニ相成リマシテ、私ドモノ八幡丸ト云フ船ガ歐羅巴ニ參ルコトニ相成リマシタ、之ヲ私ニ言ハシメマスレバ、初ハ十七八ノ娘、ソレカラ二十六七ノ年増、ソレヲ娘以上ニ餘計出シテ買ツタ、今度ハ船デサヘアレバ宜イト云フコトデオ婆サンヲ一番高ク買ツタト云フコトニ相成リマス、ソレデ今月ハ大抵歐羅巴ノ「タイムチャーター」ノ相場ガ十志或ハ十一志ト云フヤウナコトニ相成ツテ居リマス、ソレデ歐羅巴ニ參ツテ居ル船ヲ計上イタシマスト、三月ノ末ニ私ガ自分ノ店デ調ベサセタ所ニ依レバ四十三艘、總噸數ガ十八萬六千噸バカリニ相成リマス、之ヲ重量ニ致スト三十萬噸ト申シテ宜シウゴザイマセウ、此頃ノ海上通報ヲ見マスルト、七十艘デ二十七萬噸餘ト云フコトガ書イテゴザイマスガ、斯様ナル數字ノコトハ後ホド今岡博士渡邊學士ノ御演說デ明瞭ニ相成ルコト、存ジマス、二十七萬噸トスレバ重量殆ド四十萬噸、此四十萬噸ヲ假ニ四圓平均ト致シマスレバ、一箇月百六十萬圓外國ノ金ヲ取上グルコトニ相成リマス私ノ考ヘデハ是ハ多少重複シタモノガゴザイマスカラ、數ヘ方ニ依リマスガ、重量噸數三十五萬噸ト見テ差支ナカラウト思ヒマス、左様ニ社外船ガ外國ニ出テ働イテ居ルノデゴザイマス。

概況ハ唯今申上ゲタヤウナ次第デゴザイマス、サウ致シマシテ大戰爭ニ依ツテ私ドモ社外船主ガ如何ナルコトヲ感ジマスカ、此後ドウシナケレバ相成ラスカト云フコトヲ少シク御話イタシタイト存ジマス、ソコデ私ドモガ此

大戰ニ依ツテ感ジマシタコトハ、第一番ニ保險ト云フモノ、區域及保險ニ關スル智識ヲ非常ニ得マシタノミナラズ今後大イニ此保險ト云フコトニ注意ヲシテ行カナクテハナラヌト云フコトヲ感ジマシタ、其他ニ船員ノ選擇ト申スコトモ感ジマシタ、唯今マデハ此社外船ト申スモノハ重モニ水火夫カラ上ツタ者ヲ採用シテソレデ事足ルト信ジテ居リマシタガ、今度初メテ社外船ガ世界ノ舞臺ヲ股ニ掛ケルト云フコトニ相成リマシタニ付キマシテハドウシテモ正式ノ學問ヲシタ本校出ノ者デナクテハイカナイ、第一番ニ話モ出來ナイ、電信ノ「コード」ヲ引クコトモ出來ナイ、又少シノ「ツラブル」ガアツテモソレヲ解決スルコトガ出來ナイ、船員ト云フモノハ非常ニ改良シナクテハナラヌト云フコトヲ感ジマシタ、ソレカラ今一ツハ此戰爭以來斯様ニ日本ノ船ヲ外國デ使フコトニ相成リマシタ爲ニ、戰爭以前ニハ殆ド船ノ賣買以外ニハ赤電報ト云フモノハ船主ノ家ニハ參リマセヌ、神戸デ賣買ノ「ブローカー」ヲ致シテ居ル者ノ家ニ月ニ赤電報ガ十五六本グラキ參リマシタガ、其他ノ取引キニ對シテハ殆ド絶無ト申シテ宜イト存ジマス、所ガ昨今ニ相成リマシテハ神戸ニ參ル電報……無論他ニハ參リマセヌ、御承知ノ通り神戸ガ中心トナツテ總テ外國ト相對ノ取引キハ神戸デ致シテ居リマスカラ、神戸ノ外ニハ來ナイト申シテ宜シウゴザイマス、其赤電報ガ此頃自分ノ店ニ參ルダケヲ勘定イタシマシテモ、一箇月確カニ百本以上ハ參リマス、倫敦カラモ桑港カラモ其赤電報ガ參ル爲ニ其赤電報ノ返事ヲ出ス役者ヲ置カネバナラヌ、斯ウ云フコトニ相成リマシテ、同業者間ニモ段々今マデノ船ヲ操縦スル人ノ外ニ筋ノ立ツタ學問ヲシタ人ヲ店ニ置クコトニ相成リ、船ト併行イタスコトニ相成リマス、是カラ私ドモモ大イニ禪ヲ締メテ掛ラナケレバ相成ラヌ、私ドモノ考ヘマス所ニ依リマス、英吉利ハ二千萬噸ノ申デ七割ハ社外船ト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、日本モサウ云フ風ニ相成ルデアラウト存ジマスカラ、大イニ努力ヲ要スル次第ト考ヘマス、ザツト御話ヲ致セバ唯今申シタヤウナ次第デゴザイマス尙ホ附加ヘマシテ是ハ表カ何カ御覽ニナレバ直グ分ルコトデゴザイマスガ、ヒヨット今朝見出シマシタカラ書イテ置キマシタ明治三十六年ノ日本船主同盟會會員ノ船ガ九十二艘デ十五萬七千噸ト云フモノガ日露戰爭前ニゴザイマシタ、其時分ハ此所ニ御居デニナル緒明君ナドガ一番ノ飛越エタ大船主デゴザイマシタ、十艘御持チニナツ

テ一萬七千噸ヲ計上イタシマシタ、尾城君ガ一萬三千噸、岸本君ガ八千噸、右近君ガ八千噸、廣海君ガ七千噸、斯ウ云フ數字ニ相成リマス、此五君ノヲ計上イタシマスト、二十七艘デ六萬五千噸餘、斯ウ云フコトデゴザイマス、大正四年ニ相成リマスト、二百三十八艘デ五十八萬餘噸、岸本君ガ二十二艘デ八萬三千噸、辰馬君ガ十三艘デ四萬千噸、原田君ガ十三艘デ三萬千噸、岡崎君ガ十一艘デ二萬六千噸、八馬君ガ九艘デ二萬五千噸、此五人ヲ寄セマスト、六十八艘デ二十萬八千四百噸ニナリマス、三十六年ニハ五人ヲ寄セテ二十七艘デ六萬五千噸餘シカ無カツタノデアリマスガ、近年ニ於キマシテハ一番大キナ船主五人ヲ寄セレバ六十八艘デ二十萬八千四百噸ト相成リマス、多少此社外船主ト云フモノガ一ツノ勢力ト相成ツタヤウニ思ハレマス、此所ニ御居デニナル緒明君ハ金ガ非常ニ御出來ニ相成ツテ船ガ飽キテ御出デニナツタコト、存ジマス、緒明サン右近サンナドハ金ガ出來テ富豪ノ階級ニナラレマシタカラ仕事ノ方ハ段々新手ノ大イニヤル者モ出來テ參ルダロウト思ヒマス。

甚ダ順序ノ立チマセヌコトヲ申シテ清聽ヲ汚シマシタ、冒頭ニ於テモ申上ゲマシタ通り私ドモハ相撲ヲ取りマス方デゴザイマスカラ、此講釋ヨリモ船ノ操縦ガ上手ダト云フコトニ御考ヲ願ヒマス、此演說ガ下手ナ爲ニ船ヲ回スコトモ下手ダト思召サレテハ甚ダ部下ニ對シテ申譯ガゴザイマセヌ、演說以上ニ船ヲ回スコトガ上手ダト御承知置キヲ願ヒマス(拍手)

座長寺野精一君 唯今ノ山下サンノ御演說ニ付テ何か御質問ハゴザイマセヌカ……………別段御質問モ無イヤウデゴザイマスカラ、講演者ノ山下サンニ御禮ヲ申シタイト思ヒマス、今回ハ山下サンニ非常ナ御無理ヲ願ヒマシタ所ガ御快諾ニナツテ御繁忙中態々本會ノ爲ニ御出席クダサレマシテ、頗ル有益ニシテ且ツ面白イ御話ヲ伺フコトヲ得タノハ會員ノ大ニ感謝ニ堪エヌ所デアリマス、殊ニ個人船主ガ大ニ活動サレテ居ル實況ヲ伺ヒマシテ、甚ダ愉快ヲ感ズル次第デアリマス、付キマシテハ諸君ト共ニ拍手シテ山下サンノ御講演ニ對シテ御禮ヲ申スト共ニ山下サンノ御成効ヲ祝シタイト思ヒマス(一同拍手)

歐洲戰爭と船舶

第一緒言

工學博士 今岡純一郎
 工學士 渡邊行太郎

會長閣下竝に諸君今次の歐洲戰爭は前古未曾有の大戦となり殊に商工業國の雄たる英獨二國が其中心なるを以て世界各國の産業に及ぼしたる影響甚大なるものあり我國の如きも其の波動を受け戦亂發生後直に貿易の激減を來し輸入品たる鐵、染料、工業竝に醫療用藥品等は輸入杜絶又は原料の缺乏により價格一時に昂騰し又輸出品たる生絲綿絲布は暴落する等我經濟界の大打撃を被りたるは既に諸君の知悉せらるゝ所なり然れども此の産業界の變動の爲め幾多の刺戟を我國民に與へ或は化學工業振興の企畫となり或は蠶絲救濟の施設となり其の他國産奨勵の聲は世間を風靡するの狀を呈せり我船舶界の如きも船腹不足の聲高く新造船激増の盛況を呈する等著しき影響を示せり此の機會に於て戰爭と船舶との關係を研究し以て將來に於ける斯界發展の策を講ずるは極めて重要なることなりと信じ菲才を顧みず吾々兩人先日來多少調査したる事項を綜合し爰に『歐洲戰爭と船舶』と題し聊か私見を陳べ大方の教を請はんと欲す。

第二 世界海運界の概況

一 船腹の減少

歐洲事變の勃發は米國以外世界の一等國を悉く戰爭の渦中に投ぜしめ各國商工業に甚なからざる變調を來たさしめたるが就中世界海運界に及ぼせる影響甚大なるものあり今最近のロイド船名録により世界主要海運國

に於ける所屬船舶を總覽するに總噸數百噸以上の汽船總數二三、一〇四艘此の總噸數四四、〇三六、四三〇噸に達するも此の内總噸數三千噸以上の汽船を採算するに總數五四九二艘總噸數二七、五二一、五八六噸となる(但し米國所屬船中同國大湖内にあるものを除く)此等の船舶は何れも世界的海運界に角逐せるものと云ふべきものなるが事變開始の結果其の消長を觀察するに獨塊兩國所屬船全部は自國又は中立國の港灣に屏息し或は交戰國艦隊の擊沈又は捕獲する所となり全部海運界より引退し英國所屬船にあつては軍隊輸送及海軍運炭船として政府の徵發を受けたるもの非常なる多數に上り且つ獨艦の擊沈を蒙れるもの尠ならず此等は少くとも總數の二割に達するものありと稱せられ露國所屬船は大部分南北の兩海内に封鎖せられ航海の自由を有せず東洋方面にあるものは僅に二割内外に過ぎず佛國船舶の消息に就ては之を推測するの充分の材料なきも御用船となりしもの多かるべく少くとも半數は一般海運界に入らざるものとするも大差なかるべく白土の船舶に在りては現時の戰況より見て是れ亦全部海運界に影響なきに至れるものと見て差支なかるべく即ち總噸數約八百七十萬噸の船舶は世界的海運界の範圍外に出てたるものにして茲に全體の船腹に於て約三割以上の減退を來たせるものと認めて大差なかるべし詳細は左表に示すが如し。

第一表 世界に於ける重要海運國所屬船舶噸數及時局の爲

一般海運界より引退せる船舶噸數表

(最近のロイド船名錄による但し日本船舶は大正三年末調の數字なり)

國名	總噸數百噸以上の汽船	總噸數三千噸以上の汽船	減少歩合	減少噸數	差引噸數
英國	一〇、一二三	三、一〇二	二〇%	三、一〇三、三二〇	一一、四一三、二八一
獨逸	二、〇九〇	六四九	三、六七六、三八一	一〇〇%	〇
米國	一、七五七	二二六	一、一七六、八〇五	—	一、一七六、八〇五
佛國	一、〇二五	二三四	一、二九四、二七五	五〇%	六四七、一三八
和蘭	七〇九	一七九	九九〇、七五五	—	九九〇、七五五

伊國	日本	日國	埃國	諾威	露國	希臘	西班牙	瑞典	丁抹	白耳	計
六三七	一〇九四	四三三	一、六五六	七四七	四〇七	五八九	一、〇八八	五七六	一七三	二、三、一〇四	
一、四三〇、四七五	一、五三〇、二〇一	一、〇五二、三四六	一、九五七、三五三	八五、九四九	八二〇、八六一	八八三、九二六	一、〇一五、三六四	七七〇、四三〇	三四一、〇二五	四四、〇三六、四三〇	減少の割合
二〇九	一六八	一八〇	一六二	八〇	九五	七二	六二	四二	三二	五、四九二	
九三三、二七二	八二二、〇二〇	七九一、一四七	六八四、六八八	三五〇、〇九一	三四四、八〇七	三一二、六一九	二五二、〇五七	一九八、五二四	一七七、六一六	二七、五二一、五八六	
		一〇〇%		八〇%					一〇〇%		
	七九一、一四七			二八〇、〇七三					一七七、六一六	八、六七五、六七五	
										三一、五%	
九三三、二七二	八二二、〇二〇		六八四、六八八	七〇、〇一八	三四四、八〇七	三一二、六一九	二五二、〇五七	一九八、五二四		一八、八四五、九一一	

〔備考〕 米國所屬三千噸以上の汽船中には同國各大湖中を航行する汽船を除く

戰亂の勃發は航路の杜絶となり金融機關の停止となり世界各國の貿易業は一時全く暗雲を以て覆はれたるも戰局の推移漸く明瞭となるや金融機關は順調に復し東西の海洋に凶暴を逞ふせる獨艦も英艦の擊沈する所となり今や僅に獨逸潛航艇の時々英海岸に同國所屬船を窺ふに過ぎず全世界の航路は何等の不安を感ずることなく自由なる航海を行ふに支障なきに至れり加ふるに戰爭開始後各國の制定したる戰時海上保險補償法は著しく航海業者の活動を促し中立國は元より交戰國たる英佛の商工業者も争ふて生産業の發展と貿易業の隆盛を期し從來獨逸商品の獨占せる市場に自國製品の販路を求むるに至り且歐洲交戰國が從來彼我相互の間に需要品の融通供給を行へるもの戰亂の結果忽ち其の途を杜絶し多量の食糧及軍需品を遠く兩米及東洋方面に求むるの止むを得ざるに至れる爲輸送距離を増加し多大の船腹を要するに至り俄然として船舶の需用を喚起せるが一方世界海運界に於ける船舶は前記の如き事由により著しく減少せるものあり假令戰亂開始後新造船の相當補給せらるゝものあるも其の數量は却つて平時に比し減退せるあり(後段參照)然も一面普通海難其の他の事故により海運界を去るものと相殺して増加の數量著しからず茲に世界的船腹の不足を告ぐるに至

れり。

二 運賃の暴騰

前項所述の如く世界的船腹不足の結果は海運賃を暴騰せしめ何れの航路に於ても二倍乃至數倍を唱へしむるに至れり第二表及第一圖は此等運賃料金騰貴の一般を示すものにして如何に海運界の活況を呈しつゝあるやを想見するに足るべし尤も此等海運賃の増加は單に船腹の不足にのみ因るに非ずして戦亂の結果乗組員及航海に要する費用の増加、積卸し港に於ける労働者減少の爲荷役日數及荷役費の増加、戦時保険料の割増等種々の事由により海運業者の負擔を増加したるに因るものあるべしと雖要するに船舶所有者及海運業者の收得を大にすること尠少なからざるを想察するに難からず此の狀況にして持續せんか各船主の載貨噸數一噸に對する一ヶ年の運賃所得は十二磅を算すべしと稱せらるゝ有様なり。

第二表 倫敦重要運賃相場表

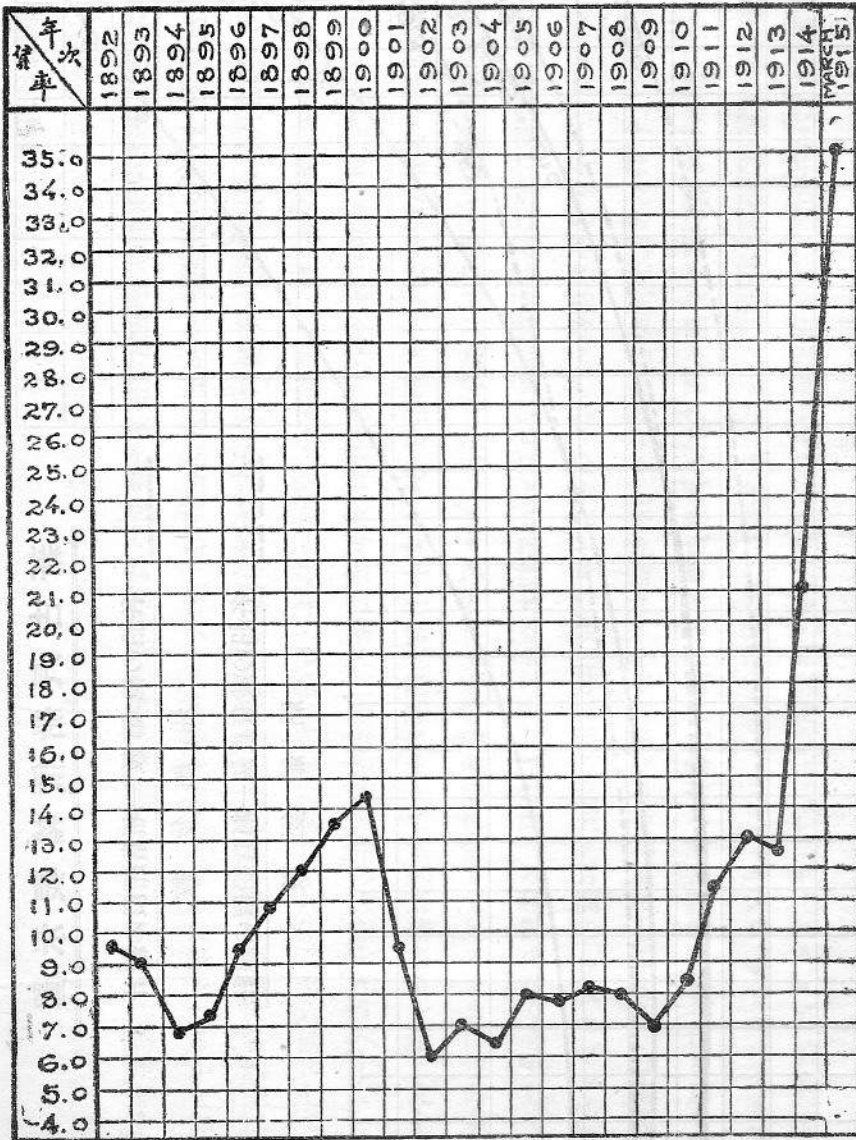
	大正二年		大正三年		大正四年	
	最高	最低	戦争前	九月	三月中旬	五月現在
カーゴフボートセード間	十一志十片半	七志	七志	七志六片—九志三片	三十五志	三十志
南米ブレイト英國間	二十七志三片	十志	十四志	十七志—二十四志	六十五志	六十七志六片
ボンヘー英國間	二十五志九片	十七志六片	十四志六片	十八志—二十志	三十七志六片	五十七志六片
浦港英國間	三十志	二十六志	二十五志	二十八志—三十五志	四十七志六片	八十七志六片

三 英國に於ける中古船價格の騰貴

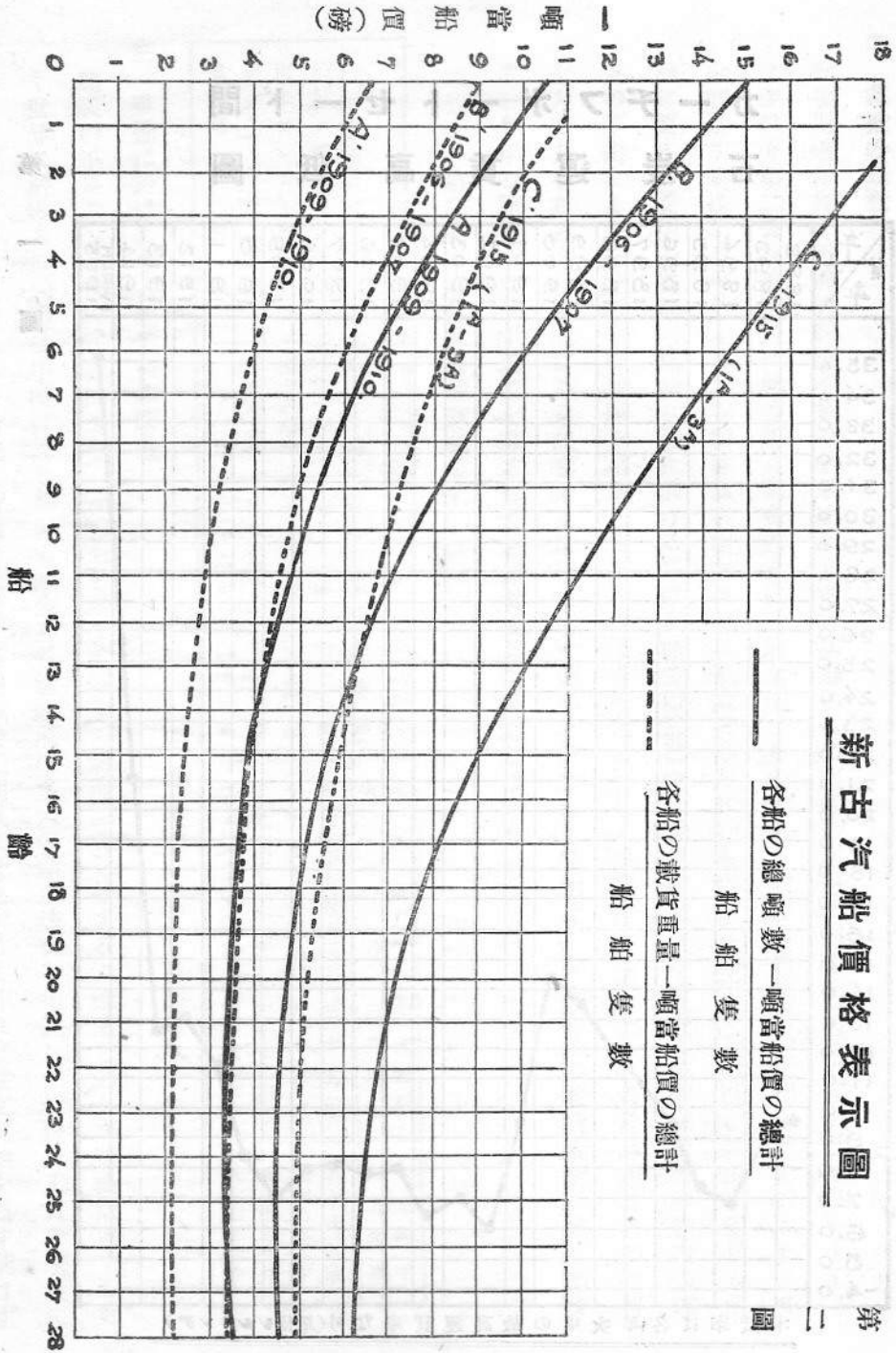
船腹の不足と海運賃の昂騰は直ちに各船主を驅りて争ふて新造注文を發するに至らしめしが後段説述する如く世界に於ける造船力は平時に比し却つて減少し各造船所は多大の新造注文を抱擁して材料及工賃の騰貴による造船費の過多に苦しみ各船主は高額の船價と長期の竣工期限に甘んずるに非れば注文契約を爲す能はず然も戦亂の推移は之を豫測すること不可能にして従つて海運界の好況が新船完成期に至る迄持續すべきや否

カーチフ、ポートセード間 石炭運賃高低圖

第一圖



本貸率は各年次中の最高運賃率なり(単位シリング)



やは何人も逆睹する能はざる所なるを以て新造契約を爲さんよりは目前の奇利を獲得し得べき中古船を得んとするもの續出し爲に英國に於ける多數の仕入れ船は須臾にして處分濟となり中古船の價格は暴騰し載貨重量一噸に付十磅乃至十一磅の驚くべき高率を現出するに至り備船料の如きも同一噸に付長期契約に屬するものは一ヶ月十二志六片乃至十三志短期契約に屬するものは一ヶ月十七志六片の高價を稱ふるに至れり。

第二圖は英國に於ける中古船の總噸數及載貨噸數各一噸當りの價格を示せる圖表にしてA、A'、B、B'等の曲線は嘗て船齡に伴ふ船價の遞減方調査の爲千九百十年四月七日發行の「シツペンダ、エンド、マーカントイル、ガゼット」誌上に載せたる最近四ヶ年間英國に於て實際賣買せる二百二十餘艘の中古船價に付年代を別ち調査せるものにしてA、A'は比較的海運界の不況なりし千九百九一十年に於ける平均線にしてB、B'は海運界の好況なりし千九百六一七年の平均線なりC、C'は本年一月以後三月に至る迄三ヶ月間の「フエャブレイ」誌上に記載せられたる英國に於ける中古船賣買價格により作製せるものにして参照せる船數少なく必ずしも正鵠を得たる曲線と稱し難きも大要現下の狀勢を示すべきものと信ず之等の曲線に依りて見るときは現時載貨噸數一噸當り價格はC曲線に示すが如く若齡船にありては十一磅老齡船にありても約五磅なるを示し之をB'の曲線に比すれば二磅乃至二磅半の差ありA'の曲線に比すれば實に三磅乃至四磅半の大差を示すべし。

次に總噸數一噸當りの價格を見るにC曲線に示すが如く現今の價格は船齡に應じ十八磅乃至六磅にして之をB曲線に比すれば二磅乃至四磅半A曲線に比すれば實に三磅乃至八磅半の大差あり以て如何に各船主は争つて長期の竣工期限を要する新造船よりも直ちに使用に供し得べき中古船を得んとするに汲々たるかを知るに足るべく若齡船の價格は現時の新造契約價格を超過し當初の新造價格以上に賣買せらるゝの奇現象を呈せり。

四 戰時海上保險の概況

海上保險の海運業に至大の關係を有するは論を待たざる所なり船舶所有者、貨主、運送業者が安んじて高價

の船舶又は貨物を海上の危険に委するは全く海上保険の補償に因るに外ならず然りと雖も戦時に於ては海上の危険特に甚だしき爲保險業者は高率の保險料を徴するに非ざれば保險契約を肯はず時には絶対に引受を拒絶するに至り爲に海事業者の活動を阻害し茲に一國の通商貿易に多大の支障を來たすに至るべし今次の事變は其の波及する處廣く洋の東西に及び交戰國船舶は元より中立國の船舶と雖も航行に多大なる危険を感ずるに至れるを以て各國政府は自國船舶の活動を促がし通商の振興を計らんが爲戦時保險に對する法律制度を定め船舶及輸出入貨物の戦時危険に對する補償をなすこととせり今各國に於ける戦時保險の概況を陳べんに

(1) 英[△] 國[△]

今次歐洲の大戦に際し英國は率先戦時海上保險官營を實行し世人をして其機宜に適したる處置を嘆稱せしめたり抑も本問題は夙に同國に於て研究せられたる所にして蓋し同國の農産物は國民の需要を滿たすに足らざる爲め戦時に於ける食糧の供給は充分の講究を要する重大問題なると同時に商工業を以て立國の基礎とする同國が如何なる場合に於ても原料の輸入と製品の輸出を安全ならしむることも亦絕對的に必要なりとするの聲高く此等は常に海軍擴張に對する有力なる議論の根據をなせしが然も一面海軍が如何に優勢なりとするも全然敵國海軍を封鎖し終らざる限り絶対に戦時危険を除くを得ず偶々封鎖を免れたる敵艦の存する場合海運關係業者をして航海に對し全然危惧の念ならしむるは不可能のとして爲に運賃、保險料は騰貴すべく通商貿易を妨ぐることを甚しかるべきを以て戦局の範圍と對手國の國力如何により萬一の危険に對し適當なる救濟手段を講ずるは國家の存立上緊要の事項なることを識者の間に唱道せられたるも未だ之が施設を見るに至らざりしが最近の伊土戦争、バルカン戦亂に於ける實例は適切に本問題に對する講究の必要なるを立證したる爲同國國防委員分科會に於て討議攻究せらるゝこととなり同分科會は八月三日戦時保險官營制度案を提出したるを以て政府は直ちに之を採りて同月五日より實施するに至れるものにして其迅速なる施設の能く機宜に適するを得たる故なきに非るなり今其内容を略述すれば船體保險にありては英

國に於て登録せられ英國國旗を掲揚し政府の承認する相互保險協會に加入せる船舶に對し右協會をして五分乃至一分の範圍内に於て政府の隨時決定すべき保險料を以て戰時保險を引受けしめ政府は其保險料の八割を收得して船舶の保險價額（製造價格より毎年四分づゝ遞減したるもの）の八割に對し再保險を與へ貨物保險に在りては相互保險協會加入船に搭載し戰爭開始後に積出されたる貨物に對し荷主の國籍如何を問はず（但し敵貨を除く）五分乃至一分の範圍内にて政府の隨時決定する保險料を徴收し該貨物の全價格に付政府自ら之を保險することゝし右取扱の爲戰時保險局を設置し又斯業に造詣ある専門家より成る顧問委員會を設け政府の諮問に應ぜしむることゝせり。

本制度の下に政府の承認を受けたる保險協會團體は

「ゼ、ノース、ラフ、イングランド、プロテクチング、エンド、インデムニチー、アツソシエーション」

「ゼ、ロンドン、グループ、ラフ、ウワー、リスクス、アツソシエーション」

「ゼ、ロンドン、エンド、リバープール、ウワー、リスクス、インシユランス、アツソシエーション」

の三者にして此等の協會に加入せる船舶の總價格は當時已に八七、〇〇〇、〇〇〇磅に上り居り之を全英國に於ける外國貿易に従事せる船舶總船價一二七、〇〇〇、〇〇〇磅に比すれば約七割を網羅することゝなり此他に普通保險業者にして船體の戰時保險を爲すもの殆んど全く其跡を絶ちたるの實況なりと云ふ以て本制度の好成績なりし一般を窺知し得べし。

(□) 佛[△] 國[△]

佛國政府は昨年八月十三日戰時保險法を制定し戰爭より生ずる危險に對し船體及積荷の保險官營をなすこととせしが船體にありては佛國に國籍を有し普通航海の危險に對し其價額の百分の二十五以上を保險に付したる船舶に限り保險額の百分の五を超過せざる保險料を徴收して普通保險證券に定めたる船價の八割を超過せざる範圍に於て保險し又貨物に關しては佛國及協約國又は中立國の船舶に依る輸出貨物にして普通

航海の危険に對し保險を付したるものに限り政府は保險金額百分の五を超過せざる保險料を徴して普通航海の危険に對し契約したる積荷保險證券面の全價格を保險することとせり。

(八)

米[△] 國[△]

英佛兩國に於ける戰時保險の施設に鑑み米國に於ても亦政府が戰時海上の危険に對する保證を與ふるの緊要なるを感じ昨年九月二日大藏省内に戰時保險局を設置し米國船舶及米國船舶による荷積人又は輸入業者にして適當の戰時保險を付すること能はざるものに對し政府は適當に定めたる保險料を以て船舶運賃、貨物に就て戰時危険の爲生ずることあるべき損害を保險すべき法令を發布し爾後同保險局は本法令の下に顧問機關を設けて戰時保險の官營を實施しつゝあり。

(二)

其他各國の戰時保險制度

其他各國何れも戰時保險の必要を認め機宜の處置を採れり即ち白國は八月七日付勅令を以つて白、米兩國商社間に小麥買入契約をなしたる場合之れを政府の用に供する條件の下に四分の一パーセントの保險料を以つて戰時危険を保證することとし又九月七日付にて白國人の英國輸入炭に對し戰時保險を引受くることとし伊太利は八月三十日の農商務省令を以て政府は國立保險協會の引受けたる同國船舶及輸出入貨物の戰時保險に付き八割の再保險をなすべく保險料率は〇・〇五乃至二パーセントとすべきを定め、諾威は八月二十一日船體の戰時保險を引受くる爲め自國船主をして相互保險組合を設置せしめ自國の船舶は一切強制的に戰時保險を付せしめ保險料率は最高一年十二パーセント最低二分の一パーセントとし船價の八割を保險することとし貨物に付ては新に資本四萬四千磅の會社を設立せしめ輸出入貨物の價格の二十パーセント以上を引受けしめ殘部は國家と被保險者にて分擔すべきこととし瑞典は八月十七日の勅令を以て戰時に對する國家保險制度を採用し丁抹は九月十日の法律を以て新に戰時保險を目的とする保險組合を設立せしめ國家の補助と他保險協會の協力により船體の戰時保險をなさしめ又穀物及石炭に對する國家保險を施行し

希臘は八月十八日の法令を以て國家の負擔にて國立銀行をして輸出貨物の戰時保險をなさしむることとせり。

第三 本邦海運界の概況

一 定期航路の概況

我命令航路の諸船は歐洲事變の勃發と共に從來東洋航路に従事したる諸外國汽船が一時殆んど其の跡を絶ちたる間に獨り其の定期航海を持續するに努めたりしが當時外國爲替の取組不能は彼我貿易業者に甚大なる打撃を與へ加ふるに太平洋印度洋方面に於ける獨艦の跳梁は著しく各方面に於ける貨物を減少せしめたるが狂暴なる獨艦の全滅により各航路の安全確保せらるゝや歐洲交戰國に於ける軍用品の需要及從來獨國製品の供給を受けたる各地に於て本邦製品の需要を喚起し金融機關の復活と相俟ちて各方面に於ける出貨著しく増加し然も一面外國船の來往は依然として戰前に比し著しく減少するあり爲に甚しく船腹の不足を告げ歐洲及濠州方面に定期船以外に臨時船の差立をなすの盛況を呈するに至れり今少しく戰亂の結果各航路に於ける船腹減少の狀況を陳べんに

(イ) 歐洲航路

本航路は從來左記汽船會社の所屬船により經營せられたり

- 日本郵船會社
- 彼阿汽船會社
- 青筒線 太平洋汽船會社
- 支那相互汽船會社
- ローヤル、メーイル汽船會社
- シヤーライン
- ペンライオン
- グレンライン

講 演 歐洲戦争と船舶

- 佛國郵船會社
- 漢米郵船會社
- 北獨ロイド
- リツクマース汽船會社
- 埃太利ロイド
- 丁抹東亞汽船會社
- 瑞典東亞汽船會社

即ち日本、英、佛、獨、埃、丁抹、瑞典所屬の十二會社により經營され毎月平均横濱は二十隻神戸は二十四隻の發航を見たるも戰亂開始後は劇減し各港共毎月約十隻の發港を見るに過ぎず本年に入り稍々増加の傾向なるも尙著しく減少せること左表に示すが如し。

第三表 各汽船會社所屬歐洲航路汽船出帆船數表

戰時前の平均數	出帆港	
	横濱	神戸
大正三年八月	二〇	二五
同 九月	一〇	一一
同 十月	一一	一〇
同 十一月	九	一一
同 十二月	八	一二
大正四月一月	一二	一一
同 二月	一三	一五
同 三月	一二	一五

(□) 北米航路

本航路の航海船數は亦著しく減少し戰亂前は各汽船會社の發航船毎月平均十五隻を算したるも戰時後は平

均十隻に減少せること第四表に示すが如し

第四表 北米航路汽船運航表

航路	戦前	現在
日本郵船	二週一回	合せて一週一回
大阪商船	二週一回	合せて一週一回
東洋汽船	合せて一週一回	合せて一週一回
太平洋郵船	三ヶ月一回	なし
大北汽船	二週一回	二月末「モンテアイゲル」就航其他は借船にて極めて僅少の航海を行ふ
加奈多太平洋鐵道	四週一回	約毎月一回
青筒線	四週一回	大部分は本邦より歐洲に引返し北米に至りたるもの本年に至り一隻に過ぎず
ローヤルメール	約毎月一回	なし
漢米郵船	十五隻	十隻
毎月平均隻數		

(八) 濠洲航路

従來本航路經營者は日本郵船會社の外東濠汽船會社、北獨ロイドの二社にして各四週一回の航海をなせしも戦亂後は北獨ロイド社の運航船を見る能はざるに至れり。

第五表 濠洲航路汽船運航表

航路	戦前	戦後
日本郵船會社	毎四週一回	毎月一回(外に臨時船一ヶ月二回以上の見込)
東濠汽船會社	同	毎四週一回
北獨ロイド	同	なし
毎月平均隻數	三隻	二隻

次に各航路に於ける貿易高の變動を見るに左記三表に示すが如し

第六表 歐洲航路出貨噸數比較表

戰前	戰後		戰前	戰後		戰前	戰後		計	增減の割合
	前	後		前	後		前	後		
大正二年八月	二、三八一	三、六一八	三、八八〇	四、五二〇	五、九九九	同	同	同	同	同
同 九月	二、二三四	三、八八〇	三、八八〇	四、五二〇	六、七五四	同	同	同	同	同
同 十月	四、四八二	三、八八〇	九、八六四	二六、二〇四	八、三六二	同	同	同	同	減 六八%
同 十一月	一一、二〇九	三、六三八	一一、四四七	二二、六五六	一一、五〇二	同	同	同	同	減 四五%
同 十二月	九、五三九	七、〇三六	一二、七二二	二二、二六一	二〇、四一七	同	同	同	同	八%
大正三年一月	八、〇二二	五、六五七	一〇、二九七	一六、六一七	一八、三一九	同	同	同	同	二二%
大正四年二月	八、六二一	一〇、八七七	一一、一七七	一七、六七〇	一九、七九八	同	同	同	同	二八、五四七
同 三月	一〇、三五四	一〇、一八三	八、八二四	二二、二〇八	一九、一七八	同	同	同	同	三三、三九一
戰前	一〇、一八三	八、八二四	二二、二〇八	一九、一七八	三三、三九一	同	同	同	同	七四%

第七表 北米合衆國輸出貿易額比較表

戰前	戰後		戰前	戰後		計	增減の割合
	前	後		前	後		
大正二、三年八月	一六、七二八	一四、一八	二二、四六八	九四、六	三、四%	增	
同 九月	一八、二五八	一九三	一七、二〇八	四九七	六%	減	
同 十月	二二、三八五	一五三	一七、五五七	四五四	二二%	同	
同 十一月	一七、九三九	三三一	二一、一五七	〇八七	三三%	同	
同 十二月	二〇、八三三	五九一	一五、四八九	六四〇	二六%	同	
大正三、四年一月	一五、八〇五	六八七	一一、八一五	五二九	二五%	同	
同 二月	一五、四一六	〇七八	一〇、二九七	九六六	三三%	同	
同 三月	一三、一二八	三六九	一一、四一三	九七八	一三%	同	

第八表 濠洲輸出貿易額比較表

戰前	戰後		計	增減の割合		
	前	後				
大正二、三年八月	一、〇五七	五八六	八四九	一三%	減	
同 九月	八四八	六四九	一一、一五	六七九	三一%	增
同 十月	七五一	八六四	八〇二	五九一	六%	同

同	十一月	五八九、八三六	一、〇二七、〇八四	増	七四%
同	十二月	九五三、四一二	九一六、〇五八	減	四%
大年三、四年一月	一月	六二〇、四〇三	七五一、二三〇	増	二一%
同	二月	五八八、九一二	八九一、六一三	同	五二%
同	三月	四七七、三五二	六八四、六七九	同	四三%

即ち歐洲航路に在りては著しく船腹を減じたるに拘はらず本年一月以降出貨の數量著しく増加し益船腹の不足を告げ郵船會社は臨時船を出して辛ふじて之に應じつゝあり出貨の大なるは穀物、魚油、豆油の類なりと云ふ。

北米航路は貿易額の主位を占むる生絲價格の暴落により全體の貿易額は減少せるも必ずしも貿易品數量は減少せざるべく(調査の材料なきを遺憾とす)然も同航路の船腹は著しく減少せるを以て各汽船の十分の載貨をなしつゝあり濠洲航路に在りては獨逸商品が濠洲の市場に出て來らざる爲本邦貨物の需要増加し「マツチ」「セメント」の輸出數量多大なるものあり郵船會社は臨時船を同方面に出すの有様なり。

二 日獨事件の我海運界に及ぼせる影響

不定期航路に従事する社外船に在りては昨年初めより前年來の一般工業界の不況を受け海運界の最も好況なるべき春夏の候に於ても萎靡振はず加ふるに歐洲事變の勃發は一時全く前途の光明を認むる能はざるに至らしめしが昨年八月我國が日英同盟の主旨により東洋の秩序を維持せんが爲獨逸に對し宣戰を布告し青島を攻撃するや約二十余萬噸の軍事輸送船の備上となり一時海運界は好況を示したるも之等の備船が十月初めに至り漸次解備となるや海運界は逆轉して悲況に陥り十一月に至り凱旋輸送の爲約同數の備上船を見たるも備船期間の短かかるべき見込明らかなりし爲格別の刺戟を受けず本年一月に入るも尙希望の認むべきものなく益悲境に赴くの有様にして多數の船舶は検査、修理の期日を繰上げ執行し或は繋船の止むなきに至るものありの不況に陥れり。

三 船腹の不足

講 演 歐洲戰爭と船舶

然りと雖歐洲方面に於ける船腹の需要は昨年末より本邦に於ける大型船を吸収し始め近海航路の小型船が非常の不況に沈淪せる間に於て三千噸以上の大型船は稍好況を告ぐるに至れるが其の後に大型船の需要は益甚しく加ふるに經濟界の秩序漸次回復するに伴ひ海外に於ける内地品の需要は一般海運界を刺戟し更に從來東洋方面に航運せる一般外國船は著しく其の數を減じ爲に中型以下の船舶の活動の範圍を増大したるを以て本邦に於ける海運界も亦著しく船腹の不足を告ぐるに至り近海航路の船舶と雖俄然活動の餘地を生ずるに至れり。

第九表は大正四年三月末に於ける本邦所屬千噸以上の汽船現在高にして即ち總數四八七隻一、五六七、〇〇四噸を算す。

第九表 大正四年三月末現在總噸數千噸以上の汽船噸數別調

積量	内地		關東州		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
二千噸以上	一二三	一八七、四八八	一〇	一六、〇四四	一三三	二〇三、五三二
一千噸以上	一一九	二九三、六五一	一九	四八、〇四二	一三八	三四一、六九三
一千噸以上	八〇	二七〇、五五五	二二	七九、三七九	一〇三	三四九、九二九
一千噸以上	二五	一〇九、三七五	一六	六九、二九二	四一	一七八、六六八
一千噸以上	二三	一二八、二五一	七	三七、三一〇	三〇	一六五、五六一
一千噸以上	二四	一五一、三一七			二四	一五一、三一七
一千噸以上	五	三八、六六二			五	三八、六六二
一千噸以上	三	二五、六〇九			三	二五、六〇九
一千噸以上	三	二八、四四八			三	二八、四四八

一	萬噸以上	七	八三、五八五	七	八三、五八五
總計		四一二	一、三一六、九三七	七五	二五〇、〇六七
				四八七	一、五六七、〇〇四

此内各命令航路船其他の定期船及官廳所屬船計二一五隻八一、一〇七噸を除外せる差引殘二七二隻、七五五、八九七噸は大約近海以上の航路に角逐し得べき不定期貨物船と稱すべきものなり即ち第十表に示すが如し。

第十表 不定期船數及總噸數調 (大正四年四月)

大正四年 三月末現在	内地及關東洲在籍總噸數千噸以上の汽船	船數	四八七	總噸數	一、五六七、〇〇四
内	遞信省命令航路使用船	船數	六三	總噸數	三二三、一八〇
	其他の命令航路使用船	船數	二〇	總噸數	六四、四四二
	命令航路以外の定期航路使用船	船數	六一	總噸數	二四八、二八〇
	郵船(借入船を含む)	船數	四四	總噸數	一一〇、四五六
	商船 同上	船數	一	總噸數	六、一八八
	東洋 其他	船數	八	總噸數	一七、六七六
	官廳所有船	船數	一八	總噸數	四〇、八八五
	計	船數	二一五	總噸數	八一、一〇七
	差引殘 不定期船とす)	船數	二七二	總噸數	七五五、八九七

然も之等の諸船は從來主として内地支那北海及印度洋方面に航海するに過ぎず其の他の外洋に出づるものは頗る僅少なりしも歐洲戰亂の爲世界的船腹不足の結果は右等の諸船にして歐洲南北南米及濠洲方面に吸収せらるゝもの現在に於て四十五隻以上を算し然も之等は何れも多く三千噸以上の大型船にして總噸數約十四萬噸に上り實に前記數量の十八%に達す尙平時是等の船舶が積取りに従事せる貨物は昨年中

石炭 約七百萬噸

雜貨 約百七十萬噸

講演 歐洲戰爭と船舶

講 演 歐洲 戰爭と船舶

計 八百七十萬噸

を稱へられしも本年の豫想は

石炭 約九百萬噸

雜貨 約二百萬噸

計 千百萬噸

を稱ふるあり加ふるに第十一表に示すが如く歐洲戰亂の結果は俄然として外船の東洋方面に航行するものを減少せしめたるを以て今や本邦の船舶は甚しく船腹の不足を唱ふるに至れり。

第十一表 開港出入外國船舶隻數表 (長崎、門司、神戸、橫濱四港分)

國 別	入 港		差 引		出 港		差 引	
	大正二年	大正三年	前年に比し増減)	總噸數	大正二年	大正三年	前年に比し増減)	總噸數
英 國	一,二八八	一,一六三	-	一,二八八	一,二八八	一,一六三	-	一,一六三
米 國	一,一〇〇	一,一〇〇	-	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	-	一,一〇〇
獨 國	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
佛 國	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
瑞 典	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
諾 威	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
澳 國	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
丁 蘭	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
和 國	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
露 國	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
支 那	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
伊 國	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	-	一,〇〇〇
合 計	一,一〇〇	一,一〇〇	-	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	-	一,一〇〇

四 運賃の騰貴

左表は戰亂前後の本邦近海に於ける代表的航路の運賃率を示せるものなり以て變遷の大なるを推知し得べし。

第十二表

日本近海重要運賃相場表

(北見と大阪神戸間は木材百石の運賃にして其他は石炭一噸の運賃なり)

航路	大正二年 中		大正三年 前		大正三年 九、十月		大正四年 三月中旬		大正四年 五月現在	
	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低
九州 新嘉坡	四、〇〇	三、〇〇	三、三〇	三、五〇	三、三〇	三、五〇	五、〇〇	五、五〇	五、〇〇	五、五〇
九州 香港	二、四〇	一、五〇	一、五〇	二、五〇	二、五〇	二、九〇	二、五〇	二、五〇	三、〇〇	三、三〇
九州 上海	一、八五	一、二〇	一、〇五	一、六五	一、六五	一、九四	一、四〇	一、四〇	一、七〇	一、七〇
北見 大阪、神戸	一、四〇	九、五〇	六、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、四〇	一、四〇	一、六五	一、六五

今更に本邦近海に於ける海運界の標準と稱せらるゝ門司、横濱間石炭運賃に付詳述せんとす。

第十三表は本運賃の變遷を示せるものにして即ち前項所述の日獨事件の影響は明に之を知ることを得べく昨年九月に於て一時に著しく高額を示せるも爾後漸次下落し本年一月に至り最も不況に沈淪せるが大型船の多數が遠洋に航行するの機運に向ふや俄に景氣を回復し當初は黒人筋に於ても此の好況を以て主として海運界の季節に因る自然的好況と修繕船多數に因る船腹の缺亡とに基因するものと觀察したる有様なりしも漸次歐洲戰亂の影響が其の主因を爲すものなること明瞭なるに至り益々強氣を示し三月上旬より中旬に亘り實に一圓六十錢の高額を稱ふるに至れり其の後外洋方面に航行する船舶の見込定まり對支問題の突發は一時幾分の不況を告げ海運賃の低落を來たせるも其の前途の樂觀せらるゝあり加ふるに氣候の緩和は北海方面の荷動きとなり船腹の需要を喚起し最近の狀勢は再び賃率の高價を示すに至れり。

第十三表

自大正三年五月至大正四年五月

門司、横濱間石炭一噸運賃高低表

年月	旬	上旬	中旬	下旬
大正三年 五月		・九五	・九〇	・八〇
六月		・七五	・七五	・七五

大正四年	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月
	・七五	・七〇	・一五〇	・一二〇	・七〇	・五五	・四〇	・七五	・一〇〇	・一〇〇	・一五五
	・七〇	・一〇〇	・一二五	・一〇〇	・六二	・五〇	・四三	・一一〇	・一六〇	・一三五	・一五〇
	・六〇	・九〇	・一一〇	・八〇	・五五	・四三	・六五	・一〇〇	・一二五	・一五〇	・一五〇

五 備船料の高額

海運賃の騰貴するに従ひ備船料の高額を稱へらるゝは當然の結果なりとす然も歐米方面に於ける船腹の需要大なる爲平素は小型船に比し一噸當り運賃料金の割合廉價なるを普通とする大型船備船料が小型船に比し却て騰貴せるの有様なり第十四表は昨年八月以後より近頃に至る間備船契約の締結せられたる實例に付聞得たるものを摘録せるものにして多少の誤なきを期し難さも概要に於て大差なきものと信ず、本表に依りて見るときは如何に備船料が劇變し最近に於ける大型船備船料の驚くべき高價を示すかを知るに足るべし即ち昨年

に於て總噸數一噸當り三圓以内載貨噸數一噸當り二圓以内を示せしも本年に至り漸次騰貴し最近に至りては總噸數約七圓となり載貨噸數一噸當り五圓以上を示すに至れり(引渡期間同じきも備船率に差異大なるものは船主備船主の各事情の差異により或は契約時日の相違に基くものなるべし)約一ヶ月前歐洲方面より本邦某船舶仲次業者の許に達したる外電によれば本邦渡しにて載貨噸數四千噸以下の船舶は同一噸當り四圓九十錢、同噸數四千噸以上の船舶ならば同一噸當り五圓三十錢の率にて何程にても備船を引受くべしとのこと

第十四表 備船料表

なる由如何に船腹の缺乏せるかを知るに足るべく實に備船料の騰貴が戦時前に比し約三倍に達したるものにして驚くべき高額なりと云ふべし。

船名	總噸數	載貨噸數	引渡期	備船期間	備船料(圓)	總噸數一噸當り備船料	載貨噸數一噸當り備船料
ハドソン丸	三、七九八	六、一五〇	三年八月	一ヶ年	一〇、〇〇〇	二、六三	一、六二
東山丸	三、八六六	五、八〇〇	同	同	九、八五〇	二、五五	一、七〇
大孤山丸	三、二一六	四、三三〇	三一一〇	一ヶ月	七、二〇〇	二、二三	一、六六
地久丸	三、一四二	三、五〇〇	三一一一	一ヶ年	五、〇〇〇	一、五九	一、四三
伏水丸	一、八三九	二、四〇〇	同	一ヶ月	三、七五〇	二、〇四	一、五六
生駒丸	二、九八六	四、四七五	同	一ヶ年	八、五〇〇	二、八五	一、八〇
宜春丸	三、八九五	六、〇五〇	三一二二	一ヶ月	一〇、五〇〇	二、六九	一、七四
建國丸	三、三七六	四、八〇〇	同	同	九、五〇〇	二、八二	一、九八
御月丸	三、六三九	六、〇〇〇	同	同	一、〇〇〇	三、〇二	一、八三
慶津丸	四、一九五	六、五〇〇	同	一ヶ年	一二、〇〇〇	二、八六	一、八五
豊前丸	二、五一九	三、六〇〇	四一一	一ヶ月	六、〇〇〇	二、三八	一、六六
笠間丸	二、五七七	三、三八〇	同	同	四、六〇〇	一、七八	一、三六
目尾丸	三、三二九	四、〇〇〇	同	同	六、〇〇〇	一、八〇	一、五〇
神威丸	二、二九九	三、二二二	同	同	四、七五〇	二、一二	一、四七
神明丸	二、四三三	三、七〇〇	四一二	一ヶ月	七、〇〇〇	二、八七	一、八九
鹿港丸	二、四一〇	三、五〇〇	同	一ヶ年	六、六五〇	二、七六	一、九〇
遼東丸	二、五二二	三、二五〇	同	一ヶ月	六、一〇〇	二、四二	一、八八
久美丸	四、七〇六	六、九一〇	同	一ヶ月	一二、五〇〇	二、六六	一、八一
影島丸	四、六八七	七、〇一〇	四一三	一ヶ月	一五、〇〇〇	三、二〇	二、一四
海城丸	四、二二三	四、八〇〇	同	一ヶ月	一二、〇〇〇	二、八三	二、五〇
靖國丸	五、一一八	七、三〇〇	同	一ヶ月	二〇、〇〇〇	三、九一	二、七四
八幡丸	四、三六〇	五、七〇〇	同	一ヶ月	二三、〇〇〇	五、二八	四、〇三
武洲丸	二、七二九	四、一五〇	同	一ヶ年	一五、〇〇〇	五、五〇	三、六二
神國丸	五、三三六	六、二〇〇	四一四	一ヶ年	一八、五〇〇	三、四七	三、〇〇

船名	總噸數	載貨噸數	引渡期	備船期間	備一ヶ月	經噸數一噸當り	載貨噸數一噸當り
第四雲海丸	三、一四五	四、四七〇	同	濠洲一往復	二二、〇〇〇	七、〇〇	四、九二
惠山丸	三、一五九	四、六〇〇	同	六ヶ月	一八、〇〇〇	五、七〇	三、九一
第十一乾坤丸	三、五二一	五、一〇〇	同	濠洲一往復	二七、〇〇〇	七、六七	五、二八
第二歐羅巴丸	三、一三一	四、七五〇	同	同	二三、八〇〇	七、六〇	五、〇〇
旭丸	二、八二〇	四、一〇〇	同	同	一九、八〇〇	七、〇〇	四、八四
第五乾坤丸	二、九一三	四、四〇〇	同	一ヶ月	二四、二〇〇	七、二五	五、三〇

六 戰時海上保險の概況

歐洲動亂に基き日獨事件の開始となるとき本邦に於ける海事業者は船舶並に貨物に對し普通海上保險の外戰時海上保險を附するの必要を生じたるが其料率は戰爭の危險に供なひ一高一低常なく時には驚くべき高率に上り或は全く保險の引受けを拒絶する等經濟界に及ぼす影響は尠少なからざるものありしを以て政府は歐米各國の施設に鑑み九月十二日の官報を以て戰時海上保險補償法を發布し本邦所在の保險業者にして主務官廳を定めたる保險料率以下に於て所定の航路に従事する船舶、之に搭載する貨物並に一般輸出入貨物に對し保險契約をなし戰爭によりて生じたる損害を填補したるときは政府は保險業者に對し其填補額の百分の八十を補償すべきこととし該料率は航路別に最高料率を定め戰時危險の程度に従ひ之か改正を加えたるが其實例二三を示せば左の如し。

航路

九月十二日 制 定
 十一月三日 制 定
 十一月十六日 制 定
 保險金額百圓に付最高保險料率

内地と上海香港間	〇、五錢	〇、五錢
内地と英國諸港間	七、五錢	一、〇〇錢
内地と「カレ」以北歐大陸沿岸諸港間	七、五錢	一、七五錢
内地と濠洲間	九、〇錢	四、五錢
内地と北米合衆國太平洋沿岸間(布哇經由)	四、〇錢	三、〇錢

本法制定後本年三月末に至る成績に付き農商務省の調査する所によれば

保險契約件數	四九、四二二件
保險契約高	三、七七一、八一六、六三九圓
保險料	九八一、一三八圓
政府補償額	七二、一五五圓

にして此内内國保險會社契約の船舶及積荷に係るものは

件數	一七一件	積荷	三八、四一五件
保險金額	四四、七五六、〇〇〇圓		三二一、〇二五、五七七圓
保險料	二、三三三、八八一圓		八七九、六六七圓

にして其他は外國保險會社契約積荷に關するものなり今前記の内國保險會社に於ける契約高を同期間内に於ける一般海上保險契約高一、四六四、六九〇、二四三圓に比する時は約二割二分に當るに過ぎず之を英國に於ける海上保險の大部分が政府の保險を受くるに比すれば本法の効果に大差あるも是れ彼我の狀勢異なるが爲なるべしと考ふ。

今次戰役に際し歐米各方面に於ける本邦船舶の需要盛にして從來東洋近海にのみ躊躇せる社外船主にして之に應じたるもの多く何れも未だ經驗なき外洋航路に對する普通及戰時海上保險契約を締結すべき必要を生じたるも之に關する智識を缺き俄にロイド船級協會の船級資格を付する等苦き經驗を嘗めたる爲海上保險に關する新智識を覺知すると同時に老朽船の世界的航路に適せざる真相をも觀破したり是等は將來我海運の健全なる發達を助長するに當り有力なる基礎となるべきは疑を容れず此の機會に於て特に識者の考慮を煩はすべき一事は本邦に於ける海上保險業務の幼稚なること、之れに従事する人材の缺乏として近き將來に於て歐洲に見るが如きアンダーライターの制度が我日本に於ても之を實現せしむるの計を立てられんことを切望

第四 世界造船界の概況

第十五表は最近四ヶ年間世界主要各國に於ける總噸數百噸以上の商船の進水高を示すものなるが昨年中は世界的海運界の不況と前年に於ける好景氣の反動とに依り前年の成績に比し新船の進水高を減少せるも大體に於て各國斯業發展の傾向を知るに難からず殊に英國の造船業は依然として絶大の能力を示し其の生産高は常に世界全額の六割内外を占むるを知るべし。

第十五表 最近四ヶ年間世界各國船舶進水總噸數 (總噸數百噸以上の商船)

國名	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年
英國	一、八〇三、八四四噸	一、七三八、五一四噸	一、九三二、一五三噸	一、六八三、五五三噸
英領諸國	一九、六六二噸	三四、七九〇噸	四八、三三九噸	四七、五三四噸
埃 洪 國	三七、八三六噸	三八、八二二噸	六一、七五七噸	* 三四、三三五噸
丁 抹 國	一八、六八九噸	二六、一〇三噸	四〇、九三二噸	三二、八一五噸
佛 國	一二五、四七二噸	一一〇、七三四噸	一一六、〇九五噸	一一四、〇五二噸
獨 國	二二五、五三二噸	三七五、三一七噸	四六五、二二六噸	* 三八七、一九二噸
和 蘭	九三、〇五〇噸	九九、四三九噸	一〇四、二九六噸	一一八、一五三噸
伊 太 利	一七、四〇一噸	二五、一九六噸	五〇、三五六噸	四二、九八一噸
日 本	四二、八七七噸	五四、四五九噸	六八、九八八噸	八六、九四一噸
諸 威 國	三五、四三六噸	五〇、二五五噸	五〇、六三七噸	五四、二〇四噸
米 國	一五一、五六九噸	二八四、二三噸	二七六、四四八噸	二〇〇、七六二噸
其他諸國を加へたる合計	二、六四八、六五八噸	二、八九八、四七三噸	三、三八七、一五六噸	二、八五三、八三三噸

*印は戦亂開始前迄の數量を示す

本表はロイド調査による但し日本のみは逓信省管船局の調査によるものなり

歐洲戰亂の結果世界海運界に於ける船腹の不足は夥多の新船要求を惹起したるが歐洲に於ける諸中立國は此の際何れも新船の建造に最上の努力を盡しつゝあるも全體の生産力數ふるに足らず且戰亂の結果各種の造船材料又は艤裝品の供給充分ならざる爲充分の成績を擧ぐる能はざるも米國に在りては己に相當發達せる造船設備を有し材料缺乏の患なきを以て同國の造船界は大に飛躍を試みつゝあり三月十九日のエンデニヤリングの報ずる處によれば最近三ヶ月間に於て政府の工事以外十八隻の外洋船の建造注文あり尙更に數隻の注文交渉中なる由なり驪て交戰諸國の造船界を觀察するに獨、澳の兩國は全く封鎖の圈内にありて造船工場は艦船又は軍用品の製作に従事するものゝ外は全く休止の状態にあるべく白、佛兩國の國內大部は戰亂の巷となり露國も亦擧國軍事に熱中せるを以て何れも軍用艦船其の他の工事以外商船建造に従事する餘裕なかるべし英國は強大なる艦隊を有し海上の覇權を掌握し其の勢力殆んど全世界に渡るが爲今や國內造船所中軍艦の補充其他戰用品製作に忙殺せらるゝもの多さも流石に世界の大造船國たるを以て一面其餘力を用ひて商船の建造に従事し爲に今や英國の造船界は異常なる繁忙を告げつゝあり今左に少しく其内容を詳述せん。

第五 英國造船界の概況

一 造船業者の繁忙と商船建造力の不足

英國造船界は今や空前の多忙を極め居れり昨年中に於ける同國造船高は海運界不況の結果著しき減少を來したるが歐洲事變開始後初期にありては一般經濟界攪亂の結果艦船其の他軍用品製作工場のみ多大の注文を受けしも商船建造にのみ従事する造船工場は全然新注文なく現在新造に著手しつゝあるものも注文主有力なるものは兎に角然らざるものは之に對する支拂を受くる能はず金融の策なく非常に困難なる状態に陥りしも戰局の發展するに従ひ人心漸く沈靜し機宜に適せる政府の施設と共に經濟界の秩序回復するに従ひ識者は近時獨國の爲に壓倒せられ漸次萎靡退嬰せる英國商工業の勃興を策すべき絶好機會なるを唱道し商工業者の奮闘

となり海運業者の活躍となり船腹は大に不足し海運賃は俄然として昂騰するに至り政府はその許可なくして自國船の國籍變更を禁止し或は捕獲船の拂下をなす等専ら船腹の不足を満すべき應急手段を講ずるも船舶の需要は日に急にして夥多の新船注文を喚起するに至れり然も英國に於ける造船界は軍艦、兵器の需要急且大なる爲め之が製作に忙殺せられ商船の建造者は晝夜兼行繁劇を極めつゝあるも尙且つ最近數年間の平均に比し其生産高甚だ少きが如し、試に本年三月末に於ける製造中の船舶を造船界の比較的閑散なりし昨年同期に比するに尙左の如き減少を示せり然も工程進捗は遅々たるものにして到底例年に比する能はざるものと云ふ。

本年三月末建造中の船舶 四七一隻 總噸數 一、五八七、四六七噸
 昨年三月末建造中の船舶 五三五隻 總噸數 一、八九〇、八五六噸

第十六表は本年一月及二月に於ける造船高を従前四ヶ年の同期に比せるものにして著しく減少を示せるを見る可く以て大勢を察知し得べし即ち英國の斯業は今や其生産力の全部を傾倒せるものと稱し得べし。

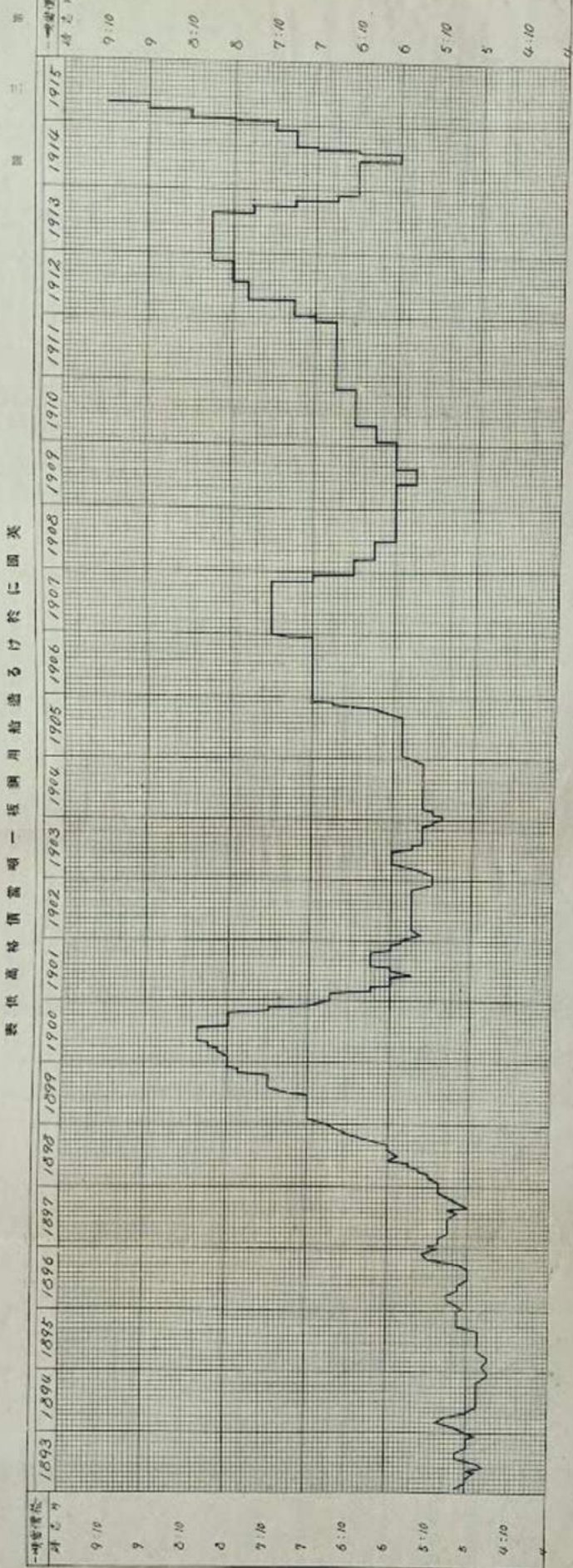
第十六表 英國に於ける本年一月及二月の二ヶ月間の造船高と前各年に於ける同期間の造船高比較 (三月十八日フエヤーブレイ所載)

年 次	蘇國地方		英蘭地方		英國全體	
	船 數	總噸數	船 數	總噸數	船 數	總噸數
一九一〇年	—	—	—	—	八一	一五六、三九二
一九一一年	—	—	—	—	一〇八	二六七、五〇三
一九一二年	五〇	八九、一一九	四五	一六五、二三六	九八	二二七、三一〇
一九一三年	三五	六一、八八三	五四	二〇一、一二六	九一	二六八、一〇九
一九一四年	四六	八六、四九九	四二	一三八、二八七	九三	三〇二、九三六
一九一五年	二八	六八、六四二	二八	六九、八八五	五七	一四五、一二七

二 造船用鋼材の暴騰

英國に於ける造船用鋼材の價格は昨秋以來急激の騰貴を爲し近時左の如き高價を稱ふるに至れり。

英 國 一 般 用 紙 價 格 變 化 表



鋼板	一噸に付	九磅	十志
諸形材	一噸に付	九磅	五志
製罐用鋼板	一噸に付	十磅	十志

之を從來の歴史に徴するに英國に於ける製鐵業者組合組織後十八年の間鋼板一噸の價格八磅以上に騰貴したるは甚だ稀にして西曆一九〇〇年の中頃約二ヶ月半の間鋼板一噸八磅七志六片の相場を保ちしも同年末は俄然六磅十五志となり一九〇一年六月に至り五磅十五志に下落せり之に次て高價を稱へたるは一九一二年十一月より翌年八月に至る十ヶ月間にして鋼板一噸八磅五志の價格を示せしが十一月末には六磅十志に下落したり昨年歐洲事變開始當時は實に六磅を稱ふるに過ぎざりしが造船界多忙の曙光を認むると同時に價格は急劇に昂騰し今や從來嘗て見ざるの高價を示し之を事變開始當時に比すれば實に鋼板一噸に付三磅十志の大差を示すに至れり第三圖は西曆一八九三年以後に於ける英國造船用鋼板價格の變遷を示すものなり。

此の如き鋼材價格の暴騰は造船界未曾有の大繁忙による需要夥多に起因するは勿論なるも一面從來獨白方面より多量に入り來れる鋼材又は鋼塊の輸入杜絶と西班牙方面より輸入する原鑛運賃の騰貴、從業者缺乏による生産費の昂騰に因するものにして蓋し白耳義は豊富なる鐵鑛を有し常に英國に對する鋼塊の供給者なりしと一方英國製鐵業者は品質の最良を標榜するのみにして依然舊式設備により生産費夥多なる材料を出すもの多きも獨逸製鐵業者は生産方法の新奇を競ひ設備の改良を行ひ豊富なる鐵鑛と相待ちて相當強力を有する安價の鋼材を支給するに至れるを以て漸次英國市場に多量の獨逸製品を見るに至り一般に英國鋼材價格を下落せしむるに至れるが事變の開始は全く此等兩國よりする鋼材及鋼塊の供給を絶つに至れると原鑛運賃即ちピルパウ、ミッドルスプロー間に於て原鑛一噸の運賃戰爭前四志三片前後なりしもの現時は十三志六片乃至十四志に昂騰し其の他從業者の勞銀一割以上を増すに至れるに因るものなり。

三 職工の不足と賃金の騰貴

英國に於ける各種職工は皆勞働組合組織の下に一定の賃金と勞働時間を定め就業し組合は造船所の要求に應じ之が供給をなし居るものなるが戰亂開始と共に英國陸軍は多數の義勇兵を募集し應募者には練兵の爲通勤中は食料として一日三志を給し入營後は一日一志四片の手當を給し家族には一週一磅尙子女を有するものは一人に付三志六片の増給をなす由なるを以て造船職工にして應募するもの多く地方によりては全職工數の約二割を失ふに至れりと云ふ然も政府の注文を受け軍艦兵器の製作に従事する工場は多數の職工を吸収し尙隨時商船建造工場に對し職工先取りの協約を結べるを以て商船建造に従事するものは多數の新造注文に對し十分なる職工の供給を受くること能はず甚しく缺乏を告ぐるに至れり然も一面に於て賃金問題勃興し來り各方面の勞働組合は使用者に向ひ一齊に賃金の増加を要求すること急劇にして議容易に纏らず形勢不穩なるあり、或は一部の同盟罷工を生ぜるものありしも政府當路者は百方慰撫に努め説くに國家危急の秋にして舉國一致軍國の爲艦船軍器の製作に従事し或は生産業一層の發展を期す可きを以てし或は勞働組合と工場主との間に賃金の協定案を提出する等措置機宜を誤らざりしを以て重大なる混亂を惹起するに至らざるも結局勞働賃金は大要一割以上の増加をなすの餘儀なきに至れり即ち週賃金制にして從來一週約四十志を受けたるものは約四志を増加し時間制にして從來一時間八片半のものは一片を加ふるに至りピース、ウオークのものは平均一割を増すに至りたり某工場主が今回の戦争は工業界に跋扈を極めつゝありし獨逸の勢力を壓倒し吾人の前途に光明を與ふるものにして今や製作工業に従事する勞働者は各自その専門に應じ最良の技能を振ひ全力を盡す可き秋なり徒らに生計に必要な程度以上の工賃を貪るを以て能事となす如きは實に唾棄すべく此の如きは單に注文者、工場主を苦しむるのみならず國家を賊するものと云ふべしと極言せるに徴するも賃金増加の要求如何に劇烈なるものあるかを知るに足るべし。

四 造船價格の騰貴

戦争の進行と共に從來のストックポートは悉く處分済となり新造船の注文續々顯れ來りしが前述の如く造

船用鋼材價格及職工賃金の騰貴甚しく然も價格、賃金の高さよりは寧ろ材料及職工の不足を告ぐる有様なるを以て新造船價格は俄然として騰貴し最近六ヶ月間に實に一割乃至二割の高價を示せり即ち從來載貨重量四千噸前後の貨物船にして同重量一噸當りの價格七磅十志乃至八磅の範圍なりしが一兩月前は九磅十志となり載貨重量七千噸前後のもの一噸當り價格は七磅前後なりしが九磅を稱ふるに至り最近に於ては重量一噸十磅以上を唱ふるものあり然も其の竣工期日を契約せざるが如き狀況を呈するに至りては船主も其注文を躊躇せざるを得ず即ち現時に於ける英國の造船價格は相場相立たざる狀況にあるものと評し得べきか。

第六 本邦造船界ノ概況

一 新造注文の劇増

由來我船舶は戰役毎に著き發展をなし來れるものと云ふべく日清、日露兩戰役の結果本邦大型船舶の増加を見るに第十七表の如し。

第十七表 日清日露兩戰役の結果による本邦船舶の増加表 (總噸數千噸以上の汽船調)

年次	日清 戰役		日露 戰役	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數
明治二十六年末	五六	九五、七四八噸	一九七	五一、七七〇噸
同 二十九年末	一二六	二六五、六九六噸	三二一	八二六、七〇三噸
差 引 増 加	七〇	一六九、九四八噸	一二四	三二四、九三三噸
増 加 の 割 合	一二五%	一七七%	六三%	六一%
同期間の内地新造船	一	一、五六二噸	二一	四七、三〇四噸

即ち各戰役前後兩年の船舶數を比較するときは前者は船舶數に於て十二割五分總噸數に於て十七割を増し後者は船舶數に於て六割三分總噸數に於て六割一分を増加せり、既述の如く兩戰役の結果は常に非常なる船舶隻數噸數の増加を示すも何れも外國に於て建造せられたる古船の購入に依るものにして内地に於て新造せられた

るものは日清戰役當時は僅に總噸數千五百噸の須磨丸一隻日露戰役に際しては三ヶ年を通じて二十一隻總噸數四七、三〇四噸を算するに過ぎず尤も明治三十九年以後直に東洋汽船會社の天洋丸型三隻日本郵船會社の賀茂丸型六隻の如き俄然として大型船の新造を見本邦造船術の長足の進歩を示したるは全く再度の大戦が船舶界の發展を期すること切實なるを證し即ち大戰の賜と稱すべきも此等は補助航路の使用船にして自由航路に使用するものにあらず即ち航路補助法の產物と云ふべく未だ一般海運界に角逐すべき新船を生じたものと云ふ能はざるものなり然るに今次の事變は本邦海運界の活況を來たさしめたる點に於ては從來の二戰役と同様なるも一面社外船主の態度に革新の氣風を喚起し延て本邦造船界に異常なる好福音を齎せり即ち日清日露の戰役に際しては既述の如く海運界の好況と共に船腹の不足は直ちに歐洲海運界の競争場裡に於ける劣等に格別の利益を與へざりしのみならず寧ろ戰後海運界の不況と共に多數船主は航海、修理の費用多き劣等船を抱きて甚しき苦痛を感じたるも今次にありては全く之に反し世界海運國は何れも船腹の不足を告げざるなく此等の諸國より古船の購入は元より新造船の供給をも受くる能はず却て反對に本邦の船舶を逆輸出するが如き状態なるを以て高額の船價を支拂ふも外國船の輸入を見る能はず今や各船主は一齊に内地造船所に新造注文を發し價の安からんよりは寧ろ竣工期の速かならんを望み或は造船所に對する新造注文權の賣買さへ行はるゝ有様にして本邦造船界は空前の盛況を呈するに至れり然も此の景況が如何に長く繼續すべきかは歐洲戰局の終結、海運界の隆替に基くものにして結局新に本邦船籍に加はるべき船數、總屯數は今より之を豫測する能はざる所なるも聞くところに依れば現時已に各造船所の受けたる注文は甚だしく多數に上り年内は固より明年に至る迄の工事に飽滿する盛況なりと云ふ新注文船の造船所別内譯は第十八表に示すが如く隻數四十四隻に上り總噸數は實に十八萬八千噸の多きに及び目下新造中のものを加へ實に二十三萬八千噸を唱ふるに至れり。

第十八表 内地各造船所に於て新造中及新注文船舶隻數及總噸數 (總噸數千噸以上のもの)

目下 建造中 のもの	三菱造船所 (長崎)		川崎造船所		大阪鐵工所		三菱造船所 (神戸)		浦賀船渠會社		藤永田造船所		播磨造船會社		計	
	數隻	總噸數	數隻	總噸數	數隻	總噸數	數隻	總噸數	數隻	總噸數	數隻	總噸數	數隻	總噸數		
計	二	一六、六〇〇	四	三六、〇〇〇	二	六、六〇〇	一	六、六〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	八	五〇, 〇〇〇
新注文 のもの	四	七, 〇〇〇	一	一, 〇〇〇	三	三, 〇〇〇	一	一, 〇〇〇	五	二, 〇〇〇	一	一, 〇〇〇	二	二, 〇〇〇	二	一, 〇〇〇
計	六	一六, 六〇〇	七	三六, 〇〇〇	六	一〇, 〇〇〇	三	三, 〇〇〇	五	二, 〇〇〇	二	二, 〇〇〇	三	三, 〇〇〇	四	一七, 〇〇〇
總計	八	三三, 二〇〇	一一	六二, 〇〇〇	八	一六, 〇〇〇	四	九, 〇〇〇	六	四, 〇〇〇	二	三, 〇〇〇	四	六, 〇〇〇	六	二七, 〇〇〇

此等の諸船は大部分今年中に進水を了すべく之を造船獎勵法實施以來最上の成績を示せる明治四十年中の十三隻五萬三千三百六十八噸(總噸數七百噸以上千噸以下の船舶を含む)に比するも一ケ年の造船高二倍を示すに至り、然も其の内容は將來自由航船として世界の海上に輸贏を決すべきもの大部分を占むるに於ては大快心の事と稱せざるべからず尙更に吾人の快とする處は阪神地方の造船所にして露國又は上海方面より造船注文を受けたる事を耳にせることなり、固より此等は浚漉船、曳船又は脚船の如き小型特種船にして突發的事變の結果なるべきも本邦造船業が世界的となりたる一步にして新造貨物船の劇増と共に喜ぶべき現象と云ふべし苟くも斯業に關係あるもの豈双手を擧げて祝賀せざるべけんや。

二 造船材料需給の狀況

造船用諸材料及艦裝用品にして歐洲及其の他海外より輸入せらるるもの多く其の價格は昨年七月末歐洲戰爭

開始に至る迄一般經濟界の不振に伴ひ低落の傾向を呈せしも戰亂開始後交戰國に於ける生産力の減少、軍需品の増加、諸原料及勞働賃金の騰貴は原價の昂騰を來たし加ふるに船腹の不足に伴ひ海運賃の暴騰及保險料其他諸係り費の加重により益々内地造船所の購入價格を大ならしめ之を開戦前に比すれば平均二割以上の高價を示すに至れり、然も多數の新造船注文により要する材料の數量多額に上り各造船所は何れも之が供給を受くるに甚なからざる苦心をなしつつあるが如し今左に主要なる造船用材たる鋼材及其他に付需給の狀況を述べんとす。

(1) 鋼材^{△△}

1 生産地

從來内地に於て新造せる諸船に用ひられたる鋼材は殆んど全部其の供給を英國に仰ぎしが近來獨國及白國に於ける製鐵事業著しく發展し來り價格低廉なるものを産出するに至れるを以て此等の諸國の生産品を交え用ふるに至れり我若松製鐵所が内地の造船所に其製材を供給するに至れるは極めて最近の事にして、然も同所の製産額に限度あり且軍事用材の供給を目的とし商船用材に對しては其餘力を用ふるに止まるの有様なり同所製産力に就て聞く處によれば當初設立の當時は第一期に九萬噸第二期に十八萬噸を産出する企劃にして右は明治四十二年に於て完成せられたり第二期計畫の設備中日露戰役に會し軍用材及鐵道用材の不足を感じ一般工業の發展と共に第二回擴張工事の計畫をなし大正三年に於て完成の筈なりしも財政の都合上漸次完成期に順延を來たすの止むを得ざるに至れるも大正六年以後に於ては年産額約三十五萬噸に達すべき見込なり又總製産額中造船業に大關係を有する鋼板製産額に就ては大正元年度に於ける總生産額約二十萬噸中厚板及薄板は合計四萬六千噸に達せしも此の大半は海軍用材となり殘餘を以て一般の需要に應じたるものなるを以て民間造船業者の使用量は僅少なるものなりしなるべし尤も前記擴張計畫の完成せらるゝに至らば鋼板産出の總額は十萬乃至十二萬噸に達する見込なるも要するに

製鐵所は軍器の獨立を主眼とし軍用材の供給を第一とするを以て民間造船業者に對しては充分自由なる供給を爲す能はざる次第なりと云ふ即ち現時新造船の劇増により要する多量の鋼材中内地製鐵所より供給を受くる所僅に其の一部に過ぎず、然も獨白兩國よりは全く其の供給を受くるの見込なく英本國にありても自國の需要を滿たすに吸々たる有様なれば從來の如く自由に潤澤なる供給を同國に求むること困難にして今や内地造船業者は主として鋼材の供給を米國に仰ぐに至れり。

2. 鋼材使用量

大正三年末迄に造船獎勵法の補助の下に建造せられたる船舶は第十九表に示せる如く百三十三隻總噸數四四一、三二七六噸を算せり。

第十九表 造船獎勵法による内地新造船總噸數別調

年次	總噸數										計		
	一千噸未満	一千噸以上二千噸未満	二千噸以上三千噸未満	三千噸以上四千噸未満	四千噸以上五千噸未満	五千噸以上六千噸未満	六千噸以上七千噸未満	七千噸以上八千噸未満	八千噸以上九千噸未満	九千噸以上一萬噸未満		一萬噸以上	
明治三十年	1											1	
同三十一年	1	1,519										1,520	
同三十二年	2	1,811										1,813	
同三十三年	2	2,442										2,444	
同三十四年	2	3,815										3,817	
同三十五年	1	7,447										7,448	
同三十六年	3	2,655										2,658	
同三十七年	5	2,912										2,917	
同三十八年	2	4,533										4,535	
同三十九年	4	3,107										3,111	
同四十年	5	3,944										3,949	
同四十一年	2	1,620										1,622	
同四十二年	2	1,785										1,787	
計	21	7,691	1,519	1,811	2,442	3,815	7,447	2,655	2,912	4,533	3,107	2,655	44,136

計	同 三 年	同 二 年	大 正 元 年	同 四 十 四 年	同 四 十 三 年
三	三	三	一	一	一
二,九四九,六	二,九四九,六	一,三九三	四,四九五	七,五七	七,五七
七,七三五	七,七三五	一,三九三	二,九四三	二,九四三	二,九四三
三,八四〇,六	三,八四〇,六	二,二三五	三	二,九四三	二,九四三
三,八四〇,六	三,八四〇,六	三,八四〇,六	三,八四〇,六	三,八四〇,六	三,八四〇,六
三,七〇二,三	三,七〇二,三	三,七〇二,三	三,七〇二,三	三,七〇二,三	三,七〇二,三
一,五七五,四	一,五七五,四	一,五七五,四	一,五七五,四	一,五七五,四	一,五七五,四
八,八〇三,二	八,八〇三,二	七,七三五	一,一〇七	一,一〇七	一,一〇七
一,四八六,六	一,四八六,六	一,四八六,六	一,四八六,六	一,四八六,六	一,四八六,六
三,二〇七,三	三,二〇七,三	三,二〇七,三	三,二〇七,三	三,二〇七,三	三,二〇七,三
一,八八〇,八	一,八八〇,八	九,五三三	一,一〇七	一,一〇七	一,一〇七
九,五三三	九,五三三	二,一〇七	一,一〇七	一,一〇七	一,一〇七
三,四四七,七	三,四四七,七	二,七〇七	一,一〇七	一,一〇七	一,一〇七
九,五三三	九,五三三	六,六三三	二,七〇七	二,七〇七	二,七〇七
四,四二七,六	四,四二七,六	四,四二七,六	四,四二七,六	四,四二七,六	四,四二七,六
二,五八七	二,五八七	二,五八七	二,五八七	二,五八七	二,五八七
二,三九三	二,三九三	二,三九三	二,三九三	二,三九三	二,三九三
二,七〇七	二,七〇七	二,七〇七	二,七〇七	二,七〇七	二,七〇七
四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七
六,六三三	六,六三三	六,六三三	六,六三三	六,六三三	六,六三三
四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七
四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七	四,四二七

此等の船舶に對する鋼材使用量は二十二萬噸以上の多量に達せるが此の中全部若松製鐵所製出の鋼材を使用し建造せられたるは昨年中に完成せる寶山丸、博進丸、一進丸及三千丸の如き小型諸船にして、扶桑、第一、第二大運南京、北京、第五長久、八阪、ハルビンの八船は大部分は同所の製材を使用せるも一部分は英國及獨國製材を使用せり其の他の船舶中一小部分製鐵所製材を使用したるものあるも殆んど全部は外國製材を使用したるものなり尙目下各造船所に於て製造中のもの及新注文を受けたる船舶合計五十二隻延總噸數二十三萬八千噸に要する鋼材約十一萬噸中製鐵所に於て製出せられ又は引受をなしたる數量は約二萬七千噸にして五萬一千噸は已に海外に注文を發せられ殘餘三萬二千噸は注文未濟なるも製鐵所の生産力の到底許さざるものあるを以て海外に注文を發するの止むを得ざる有様なりと云ふ、即ち造船界未曾有の隆盛期にして鋼材の需要急劇なる時に際し内地鋼材供給量は僅に總使用鋼材の四分の一に達せざるの狀況なり内地製鐵業の振はざる豈遺憾に堪えざるを得んや。

3. 鋼材生産期間

從來外國品は注文より到着迄五ヶ月乃至六ヶ月を要せしも開戦後輸入商は船腹不足の結果より到着期限の保證を與ふることを躊躇し長期の契約を希望するに至れるが大體に於て到着期限に約一ヶ月以上の延長を見るが、如し米國品の輸入に就ては巴拿馬運河の開通は多少の航海短縮を來たせるも同方面通航の船舶は其の數僅少ななる爲め未だ充分の便益を見る能はざるが如し要するに外國製鋼材の輸入期間に就ては

少くも六七ヶ月以上の期間を見込まざる可からざるの現状なり内地製鐵所製出の鋼材供給期間は時には短期間に製出せられ得るも従来より同所は同一工場にて寸法の異なる多様の鋼材を交替製作するを以て全部所要各寸法の鋼材を製出せんには長時日を要し又注文輻輳の場合は容易に之が供給を受くる事能はず即ち注文の數量、種類及時期によりては注文引受より八ヶ月乃至十ヶ月を要する有様なり、然も前述の如く今や同所の供給高は最上限に達せるもの、如く更に以上の注文を引受くる能はざるの有様なり

4. 鋼材の價格

最近に於ける鋼材價格の騰貴は實に驚くべく今日の形勢にして進む時は殆んど底止する所を知るべからざるの有様なり蓋し前述の如く戰亂の勃發は全く獨塊、自佛方面の製品輸入を杜絶し從來の主要供給地たる英國に於ける價格の甚だしく昂騰せるあり加ふるに運賃其の他付帶費の増大は内地に於ける鋼材購入價格を騰貴せしめ然も内地製鐵所の産額僅少にして少許の需用を滿たすに過ぎず其の價格の如きも輸入品の價格を標準とするを以て何等價格を調節するの效なく今や内地に於ける鋼材の相場は一噸に付百十五圓乃至百二十圓を稱ふるに至り之を戰爭前の價格八十五圓乃至九十圓に比すれば實に三割以上の騰貴にして更に最近五月十三日付引合の鋼材一噸の價格

米 國 鋼 材

一三三・九四^円

英 國 鋼 材

一一一・四四^円

なりし由なれば五割内外の騰貴を示すに至るものと云ふべし。

(□) 其の他の材料及機裝品

鋼材以外造船用材として全部又は一部の供給を海外に仰ぐもの一再にして止まらず此等は何れも戰亂の結果原價の騰貴と假令原價に異動なきも海運賃及付帶費の増大により價格の騰貴を告げざるものなし又内地産品例へば銅の如きも海外の需用盛なる爲之れ亦著しき騰貴を告げたり機裝用品に至りては近時内地製品

の使用せらるゝもの多く其發達見るべきものありと雖も尙多數外國品の輸入を免る能はず内地製品と雖原料を海外に仰ぐもの多きを以て特種の事由により價格に異動なきものを除き戰亂の結果は造船用材と共に殆んど全部の用品の價格を騰貴せしめ尙未だ供給の不足を告ぐるの域に達せざる如きも著しく船價を高からしむるの止むを得ざるの有様なり。

三 船舶用品製造工業の概況

(1) 甲板用諸機械

船舶甲板用諸機械即ち揚貨機、揚錨機、操舵機等の需要は新船多數なるに比例し多大の數に達すべく從來は其の數量少きを以て多くは海外注文によるか若くは造船所自ら之を製造したるが今次の如き揚貨機のみにも其の數約四百臺以上の多數に上る如き有様なれば此等の製作は優に分業として成立し得べきものと信ず思ふに各造船所は船體及び機關に其の全力を傾注せざるべからざる際此等の補助機に就ては適當の工場を選定して之が製作を請負はしむるを機宜に適したる處置と認む揚貨機の如きは平時に於ても相當需用の多きものなれば今後と雖工場經營左迄困難ならざるべく吾人は此の好機を捕へ船舶副業の一として斯業の成立を期するものなり。

(2) 製鋼索

近來内地に於ける鋼索及マニラ索の製造工業は非常なる發展をなし船舶用としての此等の諸品は殆んど全部内地製品を使用するに至れり今東京、神戸、小倉の各地に多數の工場を有する本品の主要供給者たる東京製鋼會社の現況を聞くに同社は明治二十年にマニラ索同三十一年に鋼索の製造を開始し原料を精撰し精巧なる機械を購入し、或は外人技師を招聘する等當業者の熱心なる經營により製品の優良と價格の低廉を企圖したる結果漸次信用を博し海陸兩方面に多大の需要を喚起しロイド指定の工場として製産品に其の證明を受くるに至り社運日に進み今や鋼索一ヶ月の製産額約六百噸マニラ原料の消費一、五〇〇俵の多額

を算するに至り非常なる盛況を告ぐるに至れるが歐洲戰亂の同社事業に對する影響としては何等の打撃なく即ちマニラ索の原料輸入は些の不足なく又鋼索原料は普通品用の一部は若松製鐵所の供給を受け優良品は瑞典に仰がざるべからざる次第なるも同社は歐洲戰亂開始前約一ヶ年の生産額に必要な原料を輸入したる爲目下原料價格の騰貴を告ぐるも其影響を受くることなく即ち同社製品は戰亂前と同様の價格を以て賣出しつゝあり然れども現在所有の原料全部を使用し了らば價格を騰貴せしむるの止むを得ざるに至るべしと云ふ近く完成せんとする新造船の劇増は本品等の多額の需要を喚起するに至るべし。

(ハ) 鑄鋼及鍛鋼

内地に於ける本業も亦漸次發展の域に向ひ三菱、川崎の大造船所が自營する外神戸製鋼所、住友鑄鋼場の如き専門工場あり大型船の船首尾材の如きも自由に製作せらるゝに至れり此等の工場に使用せらるゝ原料は英國ヘマタイト銑鐵を主とせるが歐洲戰亂以後同銑鐵相場は漸次昂騰し最近一噸約八十圓内外を稱ふるに至り之を戰時前の五十圓餘の相場に比すれば約六割の騰貴なりと云ふ從て製作品價格の騰貴は止むを得ざる次第なべし。

從來大阪地方の各造船所に於て鍛鋼材は可成内地製作場の供給を得んとするも價格の點に於て大差あり殆んど全部海外の供給を仰ぎ居り殊に最近獨逸製品は材質に於ては兎に角價格非常に低廉なるを以て安價の船舶建造を特色とする造船所にありては盛に同國製品を使用し居れるが戰亂開始後海外よりの輸入品は契約期日に到着を確保する能はざるの狀況なるを以て内地製品の供給を待つに至り今や新造船の劇増と共に此等諸品の注文俄然増加し各工場は之が製作に忙殺せらるゝ有様なり神戸製鋼所の如きは目下大阪鐵工所より同所新造の三、二〇〇噸型外十二隻、川崎造船所注文に係る七、五〇〇噸型外八隻分浦賀造船所新造二、二〇〇噸型二隻に要する車軸材全部の製作を請負ひ大多忙を極めつゝありと云ふ。

(ニ) 製鎖

船舶隻數の増加と共に錨鎖其他の鎖類の需要多量に上るに至れるが内地に於ける製鎖業が未だ格段の發展を見ず唯大阪方面に二三製鎖業に従事するものもあるも微々として振はざるは頗る遺憾とする所なり元來船舶に於ける錨鎖は甚だ重要な屬具の一にして之が材質の不良は船の運命を左右する場合なきにあらざりて之が使用に當りては充分の試験を了したるものにあらざれば使用不安なるは勿論にして諸外國には皆相當の試験に關する機關を有し製品の優秀を證すると同時に斯業の發展に資し居れるが本邦には完全なる此等の機關を有せず爲に大型船用錨鎖は總てロイド證明付の外國品の輸入に俟たざるべからざる有様なり今や内地に於ける新造船多數に上り鎖類の需要劇増せんとするときに當り本業の發展は頗る有望なりと云ふべく斯業に従事する者の發奮を望まざるを得ず最近大阪地方に日本チェーン製造株式會社の設立を見るに至れるが吾人は切に其成功を祈るものなり。

製鎖用原料は主として英國、白國方面よりの輸入を仰ぎ居れるが戰亂の結果白國方面の輸入杜絶し目下主として英國品を使用しつゝありと云ふ。

(ホ) 各種唧筒及諸金物類

最近此の種の船舶用機裝品製作に於て稍見るべきは大阪松島鐵工所にして各造船會社及汽船會社の注文増加し益發展の域に向ひつゝあるは慶賀すべき次第なり最近同所の年産額を聞くに

塗水、海水、飲料水、消火唧筒類	約 四萬八千圓
舷窓及船體諸金物類	約 六萬一千圓
補助機並に副唧筒	約 一萬二千圓
端艇、傳馬等	約 一萬一千圓
其他	約 一 萬 圓
計	十四萬二千圓

即ち未だ堂に入るものと稱すべからざるも此の種工業の發展は大に新造船價を安からしむるに有效なるは

疑ふべからず尙近時大阪方面町工場に於て各種の船舶附屬金物類を極安價に引受くるもの續出し頗る便利を得つゝありと云ふ唯此等小規模の工場の常として急速を要する多量の注文に對しては生産力微弱なる爲之に應ずる能はず假令之に應じ得るも粗雜なる物品を供給するに至るは止むを得ざる所なるべし是非造船界の隆盛期を利し此等工業の健全なる發達を望まざるを得ず。

(へ) 羅盤、傳令機類

東京計器製作所は夙に海軍の聲援を受け此等の船舶用品製作に従事し成績頗る見るべきものあり近時海軍に於て建造せらるゝ艦船に用ふるものは全部同所の製作品を使用せらると云ふ此等の諸品は商船用品としては未だ十分の聲價を得るに至らずと雖熱心なる經營者の努力に依り事業漸次緒に就くに至れるは頗る快心の事と言ふべし由來本邦人の習性として内地製品は總て品質粗惡なるに限らるゝの觀念を有し居り新造監督者、及船員等も總て新造船に外國製品の備付を要求する傾向あるも斯の如きは内地の工業を發達せしむべき所以にあらず殊に前記の諸品は裝置頗る精密巧妙にして海外に於ける専門製作者が長日月の研究と經驗に徴し工夫を凝して製出するものに比し俄に之に比肩すべき優良なる製品を産出せんを望むは到底不可能なるべし右は是非製作者、需要者、相倚り相助けて以て内地工業の發展に資せざるべからず前記製網索業の如きも今や外國製品と比肩するに至れる次第なるを以て船舶用羅盤其の他各種測計器の如きも造船獎勵法には尙未だ内地製作品の使用を強制せざるも新造船夥多の際可成内地製品を使用し斯業の發展を助勢することゝしたし。

四 新造船價格の騰貴

既述の如く造船用諸材料及織裝品價格の騰貴著しく殊に主要造船材料たる鋼材價格の騰貴が五割以上に及びたるを以て新造船々價に及びず影響甚しきものあり戰時前内地に於て新造せらるゝ普通型式の貨物船は總噸數一噸當り約百三十圓乃至百四十圓載貨重量一噸當り九十圓を稱せられしが戰亂開始後は同型船に於

て總噸數一噸當り百五十圓乃至百六十圓、載貨噸數一噸當り百十圓を稱へられ最近の價格は更に大なるものありと云ふ即ち某船主に於て徵せる總噸數約五、二〇〇噸載貨重量噸數八、〇〇〇噸の貨物船の見積を聞くに船價百萬圓竣工期限二十ヶ月を稱ふるに至れりと云ふ最も本船の設計が一部に油艙を有し幾分工費の多額を要すべきものなりしとは云へ總噸數一噸當り約一九〇圓載貨噸數一噸當り一二五圓を呼ぶに至りては實に法外の騰貴にして各船主は竣工期限の長さとなし新造價格の大なるに驚き注文を見合せ各造船所も既に明年に至る迄の工事に飽滿するを以て見積りに應ぜざる次第にして最近に於ける新造船契約を見る能はざる有様なり第二十表は本邦に於ける從來の新造船及既に新造契約せられたる諸船の實例を按配し最近の推定標準を加へ新造貨物船の總噸數一噸當り價格の變動を示すものにして元來類似の仕様、型式の貨物船にありては總噸數の大なるに従ひ其噸數當り價格の低減を來たすべき筈なるも本邦にあつては彼の英國に於ける如く大小種々なる同仕様同型式の仕入れ船の貨物船の建造を見るの域に達せざる爲實例毎に仕様の繁簡、型式の相違、速力の大小區々なる爲各噸數の大小と一噸當り價格が前述の如く一致せる對比を示さざるも大要從來内地に於て新造せられ現に航海に従事しつゝある各型貨物船の價格の變動を知るを得べし。

第二十表 本邦新造貨物船總噸數一噸當り造船價格

總噸數	戰亂前の契約價格	戰亂後の契約價格	最近の材料價格を標準とせる推定價格
二千噸型	一五五 ^円	一七五 ^円	一九〇 ^円
二千噸型	一三〇	一五〇	一六〇
三千噸型	一二〇	一四〇	一五〇
五千噸型	一四五	一七〇	一八〇
七千噸型	一四〇	一六〇	一七〇

五 職工數と賃金

今や歐洲の大造船國たる英國の造船者は職工の不足と工賃の暴騰により甚しき苦痛を嘗めつゝあるも本邦

に於ては斯る現象を見ず蓋し本邦にありては多數の新注文船に對する材料未着の爲尙未だ繁忙期に入らず且假令此等の時期に入るも本邦の大造船所は相互遠隔の地に在り且つ英國に於ける如く労働組合の設なきを以て彼の如く直ちに賃金問題を惹起する如きことなかるべし尤も本年末より明年に亘り各造船所が最も繁忙を告ぐる時期に至つては幾分職工の不足を告ぐるに至るべく多少工賃の昂騰を免れざるべきも海軍工場が現況に於て比較的閑散を告げつゝあるの有様なるを以て幾分緩和せらるべしと觀察せらる目下内地主要造船所に於て使用せられつゝある職工概數左の如しと云ふ。

長崎三菱造船所	一〇、〇〇〇人
川崎造船所	九、五〇〇人
神戸三菱造船所	三、四〇〇人
大阪鐵工所	三、〇〇〇人
浦賀船渠會社	一、九〇〇人
原田造船所	三〇〇人
藤永田造船所	八〇〇人

次に本邦造船職工の賃率を見るに左表に示すが如し

第二十一表 造船職工一日平均賃金表

職工名稱	關東方面		關西方面	
	賃率	備考	賃率	備考
鐵船工	〇・七七		〇・七二	
木工	〇・九二		〇・八二	
銅工	〇・六九		〇・七一	
仕上工	〇・七七		〇・七六	
旋盤工	〇・八〇			
木型工	〇・七九			
鑄造工	〇・七五			

製 鐵 工	〇・八一
人 夫	〇・六〇
	〇・五四

即ち本邦に於ける造船職工平均一日の收得は八九十錢以下にして之を彼の英國に於ける職工一週の所得約二十一圓餘に比すれば實に三分の一以内にして其差異甚しく是れ本邦造船業者の彼國の同業者に比し遙に有利なる特點なり既に斯の如き特點ある以上吾人造船界に關係ある者は研鑽琢磨本邦造船業の彼國に比し不利なる諸點を講究し可成之に近づかしむるに於ては本邦造船業の前途決して悲觀すべきに非るべし、當業者たるもの豈更に緊禪一番目的の彼岸に達するに努力せざるべけんや。

第七 結 論

一 船腹増加の必要―我海運業の海外發展

現時本邦所屬汽船船腹の著しく不足せるは前段詳述せる所の如し今や從來近海に踞踏せる社外船も遠く外洋に出て一躍歐米の海運界に角逐しつゝあり現時に於ける商船一隻の増加も我海運雄飛の一助となり國家に貢獻する所多大なるべく吾人は此の機會に於て益我海運界の發展を祈ること切なるものあり實に四面環海の島帝國に於ては内地に於ける殖産興業と共に産業として海運の隆盛を期せざるべからず海運にして萎靡振はざらんか到底海外貿易を盛にし國家致富の基礎を確立すること能はざるべく即ち海運の機關たる商船の増加は吾人の須臾も等閑に付すべからざるものなり而して商船は一面經濟上の機關たるのみならず他面國家の獨立を安固ならしむべき軍事上の施設として緊急缺くべからざるものなり日清日露の兩大戰は明に運送機關たる商船の軍事上に重大なる關係を有するを實證して餘りあり兩大戰役後更に大陸と北海に領土を擴張せる帝國は將來の戰役に於ける戰線を擴大したると防禦圈も甚しく延長したるを以て戰時に於ける船舶の需要は更に數倍し今後の作戰計畫は陸海軍の充實如何と共に必ず之が運輸機關たる商船の數に依り左右せらるゝ場合甚

なからざるべきは自然の數なるべし大正四年三月末に於ける本邦の現在總噸數千噸以上の汽船は既に述べたるが如く關東州在籍船を加え四八七隻一、五六七、〇〇〇噸に過ぎず然も此れ總數のみ此の内河川專用船其の他特種用船にして軍用に適せざるもの約四萬噸老朽船にして不適當のもの約二十三萬噸、海外に航海して内地附近にあらざるもの約五十萬噸等合計七十七萬噸を控除するときは突發せる事變に際し附近所在の全船舶を徵用するも八十萬噸に過ぎざる狀況なり陸海軍の需用船數の作戰上の機密に屬し爰に之を明言し難きも今回の日獨事件の如き少數の出征軍に對しても約二十餘萬噸の徵用船を要したるに鑑みれば他日國を擧げて軍事に赴かざるべからざる危機に際せば需用船數の多き到底現在船數の全部を提供するも尙及ばざるや明なり而して現在船の全部を提供すること能はざるは國民存立上自明の理なるを以て爰に作戰計畫を縮少せしむるか然らずんば極端なる經濟界の恐慌を惹起するか二者其の一に陥らざるべからず思ふて茲に至れば實に慄然たらすんばあらず今回の戰亂中彼の英國が商船の徵發數百萬噸を算するに拘はらず尙世界の海運を左右しつゝあるは實に羨望に耐えざる所なり熟ら本邦海運界發展の跡を観るに日清戰役前にありては徹々振はざりしも同戰役の結果軍時に於ける商船の任務重大なるを覺り船舶の改良を行ひ快速なる大船の充實を必要なりと認め航海造船兩獎勵法の發布となり平時に於ける貿易の助長と共に堅牢快速なる新船の増加を計り一朝事あれば直ちに軍事の徵發に應ぜしめんことを睥めたる結果日露戰役に於て忽ち其の效果を顯はし平素に於ける補助獎勵施設の緊要なるを實證せるも戰局の進捗と共に尙夥しく船舶の不足を訴え續々外船を購入又は備船するの止むを得ざるに至れり其の後尙兩法の改正と共に機宜の施設により益堅牢快速なる巨大船の新造を見つゝあるは喜ぶべき現象なり然りと雖要するに海運の發展は是等の補助航路に限らるゝか若くは補助會社の經營に係るものにして全然自由の天地に秩序的定期航路の發展したるものなさは頗る遺憾とする所なり一部の論者は常に航路補助無用論を唱へつゝあるも此等の事實が未だ俄に航路補助を廢止し得べからざるを證し得べし又最近内地に於ける新造船の激増を見て直に造船獎勵金の過大を唱へ同法の改正を主張する論者ある

も今次の新造船は寧ろ歐洲戦争に伴ふ偶發的現象と内地獎勵金の制度ある爲生じて出でたるものにして今明兩年に跨り年額僅に英國の一ヶ年造船高の二十分の一内外に過ぎざる新造船を以て之を過多なりと認むるが如きは餘りに其の眼界の狭小なるを曝露するものにあらざるか吾人は徒に保護獎勵を行ふことに賛成するものにあらずと雖凡そ制度の改廢には之に關聯する四圍の實情を詳にし其影響する範圍を斟酌考慮するを要し之を實施するも敢て大なる變動を斯界に與へざるの準備を調ふべきは勿論にして今日の現状のみにては從來の補助政策を改廢するに足る確乎たる理由を發見せざるのみならず寧ろ進んで將來有利なるべき新航路の發展を策すると共に造船獎勵の如きも其の制度の改正は兎に角方針としては積極的施設に出づべき時期なりと信ずるものなり。

現時我船舶は世界的船腹不足に乘じ遠く歐米濠洲に發展し近くは巴拿馬運河を利用して世界一周を遂げたるものある等從來英獨船の獨占到歸したる航路に侵入し相當に效果を收めつゝあり思ふに今次の戦争は世界海運國の雄たる英獨二國互に相争ひ獨は全然海運界より其の勢力を驅逐せられ英は自ら之に代るべき準備を爲しつゝあるも刻下の狀況は其の能力を減殺せられ充分海外航路の擴張に專なる能はず米國は此の間に處し漁夫の利を收めんとするも同國の海運は根底深き障礙あり發展意の如くならざるべし此の千歳一遇の好機に際し世界的海運界に發展し得べき能力あるもの一に我日本あるのみ今や歐亞の幹線は我命令航路船覇を稱し之と雁行して續々自由航船の活動あり濠米航路も又頻りに本邦船の出動を促す等各方面に我船舶の發展を見るは甚だ愉快なる次第にして我社外船の如きも既に多數各方面に出動しつゝある現状なるが此の機會に於て各船に相當の能力ある人物を乗船せしめ或は海外必要の地點に斯業に經驗ある人士を派し親しく彼の地の事情を調査すると共に我信用を高め以て將來に於ける地歩を占めざるべからず今夕山下汽船會社長山下龜三郎氏の講演中同氏が卒先本計畫を實施せらるゝあるを聞き頗る快心の至りに堪えざる所にして將來我海運界發展の爲め大に意を強ふするに足るものと謂ふべし。

今や内地に於て新造船貨物船が續々社外船主により注文せらるゝあり將來益々適當なる補助獎勵の施設の下に之等新鋭なる機關の増加を計り以て世界的海運界に角逐して勝利を占め國利民福を進め一面一朝國家の大事に際し輸送機關の充實を計らんを切望せざるを得ず。

二 造船業の發達を助長すべき手段

造船獎勵法實施以來大正三年末に至る十九年間同法の下に新造せられたる船舶は附錄第九號表に示すが如く百三十三隻總噸數四四一、三七六噸を算するも多くは政府の補助を受くる命令航路使用船又は特種の事情ある船舶にして船主をして内國製を有利なりとせしむる餘澤なりと稱せざるべからず而して海運界の中樞たるべき一般貨物船にありては多く海外に注文せられ内地の建造に係るもの甚だ尠し之が原因得失に關しては去る大正元年十一月余は本會講演會に於て「貨物船内外國製造の得失に就て」と題し卑見を述べ其の結果本會に船價調査會を組織せられ斯業に關係ある人士相會合し内地新造船價の低減を計るべき各種事項に付調査研究し斯業の將來に關する施設方法を決定せんと努力せられ既に其の思想は識らず知らずの間に我船舶界に注入せられ進歩開發の傾向を呈しつゝありしも其の目的を達するには間斷なき努力と諸般の施設を要する筈なるに今次歐洲戰亂の爲偶然内地に多數貨物船の新造注文を見ることとなり吾々が希望せし理想の一端は計らずも爰に實現するに至り曩に内國新造の不利と爲したる諸般の原因は一時的ながら其の影響を及ぼさざるが如き現象を呈せり。

然れども今次の盛況は單に戰爭に基く偶發的現象として一過し終ることなきや今に於て之が講究を爲し置くの敢て徒爾ならざるを信ず吾人の見る所を言へば單に現況に甘んじ今後の施設處置に努力することなくんば今日の盛況は徒に槿花一朝の夢たるに止まり戰局終了百事復舊の曉は我造船業は再び昔日の凡況に歸するものと觀察せざるべからず斯るが故に吾人は敢て二三の希望と方法とを述べ諸君と共に之が實行を期し此の千歲一遇の好機を利用し斯業獨立の基礎を堅めんことを欲す。

(4) 船主の新船内國注文

今次戦亂の好影響として吾人の愉快に感ずるは從來大型船舶の注文者は多く政府の補助命令航路に従事する汽船會社か若くは資力豊富なる大會社に限られ海運界の實勢力たる社外船主の新造注文をなすもの甚だ稀にして何れも古船購入を以て満足し居りしが今や海運界の好況と購入船絶無との爲め此等の社外船主に新造注文をなすもの續々顯れ來りし事なり。

最近に於ける造船術は學理と經驗の二者相待ちて著しき進歩をなし一面載貨量を増加すべき構造方法を採用すると同時に石炭消費量を軽減し且貨物積卸裝置を改良して荷役を迅速ならしめ甚だ經濟的なる貨物船の新造を見るに至れり之を載貨量少く運航に要する經費大に荷役緩慢にして時間を徒費し然も夥多の修繕費支出の止むなき古船に比しては利害得失の差異大なるものあり社外船主全然此等に關する智識を缺くものにあらざるも唯新造船に投ずる最初の固定資金大なると目先の利益歩合少きを爲廉價なる古船を購入し投機的の收獲を得んとする爲なるに外ならざるべし今次多數の新造貨物船が社外船主により運航せられ航運經濟上新造船の有利なるを認めらるゝに至らば今後も引續き新船注文を見るの機運に至るべきを以て造船所側に於ても此の際充分の努力を以て其の實力を發揮し將來の顧客に満足を與へんことを希望すると共に我社外船主も充分造船所を扶掖して其の足らざる所を指摘し將來と雖も船舶の補充は總て内地の造船所に注文するの慣例を駟致せんことを希望するものなり

(5) 設計の簡約適切—貨物船の不文律標準

内地新造船が外國新造船に比し裝置設備の贅澤なるは已に定評ある所にして彼我國情の相違、乗組船員風習の差異に因すべきも要するに從來新造の諸船は概ね型式を異にする船舶なるを以て造船監督者は固より設計者に於ても常に新計畫を出し出來上りの優秀を尙ひ自然實用の程度以上の設計をなし従て船價を高からしむるに至れるもの多かるべし今や多數の同型貨物船の新造に際し必要以外の設備裝置を省略するに努

め簡約適切なる設計を爲すに意を用ひて以て内地新造貨物船の船價を低廉ならしめざるべからず。

従來内地建造の諸船は前述の如く特種航路の定期航海に従事するものにして一々型式を異にし従て各々に付仕様書の作製又は箇々の設計を要し何れも特別の設備を有する爲普通の貨物船たる標準を定むること困難なりしが今次の多數新造船は主として世界的の何れの航路にも使用し得べき純貨物船にして其の仕様書及び型式は自ら一定の標準を作り得る傾向となり彼の歐洲造船國に於て貨物専用の仕入れ船の多數建造せられ居る場合と同じく之が設計及仕様書、製圖の作製に關し多大の費用と勞力とを要せざるのみならず船價も従て低廉となり船主も造船者も單にA型、B型と稱すれば大體其の船舶の實質を知り得べく従て將來貨物船新造の場合に於ける不文律標準となり一般船舶界に多大の便宜を與ふるに至りたるは喜ぶべき現象なりと謂ふべし。

(八) 工費の節約

従來内地に於ける大型新造船は殆ど大設備を有する大造船所に於て建設せられ従て其の船價高きの止むを得ざるもの多かりしも今次の新船は比較的同型の貨物船多く船内の設備簡易にして多種の機裝品を要せざるを以て工場の設備簡單にして規模宏大ならず倉庫調度の準備大ならざる造船所に於ても之が建造に従事するもの多く爰に余が年來唱道せるトランプ、ビルダー多數の實現を見るに至りたるものと謂ふべし工場設備の簡なるは船價に對する割當を少からしめ貯藏品の多きを要せざるは死藏の爲に要する金利の負擔を輕減し然も多數の同型船の新造は前者によりて得たる經驗を直に後者に應用し得べく材料の運搬、工事の順序及職工の配置等各般の方面より工費を節約し工程能率を増進し得べき點多々なりと信ず我船舶界の人士は此の機會に於て官民共に協同一致諸般の點に注意し工費の節約方法を講じ以て新造船の船價を安からしめ本邦造船業の世界的競争場裡に立つべき礎地を造らんことを望む。

(二) 補助工業の促進

英國に於ける造船業者は船體と機關とを分ち新造に従事するもの多く各自簡易なる設備の下に其の特長を發揮し殊に同型の貨物船新造等の場合特に此等の分業方法は著しく船舶新造に要する經費を少くし安價なる船舶を供給し居れり本邦に於ては造船獎勵法實施後十九年間に於て内地に於て新造せられたる船舶用機關は第二十二號表に示すが如く百二十六隻分總實馬力四〇〇、四七六に過ぎず而も何れも船體と同一工場に於て製造せられたり即ち尙未だ獨立の機關製造工場の成立を確保すべき程度に至らずと雖已に朽木造船所に於ける三千丸の如きは船體は自工場に於て建造し獎勵金を受けたるも機關の製造は之を他工場に於てせる如き實例あり今後に於ても目下の如く同型の貨物船が續々新造せらるゝの機運に向はゞ獨立機關製造工場の存立決して不可能にあらざるべし是亦一面に於て船價の低減を來すべき一手段たるべく現時已に相當の機關製造の設備を有する小工場主の一考を要したし。

第二十二表 造船獎勵法による内地新造船實馬力別調

進水 年次	一 千馬力 未滿		二 千馬力 未滿		三 千馬力 未滿		四 千馬力 未滿		五 千馬力 未滿		六 千馬力 未滿		七 千馬力 未滿		八 千馬力 未滿		九 千馬力 未滿		一 萬馬力 以上		計	
	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力	數	實馬力		
明治三十年	一	八七																			一	八七
明治三十二年	一	三〇五																			二	三〇五
明治三十三年	二	三二二																			三	六四四
明治三十四年	二	三七八																			四	八二〇
明治三十五年	三	三九〇																			五	一〇五七
明治三十六年	四	四二二																			七	一五二四
明治三十七年	三	四七三																			九	一八三四
明治三十八年	三	五〇七																			九	一八三五
明治三十九年	三	五九四																			九	一八三五
明治四十年	四	六〇九																			九	一八三五
明治四十一年	三	七三三																			九	一八三五

受くる能はざる状態にして某船主の如きは諾威和蘭の市場に問合せ結局は上海又は香港方面に新注文を發せんとする傾向あるは實に遺憾に耐えず我製鐵所にして相當の餘力を造船材料に充當することを得ば内地造船所は更に新造注文を請負ふべき餘地あるは疑を容れず即ち造船業の獨立には造船材料の主要部を占むる鋼材の獨立を期せざるべからず此等鋼材の外國注文は常に關稅運送費の過重あるのみならず材料の注文運搬及到着の前後等の爲能率を減殺し工事を遅延する等各航の不便尠からず即ち吾人は少くとも内地に於て新造せらるゝ船舶に要する鋼材は全部内地製品を使用するの域に達せずんば我造船業は外國造船業と比肩して自由競争を爲し得ざるものと認むるものなり從來内地にて新造したる諸船及近く新造せんとしつゝある多數船舶に對し内地製鐵所の鋼材供給力の貧弱なるは前段詳述したる所の如し五人は今次の事變の結果本邦造船業の活況を呈するを見廉價に容易に内地製鋼材を供給し得る様本邦製鐵業の擴張を希望するの念更に切なるを感じ當事者に向つて製鐵所擴張計畫の速成を促し尙進んでは支那及朝鮮に於ける豊富なる鐵鑛を利用し製鐵業を起さんとする企業家の奮起を切望して止まざるものなり今次議會に提出されたる製鐵所厚板工場擴張費の如きは是非其の通過を熱望するものにして一日も早く造船材料生産力の増加を計られたきものなり。

(へ) 學理の應用—船舶試験所の設立

船體形式の船舶進航に對する抵抗力に影響すること多大なるは論を俟たず之か設計の當否は推進機力の大少となり造船費用及航運經濟に及ぼす效果尠ならず然も之が研究は船舶試験船渠によるの外なく實に本設備は造船上の學理を實地に應用するに最緊要のものとして云ふべし歐洲に於ける造船國が公私共に多數の試験船渠の設備を有し經濟的船舶の製作に意を用ふるの結果近時商船界に於ても漸次試験船渠に於ける實驗の有効なる事實を擧げつゝあり最近米國ミシガン大學のサドラ博士 同海軍總監テラー氏英國の國立工業試験所のベーカー氏等は貨物船の實驗に關する研究の結果を發表したるが之を總括すれば普通速力の

貨物船に於て船形肥大となるに従ひ船體中央同形部の長を長くし前後を細くせる船形は中央同形部なく前
後の肥大なる船形に比すれば全體の抵抗に於て二割乃至三割を減少し得べきことを知り得たり又肥瘠係數
が極度に達すれば排水量の増加に比し著しく抵抗を増加するを以て約〇・七八を限度とすべきことを結論
せり此等の結果は貨物船計畫に多大の参考となるべきものにして將來益此の種の研究を各船に對し施すの
必要あるや明なり我國に在りては長崎三菱造船所及帝國海軍に各船舶試驗船渠を有するも前者は自家營業
に専用せられ後者は軍艦の研究に供用せられ何れも營業上又は軍事上の秘密として其の結果の公評を得る
能はず從て其の他の造船所は從來新造せる少數の船舶の實例に徴し船形の設計をなし之が抵抗を推算する
に過ぎず若し本邦に於て公共の依頼に應し船舶抵抗試驗の用に供し得べき船舶試驗船渠の存在せしが學者
は之によつて適確なる研讀をなすを得べく各造船所は其の新造に先立ち船形に對する充分の討究をなし適
切なる設計を行ひ經濟的船舶の新造を見るを得べく歐洲先進國と對等の地歩を占むべき階段の第一歩たら
しむるを得べし英國倫敦デントンに於ける船形試驗所はヤロー氏個人の寄附に成りたるものと聞く西人
が學術に對する這般の美行は實に羨望に耐えざる所にして本邦の船舶所有者、海運業者、造船業者も斯業
高潮の此の機會に於て此の舉に倣ひ資金を醸出し本邦船舶の中心たる阪神地方に船型試驗所を設立し學理
的研究の基礎を作り技術的試験の成績を實地に應用せしめ以て船舶界に貢獻するの義舉に出でられんこと
を望む其の建設費用の如きは約二十萬圓内外を以て足るべく之が維持の方法に就ては今具體的に之を述べ
ることを得ざるも必ず適當の方法あるべきを信ず吾人は此の機會に於て造船協會が本計畫實現に對し適當
の手段を講ぜられんことを提案せんとす。

今岡、渡邊兩氏講演に對する評

座長寺野精一君 唯今ノ今岡博士、渡邊學士ノ御演說ニ付テ御質問ナリ御討論ナリゴザイマスレバ御述ベテ願ヒマス

男爵斯波忠三郎君 唯今ノ今岡博士、渡邊學士ノ御演說ハ時節柄非常ニ有益ナコトデアリマス之ニ付テハ本會々員諸君ハ種々ノ御考ヲ有ツテゴザラウト思ヒマス、私モ其一人デアリマスガ、時間モ經ツタヤウデアリマスカラ今晚ハ餘リ討論ヲ致サヌデ、此大切ナル結論ニ對シテ「デスカツシヨ」ヲスルコトハ如何カト思ヒマスカラ、私ハ座長ニ御願ヒ致シマスガ、近イ中ニ一晚此御講演ニ付テ「デスカツシヨ」ダケノ會ヲ御開キ下サレテ、十分考ヘテ練ツテ來テ其「デスカツシヨ」ヲヤツテ戴キタイト云フ動議ヲ出シマス

座長寺野精一君 ドナタモ御發議ハゴザイマセスカ……別段御質問御討論モゴザイマセスケレバチヨツト講演者ニ御禮ヲ申上ゲマス前ニ唯今ノ斯波男爵ノ御動議ニ就テ一言申上ゲタイト思ヒマス、唯今今岡博士及渡邊學士ガ精細ニ御調べニナリマシタ歐洲戰亂ノ日本ノ海運業造船業ニ及ボス影響ニ就テ委シク御述ベニナリマシテ會衆一同非常ニ利益ヲ得タノデゴザイマス、殊ニ將來日本ノ造船業ノ發達ニ關スル御意見ヲ今岡博士ガ御述ベ下サレマシタガ、年來造船協會ガ船價調査會ヲ設ケテ調べテ居ツタコトガ一部實現サレルト共ニ益々此船價調査會デ研究ヲ續ケナケレバナラスコトノ殖エタコトヲ自覺シタノデアリマス、此點ニ於テ今岡博士ガ種々攻究スベキ問題ヲ提供サレタノハ深く感謝スル次第デアリマス、而シテ唯今斯波博士カラ此問題ニ付テ特ニ研究シテ討論會ヲヤラウト云フノハ至極結構ナ御考デアリマスカラ、是ハ役員ドモニ於テ協議ノ上時機ヲ撰ミマシテ更ニ此問題ノ討論會ヲ開キタイト思ヒマス、其節ハ諸君ガ段々御研究ニナツタリ、又御實驗ニナツタリシタコトヲ腹藏ナク御述ベニナルコトヲ希望致シテ置キマス、今日ハ此御講演ニ對シテ拍手ヲ以テ御禮ヲ申シタイト思ヒマス。

(一同拍手)

巴奈馬運河

法學士 島 田 乙 駒

閣下並諸君、先キホドヨリ山下社長今岡博士渡邊學士等諸先輩ノ極メテ有益ニシテ趣味アル御話ガアリマシタアトニ私ノ如キ極メテ淺學無經驗ナル者ガ巴奈馬運河ト云フ大問題ニ付キマシテ申上ダルト云フコトハ甚ダ僭越ナ至リデアリマシテ、恐縮ニ堪ヘヌ次第デアリマス、同時ニ深ク光榮ト存ジテ居ル次第デゴザイマスル、時モ大變進ミマシテゴザイマスカラ、極簡單ニ申上ダタイト思ヒマス、暫時御清聽ヲ願ヒタウゴザイマス

巴奈馬運河ノコトニ付キマシテハ日本デモ大分紹介サレテ居リマス、併ナガラ重モニ此運河ノ工事ガドウデアルトカ經費ガ幾ラデアルトカ云フ風ナコトガ話題ニ上ボルヤウデアリマスガ、是ガ日本ニ如何ナル影響ヲ及ボスカト云フコトニ付テハ未ダ餘リ論議サレテ居ラヌヤウニ思ハレマス、是ガ最モ重モナル問題デアリマシテ、私如キ者ハ論ジ得ル資格ハ無イノデアリマスガ、少シ此方ニ付テ研究モ致シテ居リマスカラ、其事ヲ聊カ申上ダタイト思ヒマス。

此運河ハ久シク亞米利加合衆國ガ開鑿工事ニ從事シテ居リマシテ、果シテ是ガ首尾好ク出來上ルカドウカト云フコトガ問題ニサレテ居ツタノデアリマスガ、遂ニ昨年八月十五日ヲ以テ一般船舶ノ通航ニ對シテ開放セラル、コトニ相成リマシタ、其前ニ於テモ「バージ」ノヤウナモノガ通航シテ居リマシタガ、謂ハユル「オーシヨン、ゴイーング、ベッセル」ガ通りマシタノハ八月十五日カラデアリマス、其後此運河ニ大キナ地ニリガアリマシタ爲ニ時航海ガ差止メラレタヤウナコトモアリマシタ、船ガ運河ノ中ニ這入ツテカラ止メラレタモノモアリマシタガ、「スライド」ガ掃除サレルノヲ待ツテ通りマシタ、然シ其間ハ已ムヲ得ズ運河ノ中ニ碇泊スルコトニナリマスルシ又何時地ニ出會スルヤモ計ラレマセヌ爲ニ一時此通航ガ果シテ安全デアルカドウカト云フコトモ疑ハレタヤウ

デアリマス、而シテ其「スライド」ガ二三度アツタヤウデアリマスカ、此近クニハ殆ド聞カナイヤウデアリマス、「スライド」ノ起ツタ場所ノ運河ノ水深ハ三十呎デアリマシテ、從ツテ通航船ニ對シ喫水ノ制限ヲ置キマシタガ、殆ド是ハ障害ニハナラナイコトデアリマス、アノ方面ニ行キマス船ハ此制限ヲ感ズル程ノ大キナモノハアリマセヌカラ先ヅドシナ船デモ通ラレルモノト見テ差支ハアリマセヌコト愈々此運河ガ通レルヤウニナリマシテ、日本ニハドウ云フ影響ヲ及ボスカト云フコトニナリマス、ドウシテモ航路ノコトデアリマスカラ距離ガドウデアルカト云フコトハ先ヅ第一ニ見ナケレバナラスコトト思ヒマスガ、之ヲ地圖ノ上デ見マスルト、一番重モナル關係ヲ有チマスモノハ北亞米利加ノ太平洋ノ方ノ岸デアリマス、詰リ紐育トカ「ボストン」トカ「フィラデルフィヤ」トカ云フ方デアリマス、其次ハ南米ノ太平洋ノ岸、詰リ「ブラジル」方面デアリマシテ此二箇所ハタシカニ日本カラノ距離ガ短縮サレマス、南米ノ方ハマダ日本ト餘リ貿易ノ關係ガ無イノデアリマスカラ、私ハ今晚ハソレハ全然省キマシテ、重モニ北米トノ關係ニ付テ申上ゲタイト思ヒマス、尙ホ歐羅巴ト日本トノ距離ハ此運河ニ依ツテ格別短縮サレテ居ラスノデアリマシテ、直接ニハ歐羅巴貿易ニハ影響ハ無イノデアリマスカ、船ノ方ニ付テ見マスト、此運河ガ開ケタ爲ニ歐羅巴航路ニ對シテモ甚ダ利益ナ點ガアルヤウニ考ヘラレマス、先ヅザツト横濱ヲ中心トシテ紐育ニ行ク海上ノ距離ヲ見マスト、此運河ノ委員ノ一人デ亞米利加ノ「ペンシルベニア」大學教授デア「ジョンソン」氏ノ調査ニ依リマス、横濱カラ紐育ニ行クニ蘇士ヲ通ツテ行キマス、上海香港新嘉坡古倫母ト云フヤウナ普通ノ寄港地ニ寄ツテ行クモノトシマシテ一萬三千五百六十六海里アリマス、是ガ紐育ヘ巴奈馬ヲ通ツテ行キマス、約九千八百海里バカリニナリマス、其差ガ三千七百海里デアリマスカラ、餘ホド巴奈馬ヲ通ル方ガ短縮サレル譯デアリマス、ソレカラ歐羅巴ノ方ヲ申上シゲマス、横濱カラ「リバプール」ニ行キマスニ普通ノ航路ヲ通リマス、約一萬一千六百海里アリマス、是ガ巴奈馬ヲ通リマス、一萬二千三百海里ニナリマシテ約七百海里ダケ巴奈馬ノ方ガ遠イコトニナツテ居リマス、ソレデ歐羅巴ノ方ト亞米利加ノ方トノ距離ハ大體御分リニナラウト思ヒマスガ、今度ハ單ニ距離ノミナラズ、此航路ト云フモノガ船ニ取ツテ有利ナルモノデアアルカド

ウデアアルカト云フコトハ、種々條件ガ加ハルコトト思ヒマス、其二三ノ重モナル點ヲ摘ンデ申上ゲマスト運河ノ通航料ヲ亞米利加政府デ取ルコトニナツテ居リマス、是ハ蘇士ノ方デモ取ルノデアリマスガ、此通航料ハ巴奈馬デハ登簿噸數一噸ニ付テ普通ノ船ハ一弗二十仙、若シ荷物ヲ積ンデ居ラナケレバ四割引キト云フコトニ決メテアリマス、又蘇士ノ方ハ登簿噸數一噸ニ付テ六法二十五參ヲ取ルノデアリマス、所ガ此登簿噸數ハ兩運河共夫々特別ノ規則ガアツテ測度スルノデアリマス、ソレハ疾ニ皆様方ノ御承知ノコトト思ヒマスガ、ソレニ依ツテ巴奈馬ノ方ト蘇士ノ方ト比ベテ見マスト、假ニ具體的ニ或特定ノ船ヲ捉ヘマシテ、日本郵船會社ノ鹿島丸、徳島丸ノ二ツヲ捉ヘマシテ、此噸數ヲ蘇士ノ噸數ト巴奈馬ノ噸數トヲ測度シテ見マスト、少シツ、巴奈馬ノ方ガ小サイ數字ガ出ルヤウニ思ハレマス、是ハ遞信省ノ技術官ノ調査デアリマスガ、鹿島丸デ七千八百八十八噸ガ巴奈馬ノ噸數デアリマス、七千二百五十一噸ガ蘇士ノ噸數デアリマス、僅ノ差デアリマス、ソレカラ徳島丸ノ巴奈馬ノ噸數ハ四千六百二十噸、蘇士ガ四千七百二十八噸、是モ僅ナ差デアリマス、ソレデ此登簿噸數ヲ基礎トシマシテ只今申述ベマシタ如ク巴奈馬ハ一噸一弗二十仙、蘇士ハ一噸六法二十五參ノ通航料ヲ取リマス、ソレヲ更ニ日本ノ金ニ依ツテ先ヅ「バー」デ換算イタシマスト鹿島丸ハ巴奈馬ヲ通航シマスノ一度ニ付テ一萬七千三百四圓幾ラト云フ金ヲ取ラレマスガ、蘇士ヲ通リマスト、一萬七千五百三十八圓幾ラト云フモノヲ取ラレマス、巴奈馬ノ方ガ二百三十四圓ダケ廉イコトニナツテ居ツテ殆ド差ハ無イト言ツテ差支ヘナイト思ハレマス、次ニ貨物船ノ徳島丸ヲ取リマスト是ガ巴奈馬ヲ通リマスノニ、一回ニ付テ一萬一千二百二十一圓餘ト云フモノヲ取ラレマスガ、蘇士ヲ通リスト、一萬一千四百三十六圓幾ラト云フノデ、其差ガ三百十五圓、是モ極メテ僅ナ差デアリマシテ、少シ爲替相場ガ違ヒマスレバ、其クラキナ差ハ直チニ出テ來ルト思ヒマス、ソレデ通航料ニ付テハ蘇士ト巴奈馬ト殆ド差ガ無イト申シテ差支ナイコト、思ハレマス。

ソレカラ此航路ノ方ノ石炭ノコトデアリマスガ、是ハ通航料ニ付テ申上ゲマシタ如ク巴奈馬ト蘇士ト差ガ無イノニ反シマシテ、石炭ノ方ニナリマスト、大變蘇士ヨリ廉クナツテ居リマス、私ノ考ヘデハ亞米利加ノ政府ガ蘇士

運河ニ對スル一ツノ競争策デハナイカト思ハレルノデアリマス、詰リ通航料ハサウ違ハナイト云フコトニシテ置イテ、一ツ石炭ノ方ヲ廉クシヤウト云フノデハナイカト思ヒマス、其譯ハ此石炭ノ値段ハ亞米利加政府ガ自分デ船ヲ動カシテ持ツテ來ルノデ、亞米利加ノ「ボカホンタス」等ノ上等ノ石炭ヲ持ツテ來ルノデアリマスガ、其値段ハ產地ノ値段ニ運賃トカ保險料トカノ實費ヲ加ヘタモノデ賣ルト云フコトニナツテ居リマス、ソレガ極良イ石炭デアリマシテ、其値段デ亞米利加政府ガ自分デ賣リマスカラ、ソレデ自然制限サレルコトニナル、其以下ナラバ各人勝手ニ賣ツテ宜イト云フコトデアリマスカラ、ソレデ價格ヲ制限シテ置クコトニナリマス、其亞米利加政府ノ發表シテ居リマス價格ハ現在「クリストバル」デ（之ハ巴奈馬運河ノ大西洋側ノ入口デアリマスガ）、ソレハ一噸ニ付テ五弗四十仙ヅ、ソレカラ「バルボア」ト云フ運河ノ太平洋側ノ入口デアリマスガ、其所デハ高クナツテ一噸ニ付テ六弗四十仙グラキニナツテ居リマス、詰リ是ガ巴奈馬運河ニ於ケル石炭ノ最高價格デアリマシテ、是ヨリ以下ナラバ各私人ニ於テ勝手ニ販賣シテ宜イ、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、之ニ反シテ蘇士ノ方ハ少シモサウ云フコトハ致シマセスカラ、蘇士運河ノ口ノ「ポートセツド」ノ石炭ト云フモノハ餘ホド高イモノニ付クノデアリマス、ザツト昨年ノ時局ノ起ル前ニ「ポートセツド」デ一噸十三圓幾ラ、約十四圓バカリ致シテ居リマシタガ現在ニ於テハズツト高クナリマシテ、二十五圓バカリニナツテ居リマス、之ヲ巴奈馬ノ五弗四十仙、詰リ十圓幾ラト云フモノニ比ベマス、甚シイ差ガ出テ來マス、大體此運河ニ付テ通航料トカ石炭トカ云フモノヲ比ベマス、蘇士ニ比シテ通航料ノ差ハ無イ、石炭ナラバ有利デアルト云フコトガ言ヘマス、又距離ニ於テ少クモ亞米利加ノ東海岸ニ出ルニハ蘇士ヨリ餘ホド有益デアルト云フコトガ出來ルヤウニ思ヒマス。

ソレカラモウ一ツ航路トシテ重要ノ點ヲ申上ゲマス、ソレハ航路ノ兩終端ノ間ニ在ル中間港ノ荷物ノ多イ少イト云フコトデアリマス、之ハ蘇士ノ方ヲ見マス、紐育カラ日本ニ來マス間ニハ歐羅巴ト云フ大市場モアリ其上印度ガアリ海峽殖民地ガアリ一段降ツテハ亞弗利加、亞刺比亞等モ沿道ニ竝ンデ居ル、從ツテ假ニ亞米利加ト極東トノ間ニ充分ノ荷物ガ無クトモ此等ノ中間港デ澤山ノ荷物ヲ取ルコトガ出來マセウガ、此點カラ見マス、巴奈馬ノ

方ハ紐育ヲ出テ後墨西哥其他中央亞米利加ノ小國ガアル外ニハ凡テ合衆國ノ領土デアリマスカラ外國船ニ對シテ沿岸貿易ノ禁止サレテアル以上其間ノ貿易ニ與ルコトハ出來マセヌ、蘇士ノ方デアリマスレバ日本カラ出タ船ハ亞米利加行ノ荷物ガ少イトキニハ假ニ想像ヲシマスレバ印度迄ノ荷物ヲ幾分積ンデ行ツテ、印度カラ又亞米利加行ノ荷物ヲ取ルト云フコトガ出來マセウガ、巴奈馬ノ方デハ日本カラ出マストキニハ亞米利加行ノ荷物ヲ取ル外ナク、ソウシテ假ニ桑港ニ寄ルトシマシテモ此處カラ紐育ヘ行ク荷物ヲ取ルコトハ許サレマセヌ、此點ハ確ニ蘇士ノ方ガ船ニトツテ利益デアリマセウガ、我國其他極東ト北米ノ東海岸トノ間ノ航路ノ實際ニ付テ調ベテ見マスト云フト、從來蘇士運河ヲ經由シテ紐育極東間ヲ航海シテ居リマシタ所謂蘇士廻リノ船ト云フモノハ歐羅巴ノ荷物ニハ全然關與シテ居リマセヌ、之ハ事實デアリマス、又亞弗利加モ只「アルヂール」デ燃料炭ヲ取ルノミデ貨物ハ運ビマセヌ、印度モ極東カラノ歸リ荷ガ少イトキニ「マラバ」沿岸デ積荷ヲスル外殆ド貨物ヲ取ラヌノデアリマシテ要スルニ其運送スル貨物ハ「アデン」ノ小市場ヲ除ク外ハ北米東海岸ト新嘉坡以東ノ香港、支那、比律賓、日本等トノ貿易ニ限ツテ居ルノデアリマスカラ之ニ比ベマスレバ紐育以南ノ諸港カラ太平洋岸ノ諸港ヲ沿道ニ有シテ居ル巴奈馬航路ハ假令北米ノ港ノ間ノ荷物ハ運ベヌニシマシテモ從來ノ蘇士經由航路ノ實際ニ比ベマスレバ此點ニ於テモ決シテ遜色ナキモノト認メラルルノデアリマス。

以上船舶ノ經濟特ニ日本ヲ中心トシテ航海スル船舶ノ立場カラ巴奈馬運河ヲ經由スル航路ノ得失ニ付簡單ニ要點ヲ申上ゲマシタガ、然ラバ巴奈馬運河ノ開通ハ果シテ如何ナル影響ヲ及ボスデアラウカトイフコトニナリマスト今迄巴奈馬運河ニ對シマシテ日本ニ凡ソ二ツノ相反セル極端論ガ唱ヘラレテ居ツタヤウニ思ヒマス、今簡單ニ其趣旨ヲ申上ゲマスト云フト、其一ハ運河ガ開ケルト非常ニ多數ノ船舶ガ日本ニヤツテ來テ、日本ノ海運モ亦非常ニ繁昌スル、日本ノ石炭ハ「バンカー」トシテ非常ニ賣レルト云フノデアリマス、處ガ今一ツノ說ハ日本ト亞米利加ノ貿易ト云フモノハ、巴奈馬ガ開ケタ所デ重モナモノハ價值ガ宜イモノデアアル、生絲デアルトカ、又絹織物デアルトカ云フモノハ價值ガ宜イモノデアアルカラ、原則トシテ目的地ニ速ク到着スルコトヲ希望スル從ツテ亞米利加

ノ鐵道ニ依ツテ大陸ヲ横切ツテ向フノ内地ニ入込ミマスカラ、日本ト亞米利加ノ貿易ニ付テ輸送ニ長時日ヲ要スル巴奈馬航路ガ出來テモ影響ガ無イ又歐羅巴ニ對シテハ航路ガ遠イカラ、是ハ全然影響ガ無イ、ソレデアルカラ巴奈馬運河ハ日本ノ貿易ニ對シテマルキリ影響ガ無イモノデアルト觀察スル、此二ツノ極端ナ意見ガアリマスガ、私ハ是ハ兩方トモ極端ニ走ツテ居ツテ中庸ヲ得テ居ラヌ説ト思フノデアリマス、サウ一時ニ船ガ來ルコトガ無イト同時ニ又全ク日本ニ關係ガ無イト云フ觀察モ誤ツテ居ルト思ヒマス。

今日ノ演題ヲ見マス、初メニ山下サンガ歐洲戰亂ト社外船ト云フ題デ御話ガアリ、其次ニ今岡博士渡邊學士ガ歐洲戰爭ト船舶ト云フ題デ御話ガアツテ共ニ歐洲戰爭トカ世界戰亂トカ云フモノニ緣ノアル御話デアリマシテ、私一人巴奈馬運河ト云フト甚ダ遠イコトノヤウニ思ハレマスガ、私モ少シ其方ニ仲間入りヲシマシテ、先ヅ此運河ガ昨年八月十五日以來日本ニ對シテドウ云フ風ニ利用サレテ居ツタカ、ソレガ時局ノ際ニ自然其ノ影響ヲ受ケテ居ルカラ、其方ト結付ケテ時局ト巴奈馬運河ト云フコトニ絲口ヲ附テ御話ヲ進メテ行カウト思ヒマス、先キホド今岡博士カラ御話ガアリマシタ通り日本ト歐羅巴トノ貿易ハ昨年十一月頃カラ非常ニ盛ンニナツテ參リマシタ、是ハ實ニ多數ノ人ノ豫想シナカツタ如クデアリマシタガ、是ト同時ニ一面ニハ又先キホド同博士ノ御話モアリマシタ通り船ガ非常ニ減ツテ居リマス、ソレニ對シテ荷物が非常ニ殖エマシタカラ、コ、ニ船腹ガ足ラヌト云フ問題ガ起ツテ來マシテ、日本郵船會社デハ定期船十一艘ノ外ニ現在九艘ノ臨時船ヲ歐洲航路ニ差向ケテ居リマス御承知ノ通り七千五百噸級ノ新シイ「カーゴボート」六艘、六千噸ノ「カーゴボート」二艘、ソレカラ古イ六千噸「クラス」ノ「カーゴボート」一艘、此九艘ガ這入ツテ居リマスガ、其臨時船ハ殆ド「スペース」ノ全部ヲ日本ニ割當テテ出テ行ク姿デアリマスガ、尙ホ日本ノ荷物ニ對シテ船腹ガ十分ト言ヘナイ、所ガ臨時船ト云フモノハ向フノ歐羅巴ノ方ノ荷物ガ時局ノ影響ヲ受ケテ日本若クハ東洋ニ向ツテ殆ド輸出ガ無イ爲ニ甚ダ困ツテ居リマス、イツモナラバ歸リノ方ガ非常ニ多イノデアリマスガ、昨年ノ時局以來歐羅巴カラ日本ニ來ル荷物ト云フモノハ非常ニ減ツテ來マシタ郵船會社ノ船ハ今年ノ一月カラ新タニ歸リニ支那上海ニ寄ルコトニナリマシテ、歐羅巴ト支那ト

ノ貿易ヲヤルコトニナリマシタカラ、荷物ヲ取ル上ニ餘ホド有利ニナツタノデアリマスガ尙荷物が甚だ少ナイノデアリマシテ十一艘ノ定期船ハ歸リニ船腹ノ大部分ヲアケテ歸ツテ來ルヤウナ始末デアリマス、定期船スラ已ニ然リデアリマスカラ臨時船ノ九艘ガ片荷ニナツテ向フニ行ツテ歸リニ荷ガ無イノハ勿論ノコトデアリマス是ガ若シ巴奈馬ノ運河ガアリマセヌト定期船ト同様印度洋ヲ通ツテ歸ル外アリマスマイシ從ツテ非常ニ苦境ニ陥ルノデアリマセウガ、是ガ巴奈馬運河ガ開通シマシタ爲ニ殆ド全部歐羅巴カラ亞米利加ノ方へ參リマシテ、亞米利加デ歸リノ荷物ヲ取ツテ巴奈馬運河ヲ通ツテ日本ニ歸ツテ來ル、斯ウ云フ非常ニ有利ナル……餘リ非常ト云フコトハ言ハレヌカ知レマセヌガ、運河ガ出來ナカツタ昔ニ比ベテ見マス、運河ガ開通シマシタ爲ニ假令大西洋ハ空船デ走ルトシマシテモ新タニ之ヲ利用スルコトガ出來ルヤウニナツテ來タノデアリマスカラ歐洲航路ノ船ニハ好都合ニナツタコトハ事實ト思ヒマスソレデ郵船會社ノ臨時船ハ殆ド全部亞米利加ニ回ハルヤウニ聞イテ居リマス、ソレナラバ亞米利加カラシテドウ云フ荷物が日本ニ取レルカト云フコトヲ申上ゲマス、先ヅ第一ハ棉デアリマス、此棉ガ亞米利加カラ日本へ大變這入ルノデアリマスガ、今マデハ是ハ殆ド全部ト申シテ差支ナイクラキ亞米利加ノ鐵道ヲ通りマシテ、ソレカラ桑港トカ「シャトル」トカ「タコマ」トカ云フ方デ「バシフィック」ノ船ニ接續シテ日本へ持ツテ參リマシタ、ソレハ種々不便ナ點ガアリマスガ、巴奈馬運河ヲ通ルコトニナリマス、亞米利加ノ墨西哥灣ニ「ガルベストン」ト云フ棉ノ輸出港ガアリマシテ、此所カラ日本へ來ルコトニナリマス、是ニハ種々有利ナ點ガアリマスガ、先ヅ最モ大キナノハ運賃デアリマシテ、從來ハ鐵道ト船トヲ接續スル運賃ガナカク高カツタ、詰リ現在デハ鐵道ガ百封度ニ付テ九十五仙、其中十仙ヅ、ハ壓搾ノ費用デアリマスガ九十五仙ヲ鐵道ガ取り、四十仙ヲ船ガ取ル、合計一弗三十五仙ト云フモノガ太平洋ヲ通ツテ來ル船車聯絡ノ運賃デアリマス、所ガ若シ「ガルベストン」カラ棉ヲ出スコトニナリマス、生産地ハ重モニ「テキサス」デアリマスガ、「テキサス」カラ「ガルベストン」へノ鐵道運賃ガ五十二仙半ト云フノデアリマシテ、大分桑港「シャトル」「タコマ」ニ出ルヨリ廉クナツテ居リマスカラ、ソレダケ汽船會社ガ多ク取レル、ソレホド多ク取ラスデモ船トシテハ十分有利ナ

荷物デアルカラ「ガルベストン」カラ出スト云フコトガ極メテ有利ナコトデアリマス、今マデハ若シ廉イ運賃デ運送ヲシテモラオウト思ヘバ蘇士ヲ通ツテ來ナケレバナラス、所ガ之ヲ通ツテ來マスト、航路ガ先キホド申上ゲタヤウニ非常ニ遠クナル爲ニ今積出シテモ三ヶ月以上モカ、ラネバ日本ヘ着カヌコトニナリマスカラ取引キガ勢ヒ先キ物約定ニナル譯デアリマシテ、甚ダ不便デアリマス、ソレガ巴奈馬ヲ通ツテ來マスト、鐵道ト太平洋ヲ接續シテ來ル輸送日數ヨリモ少シ短イ位デ出來ルト云フコトニナツテ來マシタ、普通商人ハ從來ノ太平洋航路ニ依ル輸送日數ヲ六十日ト豫想シテ居ル「テキサス」ノ產地カラ日本ヘ持ツテ來ルノニ六十日掛ル、ソレガ「ガルベストン」カラ積ミ出シマスレバ、先ヅ五十日グラキニ見込デ置ケバ十分デアラウト思ハレマス、運賃ハ廉クナリマスシ、輸送日數ハ短イト云フ譯デアリマスカラ、此クラキ得ナ航路ハ無イ譯デアリマス、要スルニ棉ノ爲ニハ極メテ有利デアリマスルシ、又船ノ爲ニモ有利ナル荷物デアルト思ヒマス、詰リ一旦歐洲航路ニ就イタ船ガ歸リニ亞米利加ヲ通ツテ來ル航路即チ世界一週ノ航海ガ新タニ開ケテ來マシタ、是ハ全ク時局ノ影響ニ依ツテ歐羅巴行ノ荷物ノ激増シタ關係ガアリマスガ勿論一面ニ於テハ巴奈馬ガ開ケテ之ヲ通ル新シイ有利ナ航路ガ出來タト云フニ歸セネバナラス、ソレカラ又亞米利加カラ日本ヘ持ツテ來ル重モナル荷物ハ鐵物デアリマスガ、唯今今岡博カラモ詳細ニ御話ニナリマシタヤウニ、澤山ナ船ガ日本デ出來ル、其造船材料ハ歐羅巴今迄ハ重モニ英吉利カラ取ルノデアリマセウガ、或ハ亞米利加カラ輸入スル途モ開ケ得ル譯デアリマス、ソレガ巴奈馬ノ運河ノ無イ時分ハ蘇士ヲ通ルカ亞米利加ノ大陸ヲ鐵道デ横斷シテ太平洋ヲ通ツテ來ルホカニ無カツタノデアリマスガ、巴奈馬ノ運河ガ出來テカラ、是ハ以上ノ二ツノ航路ニ比ベマスレバ極メテ有利ニ運送ガ出來ルヤウニ相成リマシタ、試ニ其運賃ヲ申上ゲマスト「ピッツバーグ」カラシテ日本ヘ來ルノニ亞米利加ノ大陸ヲ鐵道デ通ツテ太平洋ノ船ニ接續シテ來マスト、百封度ニ付テ約五十二仙ヅ、取ラレマシタ、ソレガ元ノ蘇士ノ航路ニ依リマスト「ピッツバーク」カラ紐育ヘ出ル汽車ノ運賃ヲ加ヘマシテ凡ソ四十五仙半程デアリマシタ、是ハ時々變リマスガ、先ヅ其クラキナ運賃デ來タヤウニ思ハレマス、約蘇士ノ方ガ六仙半廉カツタノデアリマス、然ル所、蘇士ノ方ハ亞米利加カラ日

本迄來ルノニ非常ニ日數ガ掛ル、先ヅ三箇月グラキ掛ルノデアリマスカラ、亞米利加カラシテ注成品ヲ日本ニ取寄セルニハ甚ダ不便デアリマス、ソレデ一方鐵道ニ依ルコトニナルト、運賃ガ高イ、ソレハコウ云フ荷物デアリマスカラ鐵道ノ運賃モ割合ニ廉イノデアリマセウガ何分鐵道ト汽船ト二ツノ運賃ヲ合セルノデアリマスカラ反對ノ方面ニ向ツテ鐵道ハ紐育迄極メテ短區間デ後ハズツト汽船ニ依ツテ運送サレルノニ比ベマスドウシテモ運賃ハ高クナルノデアリマス、ソレノミナラズ北米ノ所謂大陸橫斷鐵道ナルモノハ亞米利加ノ内地カラ東洋ニ仕向ケラレル荷物ノ運送ニ付テ熱心デアリマセス、ソレニハ種々複雜シタ理由ノアルコトデアリマスガ、要スルニ運賃收入其他鐵道經營ノ上カラ見テ不利益デアル、少クトモ利益ガ多クナイト云フコトニ歸スルノデアリマセウ、從來「シカゴ、ミルウオーキー」鐵道デ多少勉強シテ居ツタ外其他ノ鐵道ハ甚ダ冷淡デアリマシタ、殊ニ鐵物ノ如キ運賃ノ廉イモノニ對シテハ殊ニ歡迎セヌ傾向ガアリマシタ、ソレデ鐵道ニ依ル運送ハ單ニ運賃ノ高イコトバカリデナク總ジテ鐵道ガ好マヌ爲ニ殆ド運送ノ途ガ無カツタト言ツテ好イ位デアリマシタ、從ツテ從來造船材料ヲ始メ各種鐵物類ハ皆蘇士經由ノ通路ヲ取ツテ居ツタ有様デアリマスガ今巴奈馬運河ガ開ケマスト先ヅ運賃ハ蘇士經由ト同ジ位デヤレル譯デアリマセウシ輸送日數ハ蘇士經由ニ比ベレバ無論短縮サレマスルシ尙鐵道ニ依ル場合ニ比ベテモ若干短縮サレル譯デアリマセウカラ巴奈馬運河ノ開通ハ此種貨物ノ輸入ニ付テ甚ダ有益便利ナコト、信ジマス、此所デ一寸御斷リ致シテ置カネバナラヌコトガアリマス、ソレハ亞米利加ノ内地カラ東洋へ輸出サレル貨物ノ中デ棉ダケハ各鐵道會社カラ特別ノ取扱ヲ受ケテ居ツテ何レノ鐵道モ此ノ輸送ニハ仲々力ヲ入レテ居ルコトデアリマス其ノ譯ハ日本ニ輸入サレル棉花ノ產地ハ重ニ「テキサス」デアリマス處ガ太平洋ノ岸ニ近い地方カラ「テキサス」等ノ南部地方ニ行ク荷物ハ材木果實其他食料品ガ仲々多クアリマスノニ引換ヘテ「テキサス」方面カラノ歸リ荷ガ棉ノ外甚ダ少ナイ爲ニ鐵道ガ貨車ノ歸リ荷ヲ得ルコトノ必要ガアル爲デアルト申サレテ居リマス。

右申上ゲマス如ク棉ハ鐵道デ歡迎サレテ居リ其外ニモ機械類等若干北米ノ内地カラ大部分鐵道聯絡ノ方法デ東洋へ送ラレルモノモアリマスガ、概シテ大陸橫斷鐵道ナルモノハ東洋行ノ荷物ニ對シテ多大ノ貢獻ヲ爲シタルモノ

トハ認メルコトハ出來マセヌ、殊ニ先程申上ゲマセウニ鐵物類ノ如キハ殆ド全部蘇士經由ノ航路ニ依ツテ居ツタヤウナ有様デアリマシテ鐵道ト汽船トノ聯絡輸送ノ結果運賃ハ勢ヒ高カラザルヲ得ナイノデアリマセウカラ自然荷物ガ蘇士經由航路ノ方ニ移ルノハ當然ノコトデアリマセウガ事實ハ只今申上ゲタ通りデゴザイマス。

色々話ガ前後致シマスガ蘇士經由航路ヲ經營致シテ居リマス會社……巴奈馬運河開通後ハ巴奈馬經由ノ航路ヲモ始メマシタガ其ノ諸會社ハ北米大西洋岸ト東洋間ノ貨物ノ運送ニ付テ所謂「コンファレンス」ヲ作ツテ居リマシテ加盟船主以外ノ船舶ガ此間ノ荷物ヲ取リニ侵入シテ來マスト相共同シテ之ヲ防禦シ排斥シテツマリ紐育東洋間ノ貨物ノ運送ヲ自分共ノ一手ニ獨占シテ置カウト云フ方法ヲ講ジテ居リマス、ソコデ話ヲ元ニ戻シマシテ鐵物ノ輸送ノコトニ歸リマスガ、先程申上ゲマシタ處ノ日本郵船會社ノ臨時船ガ此造船材料ヲ持ツテ歸レルカドウカ、非常ニ疑問ノヤウデアリマス、彼等ガ若シ聯合シテ郵船會社ノ船ヲ排斥シ北米ノ東海岸デ荷物ヲ取ルコトヲ妨害シマシタナラバ造船材料ヲ始メ其他ノ荷物モ殆ド之ヲ積取ルコトガ出來ナイデアリマセウ、後ニ申上ゲマス石油ヲ積ムニ付マシテモ大體石油會社ニ備船サレル形ニナツテ居ルコト、想像致シテ居リマス、此クノ如ク外國汽船會社ノ「コンファレンス」ノ關係ノアリマス上ニ鐵物類ノ輸送ニ付キマシテハ又亞米利加ノ「ユーナイテッド、ステーツ、ステイール、コーポレーション」ガ自分デ廻ハシテ居ル船ガアリマス、是ハ「イスミアン、ステイームシツプ、ライン」ト言ツテ居リマス、ソレハ鋼鐵會社ガ船ヲ雇ツテ鐵物ヲ溝載シテ日本マデ持ツテ來ルノデアリマシテ、サウ云フ鐵物ノ製造家ガ自分デ廻ハス船ガアルカラ、ナカ／＼郵船會社ノ臨時船ガ之ヲ取ルコトモ困難デアリマセウ、勿論強イテ此間ニ割込デ例ヘバウント運賃ヲ下グルトカ何トカイフ方法ヲ採リマシタナラバ割込メヌコトモナイデアリマセウガ、今競争スルト云フコトガ有利デアルカドウカト云フコトハ日本郵船會社ニ取ツテハ問題デアルト心得テ居リマス、之ヲ若シ定期航路ニシマシテ郵船會社デモ其他ノ會社デモホントウニ腰ヲ据テ定期航海ヲヤルコトニナリマスレバ彼等外國汽船會社ヲシテ其仲間ニ入レサセマス上ニ餘程容易ノ點ガアルデアリマセウ、サウナレバ鐵物ナドノ輸入ハ餘程有利ト思ヒマス、現在ノ所デ之ヲ輸入スルコトハ仲々困難デハナイカト案ジ

テ居リマス、ソレカラ亞米利加ノ東海岸カラ東洋へ這入ル品物ノ重ナモノニハ石油ガアリマス、現在歐羅巴カラ亞米利加へ廻テ居リマス處ノ先程申上マシタ日本郵船會社ノ臨時船ハ歸リニ石油ヲ取テ支那へ行クコトヲ契約シテ居ルヤウニ承知シテ居リマス、斯ウ云フコトガアリマスカラ距離ニ於テ遠イ、詰リ巴奈馬運河ニ關係ガ無イ歐洲ノ貿易ニハ關係ガ無イカ知レマセヌガ、歐洲航路ニ行ク日本ノ船ニハ大變有利ナ歸リ路ガ出來タ譯デアリマス。ソレカラ是ハ重モノ日本ト亞米利加ノ貿易ノ中デ輸入ニ付テ申上ゲタノデアリマスガ、日本カラ亞米利加へ行ク所ノ輸出ノ方ノ貿易ニ付テモ此巴奈馬運河ノ航路ト云フモノハ餘ホド有利デアルヤウニ思ハレマス、ソレハ詰リ先キホド申上グルヤウニ航路ガアリマシテ、一ツハ太平洋ヲ通ツテ向フノ鐵道ニ接續シ、一ツハ蘇士ヲ通ツテ海ノ上ヲ紐育ニ行クノデアリマスガ、此ノ太平洋ヲ通ツテ向フノ鐵道ニ接續スルニハ鐵道ト汽船ト兩方ニ運賃ヲ拂フコトニナリマス上ニ本々鐵道トイフモノハ運賃ノ高イモノデアリマスカラドウシテモ運賃ガ高クナリマス、ソレカラ當ニ運賃ガ高イノミナラズ、鐵道デ長イ距離ヲ引クノデアリマスカラ、輸送日數モ相當カ、リマス上ニ目的地ニ到着スル日ヲ豫メ確カメルコトガ餘ホド困難デアリマス、詰リ荷物ガ何日紐育ニ着クカ、市俄古ニ着クカ、ソレガ狂ツテ困ルト云フヤウナコトヲ向フデ聞キマシタ、ソレカラ鐵道ト汽船トへ積替ヘラ一度シナケレバナリマセヌカラ、荷物ノ損スルコトハ免カレ難イコトデアリマス、此ノ通路ハ運賃ガ高イト云フ大ナル關點ノ外ニ尙ホソレ等ノ種々ノ關點モアルノデアリマス、ソレカラ反對ニ蘇士ノ方ヲ通ツテ行キマス、輸送日數ガ非常ニ延長シマス、ドウシテモ九十日ハ荷主ニ於テ見込ンデ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス、運賃ハ廉イノデアリマスガ、輸送日數ガ非常ニ多イ爲ニソレニ荷物ヲ託スルコトニ於テ甚ダ困難ヲ感ジテ居ル、極值段ノ廉イ原料的ノモノデナイト託スルコトガ出來ナイヤウニ承知シテ居リマス、所ガ今巴奈馬運河ガ開ケマシテ、日本カラ巴奈馬ヲ通ツテ紐育ニ行クコトニナリマス、運賃ハズツト海上ヲ通ツテ行キマスカラ、何等接續ノ必要ガ無ク、蘇士ト大差ナイコトデ行ケルノデアラウト思ヒマス、謂ハユル蘇士廻リノ各汽船會社ガ巴奈馬ヲ通ル場合ト蘇士ヲ通ル場合ト同シ運賃ヲ適用スルノヲ見テモ其邊ノ消息ガ窺ハレル次第デアリマス。

ソレカラ次ニ輸送日數デアリマスガ、輸送日數ハ鐵道ニ依ツテ行ク方ガ早イヤウニ思ハレマスガ、是ハ存外早クナイノデアリマシテ、先キホド申上ゲマシタ棉ニ於テハ六十日掛リマスガ、日本カラ亞米利加ヘ行キマス方ハサウ長クハカ、ラヌヤウデアリマス、紐育迄大抵極早クテ三十三四日掛リ、遅クナルト矢張り四十日以上五十日近ク掛ルモノガアリマス、所ガ巴奈馬ヲ通ツテ行キマスト、先ヅ一時間平均十二海里ヲ走ルモノトシマシテ、三十五日カ三十六日アレバ横濱カラ紐育マデ行キマスカラ、是ハ日本カラ向フニ行キマス荷物ノ輸送ノ上ニ餘ホド便利デアラウト思ヒマス、殊ニ鐵道ト違ツテ船デアリマスカラ、定期ガ餘ホド確カニ參リマス、何月何日ニ横濱ヲ出レバ何月何日ニ向フニ行クト云フコトハ、鐵道ヨリ能ク決メラレル譯デアリマス、要スルニ運賃ハ安シ、輸送ニ要スル日數ハ短カクテ而モ定期ハ餘程確ニ守ラレ得ルノデアリマスカラ巴奈馬航路ガ日本ノ對米輸出貿易ニ對シ極メテ有利デアルコトハ疑ナイコト、思ヒマス勿論生絲、羽二重等ノ如ク其運送ニ一日否一時間ヲ爭フモノニオキマシテハ現在甚シク高い運賃ヲ拂ヒマシテ旅客列車ニ接續シ大體十五日乃至二十二、三日位デ横濱カラ紐育迄行クノデアリマスカラ巴奈馬航路ハ無論之ニ及ブコトハ出來マセヌ、假令如何ニ運賃ヲ廉クシマシテモ澤山積取ルコトハ不可能デアリマセウ、然シ是等ハ特別ナ荷物デアリマシテ日本カラ亞米利加ヘ輸出サレマスモノハ決シテ生絲ヤ羽二重バカリデハアリマセヌ、是等ヲ除キマシタ外ノ茶殊ニ烏龍茶、眞田、陶磁器、花苳、「ブラッシュ」罐詰、樟腦、玩具其他各種ノ雜貨類ノ如キ今迄主トシテ太平洋ヲ通ツテ鐵道ニ接續致シテ居リマシタモノ、ソレカラ從來主トシテ蘇士經由デ運送サレテ居リマシタ處ノ銅、竹及竹製品、樟腦油、木蠟、硫黃等ハ巴奈馬經由ノ定期航路ガ開カレマシタナラバ何レモ非常ナル利便ヲ得ルコトハ疑ノ餘地ナキコト、信ジテ居リマス。

之ニ對シテ或ハ亞米利加ノ鐵道デ運賃ヲ引下ゲ又ハ速力ヲ増加シテ之ニ對抗スルコトガ出來、必ズシモ巴奈馬航路ニ劣ラヌコトガ出來ルヤウニ考ヘラレマスガ、是ハ餘程困難ナコトノヤウニ思ヒマス、長イ亞米利加ノ大陸ヲ横斷スル鐵道ノ上ヲ貨物列車ヲ引張リマスカラ、若シ非常ニ鐵道ニ取ツテ重要ナ荷物デアレバ兎ニ角、餘リ重要デナイモノニ對シテ特ニ運賃ヲ引下ゲタリ、速力ヲ早メタリスルワケニハ參ラヌデアリマセウ、今東洋貿易ニ付テ

日本輸出入ノ貨物ヲ最モ熱心ニ取扱ツテ居ルノハ、北ノ方ノ「タコマ」ヲ太平洋側ノ終點ト致シテ居リマス處ノ市俄高「ミルオーキー」鐵道デアリマスガ其所ノ「マネヂャー」ニ會ッテ聞キマシタ所ニ依リマスト千九百十三年ニ市輸出シタ荷物、即チ市俄高「ミルオーキー」デ扱ツタ荷物ガ僅ニ十二萬噸ニ過ギナイ、一方二千六百七十五萬噸アツタニ對シテ十二萬噸デアリマスカラ、鐵道營業上カラ見レバ眞ニ九牛ノ一毛デアリマス、之ニ對シテ鐵道ガ其荷物ヲ早ク運ンダリ或ハ運賃ヲウツト引下ゲテヤル等ト云フコトハ到底想像スルコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ先程モ申シマシタヤウニ生絲ナリ絹物ナリト云フモノニナリマス、是ハ「バツセンヂャー、トレイン」ニ積ムノデアリマスカラ、非常ニ早ク着クノデアリマスガ、其運賃ハ非常ニ高クナツテ居リマス、此運賃ハ巴奈馬ノ方ガ廉クシ得ルト思ヒマスガ、餘ホド早ク紐育ニ着クコトガ希望デアリマス、運賃ガ高クトモ輸送日數ガ早イコトヲ希望シマスカラ、巴奈馬ハ幾ラ急イデモ荷物ヲ取ルコトガ出來マセス、是ハ詰リ「バツセンヂャー、トレイン」ニ積ム關係ガアルカラデアリマス。

モウ一點申上ゲテ置キマスガ、現在此巴奈馬ヲ通ジテ定期ト迄ハ行カズトモ一定ノ航海ヲ營ンデ居リマス船ハ總テ元ト蘇士ヲ通ツテ居ツタ船デアリマシテ英吉利ノ船デアリマス、客ヲ積ミマセヌカラ、皆サン方ノ御耳ニハ縁遠イノデアリマスガ、「ユーナイテツド、ステーツ、エンド、チャイナ、ジャパン、ライン」トカ「アメリカン、エンド、マンチユリアン、ライン」トカ「バーバー」及「ドツドウエル、ライン」トカ「アメリカン、アジアテイック」汽船會社トカ皆英船ノミデアリマシテ日本ノ船ハ未ダ一艘モアリマセヌ、而シテ日本ノ船ガ無イ爲ニ日本ノ荷物ニ取ツテハ餘ホド不便ナ點ガ多イノデアリマス、殊ニ著シイコトト思ハレマスノハ目下ノ時局ニ際シマシテ日本ニ出入スル貨物ノ運賃ヲ思ヒ切ツテ引上ゲテ居ルヤウナ譯デアリマス、先キホド私ハチヨツト横濱ノ方へ參リマシテ、荷主ニ問合セテ見マシタガ、蘇士巴奈馬廻リノ船ノ運賃ヲ引上ゲタ爲ニ今マデ此方ニ依ツテ輸出サルル商品ノ取引キガ餘ホド減ツタト云フコトヲ聞キマシタ、詰リ鐵道ニ接續シテ行ク運賃ト餘リ違ハナクナツタ爲ニ全然取引ノ止

マツタモノモアリ或ハ高率ノ運賃ヲ負擔シテ鐵道ニ依ルヤウニナツタ荷物が大分アルヤウニ見エマス、造船材料等ノ鐵物類ノ如キ元ハ鐵道ニ依リマス、百封度ニ付テ五十二仙、蘇士ハ四十五仙半デアツタガ現在ハ兩方トモ殆ド五十二仙ヅツニナツタヤウニ思ヒマス、詰リドチラニ行ツテモ大差ナイコトニナツタヤウデアリマス。

斯ウ云フ風ニ分ケテ見マス、此巴奈馬航路ハ餘ホド有利ナモノデアリ、又時局ニ於テモ日本ニ有益ニ利用サレテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ日本ノ船ハマダ定期航海ヲ開イテ居ラス、ソノ爲メ先キホド申上ゲマシタヤウニ運賃ヲ始メトシテ種々不便ナ點ガアリマス、是ハ一日モ早ク開カネバナラスコトト思ヒマス、所デ巴奈馬運河ハマダ各國ノ船ニ依ツテソレホド利用サレテ居リマセヌカラ、今日日本ノ船ガ這入込ムナラバ好時機デアラウト思ハレマス、此運河ノ開通後十一月末マデニ船ノ通りマシタノハ、巴奈馬ノ測度法ニ依リマシテ、百二十九萬七千九百八十四噸デアリマシタ、然ル所、先キホド申シタ「ジョンソン」教授、此ノ人ガ巴奈馬ノ測度規則ヤ通航料ナドヲ調ベタノデアリマスガ、此人ノ豫測ニ依リマス、千九百十四年カラ十五年ノ半バ迄丁度一年間ニ登簿噸數デ一千五十萬噸ノ船ガ通ルコトヲ豫測シテ、ソレニ一弗二十仙トカ或ハ先キホド申上ゲタ「バラスト」ノ船ナラ其四割引トシテ通航料ヲ課シテソレニ依ツテ運河ノ維持及「オペレーション」ヲヤツテ行カウト云フ經畫デアリマシタ、其一年間ノ一千五十萬噸ヲ一日ニ割ツテ見マス、一日ニ二萬八千七百六十七噸ノ船ガ通ルコトニナツテ居リマス、然ル所、先キホド申上ゲタ十一月マデニ百二十九萬七千九百八十四噸ヲ平均シテ見マス、一日平均一萬二千十四噸デアリマシテ、マダ「ジョンソン」氏ノ豫想シテ居ル二萬八千何ボト云フ登簿噸數ノ半バニモ達セヌヤウナ有様デアリマス、此「ジョンソン」氏ノ豫測ハ少シ多過ギルト云フ評モアルヤウデアリマスガ、其半バ以下ニモ達セヌト云フコトハ、一面世界ノ船舶ガ時局ノ影響ノ下ニ航海スルモノガ減少シタト云フ關係ノアルコトハ無論デアリマス、而シテ其他ニ又現在動イテ居ル船ニ於テモ巴奈馬運河ヲ利用スル者ガ少イト云フコトカ事實デアラウト思ハレマス、要スルニ船ガマダ巴奈馬運河ヲ十分利用シテ居ラスト云フコトハ確カデアリマシテ、現今ニ於テ日本ノ船デ此ノ巴奈馬航路ニ向ツテ發展シタナラバ、將來日本ノ航海業ハ無論日本ト亞米利加トノ貿易、或ハ歐

羅巴航路トノ關係ト云フ方面ニ於テ日本ニ取ツテ、殊ニ日本ノ船舶ニ取ツテ非常ニ有利ナコトデアラウト思ハレマス、私ハ何レカノ日本船主ニ於テ一日モ早ク巴奈馬經由ノ定期航路ヲ開イテ大イニ日本ノ爲ニ盡スト云フ人ノ現ハレルコトヲ切望シテ止マヌノデアリマス、甚ダ長イ間清聽ヲ瀆シテ失禮イタシマシタ(拍手)

座長寺野精一君 唯今ノ島田法學士ノ御演說ニ付テ御討論御質疑ガゴザイマズレバドウカ……

島田乙駒君 甚ダ簡單ニ申上ゲマシタカラ御尋ノ點ガアレバ私ノ知ツテ居ルコトハ御返事申上ゲマス、知ラヌコトハ調ベテ御返事申ダテモ宜シウゴザイマス

今岡純一郎君 唯今伺ツテ居リマシタガ、速力十二哩ノ船ガ三十五日トカ……

島田乙駒君 三十六七日デ「ガルベストン」カラ横濱マデ十分來ラレルヤウニ思ヒマス

今岡純一郎君 紐育ノ方ハ……

島田乙駒君 紐育デモ大シタ違ヒハサリマセヌ

今岡純一郎君 ソレハアナタガ豫想サレタ船ナノデスカ、普通ノ船ハ今日ソレダケ出シテ居ラヌヤウニ思ヒマス

島田乙駒君 ソレハ出シマセヌ、併シ此航路ガ開ケルコトニナリマズレバ、一面「オーバーランド」ノ鐵道ト競争ガ出來マスカラ、此航路ヲ開クコトニナルト、當然十二哩ハ出サナケレバナラヌト自分ハ信ジテ居リマス、普通ノ船デアレバソレヨリ少シ長ク掛ラウカト思ヒマス

今岡純一郎君 分リマシタ

島田乙駒君 普通十一海里ノ船デアリマスト横濱カラ紐育マデ約四十日グラキデ行ケルヤウニ思ヒマス

座長寺野精一君 ドナタモ御質問ゴザイマセヌカ……ゴザイマセヌケレバ一言御挨拶ヲ致シマス今日ノ島田君ノ

御講演ハ頗ル有益ナ御話デ、殊ニ經濟上ノ見地カラ巴奈馬運河ヲ觀察サレタ種々ナ點ニ付テ詳細ニ述べラレマシ

講 演 巴奈馬運河

テ船舶ヲ扱フ人間及船ヲ造ル人間ニ對シテ非常ニ有益ナ參考ヲ得タ次第デアリマス、此點ニ付テ諸君ト共ニ拍手シテ御禮ヲ致シタイト思ヒマス。(聽衆拍手)

是デ閉會イタシマスガ、閉會前ニ諸君ニ御禮ヲ申上ゲマス、今日ハ臨時ノ講演會デアリマスガ會員及會員外ノ諸君モ多數御來會ガアリマシテ、非常ニ盛會ヲ告ゲマシタノハ全ク講演ノ題目ガ甚ダ時機ニ適シテ居ツタ爲メデアリマセウガ、一ツニハ會員各位ノ御熱心ニ依リマシテ此盛會ヲ告ゲタ次第ト思ヒマスカラ、茲ニ謹ンデ御禮ヲ申上ゲマス、是デ閉會イタシマス(拍手)

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

全開第一 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

全開第一 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

全開第一 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

全開第一 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

全開第一 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

全開第一 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

島田心齋 演 巴奈馬運河ノ建設ニ關スル事

討 論

「歐洲戰爭と船舶」ニ對スル討論

第一回ノ討論 (七月六日學士會ニ於テ)

座長寺野精一君「是ヨリ開會イタシマス、今日ノ討論會ヲ開クニ際シマシテ此雨天ニ拘ラズ皆サンガ多數御出席下サレタコトハ本會ノ大イニ光榮トスル所デゴザイマス、コレト申スノモ偏ニ今日問題トナツテ居リマス事柄ガ直接我々海事業ニ關係シテ居ル者ノ最モ痛切ニ研究ノ必要ヲ認メテ居ルコトデアルガ爲メニ、御多忙ノ際ニモ拘ラズ斯ク皆サンガ御出席クダサレマシタコトト考ヘマス、此ノ御熱心ニ對シテ會ノ當事者ハ大イニ喜ビ且ツ感謝シテ居ル次第デゴザイマス、今日ノ會合ノ目的ハ先キ頃今岡君渡邊君ガ本會ノ臨時講演會ニ於テ「歐洲戰爭ト船舶」ト云フ問題ニ付テ講演サレマシタ際ニ斯波博士カラ非常ニ有益ナ問題デアルカラシテ、更ニ日ヲ期シテ討論シテ大イニ研究シタラドウカト云フ動議ガ出マシテソレガ動機トナツテ今日ノ會ヲ開イタ次第デゴザイマス、此歐洲大戦亂ノ結果トシテ日本船舶ニ及ボス影響ト云フコトハ今更私ガ申スマデモナイ話デアリマス、實ニ日本ニ取ツテハ千載ノ一遇トモ申シマスカ、非常ナ出來事デアツテ其結果トシテ豫テ本會ガ船價調査會ナドヲ設ケテ多年研究シテ居ツタ内地ニ於ケル貨物船ノ製造ト云フコトガ期セズシテ發達シテ來タノデアリマス、多年ト申シテモ二三年來ノ懸案デアリマスガ、其研究ニ付シテ居ツタ事柄モ一部分ハ自然的ニ解決サレタ次第デアリマス、而シテ尙ホ此戰爭ノ結果ニ付テ各方面ノ船舶ニ關係アル方々ガ御感ジニナツテ居ル事柄ヲ腹藏ナク此機會ニ於テ御發表ヲ願ツテ大イニ意見ヲ闘ハセラレタナラハ、日本ノ造船業ガ將來如何ニシタラ確實ナル基礎ニ於テ發達シ得

ルモノデアアルカト云フコトノ解決ガ略々出來ハシナイカト考ヘルノデアリマス、ソレデ此討論會ヲ開クニ付キマシテハ各方面ノ方々ノ御出席ヲ願ツタ次第デアリマスガ、幸ニアラユル方面ヲ代表サレタ方々ガ御出席クダサレマシテ、此會ニ一層光榮ヲ添ヘタ次第ゴザイマス。

此會ヲ開キマス順序ト致シマシテ、マダ前會ノ今岡君ノ講演ヲ御聽キニナラヌ方ノ爲ニ極大體ニ付テ此講演ノ梗概ト、合セテ此講演ヲサレタ後一箇月有餘ノ間ニ又新タニ經驗サレタ事柄ヲ此所テ述ベラレテ、ソレニ付テ皆サシノ御討論ヲ願ヒタイ、斯ウ云フコトデゴザイマスカラ其順序ニ從ツテ始メマス、左様御承知ヲ願ヒマス、今岡君ドウゾ……

工學博士 今岡純一郎君

座長閣下並諸君、先般私ドモ兩人ガ今回ノ戰爭ガ船舶界ニ及ボス影響ヲ調査イタシマシタノハ、私ドモ斯界ニ關係アル者ノ何カノ參考ニナリハシナイカト云フ考ヘデアリマシタ、其機會ニ寺野博士ヨリ其調査ヲ本會デ發表シタラドウカト、云フ御勸メニ與リマシタ爲前會ニ『歐洲戰爭と船舶』ト云フ題デ聊カ調査ノ事項、竝ニソレカラ導キマシタ私ノ希望ヲ申上ゲテ置キマシタ、所ガ其際ニ於ケル斯波博士ノ御發議ニ依リマシテ特ニ本講演ノ爲ニ今日討論會ノ御催シヲ戴キマシタノハ、私ドモ誠ニ光榮ニ存ズル次第デアリマス、本講演ノ内容ハ要スルニ各方面カラ寄セ蒐メタ材料ヲ陳述シタニ過ギナイノデアリマス、而カモ其陳述タルヤ、甚ダ順序モ無ク、不秩序ノモノデアリマス、然ルニ本夕ノ如キ斯道ノ「オーソリテイス」ノ御會合ノ席ニ於テ、ソレ等ノ方々カラ本問題ニ對スル御意見御討議ヲ拜聽スル機會ヲ得タノハ私ドモ誠ニ欣快ニ堪ヘナイ次第デアリマス、ドウカ御遠慮ナク御蘊蓄アラセラルル所ヲ御發表アランコトヲ偏ニ希望イタス次第デアリマス、本講演ニ付キマシテハ前以テ御手許マデ印刷シテ差上ゲタモノガゴザイマスガ、或ハ未ダ御一覽ニナラナイ方モアルコトト存ジマスカラ、極大體ニ付テ私ドモノ考ヘヲ述ベヤウト思ヒマス。

此度ノ戰爭ハ世界ノ海運界ニ覇ヲ唱ヘテ居ル英國及獨國ガ其中心トナリ其他ノ歐洲各國ガ殆ト總テ其渦中ニ投ジテ居ルノデアリマスカラシテ、一般世界的海運ニ從事シテ居ル船舶ノ數カラ言ツテモ約三割ハ減ツテ居リマス、是ハ大體私トモガ見込デ約三割ト申上グルノデアリマス、ソレカラ戰爭ノ爲ニ平素ノ物資ノ動キ方ガ非常ナル變化ヲ來タシテ居ルト考ヘルノデアリマス、ソレハ新タナル方面ニ軍需品ナリ食糧品ナリノ需要ヲ充タサナケレバナラヌノデアリマスカラ、ソレ等ノ爲ニ從來ノ航海ノ狀態ハ變ツテ來タ、最モ著シイ例ハ日本ナドモ其影響ヲ受ケマシテ、北海道ノ燕麥ガ遠ク歐羅巴マデ行クト云フ現象ヲ來タシテ居ルノデアリマス、斯様ナ有様デゴザイマスカラシテ、運賃ノ暴騰ハ己ムヲ得ヌノデアリマシテ四倍乃至五倍ニ至ツタモノモアルノデアリマス、從ツテ備船料モ高クナル、備船料カ高クナレハ船主ハ成ルヘク早く船ヲ手ニ入レントシマスカラ、船ノ需要ガ増シ自然船價カ高クナツテ來マシタ即チ世界ニ於ケル船舶界ハ非常ニ高潮ナ時代ニ達シタノデゴザイマス、是等ノ影響ノ餘波ハ我日本ニマデ及ボシテ參リマシテ、本邦船舶界カ前後未曾有ノ盛況ヲ呈スルニ至ツタノデアリマス、クダクシク申上グルマデモナク、從來日本ノ船デ海外航路ニ從事シマシタモノハ、政府ノ命令航路ニ從事シテ居ル船舶ガ其主タルモノデアリマシタ然ルニ今回ハ世界的ニ船ガ足りナイノデアリマスカラ、各方面ヨリ日本ノ船舶ノ需要ヲ喚起イタシマシテ、最近ニ於キマシテハ約四十五隻以上ノ所謂社外船タル日本船舶ガ純然タル海外航路ニ使用セラレルト云フヤウナ狀況ニナツテ居リマス、斯様ニ船ガ外國ヘ引上グラレタ結果自然東洋近海ニ於ケル船腹ニ激減ヲ來タシ日本近海ニ於ケル運賃ヲ非常ニ暴騰セシメタノデゴザイマス、此暴騰ノ結果意外ノ利益ヲ得テ居ルノハ日本船主諸君デアラウト考ヘマス、此餘波ガ進ンデ日本ノ造船所ノ繁榮ヲ導イテ來タノデゴザイマス、斯様ナ場合ニハ多ク日本ノ船主ハ比較的廉イ金デ手ツ取り早く手ニ入ル所ノ中古船ヲ外國カラ輸入セラルルノガ從來ノ習慣デアツタノデゴザイマスガ、今回ハ外國ノ中古船ノ賣手ガ無イ、賣手ガ無イノミナラズ寧ロ日本カラ外國ヘ逆輸出スルヤウナ奇體ナル現象ヲ來タシテ居リマスカラ、迪モ外國ノ中古船ヲ手ニ入レルコトガ出來マセヌ、又外國製造所ニ注文シテモ比較的短イ時日ニ日本船主ノ手ニ入ルコトガ出來ナイ、サウシテ一方ニ於テハ海運界ノ好況ニ乘

ジテ日本船主ノ「ボツケツト」ガ暖カクナツテ居ル、是等ノ點ガ綜合イタシマシテ日本ノ造船所ニ向ツテ何レモ多數ノ貨物船ノ注文カ出タ次第デアリマス、此數字ハ前段申上ゲマシタ場合ニハ大體建造中ノ船ハ五十二隻二十三萬噸バカリニナツテ居リマシタガ、其後尙ホ之ニ四五隻加ハツテ參ツテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、斯様ニ造船界ノ繁榮ヲ導キマシタコトハ誠ニ思ヒモ寄ラヌ結構ナコトデアリマスガ、果シテ是ガ「ナチュエラル」ノコトデアルカト云フト、ドウモ是ハ一時的ノ現象デアルカノヤウニ思ハレマス、併ナガラ假令一時的ノ現象デアリマシテモ、兎ニ角總數五十餘隻ト云フ大多數ノ船ガ僅カ一、二年ノ間ニ我ガ日本デ出來ルト云フコトハ、何トシテモ得難イ千載一遇ノ好機會デアリマス、此機會ニ於テ日本ノ造船業者竝ニ船舶ニ關係アル一般ノ人ガ得マスル知識ハ非常ニ有益ナル經驗トナリ技能ノ練磨トナルモノト認メマシタカラシテ、若シ此機會ニ於テ一般船舶界ニ從事スル者ガ共同一致シテ出來得ル限リ廉クシテ、サウシテ有効ナ船舶ヲ製造シ供給スル途ヲ研究シマシタナラバ、假令今日ノ變態ガ常態ニ復シマスル場合モ從來日本ノ造船業者ガ英國ノ造船業者ナドト競争スル境遇ヨリ比ベテ遙ニ有利ナル境遇ニ立到リ將來日本ノ造船業ノ獨立ヲ期スル上ニ於テ大イニ效力ノアルコトト考ヘルノデアリマス、既ニ兩三年來本協會ニ於キマシテ船價調査會ト云フ特別會ヲ設ケラレマシテ、私モ其一人トシテ各方面ニ亘ツテ研究ヲ致シテ居ツタノデアリマスガ其研究ナドモ今日ハ紙ノ上、机ノ上デナク、實物ノ上ニ就テヤリ得ル機會ガ參ツタノデアリマス、此機會ニ各員ガ共同一致シテ此事業ノ獨立ヲ講ジマシタナラバ、將來日本ノ造船業ノ獨立ヲ早メルニ效力ガ多カラウト、斯ウ考ヘマシテ私ドモ不敏ヲ顧ス此問題ヲ掲ゲテ諸君ノ前ニ御批評ヲ仰グニ至ツタ次第デアリマス、尙ホ其方法或ハ研究ノ手段等ニ至リマシテハ諸君ノ御考モアルコトト思ヒマスガ、兎ニ角私ドモノ考ヘト致シマシテハ第一ニ海運業ノ發達ヲ圖ツテ戴カネバナラナイ、海運業ノ發達ヲ圖リマスハ船腹ヲ殖サナケレバナラヌ、此船腹ヲ殖スト云フ問題ハドウシテモ船ノ使ヒ途ヲ作ルヨリ他ニ方法ハ無イノデアリマス、是ハ私ドモガ如何ニ紙ノ上デ喋舌ツテモ實行ノ出來ルモノデナイ、是ハ海運業ニ從事シテ居ラルル各位ノ御發奮ニ待ツヨリホカ無イト考ヘマス、尤モ私ドモガ此問題ヲ提供シマシタノハ、單ニ經濟上ノ問題バカリデナク、日本國

家ノ存立……大層言葉が大キイヤウデアリマスガ、國家存立上即チ軍事眼ニ依リマシテモ日本ノ船ハ今日ノ状態ニ甘ンジテ居ラレナイ、現ニ今日日本ニドノクラキノ船ガアルカト申シマス、千噸以上ノ船デイヤ戦争ト云フ場合、咄嗟ノ間ニ使ヘル船ハ私ドモノ見込ニ依リマス、約八十萬噸グラキシカ無イノデアリマス、而カモ其八十萬噸ヲ借上ゲタト假定シタラドウカト申スト、日本ノ經濟界ハ非常ナ「バニツク」ニ出遭フノデアツテ恰モ曾テ日清戦争ノ時代ニ日本ガ出遭フタ境遇ト同ジコトト思ヒマス、斯様ニ考ヘテ見マス、軍事上ノ見地カラシテモドウシテモ船腹ヲ殖スコトヲ研究シナケレバナラス即チ經濟上軍事上何レノ見地カラモ船腹ヲ殖スコトハ必要ト思ヒマス。

次ニ造船業ハドウ云フ風ニシテ發達スレバ宜イカト云フ種々問題モゴサイマスガ、先ヅ第一ニ日本ノ社外船主ガ今回日本ノ造船所ニ注文ヲ發セラレタコトヲ尙ホ將來モ續ケテヤツテ戴キタイ、斯ウ云フ希望デアリマス、第二ニ「カーゴボート」ハ成ルタケ簡單ニシテ其仕様設計ノ如キモ略々標準ヲ拵ヘマシテ、大凡此式ノ荷物船デアレバスク／＼ノ程度ノモノデアルト云フコトヲ一般製造者注文者若クハ之ヲ検査スル者、之ヲ監督スル者、何レノ方面ノ者ニモ一定ノ法式ヲ頭ニ入レルヤウニシマシタナラバ、總テノ工事ナドガ極簡單ニ參ルト、斯ウ考ヘルノデゴザイマス、第三ニ工費ヲ節約スルコト、是ハ船サヘ多數出來マスレバ問題ハ割合ニ簡單ニ解決セラルルト思ヒマス、成ルベク簡單ナル設備ヲ以テ多數ノ船ヲ拵ヘテ行クコトガ出來マシタナラバ、期セズシテ工費ノ節約ガ出來ルモノデアリマス、第四ニ「オキジャリ」ノ補助工業ヲバ大イニ獎勵シ進メテ行ク方法ヲ執ルコト、是モ今日デハ段々各方面デ分業ガ行ハレマシテ、現ニ今度拵ヘル多數ノ貨物船ノ中ニハ「ウインチ」若クハ「ウインドラス」ヲ東京石川島造船所ニ依頼サレタソウデアリマス、是等ハ益々進メテ參ツタナラバ、恰モ外國ニ於テ「ウインドラス」屋ハ「ウインドラス」屋「ウインチ」屋ハ「ウインチ」屋ト云フ風ニ分レルヤウナ基礎ガ出來ルト思ヒマス、サウナリマスレバ益々物ガ廉クナル、斯ウ考ヘルノデアリマス、第五ニ是ハ從來カラ最モ重要ナ問題ト考ヘテ居ツタノデアリマス、ソレハ日本デ造船材料ノ供給ヲ容易ニ得ル方法、要スルニ是ハ製鐵所ノ擴張及生産費

ノ節約、材料價格ノ減少ト云フ問題ニナルノデアリマス、之ニ付テハ私ドモ公私トモニ製鐵所ニ向ツテ今一層造船ノ爲ニ便宜ヲ與ヘラレタイト云フ希望ヲ述ベテ置キマシタ、此度製鐵所ノ服部技師ノ所ヘ私ドモノ講演ヲ送リマシタ、所ガ服部技師カラ御返書ヲ戴キマシタ、今回厚板工場モ議會ヲ通ツタコトデアルカラ、將來ハ我々ノ希望スル材料モ從來ニ比シテ遙ニ多ク供給スル途モ開ケルデアラウ、斯ウ考ヘルト云フ御答ヲ得テ私ドモ誠ニ喜ンデ居ル次第デアリマス、是ハ我々一同カラ益々製鐵所ニ迫ツテ出來得ル限リ日本ノ製鐵所ガ十分ニ造船材料ヲ供給シ得ル途ヲ開カレルヤウニ努メルコトガ宜カラウト思ヒマス、第六ト致シマシテハ今少シ學理ノ應用ヲヤツテ行カナケレバナラスト考ヘマス、外國デモ從來ハ貨物船ニ學理ノ應用ヲスルト云フコトハ割合ニ進ンデ居ナカッタヤウニ考ヘマスガ、近時ハ段々其「コンベチシヨ」ガ盛ンニナルニ從ツテ貨物船ガ學理的ノ下ニ置カレルヤウナ傾向ニナツテ來マシタ、現ニ近年「エキスペリメンタルタンク」ニ於テ荷物船ノ研究ガ始ツテ來タノヲ見テモ其一端ヲ窺フコトガ出來ルト思ヒマス、然ルニ日本デハ今日マダ一般ニ「トランポート」ニ向ツテ「エキスペリメンタルタンク」ヲ應用シタト云フ所ハ餘リ無イヤウニ考ヘマス、勿論三菱造船所ハ自分デ「タンク」ヲ持ツテ居リマスカラ之ニ依ツテヤツテ居ラレルト思ヒマス、又海軍ニモ「タンク」ガアリマスカラ、或場合ニハ私立造船所ノ依頼ニ依ツテ海軍ノ「タンク」ヲ使ツテ居ラルル者ガアルカモ知レマセスガ、未ダ一般ニ向ツテ貨物船ノ船型ナドヲ決メル設備ハ整ツテ居ナイノデアリマス、一般的ニ考ヘテ見マスト、公ニ誰デモ使ヒ得ル船型試驗所ノ設備ガアツテ欲シイト考ヘマス、是ハ今カラ十數年前ニ本協會ニ於テモ其必要ヲ認メラレテ時ノ文部大臣遞信大臣大藏大臣アタリニ建築案ガ出タヤウニ記憶イタシテ居リマス、ソレガ殆ド今日ハ忘レラレテ居ルヤウニ考ヘマス、私ハ此機會ニ於テ神戸大阪ノ中心地方ニ一ツノ「エキスペリメンタルタンク」ヲ拵ヘテサウシテソレヲ日本一般ノ商船ガ自由ニ使ハレルヤウニ、恰モ英國ノ「テデントン」ニアル「ナシヨナルラポラトリ」ト同ジヤウニナツタカラ將來日本ノ造船業モ外國ノ眞似バカリデナク、一ツノ「オリジナル」ヲ出スコトガ出來ルト思ヒマス、是ハ大シテ金ノ掛ルモノデナク、二十萬圓内外出來ルト云フ話デアリマス、是ハ是非本會ガ率先シ

テ此事業ノ成立ツヤウニ盡力セラレンコトヲ希望スルノデアリマス、私ハ前會ニ大體唯今申上ゲタヤウナコトヲ
唯引延バシテ多少統計的數字ヲ入レテ申上ゲタ次第デアリマス(拍手)

座長寺野精一君 御討論ヲ願ウ前ニ豫テ此問題ニ關聯シタ事柄ニ付テ經驗談ヲ伺ヒタイト云フコトヲ御願ヒシ
テ置タ方モゴザイマスノデ、其御方カラ先キニ願ヒタイト思ヒマス、付キマシテハ第一ニ郵船會社ノ寺島サンニ
御願ヒ致シマス。

寺 島 成 信 君

座長竝諸君私ハ唯今座長ノ御紹介ニ爲リマシタ通り郵船會社ニ職ヲ有ツテ居ル寺島成信ト申シマス、元來私ハ造
船トカ船舶トカ云フ「ロプフェツシヨナル、ノーレージ」ヲ有ツテ居ル者デアリマセス、從ツテ斯ウ云フ席デ自分
ノ意見ヲ述ベルト云フコトハ甚ダ嗚呼ノ沙汰デアリマス、唯社友ノ藤島君カラ再三勸誘ヲ受ケマシテ、兎ニ角出
テ多少トモ時局ニ關聯シタ感想ヲ述ベタラドウカト云フコトデアリマシタカラ、自分ノ身柄ヲモ願ズ席末ヲ汚シ
タ次第デアリマス、實ハ郵船會社ノ者デハゴザイマスガ、今日御話ヲ致シマスルノハ、郵船會社ノ一員トシテ會
社ノ意見ヲ代表スル譯デナク、唯海事ニ趣味ヲ有ツテ居ル海事研究者ノ一人トシテ少シク御話シタイト云フ考ヘ
デゴザイマスカラ、ドウゾ其御積リデ御清聽ヲ願ヒマス。

今岡博士ノ「エッセイ」ハ誠ニ豊富ナル材料ニ依ツテ有益ナル「サツゼッション」ヲ我々當業者ニ御與ヘ下サレマシ
タ、之ニ付キマシテ私ハ一二ノ感想ヲ述ベタイ考ヘデゴザイマス、博士ノ「レクチュア」ノ中ニ第二、「世界海運
界ノ概況」ト云フ所ニ「船腹ノ減少」、「運賃ノ暴騰」、斯ウゴザイマス、是ハ戰時海運ノ影響トシテ生レ出テ來
タ重モナル現象デアリマス、即チ船腹ハ此戰時ノ變態ニ依ツテ非常ニ少クナツタ、其結果トシテ船ノ運賃ハ暴騰
シテ二倍モ三倍モ平時ニ比較シテ高イ率ノモノガアルト云フコトニナリマシタ、一體世界ノ船腹ハ時局ノ爲メ大
ニ減ツテ居リマスガ、併シ其船腹ヲ使用スル所ノ荷物モ大變減ツテ居ルノデアリマス、ソレデアルノニドウモ運

賃ヲ暴騰サセルト云フコトハ船主ハマルデ火事場泥棒ノヤウナ眞似ヲスル、運賃ノ「エキストーション」ヲヤルノデアルト云フテ、英吉利アタリデハナカク、喧マシイ問題ニナリマシタ、ソレデ或一部ノ人々ノ如キハ、斯ウ運賃ガ騰ツテハ仕方ガナイ、從ツテ物價モ非常ニ騰貴シテ誠ニ困ルカラ、寧ロ戰時ノ船舶ヲ總テ政府ノ「マネージメント」ニ移シテ運賃相當ノ率ニ極メテ貰フコトニシタラ宜イデハナイカト云フ説ヲ唱ヘテ居ル、或團體ノ如キハサウ云フ説ヲ獻策シタト云フコトガアリマス、併シ段々當業者ガ實際ニ照ラシテ取調べテ見ルト、決シテサウデナイ、船腹ノ減少ニ依ツテ運賃ガ高クナルト云フ相當ノ理由ガアルト云フコトヲ種々ノ方面カラ説明シテ居ルノデアリマシタ、昨今ハ船主ガ運賃ノ強奪ヲスルトカ、無理取リヲスルトカ云フヤウナ噂ハ無クナツタヤウデゴザイマス、所ガ日本デモ而カモ相當ノ地位ニ居ル人ガドウモ運賃ガ甚タ高イ、船會社ハ此時局ニ對シテサウ云フ考ヘデハ困ルト云フコトヲ往々耳ニ致シマスガ、是ハ少シ研究ガ足ラヌ結果デアラウカト思ヒマスノデ、實ハ其事ヲ先ズ少シク申述ベタイト思フノデアリマス。

成ルホド世界ノ船腹ハ減少シテ居ル、其割合ハ今岡博士ノ御調査ニ依リマスルト、三千噸以上ノ汽船ニ對スル比較ニ於テ三割餘減ツタコトニナツテ居ル、然ルニ今年ノ初メ英吉利ノ「チャンパー、オフ、シッペンゲ」ノ取調べニ依リマス、世界ノ船腹ハ二割四分許リ減ジテ居ル、ソレニ對シテ世界ノ貿易ハ六割方減ジテ居ルト云フ説デアリマス、ソレカラ又今年ノ發刊ノ「ビジネス、プロスペクツ」ト云フ本ヲ見マスルト、世界ノ船腹ハ汽船帆船ヲ通シテ二割六分七厘減ジテ居ル、之ニ對シテ世界貿易ノ減ジテ割合ハ四割方デアル、ソレカラ私ドモノ調査ニ依リマスレバ、世界ノ船腹ハ二割四五分位減ツテ居ル、若シ之ヲ千噸以上ノ汽船ニ對シテ比較シタナラバ、三割三分ばかり減ツテ居ルト云フコトニナリマシテ、サウシテ一方、貿易ノ方ハ世界各國ヲ通シテ四割二三分、マア四割方減ツテ居ルト云フ結果ガ出ルヤウデアリマス、併シ是モ精細ナル統計ト云フモノハナカク、出來マセヌガ、種々ノ方面カラ綜合シマシテ、サウ云フ風ニ推算シテ居ルノデアリマス、所デ以上ドノ説ニ依リマシテモ船腹ノ減ツテ居ル割合ニ對シテ貿易ノ減ツテ居ル割合ハ一層多イ、詰リ船腹ヲ使用スル貿易ノ減ツテ居ル割合ヨリモ、船

腹ノ減ツテ居ル割合ガ少イ、ト云フコトニナツテ居ルニ拘ラズ、而カモ運賃ガ暴騰スルト云フコトハチヨツトオカシイヤウニ考ヘラレマス、所ガソレガオカシクナイ、ソレガ即チ戰時ニ於ケル特殊ノ變調ニ依ルノデアリマス、ソレハドウカト申シマスルト、第一戰時中ハ運送スル所ノ品物ノ種類ガ違フ、平時ナラバ各種ノ物品ガ運送セラレル中ニハ製造品工藝品其他贅澤品ト云フモノガ相當ナ「パーセンテージ」ヲ占メテ居ル、所ガ戰時ニ至リマシテハサウ云フ製造品又相當ニ價ノ高イ「マーチヤンダイス」或ハ贅澤品ハ自然減ジテ居ル、サウシテ食料品トカ軍需品ノ材料トカ云フ荷嵩ガ大キクシテ値段ノ廉イモノガ殖エテ居リマスカラ、貿易高ハ四割又ハ四割何分減ツテ居ルトカ或ハ「チヤンバー、オフ、シツピング」ノ如ク六割減ツテ居ルトカ云フテモ、コノ貿易ノ減リ方ハモト／＼其荷物ノ値段ニ依ツテ計算シタモノデアリマスル以上ハ、ソレヲ荷物ノ容積或ハ重量ニ依ツテ換算シテ見タナラバ貿易高ハ勿論戰時ニ依ツテ著敷減ツテ居ルケレドモ、其割合ト云フモノハ今ノ四割トカ五割トカ云フ割合ヨリモ餘ホド少イト思ヒマス、ソレハ今日果シテドノクラキナモノデアルカ確ト分リマセヌガ、私ドモノ考ヘデハ三割乃至三割五分グラキト見テ宜カラウト思ヒマス、品物ノ價格ノ上カラ見ルト、四割トカ五割トカ云フ數字ガ出マスルガ、之ヲ荷物ノ數量ニ換算イタシマスレバ、先キニ申上ゲマシタ通り荷嵩ノ大キイモノハ殖エテ嵩ガ少クテ値段ノ高イモノハ戰時貿易ノ狀態トシテ減ルノガ當リ前デアリマスカラ、之ヲ「コンシデレーション」ニ入レマスト、四割五割ノ「パーセンテージ」ガ減ツテ三割カ三割五分ニナラウカト思フノデアリマス。

ソレデモ尙ホ船腹ノ減少ハ二割五分乃至三割ノ間ニ在ルノダカラ貿易ノ減少ガ今申ス三割乃至三割五分ニ比較スレバ、尙ホ減リ方ガ少イカラ船腹ノ減少ノ爲メ運賃ガ昂騰スルト云フコトハ不思議ノ様ニ思ハレマスガ、ソレハ又私ドモノ考ヘデハ相當ノ理由ガアルヤウニ思ヒマス、先キホドノ今岡博士ノ御話ノ中ニモアリ、又此「ペーパー」ノ中ニモアリマスガ、詰リ戰争ノ影響ヲ受ケテ運搬距離ガ遠クナツタコトガ重ナル原因ノ一ツデアリマス、即チ世界ノ海運界ニ於テ最モ船腹ノ多クヲ要スルモノハ、品物デ言ハバ穀物デアルトカ、石炭デアルトカ、鑛物デアルトカ、砂糖、棉花或ハ木材ト云フヤウナ「バルキーカーゴ」デアル、其品物ニ付テ一々考ヘテ見テモ最モ數

量ノ大ナル穀類ハ大陸諸國竝ニ英吉利アタリデハ大分露西亞産ノモノヲ使ツテ居ル、バルチック或ハ黑海方面カラ年々輸出サルル所ノ露國産穀類ノ高ハ随分多量ナモノデアリマスガ、ソレガ航路ノ杜絶ニ由テ少シモ出ルコトガ出来ナイ、ソレカラ砂糖デスガ、砂糖ハ御承知ノ「ビートンシュガー」即チ甜菜糖ハ主トシテ獨逸及ビ埃地利カラ出テ居ル、ソレヲ多ク英吉利アタリデハ需要シテ居ル、ソレカラ又石炭ノ平時英吉利並ニ獨逸カラ澤山出テ居リマスガ、コレ以テ獨逸カラハ全ク出ナイ、英吉利モ亦全然輸出ヲ禁ジテ居リマセヌガ、種々ナ條件ヲ附ケテ餘ホド輸出ヲ抑制シテ居ルヤウデアリマス、サウ云フ日用品、而カモ戰時ニ於テ最モ大切ナ品物ヲ近イ産地カラ仰グコトガ出来マセヌカラ、已ムヲ得ズ遠イ南北亞米利加カラ穀類ヲ輸入スルトカ、或ハ又更ニ遠イ東洋東亞方面カラ之ヲ輸入スルコトニナツタ、即チ上海大連ノ大豆大麥或ハ日本北海道ノ燕麥ガ今日歐羅巴マデ續々出テ行クト云フノハ之レニ外ナラヌノデアリマス、サウシテ見ルト今マデ近イ距離ニ於テ仰ギ得タ品物ハ之ヲ遠イ遠イ距離カラ仰ガナケレバナラス、ソレデ輸送距離ガ何倍モ増シテ居ル、サウ致シマス今マデ十艘ノ船デ間ニ合ツタモノガ二十艘カ三十艘デナケレバ同ジ數量ヲ運搬スルコトガ出来ナイ、次ニ砂糖ノ如キモ是マデ獨逸又ハ埃地利カラ甜菜糖ヲ買入レ居ツタモノガ今度英吉利アタリデハ西印度ノ玖馬又ハ南洋瓜哇ノ甘蔗糖ヲ取引キシテ居ル、近頃ノ新聞ヲ讀ミマス何十萬噸ノ買入約束ハシタガ、船腹ガ少イ爲ニソレヲ引取ルコトガ出来ナイデ困ツテ居ルト云フコトガ見エマス、又石炭モ同様ノ境界ニアリマス、サウ云フ工合デゴザイマスカラ詰リ戰時ノ變調ニ依ツテ國際貿易ノ「システム」ガ變ツテ來テ居ル、從ツテ今マデ近イ距離カラ得タモノヲ何倍モ遠イ所ノ國カラ持ツテ來ナケレバナラスト云フノデゴザイマスカラ、船ハヨリ多クノ「キュリーイングバワア」(輸送力)ガ無クテハ同ジ需要ヲ滿タスコトガ出来ナイト云フ結論ニ達スルノデアリマス。

ソレカラモウ一ツノ理由ハ近頃世ノ船主達ハ段々荷物船ノ便利經濟ヲ圖ルコトニ注意スルヤウニナリマシテ、其ノ使ヒ途ニ由テソレノ特殊ノ構造装置ヲ施スト云フコトニナツテ來マシタ、詰リ石炭ヲ運ブニハ特別ナ石炭船、即チ「コリヤー」ガ出来テ居ル、或ハ石油ヲ運ブニハ「オイルタンク、スチーマー」ガ出来テ居ル、又南米或ハ濠

洲アタリカラ肉類ヲ運ブニハソレ、冷蔵室ヲ備ヘテ居ル船ガ出來テ居リマス、其他穀類ヲ成ルベク澤山積ンデサウシテ荷役ノ極便利ニ出來ル特別ノ裝置ヲ備ヘタ船モ出來ルト云フヤウナ工合デ、詰リ「スペシヤル、トレド」ニ適スル「スペシヤルタイプ」ノ船ガ出來テ居ル、所デ此時局ニ際シテサウ云フ船モ遠慮ナク徵用サレテ仕舞ツタノデ、其代船ヲ持ツテ行カナケレバナラス、例ヘバ今マデ石炭ヲ運ブ或ハ石油ヲ運ブト云フ爲ニ特別ニ出來テ居ツタ船ガ徵用サレタ爲ニ、他ノ「タイプ」ノ違ツタ船ヲ持ツテ來テドウカ間ニ合ハセルト云フコトニナリマシタカラ、其不便サハ一通リデナイ、ノミナラズ今マデ一艘ノ船デ穀類一萬噸積ミ居ツタニセヨ、型式ガ違ヘバ同ジク一萬噸ノ船ヲ持ツテ來テモソレダケノ荷物ハ積メナイ、同ジ「デッドウエート」ノ船デモ特別ナ品物ヲ運ブ爲メノ特殊ノ用意ガ無ケレバ其船ノ「キェリーイング、バワア」ノ減ルノハ當然デアアル、此意味カラシテ今回特務船ノ多數ガ徵用サレタ爲ニ之レガ代船タル船ノ輸送力ガ少ナカラズ減少シテ居ルコトガ亦明カナル次第デ、是等モ一ツノ原因ト云フコトガ出來ルダラウト思ヒマス。

ソレカラ第三ニハ交戰國各港ノ「コンゼツション」即チ混雜デアアル、英ノ倫敦、リバプール等ハ無論大陸ノ諸港ニアツテ幾十隻ノ船ガ一時ニ輻輳シテドノ港モ非常ニ混雜シテ居ル、從ツテ船ハ著イテモ錨地ヲ得ルコトガ容易ニ出來ナイ、好シ出來テモ荷役ガ大層延滞スル、私ドモノ會社ノ船デモ終點タル倫敦ヲイツ出帆スルコトガ出來ルカ、一時ハ殆ド見當ガ付カナイ場合ガ多カッタノデアリマス、近頃デハ英吉利ノ當局者ナドモ大ニ注意イタシテ港ノ「コンゼツション」ヲ緩和スルコトニ努メテ居リマスガ、ソレデモ私ドモノ會社ハ……歐羅巴ニ向ツテ十一艘ノ定期船ヲ持ツテ居ツテ其外ニ今日ハ十艘ダケノ臨時船ヲ使ツテ居リマス、……其定期船ダケハ僅ナ延滞デドウヤラ船ノ「バース」ヲ得ルコトガ出來マスガ、臨時船ノ如キハ今日デモ平生ニ比較シテ殆ド倍以上、即チ二週間乃至三週間モ空シク船待シナケレバ「ドック」ノ中ニ「バース」ヲ得ルコトガ出來ナイ、「リバプール」ノ如キハ一層ヒドイト云フコトデアリマス、又「マルセーユ」アタリハ最近ノ報告ニ依リマス、五六十艘モ輻輳シテ居ツテ自分ノ順番ハイツ來ルカ分ラスト云フ有様ダサウデス、而シテソレハドウ云フ譯カト云フト、詰リ鐵道

ガ種々軍用ニ使ハレル爲ニ普通荷物ニ對スル貨車ガ大變不足シテ海陸ノ聯絡ガ非常ニ不便デアアル、ソレカラ鐵道從業者ヤ「ドツク」人足ノ缺乏デアアル、或ハ兵隊ニ行ツタリ、又ハ種々軍事上ノ爲ニ使ハレテ居ルモノガ多イカラ人夫ノ頭數ガ大變減少シタ、サウシテ留ツテ居ル者ハ皆不慣レデアアル、詰リ人夫ノ缺乏ト不慣レデアアル、ソレカラモウ一ツハ矢張り時局ノ爲ニ「モートル」トカ艇船トカ其他荷馬車トカ云フモノハ多數徵用サレテ居リマスカラ、其結果船内ノ荷物ヲ陸揚又ハ積移シテ直様、荷受人ニ持ツテ行クト云フコトガ容易ニ出來ナイ、是等ノ理由ガ彼是關聯シテ港ハヒドク混雜ヲ致シ荷役ハ甚タ後レルト云フコトカラシテ、詰リ船ノ空ク遊ブ時間ガ多クナツテ、同ジ船デモ其働キ、即チ「エフィセンシー」ガ大變狭メラレテ來テ居ル。

段々述ベマシタ斯ウ云フ三ツノ理由、即チ運搬距離ノ延長、特務船ノ徵用、及ヒ港ノ混雜ト云フ三大理由ノ爲ニ此世界貿易ノ減ツテ居ル割合ハ船腹ノ減ツテ居ル割合ヨリモ數字上ノ比較ニテ多少大ナルニ拘ラズ、船腹ハ實際ニ於テ大變缺乏ヲ來タシテ居ルト云フ結論ニ達スルモノト私ハ思フノデアリマス、ソレデゴザイマスカラ船腹ノ減少ト云フコトヲ段々調査研究イタシテ見マスルト、誠ニ無理ナラヌ話デアアル、サウシテ一方ニ於テ船ノ費用モ非常ニ増シテ來テ居ル、石炭モ高クナル、乗組員ノ給料モ、賄料モ、人は賃モ高クナツテ來テ居ル、殊ニ戰時保險料ト云フ新ナル支出モ要スル、又交戰國方面ニ往來スル船ノ乗組員ニ對シテバ相當ノ手當モ遺ラナケレバナラヌ、總テノ點カラ船ノ費用ハ増ス一方デアアルカラ、ドウシテモ物ノ自然ノ結果ニ依リマシテ運賃モ高クナツテ來ルト云フコトハ當然デアラウト思ヒマス、實ヲ申セバ今日私ハ十分ナ用意モゴザイマセヌデ、チヨット感想ダケヲ取摘ンデ申上ゲタノデアリマスガ、要スルニ船腹ノ減少ト同時ニ荷物モ減少シテ居ル、此荷物ノ減少ノ割合ガ統計上却テ多イカ知レマセヌケレドモ、今ノ三ツノ理由ニ依リマシテ、船ノ「キャリーイング、パワー」即チ輸送力ガ大ニ減退シ、其結果ドウシテモ船腹ト云フモノハ荷物ニ對シテ「バランス」ヲ失ツテ來テ居ル、從ツテ博士ノ所謂「運賃ノ暴騰」ト云フ斷案ヲ下ス前ニサウ云フ事實ヲ一應申述ベテ置ク必要ガアラウト思ヒマシテ、斯ク一辯ヲ試ミタル次第デアリマス。

ソレカラ博士ノ「ペーパー」ノ結論デゴザイマス、結論ハ造船業ヲ如何ニシテ發達サセルカト云フコトデゴザイマ
 スガ、是ハ至極御同感ノ次第デアツテ誠ニ實際適切ナル御調査ニシテ私ドモ少シモ異存ハゴザイマセヌ、之ニ付
 キマシテ私ハ平生思ツテ居ルノデアリマスガ、此造船事業ト云フモノハ實ハ彼ノ海運業ノ妹分トシテ大イニ國家
 ノ富ヲ作ル所ノ「プリンシバル、インダストリー」ニナツテ居ルノデアリマス、ソレト同時ニ戰時ノ際ニ當ツテ
 海軍ノ後援ニナル、後楯ニナル關係カラ見マシテ、ナカ／＼今日ノ狀態デハ満足シテ居ルコトガ出來ナイコトト
 思ツテ居リマス、是ハ口ニ言フノミナラズ、隨分ソレ／＼ノ機會ニ於テ意見ヲ發表シテ置イタノデアリマスガ、
 日本ハドウシテモ東洋ニ於テ大造船國ニナラナケレバナラス、詰リ自分ノ國ノ船ハ自分デ造ルト云フノミナラズ、
 支那デアラウガ暹羅デアラウガ南洋方面ノ國デアラウガ、總テ日本ニ注文サヘスレバ外ノ國ヨリ廉ク早く出來ル
 ト云フヤウニ、日本ハ東洋ニ於ケル造船ノ「マーケット」ニナラナケレバナラスノデアリマスガ、今日マデ種々理
 由ニ依ツテ徹々トシテ居ルノハ嘆カハシイ次第デアリマス、ソレデ造船業ノ發達ト云フコトハ一ツノ國是「ナシ
 ヨナルポリシー」トシテドウシテモ官民一致シテ進マナケレバナラスト思ヒマス、ソレニ付キマシテハ成ルベク
 船ヲ廉ク早く造ルコトヲ講ゼネバナラス、ソレデ船價調査會ニ於テ種々御調査ノ上ニ「レコンメンデーション」
 ヲ御出シニナツタヤウデアリマスガ、ソレモ拜見シタコトガアリマス、一々御尤デアツテサウ云フコトハ一時モ
 早く御實行ニナルコトヲ希望イタシマス、兎ニ角造船業ノ發達ト云フコトハ一ツノ國是デアリマシテ、タダノ「イ
 ンダストリー」ト違ツテ國家的「インダストリー」トシテ進メテ行カナケレバナラスノデアリマスカラ、此邊ニナ
 ルト矢張り獨逸ナドハエライ、獨逸ハ「シツピング」デアラウガ、造船業デアラウガ、國家ノ爲メ必要ト思ヘバ官
 民一致シテ飽マデ進ム、何ヲ措イテモ是等ノ「ナシヨナル、インダストリー」ヲ助長スルノデアアル、他ノモノヲ犠牲
 ニシテモ總テヤルト云フ考ヘデアアル、ソレデアアルカラ今日ニ至ツテモアノ通り強イコトハ實ニ驚クベキデアリマ
 ス、ソレデ此造船業バカリニ限りマセヌ、是ハ國家ノ爲メ必要デアリ、大事業デアアルコトナラバ其方針ニ向ツテ獨
 逸式ヲ發揮シテドコマデモ官民一致シテヤルト云フコトニ日本人モ御同様餘ホド心ヲ入替ヘテ進マナケレバナラ

スト思ヒマス、ソレニ付キマシテハ廉ク早ク造ルト云フ方法ヲ講ジタル上ニ一方注文ヲ取ルト云フコトハ造船業ノ當業者ガ大イニ努ムベキコトデアルト同時ニ、又軍艦トカ水雷艇トカ或ハ官廳ノ船トカ云フモノハ成ルベク盛ンニ民間造船所ニ注文シテドシ、造ルト云フ風潮ニナラナケレバナラヌト思ヒマス、兎ニ角之ヲ一ツノ國家的「インダストリー」トシテ飽マデ進ンデ行カウト、斯ウ思フノデアリマス、其方法手段ニ於キマシテモ今岡博士ノ結論ハ殆ド餘蘊ナク盡サレテ居リマスカラ、今之ニ蛇足ヲ添ヘル必要ハアリマセヌ。

ソレカラ又此論文ノ大體ヲ拜見スルト、重モニ「トランプ」船ヲ「エンカレージ」ニテ之ヲ澤山造ルト云フ方針ニ向ツテ大分努メラレテ居ルヤウニ見受ケラレマスガ、如何ニモ世界海上貿易ノ過半ハ此「トランプ」船ニ依ツテ運送サレテ居ルノデアリマシテ、近ク内地沿岸及ビ東洋近海ニ於ケル荷動キノ大勢ヲ看マシテモ、内地朝鮮ノ米穀北海道ノ麥粕材木、臺灣爪哇ノ砂糖、九州北海道サテハ撫順開平ノ石炭、大連牛莊ノ大豆、豆粕、柴棍、蘭貢ノ輸入米等、是等大量貨物ノ多クハ矢張り「トランプ」即チ純貨物船ニ由テ運送ヲサレテ居ル有様デアルカラ、勿論此種ノ船ハ大イニ之ヲ獎勵シテ日本デモ多々益々殖サナケレバナラヌコトト信ズル、今日マデノ世間デハ船ト云ヘバ殆ド補助ヲ受ケテ居ル船……海運業者ト云ヘバ殆ド政府ノ命令航路ニ從事シテ居ル船會社ニ限ラレテ居ルヤウニ思ツテ居ル、又議論ノ上ニモサウ現ハレテ居リマス、今岡博士ハ「トランプ」船ノ爲ニ大イニ氣餒ヲ吐カレテ、我海運業ノ中樞デアル、我ガ海運業ノ實勢力デアルト云フコトハ「トランプ」船ノ上ニ形容サレタ適切ノ言葉デアル、世界商船ノ約一年ヲ所有スル英吉利ハアノ通り大海運國、海上ノ王ト云ハレル國ニ於テ此「トランプ」船ハタシカ六割グラキ、二千二三百萬噸持ツテ居ル(英國船ノ六割位ハ)「トランプ」船ガ、占メテ居リマス、我國ニ在テモ其「トランプ」船ヲ持ツテ居ル所ノ社外船主ガ此時局ニ際シテ大イニ活動シテ歐羅巴方面ナリ南洋方面ナリ或ハ濠米方面ニ活動シテ大イニ勢力範圍ヲ擴張スルコトハ喜バシイコトデアツテ、日本ノ海運業ノ堅實ナル發達ヲ致スニハ、命令航路ニ使ツテ居ル船ガ増加スルト同時ニ「トランプ」船モ大イニ殖エナケレバナラヌノデアリマスカラ、此「トランプ」船ノ爲ニ大イニ氣餒ヲ吐カレ、又今後ノ獎勵方法ヲ述ベラレタノハ誠ニ御同感ノ次第デゴ

ザイマス。

ソレハソレト致シマシテ私ハ「ハイクラッス」ノ船、詰リ命令航路ニ使用サレルヤウナ船ニ付テ尙ホ一言差加ヘテ置キタイト思ヒマス、ソレハ外デモゴザイマセヌ、此「ペーパー」中ニモゴザイマス通り日本ノ汽船ハ千噸以上ノモノ今百五十萬噸バカリアル、其中デ各方面ニ散在シテ居ルモノガアリマスカラ、若シ一朝事アル場合ニ直グサマ間ニ合フモノハドノクラキデアアルカト云フト、八十萬噸グラキシカ無イト云フ説デアリマス、多分其クラキデアリマセウ、其八十萬噸ノ中デモ果シテ有事ノ日ニ海陸軍ノ後楯トナツテ十分ナ働キヲ爲シ得ル船ハドノクラキデアアルカト云フト、誠ニ少イノデアリマス、多クハ中古船デアツテ式ノ極古イ年齢ノ老ケタモノガ多イノデアリマスカラ、完全ニ遠洋航海ニ堪ヘテ艦隊ニ隨從シテ行クトカ、遠イ方面ニ軍隊ヲ輸送シテ行クニ十分任務ヲ盡スコトガ出來ルカドウカ甚ダ氣遣フノデアリマス、今度ノ青島ノ戰爭ハ距離ガ近ク且ツ海上ニ全然敵ノ恐レガ無イノダカラ大シタコトハアリマセヌガ、アレガモウ少シ戰鬪區域ガ廣クナツテ大洋ヲ横切ラナケレハナラヌコトニナリ、又敵艦出沒ノ危険アル方面ヲ跋渉セネバナラヌコトニナルト、ナカ／＼アンナ譯ニイキマセヌ、船ハ餘ホド吟味シナケレバナラヌノデアアル、隨分此間ノ輸送ナドニ付テハ怪シイ船ガ多クツタヤウニ思ヒマスカラ、此後トモ陸兵ヲ輸送スル上ニ於テモ又海軍ノ方面ニ於テ假裝巡洋艦ハ姑ク差置キ、艦隊ニ使フ石炭ヲ供給スル船ニナリ、或ハ工作船ニナリ、或ハ軍需品ヲ供給スル船ニナリ、種々ノ補助機關トシテ役立つ上ニ於テナカ／＼今日ノヤウナ船ノ状態デハ十分ニ任務ヲ盡スコトガ出來ナイト私ハ思ヒマス、一體軍事上ノ觀察カラ申シマスルト、適當ノ船ハ大變少イ、何シロ陸軍モ二師團増加シマシテ戰時ニ於テ百萬カ二百萬ノ人間ヲ動かスト云フ場合ニ其準備ガ無クテハナラヌノデアリマス、又軍艦ノ方面ニ於キマシテモ立派ナ「ドレッドノート、タイプ」ガ出來ル、日本ノ主力艦隊ノ單位モ著々出來ルト云フ運ビニナリツツアリマス、サウシテ是等新式ノ軍艦ハ皆速力ガ早クシテ海上ヲ縦横濶歩スルノデアリマスカラ、ソレニ隨從シテ石炭ヲ供給スルトカ其他軍需品ヲ運ブトカ、或ハ通信ヲスルトカ云フヤウナ任務ニ從事スル上ニ於テ在來ノ商船デハ甚ダ心細イ、此邊ニ付キマシテハ後刻中里大佐ノ御經驗アル

討

論

歐洲戰爭ト船船ニ對スル討論

御意見モアラウト思ヒマスカラ差控ヘマスガ、唯私ガ思ヒマスノハ、軍事上カラ日本ノ商船ヲ見レバ其資格ニ於テ甚ダ氣遣ハシイ、雷ニ其數ガ少イノミナラズ速力及ビ構造ノ十分備ツタ船ガ少イ、單ニ經濟方面カラ考ヘレバ成ルベク手輕ニシテ「アーニンングパワー」ノ多イ船、即チ船價ガ廉クテ簡便ニ使ハレテ割合ニ儲ケノ多イ船ヲ造レバ宜イガ、軍事上カラ考ヘマスルト、相當速力ガ無ケレバナラス、又構造モ相當堅牢デナケレバナラス、日本ニ於テ段々サウ云フ船ヲ殖スト云フ方針ヲ執ルニハドウシテモ現在ノ遠洋航路補助法ヲ活用スルニ如クハナイト思フ、元來航路補助ト云フモノハ申スマデモナク、外國貿易ヲ大イニ助長スル、或ハ無償デ郵便物ヲ積ミ運ブコトニ屬スル報酬デアリマスケレドモ、ソレト同時ニ日本ナドハ是マデノ經驗ニ依ツテモ軍事上ノ資格ニ付テハ最モ重キヲ置カナケレバナラスト私ハ思ヒマス、話ハ少シ横道ニ這入りマスガ、日本ノ海運業ノ發達ハ今日エラク發達シテ居ルヤウデアリマスガ、實ハ變則的ノ發展デアル、詰リ日清戰爭日露戰爭ノヤウナ思ヒモ寄ラナイ刺戟ニ依ツテコンナニ長足ノ急激ナル發達ヲヤツテ來タ、一足飛ビノ發達ヲヤツテ來タノト、歩一步眞實ニヤツテ來タノト餘ホド趣キガ違フヤウニ思ハレマス、要スルニ戰爭ノ刺戟ニ依ツテ日本ノ海運業ハ急激ニ發達シテ來タノデアリマシテ、内容ニ立入ツテ段々研究シテ見マシタナラバ、隨分我々ドモニ於テモマダ〳〵不足ヲ感ズル貧弱ノ點ガ多イノデアリマス、所デ今後ニ唯今申述べタ通り軍事上ノ觀察カラシテ、ドウシテモ「ハイ、クラツス」ノ速力高ク構造堅牢ナル船ヲ多ク造ラナケレバナラスト云フコトニ付テハ遠洋航路補助法ヲ益々活用サレテ行カナケレバナラス、サウシテ之ヲ活用シテ段々ヤツテ行ク上ニ於キマシテ、私ハ一ツノ大ナル障礙ガアルヤウニ思ヒマス、ソレハ何カト云フト遠洋航路補助法ノ第二條ニアリマス遠洋航路ニ使用スル船ハ船ノ齡ヲ十五年ニ限ツテアル、十五年以上ノ船ヲ使用スルコトハ出來ナイ、遠洋航路ニ使用スル資格ガ無イト云フコトニナツテ居リマス、是ハ今後日本ノ船舶ヲ改良シテ、サウシテ軍事上ノ關係ナリ、其他ノ使命ヲ果タス上ニ於テ私ハ一ツノ障礙トナリハシナイカト思ツテ居リマス、ソレハ手短カニ申シマス、船會社ガ補助航路ニ使用スル船ヲ造リマスニ付テハ先ツ算盤ヲ取ル、算盤ヲ取ルニ當ツテハ無論其中ニ補助金ヲ入レマスガ、其船ガ十五年シカ補助金ヲ受ケルコ

トガ出來ナイ其航路ニ使フコトガ出來ナイト云フコトデアリマシタナラバ、算盤ヲ取ル上ニ於テ餘ホド考ヘテ低メマシテ、成ルベク十五年デ造船資金ヲ回收スル、先キニ卸シタ所ノ船價ヲ回收スル方針デヤツテ行クニ違ヒナイ、今日デハ補助金ハ段々少クナツテ來ル、サウシテ一方ニ於テ造船代價ハ次第ニ高クナリ又同業者ノ競争ハマス、甚クナツテ來テ居ル、ソレデアリマスカラ船會社、總テ遠洋補助航路ニ從事シテ居ル會社ノ造船方針ハ、此十五年制限ニ束縛サレテ次第第二「デグレード」イタシ、兎ニ角十五年シカ此船ハ此航路ニ使ヘナイト云フ算盤ノ上カラシテ、成ルベク「コスト」ノ廉イ船ヲ造ツテサウシテ早ク資金ヲ回收スルト云フ風ニナリハシナイカト私ハ衷心、憂フルノデアリマス、船舶經濟ハ是カラ段々ムツタシクナル一方デアリマスカラ、イカニ財政豊富ノ船會社デモ從前ト事變リ、新陳代謝ヲナス毎ニ却テ船ノ資格ハ劣ルヤウニナリハセヌカ、延テ海運政策上餘ホド重大ナル結果ヲ生ジハシナイカト考ヘマス、元々此十五年制限ト云フモノハ航海獎勵法ニアツタノデアル、航海獎勵法ハ御承知ノ通り一般ノ獎勵法デアツテ詰リ斯ウ云フ資格ノ船ニ付テハ是ダケノ年限ノ間是ダケノ補助金ヲ遣ルト云フコトデアリマシタカラ、世ノ船主ハソレニ依ツテ續々有力ノ船ヲ造リマシテ、其結果百艘以上モ新シイ船ガ出來タ次第デアリマスケレドモ、航路補助ト申シマスルト、其邊ハ餘ホド趣キガ違ツテ是ハ一定ノ航路ニ繩ヲ張ツテサウシテ他ノ同業者ト飽マデ競争シテ行カナケレバナラヌノデアリマス、兎ニ角航路ノ經營者ハ荷物ナリ船客ナリヲ算盤ニ取り又同業者ノ競争ヲ考ニ入レテ造船方針ヲ立テマスカラ、其都合ニ依テハ新陳代謝ノ期限ヲ早メ僅カ十年デ他ノ航路ニ轉ジマスカ、或ハ又二十年モ永ク使フカモ知レマセヌガ、只今申ス通り其船ガ初メカラ十五年シカイカスト云フナラバ、其考ヘデ船ヲ設計シテヤリマスカラ、良イ船ガ出來タクナル、折角新シイ船ヲドシノ、造リ、又良イ船ヲドシノ、造ルト云フ航海獎勵法ノ精神ハ遠洋航路補助法ニ向ツテ善用サレナイデ、却ツテ障碍ト爲リハシナイカト云フコトヲ私ハ遠洋航路補助法ガ出來ル際ニ感ジタノデアリマシテ、今日ニ至ルマデモ其感想ト云フモノハ少シモ變リマセヌ、是ハ歐米何レノ國ノ航路補助法デモ使用船ノ年齢ヲ制限シナイノヲ見テモ善ク證據立テラレマス、之ヲ要スルニ日本ハ「トランプ」ヤ何カサウ云フ經濟的ノ船ヲ殖スト同時ニ「ハ

イクラッス」ノ船ヲモ造ルコトノ必要ハ一日モ忘レテハナラス、サウシテ益々是等改善發展ノ實ヲ舉グル爲ニハ此十五年限リテ遠洋航路ニ使用スル運命カ終ルト云フコトノ規定ハ、或ハ却テ前途ニ横ハル障碍トナリハシナイカト竊カニ老婆心ヲ有ツテ居リマス、甚ダ訥辯ヲ以テ長イ間清聽ヲ煩ハシマシタ(拍手)

座長寺野精一君 引續イテ軍事輸送ニ關シテ中里海軍大佐ニ御話ヲ願ヒマス。

海軍大佐 中 里 重 次 君

私ハ只今御紹介ニナリマシタ中里デゴザイマス、今夕ハ造船協會ノ先般今岡博士ガ御講演ニナラレマシタ「歐洲戰爭ト船舶」ニ對スル討論會ガ御催ニナルノデ私ニモ出席シテ且ツ軍事上カラ見タ所ノ意見ヲ述ベヨト云フ御案内ガアリマシテ、出席致シマシタ次第デゴザイマシテ、斯ル斯道「オーソリチー」ノ御會合ノ席上ニ於テ私ノ意見ヲ申述ル機會ヲ得マシタコトハ誠ニ光榮トスル所デアリマス然ル所、海軍ト商船、海事ト軍事トノ關係ト云フヤウナ問題ハ範圍ガ極メテ廣イモノデアリマシテ、之ニ付テ御話申上ゲルノハ到底一時間ヤ二時間デハ述ベ盡スコトガ出來マセス、因ツテ理窟ヤ外國ノコトナドハ一切抜キト致シマシテ、單ニ軍事上カラ商船ニ希望シマス所ノ條件ノミニ付テ極大體ヲ申述ベルニ止メタイト考ヘテ居リマス、然ルニ御承知ノ通り軍事ニ關スルコトハ兎角機密ノ事項ガ多イノデゴザイマシテ、爲ニ此度ノ日獨戰爭ノ期間ニ海軍ト徵用船舶或ハ海軍ト商船界ノコトニ付テ心ノ中ニハ申上ゲタイト思フコトガ澤山アリマスケレドモ、斯ル席上デハ申上兼ネルノデゴザイマシテ、如何ニモ齒痒サニ堪ヘナイ感ジガ致シマスガ、其點ハドウゾ御諒察アラムコトヲ願フ次第デアリマス、ソレカラ今一ツ私ハ元來口ノ人間テモアリマセスシ、又斯ル席上デ御話ヲ申上ゲルナドト云フコトハ從來未ダ曾テ無イコトデアリマスカラ、定メテ御聽苦シイ點ガ多分アルデアラウト考ヘテ居リマスシ、又申上ゲマスコトハ專ラ軍事上カラ見マシタ所ノ言ハハ狹キ意見ニ過ギマセンデ諸君ノ御所見ニ添ハナイ點ガ多々アルドラウト考ヘテ居リマス、詰リ我田引水ノ議論ト思召スコトガ多々アラウト考ヘマスガ、併ナガラ私ドモノ地位カラシテハ唯一直線ニ海軍トシ

テ商船ニ要求スル所ノモノハ斯ク／＼ナモノデアル、斯ウ云フ事柄ヲ申上ゲテソレガ幸ニ御參考ニナルナラバ、ソレデ満足致ス譯デ、斯ウ云フ場合ニ遠慮シテ申上グタイコトモ申上ゲズ、控ヘルト云フコトハ却ツテ職責上忠ナル所以デナカラウト思ヒマスカラ、實ハ御所見ニ合ハナイコトハ大體推察シテ居リマスケレドモ、寧ロ「フランク」ニ平素懐抱シテ居リマス意見ヲ申上ゲレバ却ツテ其間ニ何等カノ歸着點ヲ見出スコトガ出來様ト云フ都合ノ宜イ理屈ヲツケテ申上ゲタイト思フノデアリマス、何卒暫時ノ間御清聽ヲ願ヒタイノデアリマス。私ノ申上ゲル事柄ハ只今寺島君ガ述ペラレマシタ一番最後ノ御説ニ關シタ事柄デゴザイマシテ、詰リ軍事上ノ要求ト云フ點ダケデゴザイマス、此間四五日前ニ今岡博士カラ御講演ヲ戴キマシテ、拜見イタシマシタ、所ガ内外國ノ海運界造船界ノ模様ヲ大層委シク御述ベ下サレマシテ、私ドモ多大ナ智識ヲ得タ次第デゴザイマス、殊ニ結論ノ中ニ斯ウ云フコトガ言ハレテ居リマス。

今後ノ作戰計畫ハ陸海軍ノ充實如何ト共ニ必ズ之ガ運輸機關タル商船ノ數ニ依リ左右セラルル場合甚ナカラザルベキハ自然ノ數ナルベシ
斯ウ述ベラレテアリマス、又

大正四年三月末ニ於ケル本邦ノ現在總噸數千噸以上ノ汽船ハ既ニ述ベタルガ加ク關東州在籍船ヲ加エ四八七隻一、五六七、〇〇〇噸ニ過ギズ然カモ此レ總數ノミ此ノ内河川專用船其ノ他特種用船ニシテ軍用ニ適セザルモノ約四萬噸老朽船ニシテ不適當ノモノ約二十三萬噸、海外ニ航海シテ内地附近ニアラザルモノ約五十萬噸等合計七十七萬噸ヲ控除スルトキハ突發セル事變ニ際シ附近所在ノ全船舶ヲ徵用スルモ八十萬噸ニ過ギザル狀況ナト言ハレテ居リマシテ

今回ノ日獨事件ノ如キ少數ノ出征軍ニ對シテモ約二十萬噸ノ徵備船ヲ要シタルニ鑑ミレバ他日國ヲ舉ゲテ軍事ニ赴カザルベカラザル危機ニ際セバ需用船數ノ多キ到底現在船數ノ全部ヲ提供スルモ及バザルヤ明ナリ

斯ウ云フコトヲ結論ニ御述ベニナツテ居リマスガ、如何ニモ御同感ニ堪ヘナイ次第デアリマス、實際海軍デモ全
 戰時編制ヲ實施スル場合ニ於キマシテハ此殘餘ノ八十萬噸デナク、日本全國關東州ノモノ總テ合セマシテ國內全
 船舶ノ約半數ハ是非トモ徵備ノ必要ガアルノデアリマス、而シテ殘リノ大部分ハ陸軍デ徵備セラル、コト、考ヘ
 テ居リマス、現ニ此度ノ事件ハ非常ナ節約主義ヲ執ラレマシタ爲メ、隨分節約ニ儉約ヲ強ヒラレマシタニ拘ラズ
 此海軍ノ徵備船舶ハ三十八艘、其噸數ガ十二萬噸ニ上ツテ居リマス、ソレデ今岡博士ノ述ベラレタル出征軍ニ對
 シテ二十餘萬噸ト言ハレタノハ恐ラク陸軍ノ輸送ニ從事シタ船ノミデアツテ海軍ノ徵備船舶ノコトハ御加ヘナサ
 ラナカツタコトト私ハ考ヘテ居リマス

斯ウ云フ有様デアリマスカラ戰時ハ國內ノ全船舶ヲ軍用ニ供シテモ決シテ餘リガ無イト申上ゲテモ過言デナカラ
 ウト考ヘテ居リマス、ソコデ將來益々船ノ數ヲ増スト云フコトハ素ヨリ極メテ大切ナ事柄ニハ相違アリマセヌガ、
 單ニ軍事眼ヲ以テ見マスルト、船ノ數ヲ増スト云フコトハ如何ニモ道理ノアルコトデ、是非増サナケレバナリマ
 セヌガ、ソレヨリ更ニ必要ト思ヒマスノハ、平時ヨリ一朝事有ル時ノ用意ト致シマシテ、此若干軍事當局者ノ希
 望イタシマス所ノ要求ニ適スルヤウニ計畫シ織裝ヲスルト云フコトデアリマス、詰リ船舶ニ對スル戰備ヲ整ヘル
 所以デアリマシテ、戰爭ノ勝敗ハ軍備ノ充實如何ニ負フ所頗ル大ナルモノノアルコトハ私ガ改メテ申スマデモナ
 イコトデ、此度ノ歐羅巴ノ戰爭ノ成績ヲ見マシテモ御了解ニナルコトト考ヘマス、只今寺島君カラ獨逸ノ「エナー
 ジック」ノ御話ガアリマシタガ、開戰以來約一箇年ニナリマシテ、此間四面皆敵デアツテ殆ド外國トノ輸出入ガ
 杜絶サレテ居ル、和蘭方面伊太利方面カラ相當密輸入ガアツタカモ知レマセヌガ、先ヅ大體ニ於テ外國ノ輸出入
 ハ杜絶サレテ居リマス所ノ獨國ガ聯合軍ヲシテ未ダ一指ヲモ自己ノ領域内ニ染メシメナイト云フコトハ種々ノ原
 因ガアルニ相違アリマセヌガ、戰備ノ充實シテ居ルコトガ恐ラク其原因ノ大部分ヲ占メテ居ルモノデアラウト考
 ヘマス、一二ノ極メテ卑近ナ例ヲ申上ゲマシテモ、市中ノ「モートルバス」アレバ一輛ニ付テ一萬四千「マーク」
 トカスルサウデアリマスガ、實費ノ六割ニ當ル保護金ヲ政府カラ支出シテ居ルサウデアリマス、其ノ代リ車輛ノ

大キサ輸送力速力ナドハチャント一定シテ居リマシテ、イザト云フ場合ニ之ヲ直チニ軍用ニ使フ、而シテ使フ時分ニ一個分隊トカ、或ハ十人トカ二十人トカ云フ一ツノ「コンパクト」ノ數ヲ輸送シ得ルヤウニ平素カラ計畫シテ置クト云フコトデアリマス、又公園ノ「ベンチ」ノ如キモ勝手ニ造ラセルコトヲヤツテ居ナイ、御承知ノ通り獨逸ノ汽車ハ一等カラ四等マデアリマスガ、四等ニハ「ベンチ」ガゴザイマセヌ、平素貨物車ヤ四等列車ニハ「ベンチ」ガアリマセヌガ、戰時ニハ直チニソレヲ軍隊ノ輸送ニ供セバナリマセヌ、ソレデ其際新タニ「ベンチ」ヲ造ルノハ時ト金ヲ費ス譯デアリマスカラ、平生公園ノ「ベンチ」ヲ造ルニモソレノ悉ク其寸法ヲ一定シテ置イテ、ソレデ一朝事有ツタ時ハ方々ノ公園カラ「ベンチ」ヲ引張り出シテ汽車ニ持ツテ行ケバ直グソレガ「イット」スルコトニナツテ居ルト云フコトヲ此間或人ニ聞キマシタ、斯様ナ二三ノ例デ推シテ見マシテモ最モ大切ナ船舶ニ關スルヤウナコトハ非常ニ用意周到ナモノガアルニ相違ナカラウト考ヘテアルノデ居リマス、實ニ敵ナガラ感服ニ堪ヘナイ次第デ、開戰後一年ニモナリマシテ今日未ダ敗北ノ兆ナキノミカ却ツテ益々聯合軍ヲ苦シメテ居ルノハ決シテ偶然デナイト考ヘマス、デ私ハ何モカモ獨逸ノ例ニ倣ツテ軍國主義ヲ執レト云フ者デハアリマセヌケレドモ、少クモ前申ス通り殆ンド總テノ船舶ハ戰時海陸軍ノ用ニ供セラル、次第デアリマス以上ハ、平素ヨリ或程度マデ軍事上ノ要求ヲ容ル、如ク計畫シ艦裝スルト云フコトハ決シテ一概ニ無理ナ注文デアルトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、此節大層船舶ノ噸數ガ殖ヘマシテ、又艦裝モ漸次改良サレテ來マシタケレドモ、軍事上ノ眼カラ見マスルト未ダ其價值ガ至ツテ乏シイノデアリマス、殊ニ速力ノ點ニ至ツテハ要求ニ遠ザカルコト頗ル大ナルモノアルノデアリマス、御承知ノ通り日露戰役當時ニアリマシテハ軍艦ノ機械ハ總テ「レシプロケーチングエンジン」ニ限ラレテ、從ツテ速力モ左程大ナラズ噸數ハ一萬五千噸臺ヲ「リミット」シテ居リマシタガ此ノ節ハ「タービン」全盛ノ世ノ中トナリマシテ、大キナ「バットルシツブ」デサヘ正ニ三十「ノット」ナラウト云フヤウナ世ノ中ニナツテ居ル、驅逐艦ノ如キハ三十五六「ノット」ニナツテ來タノデアリマス、然ルニ商船ノ方ハ特殊ノ少數ノモノヲ除ケバ日露戰役時代モ今日モ其速力ハ依然トシテ十「ノット」附近ヲ上ツテ居ラヌヤウニ考ヘマス、海

運界ニ於ケル此度ノ、御經驗ニ依リマシテモ將來ノ趨勢ハ益々經濟的ニ船腹ヲ大ナラシムルニ在リト御考ニナツテ居ルコト、思フノデアリマスカラシテ、船ノ噸數ヤ「ホールド」ノ容積、サウ云フモノハ益々殖エ、又數ニ於テモ愈々澤山ニナルニハ相違ナカラウト考ヘテ居リマスケレドモ、速力ニ至ツテハ果シテ其割合ニ増スカドウカ、之ハ私ハ頗ル疑問トシテ居ルノデアリマシテ、矢張り從來ノ通り十「ノット」附近ヲ上下スルモノデアラウト云フコトヲ心配シテ居ルノデアリマス、若シ日清日露兩戰役ノ如ク策源地ヨリ僅カ四五百哩ノ距離シカ無カツタ局面ノ極メテ小サナ戰爭デアリマシタナラバ、今後ニ於テモ商船ノ「スピード」ハサホド多クヲ要セヌカモ知レマセヌガ、將來ノ戰爭ハ恐ラク支那海トカ或ハ臺灣海峽トカ云フヤウナ手近ナ所デナクシテ、廣ク「オーシヨン」ノ真中マデ活動セネバナラヌカト考ヘテ居リマス、サウナリマスト今日ノ様ナ有様デハ軍艦ト商船トハ益々其距離ヲ隔ツル一方デアリマシテ、軍艦ノ方デ遠慮ナク行動シマスルナラバ、補給任務ノ商船ハ遙ニ後方ニ置キ去ラレテ軍艦ノ方デ要スル時分ニ石炭モ取レズ、糧食モ取レズ、油モ取レズ、一切ノ軍需品ヲ取ルコトガ出來ズニ終ラナケレバナリマセヌシ、又ソレト反對ニ商船ノ速力ヲ基準トシテ、ソレトオツキアヒシテ軍艦ガ行動シマスレバ何等ノ活動モ出來ズ徒ラニ、足手纏ヒトナルノミデアツテ大切ナ戰機ヲ逸スルニ至ルコトハ誰デモ認メル所デアラウト考ヘマス、即チ海軍ニ於テ商船ニ要求シマス所ノ第一條件ハ速力デアリマス、此事ハ海軍側ニ於キマシテハ夙ニ唱道モシ、勸誘モ致シ、同時ニ其筋ノ方面ニ照會モ屢々イタシタノデアリマシガ、政府ノ政策ト致シマシテ、是マデハ偏ニ船腹ヲ増スコト、航路ヲ擴張スルコトトガ何ヲ措イテモ先決問題トナリマシテ、從テ軍事上ノ要求ナドヲ顧ル暇ガ無カツタ爲ニ今日ノヤウニナツタモノト思ツテ居リマス、是ハ致シ方ガナイ、是非ナイ次第デアリマスケレドモ、將來ハ是非トモ政府ノ保護ト船主ノ奮發ト相俟ツテ速ニ其目的ヲ達スルニ至ラムコトヲ切望スルノデアリマス。

元來海軍ノ徵備船舶ハ之ヲ二ツニ分ツコトガ出來ヤウト考ヘマス、一ツハ直接兵力ノ不足ヲ補フモノデアリマシテ、巡洋艦、砲艦、水雷母艦、掃海船ノ如キモノハ之ニ屬シ、他ノ方ハ艦隊ノ補給任務ニ當ルモノデアリマシテ、

即チ給兵船、給糧船、給水船、給炭船、給油船、病院船、工作船、通信船ナドデアリマスガ、出來得ルナラバ是等ノ任務ニ従事シマスル船ハ海軍デ之ヲ有ツテ居レバ之ニ越シタコトハナイ、最モ望ム所デアリマスケレドモ、只今ノ所デハ國防ノ第一線ニナルベキ兵力サヘモ其充實ガ誠ニ容易ナラヌ有様デアリマスカラ、到底斯ル補助機關ナドニ手ヲ着ケルヤウナ餘裕ガ無イノデアリマス、歐羅巴亞米利加アタリノ海軍デアリマスト、前ニ申上ゲマシタ各種ノ船ヲ海軍自身ガモツテ居ルモノガ澤山アリマス、殊ニ米國ノ如キハ民間ノ商船ノ數ガ少イセイモアリマセウケレドモ、種々ノ任務ニ従事スベキモノニシテ有力ナモノヲ澤山有ツテ居ル、チヨット石炭船ノ例ヲ見マシテモ、石炭ノ搭載量ガ一萬噸、重油ノ搭載量ガ三千噸モアリ、速力ガ十四「ノット」デ而シテ其ノ搭載移積裝置トシテ特別ニ造ラレタ「クレイン」ヤ「デリック」ヲ澤山造ツテ居ル有力ナモノヲ數艘有ツテ居ル次第デアリマス、其他工作船モ病院船モ有ツテ居ル、英吉利デモ伊太利デモ斯ル種類ノ船ノ全部デハアリマセスガ、其重モナルモノハ海軍自身ガ之ヲ有ツテ居リマス、所ガ轉ジテ我ガ海軍ニ於キマシテハ誠ニ憐レナ有様デアリマシテ、僅ニ一艘ノ工作船ト給油船ガ一艘而カモソレハ目下建造中デアリマス、ソレダケシカ有ツテ居ラヌノデアリマスカラシテ一切ノ補助機關タルベキ船舶ハ民間ノ商船ニ待タナケレバナラヌ有様デアリマス、然ル所第一速力ニ於テ軍事上ノ見地カラ、最低限度ト認ムル十二「ノット」ヲ平素出シ得ルモノハ全國ノ商船中デ誠ニ寥寥タルモノデアリマス、素ヨリ速力ヲ一「ノット」増スガ爲ニハ相當ノ馬力ヲ増サナケレバナラヌ、馬力ヲ増ス爲ニハ機械ヲ大キクシナケレバナラヌ、機械ヲ大キクスレバ從ツテ罐ヲ増シ或ハ大キクスルト云フヤウナコトニナリマシテ「ウエートエンドスベイス」及ビ金ヲ要スルコトハ勿論デアリマスガ、世界ノ趨勢ガ獨リ海軍ノミナラズ商船界ニ於テモ益々速力ヲ向上シツ、アリマス、

以上ハ我國計リイツマデモ今日ノ現狀ニ甘ンズルコトハ、殆ド忍ビ兼ネルノデアリマス。

速力ノ點ニ付キマシテハ今申上ゲマシタヤウナ次第デゴザイマスガ、次ニ艦裝ノコトニ付テ少シク申上ゲタイト思ヒマス、此艦裝ニモ種々任務ニ應ジテ注文ガアルノデアリマシテ而シテ商船ノ具備セザル所ノモノガ澤山アリ

マスカラ、戰時ニ海軍デ徵備シテ各軍港デソレ、模様替ヲ施行スルノデアリマス、然ル所其工事ハナカ、一日ヤ二日デ出來ルモノデゴザイマセス、一週間以内デ出來ルモノハ無イホドデアリマス、殊ニ工作船トカ給糧船トカ病院船トカ云フヤウナモノニナリマス、多大ノ日數ヲ要スルノデアリマス、其ノ上商船ハ平素空シク港内ニ遊ンデ居ルモノハ殆ソド無ク、例ヘバ郵船會社ノ歐洲航路ニ從事シテ居ル船ガ十一艘ノ中デ常ニ内地ニ居ルモノハ一艘シカ無イト云フ様ナ譯デ大概ノ船ハ常ニ航海シテ居リマスカラ、イザ入用ト云フ時ニ其船主ト契約ヲ結ンデ愈々海軍ノモノトナツテ軍港ニ到着スルマデニハ隨分ノ日數ヲ要スルノデアリマス、ソレデアルカラ今度ノヤウニ事件ガ突發的ニ起リマスト動モスレハ、大命一下何時デモ出動可能ノ姿勢ニアル軍艦ヤ驅逐艦ハ其手足タルベキ補助機關ノ準備ニ制肘セラレテ空シク軍港ニデツトシテ居ルカ左ナクトモ到底自由ノ行動ガ出來ナイ様ニナルノデアリマス、而シテ戰爭ハ獨リ今回ノミニ限ラズ將來ニ於テモ突發的ニ起ルト云フ覺悟ヲ以テ計畫セネバナラント考ヘマス從テ一日デモ二日デモ速カニ準備ヲ完成スルト云フコトガ最モ大切デアリマシテ之ニ就テモ最初建造ノ際ニ相當考慮ヲ加ヘテ艦裝シマシタナラバ軍港ニ到着シテカラ其レ丈ケ工事が省カレテ即チ準備ヲ早ムルコトガ出來ルノデアリマス開戰前又ハ開戰當初ニ於ケル一日二日ノ時間ハ往々莫大ナル影響ヲ齎スコトアルハ古今東西戰史ニ明カナル處デアリマス。

ソレデドンナ艦裝工事が必要デアルカト申シマスト給糧船トカ工作船トカ云フ様ナ特別經驗ノモノハ別ト致シマシテ、一般ノ運送船ニ對シテ要スルモノノ中ノ重モナル二三ニ付テ申上ゲマスレハ、第一ハ石炭庫デアリマス、石炭庫ノ容積ハ出來ルダケ廣ク取ツテ置キマシテ、サウシテ航續力ヲ増サヤウニシタイノデアリマス、航續力ト云フモノハ單リ軍艦ノミナラズ、商船ニ於テモ必要デアリマス、現ニ今度ノ事件中軍艦ニ石炭ヲ給スベキ等ノ運送船ニ石炭ヲ給スルガ爲メ第二ノ運送船ヲ必要トシタ例ガアルノデアリマス、ソレデハ何ニモナリマセン尤モ商船ハ平時ハサホド航續距離ノ必要ガアリマセンカラ平素ハ「カーゴスベ」ニシテ置ケバ宜イノデアリマス、ソレカラ罐水飲料水、是等ハ船自身デ自給シ得ルヤウニ豫テ「エバボレーター」ヲ備ヘ付ケテ置クコトハ商船自身ト

シテモ格別不經濟ナモノデナイト考ヘマス、平時ハソソナモノハ要ラナイ、十日間カ多クテ二週間航海スレバ甲ノ港カラ乙ノ港ニ届クカラ、ソソナ必要ハ無イト言ハレルカモ知レマセヌガ、假令平時ト雖モ流行病ガアリ傳染病ガアリマス、港ニ寄レナイ場合ガアル、從ツテ陸上トノ交通ヲ遮斷セラルル場合ガ無イトモ限ラヌノデアリマス、斯ル場合ニ飲料水ガ缺乏シタトイフトキハドウシテモ人ノ手ヲ借ラズ自分デ「サツプライ」シテ行ケルダケノ準備ヲシテ置クコトガ必要デアロウト考ヘマス、今度ノ事件ニ於キマシテ大キナ船ハ「エバボレーター」ヲ有ツテ居リマシタガ、有ツテ居ルダケデ使ツタコトガ無イ爲ニイザソレヲ働カサウト思ツテモ初メノ間ハ蒸餾水ヲ採ルコトガ出来ナカツタモノガ澤山アリマス、ソレカラ「ボート」デス、「ボート」ハ大抵ナ船ハ西洋式ノ「ボート」ニ限ラレテ居リマシテ、郵船會社ノ新造船伏見丸ガ初メテ傳馬船ヲ積ンデ大層結果ガ良イト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、此「ボート」ノ中デ少クモ二艘位ハ和船デアルコトガ必要デアリマス、全體何故ニ日本ノ船ニ西洋式ノ「ボート」ノミヲ搭載シテ居ルカ私トモハ不思議ニ堪ヘナイ、ナゼナレバ「ボート」ハ第一ニ重量ガ重イ、第二ニ操縦ニ多人數ヲ要スル、第三ニ多額ノ金ヲ要スルノデアリマス、然ル所日本式ノ傳馬船デアリマス、價ガ廉ク重量ガ輕ク、サウシテ一人或ハ二人デ相當ノ波ヲ突破シテ操縦スルコトガ出来マスノデ「ボート」杯ハ足元ニモ及ブコトガ出来ナイノデアリマス、夜中急ニ電報ガ來タ時分ニ十人モ二十人モ起サヌデ「コーターマスタ」一人ガ艙ヲ潛イデ行ケバ用ガ便ジマス、斯ル重寶ナ日本特有ノモノガアルノニ、ナゼ商船ガ日本式ノ傳馬船ヲ有タズ、總テ西洋式ノ「ボート」ノミヲ有ツテ居ルカ、是ハ實ニ不思議ニ思ツテ居リマス、尤モ軍艦ニ於キマシテハ「ボート」ニモ武裝ヲ要シマス、ソレデ餘ホド堅牢ニシナケレバナラヌコトニナリマス、又敵艦捕獲トカ商船ノ臨檢拿捕トカ「ボート」ニ載ツテ居ル人間ガ敵ト戰鬪行爲ヲ執ルコトガアリマスノデ和船デハ工合ノ惡イ點モアリマスガ商船ニ於テハサウ云フコトハアリマセヌ、殊ニ軍艦ナド、違ツテ乗員モ僅カデアリマスカラ、和船ハ商船ノ如キモノニハモツテ來イデアリマス、ソレニモ拘ハラズ「ボート」ダケ積ンデ居ル、多分「ライフシービング」ガ「ボート」タルヲ要スル理由カト思ハレマスガ、併ナガラ和船デモ相當ニ人ヲ載セルコトガ出来マス、軍艦デハ大抵四艘

或ハ少クモ二艘ノ和船ヲ有ツテ居リマスガ、先年生駒ガ南米カラ英國ニ參リマシタ當時英國ノ各地デ此ノ和船ヲ水兵一人デ自由自在ニ漕イテ居ルノヲ見マシテ、私ドモニ質問ヲ發シタ、ナゼ日本ノ軍艦ハ、アンナ便利ナモノガアルノニ「ビンネース」トカ「カッター」トカ十人モ二十人モ掛ラナケレバ動カナイモノヲ積ンデ居ルカト言フ、尤モ其ハ普通ノ人デ軍艦ニ「ボート」ノ必要ガアルコトヲ知ラヌ人ノ質問デアリマスガ、先ヅ大體ソナモノデアリマスカラシテ、「パツセンヂャーボート」デアリマスレバ兎ニ角、ソレニシテモ二三艘ノ「ボート」ヲ日本式ノ傳馬船ニ換ヘルコトハ如何ナル方面カラ云ツテモ利益ダロト考ヘマス、ソレカラ甲板ノ二層以上ノコト、又二重底ハ必要ニ應ジテ眞水ヲ貯藏シ又ハ排泄シ得ル設備アルコトガ大切デアリマス、殊ニ「デリック」ハ一ツノ「ハッチ」ニ二本ヅツ備ヘマシテ、サウシテ其力量ハ三噸以上トシテ、且ツ舷外ニ振り向ケタ場合ニ舷側ヨリ十四五呎ノ長サヲ要スルノデアリマス、是ハ極メテ小サナヤウナコトデアリマスケレドモ、結果ハ隨分大キナコトデアリマス、今度ノ事件ニ於キマシテ總テノ運送船ハ「デリック」ノ點ニ於テ落第シマシタ、略々私共ノ考ニ一致シマシタモノハ、加賀丸一艘ダケデアリマシテ、其他ノモノハ誠ニ工合ガ悪カツタノデアリマス、ソレハナゼカト申シマス

(圖ヲ指示ス)

軍艦ハ航海中デモ碇泊中デモ商船カラ石炭ヲ採リマス時分ハ斯ウ云フ風ニ軍艦ニ横着ケシテ石炭ヲ採ルノデアリマスガ、軍艦モ商船モ此「ミッシップ」ノ所ガ膨レ出シテ居ツテ前後ハ狭クナツテ居ル、然ルニ商船ノ「ホールド」ハ必ズ前後ニアリマシテ、而シテ「デリック」ハ多ク此位置ニアリマス、ソコデ此「ホールド」ノ中ニアル石炭ヲ「デリック」デ引揚ゲソーシテ相手ノ軍艦ニ振り向ケルトキ長サガ充分デナイ爲メ届カナイ夫ガ爲メ時々石炭ヲ海中ニ委棄スルコトガアリマス、工面ニ工面シテ綱ノ引張り方ヲ種々ニ研究シテ漸ク海ニ落サスヤウニ積ムコトヲ致シマシタガ、作業ハナカク迅速ニ參リマセヌ、假ニ一時間五十噸積ミ得ルモノデモ半分モ積マレナイト云フ状態ガ生ズルノデアリマス、所ガ此横着ケヲスルニモ天氣ノ好イ海ノ靜カナ時デナイト兩方共「ローリング」シ

テ隨分危險デアリマスカラ、一時デモ早く横着ケヲ離サナケレバナラスノデアリマスガ、一方石炭ノ供給ガ非常ニ遅イ、其中ニ風ガ吹イタリ波ガ荒クナツタリスルノデ所要量ノ一部シカ採ラズニ横着ケヲ離サナケレバナラスコトガ絶エズ出來イタシマシタ、殊ニ南遣支隊ノ行動ガ此一件ノ爲ニ餘ホド苦シメラレタノデアリマス、ソレデ若シ此ノ「デリック」ノ長サヲ五呎ナリ六呎ナリ延バシマスレバ十分ニ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデアリマス、「デリック」ノ長サヲ五呎六呎長クシタ所ガ格別建造費ヲ増スコトハナイト考ヘマス上商船自身ノ用途ニ對シテモ決シテ不便デナカラウト考ヘルノデアリマス、此ノ外諸管類ハ可成水線下ヲ通過セシメ石炭庫ハ成ルベク機關部ノ舷側附近ニ設置スルコト、電線ハ必要ニ應ジ檢査修理ニ便ナル様導通スルコト、「ウキンチ」ノ數ハ「デリック」ト同數タルコト、貨物船デモ相當ノ豫備室ヲ設クルコト、六千噸以上ノモノハ無線電信機、冷蔵庫治療室ヲ有スルコト抔何レモ必要デアリマシテ尙ホ如何ナル商船デアリマシテモ軍用ニ供セラルル場合ハ夜間ニ燈火ノ舷外ニ漏ルルヲ防グ裝置ヲ必要ト致シマス、假令軍用ニ供セラレナイトキデモ敵艦艇ノ出沒ノ虞アル海面ヲ行動スル場合ハ燈火ヲ消シテ歩キマスカラ、平素カラサウ云フ燈火ノ外ニ見エナイ裝置ヲシテ置クコトハ無益デナイト考ヘマス、前申上ゲマシタコトハ素ヨリ要求條件ノ一部デアリマスガ此等ハ平素カラオヤリニナツテ居ツテモ格別損ガ無イヤウナ事柄ト考ヘルノデアリマスカラ此邊ノ所モ篤ト御研究ヲ願ヒタイノデゴザイマス。ソレカラ、補助船舶ノ中デ最モ私ドモノ困難ヲ感ジテ居リマスノハ重油船デアリマス重油ノ需要ハ一年益盛シニナリ來リマスニ拘ラズ、海上唯一ノ輸送機關タルベキ給油船ノ相當力量アルモノハ日本全國ヲ探シテモ東洋汽船ノ紀洋丸武洋丸相洋丸ノ三隻シカナイノデアリマシテ而シテ此ノ内ノ二隻ハ、一兩年ノ中ニハ如何ナル運命ニ遭遇スルカ測リ難イ狀況デアリマスカラシテ、此ノ次ギ何カ事ガアツタラドウシテ軍艦ニ重油ヲ供給シヤウカト云フコトハ私ドモノ絶エズ頭痛ニ惱ンデ居ル問題デアリマス、本來軍艦ニ重油ヲ焚クヤウニナリマスレバ、軍艦ト給油船トハ不可分ノモノデアリマスガ、前申上ゲマシタ通り財政ノ狀況ハ國防上第一線ノ武力サヘ容易デナイト云フ現狀デアリマスカラ、ナカ／＼此補助機關タル給油船ヲ造ル餘裕ガ無イ、漸ク只今三千噸ノ給油船ヲ一艘建造中デアリマス

ガ、中々三千噸ノ給油船ガ三艘ヤ四艘デ足リル筈ハナイノデアリマス、ソレニ石炭デアレバ「ホールド」デアラウガ「デツキ」デアラウガドコデモ積ムコトガ出來マスガ、御承知ノ通り重油ハ「ホールド」ニ積込ム譯ニイカズ、「ダブルボットム」ニモ入レル譯ニモイカヌ、重油「タンク」ノ特別構造ヲ要スル次第デアリマスカラ、戰時ニ於キマシテ一番困ルノハ此重油船デアリマス。夫レデモ重油船ハ先ヅ日本ニ三艘アリマスガ、給糧船ニ至リマスト一艘モ無イノデアリマス、コレナドモ將來段々南洋トノ貿易ガ盛ンニナリマシテ、濠洲カラ食料ヲ輸入スルヤウニナリマスレバ、軍用ノ目的デナシニ世間一般ノ需要ノ上カラ見テモ一二艘ノ給糧船ハアツテモ宜カラウト思フノデアリマシテ船主側ニ於テ一ツ御奮發ニナラレテ斯ウ云フ「スペシアルボート」モ御造リシダサル、コトヲ希望スルノデアリマス、尤モ斯ウ云フ特殊ノ船ヲ造ル場合ニ於テハ政府デモ相當ノ保護ヲスルコトガ必要ト考ヘマス、實ハ先キホド寺島君ヨリ獎勵ニ關スル規定ニ付テノ御意見ガアリマシタガ、私モ現今ノ獎勵規定ガ悪イモノト言フノデアリマセヌガ、現今ノ獎勵規定ニ戰時海軍ノ補助機關タルベキモノニ對シテ特別ニ何カ相當ノ保護ヲ與ヘルト云フヤウナ新シイ制度ノ設立ハドウシテモ將來ノ爲メ必要デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス。

世間デハ戰時軍用ニ供シ得ルヤウナ商船ヲ建造スルトキハ、謂ハユル半戰半商ノドチラニモ付カヌ片輪モノトナリ不經濟至極ナモノデアルト云フコトヲ論ジテ居ル人ガ間々アルヤウデアリマスケレドモ、私ハ決シテサウハ考ヘマセヌ、艦装上ニ少シ注意ヲ加ヘテ建造シマスレバ、商船トシテヨリ堅牢デ且ツ安全デ、サウシテ「エフヒセンシー」ヲ増スコトガ出來ルト考ヘテ居リマス、問題ハ速力ノ點デアリマスガ、ソレハ政府ニ於テ何カ保護シナケレバ維持上困難デアリマス、半戰半商ハ片輪物デアルト云フコトハ誠ニ採ルニ足ラヌ論ト考ヘマス、兎角世間デハ軍用船ト云フト、一概ニ櫻丸ノヤウナモノヲ指シテ、アレガ軍用船カト云フヤウニ御考ニナリマスガ、私ドモノ見ル所デハ決シテサウデアリマセヌ、軍用ニ供スベキ船ハ直接武力ノ不足ヲ補フモノデアルカラ、速力ノ高イ「ラデアスオファクシオン」ノ多イモノデ、而シテ前申上ゲタヤウナ艦装ノ一部或ハ全部ヲ充實スレバソレデ満足スルノデアリマス。

ソレカラ運送船ト云フコトニ付テモ世間デ随分誤解ガアルヤウデアリマスカラ、チヨット申上ゲテ置キタイト考ヘルノデアリマスガ、運送船ト申シマスト、一概ニ陸軍ノ軍隊ヲ輸送スルモノヲ運送船ト云フヤウニ思ツテ居ル方ガ間々アルヤウデアリマス、陸軍ノ兵馬材料ヲ運送シマスモノハ、唯甲地ヨリ乙地ニ輸送スルダケノモノデアリマシテ、是ハ殆ド何等特別ノ艦裝ヲ要スルコトハアリマセヌ、或ハ「馬欄」ヲ造ルトカ便所ヲ設ケルトカ竈ヲ殖ストカ云フコトニ過ギナイノデアリマスガ、海軍ノ運送船ト云フモノハ、唯甲地ヨリ乙地ニ物ヲ輸送スルト云フノデアリマセヌ、謂ハユル異動の倉庫、異動の棧橋ト云フヤウナ意味ヲ有ツテ居ルノデアリマス、從テ任務ニ應ジテソレノ艦裝ヲ要スルノデアリマスカラ、唯軍隊ヲ輸送スルノ任務ニ適合スレバ、ソレデ宜イヤウニ御考ナサル、方アリトスレバ此機會ニ於テ御注意ヲ仰ギタイノデアリマス。

ソレカラ今夕ハ丁度好イ機會デアリマスカラ、申上ゲテ置キタイト思ヒマス事件中ニ敵艦隊ノ出現スル虞レノアル海面ヲ航海スル船舶ニ對シテ、軍艦ヲ以テ護衛ヲシテ吳レト云フ願書ヲ出サレタ所モ間々アリマスガ、斯ウ云フコトハ實際行ハルベキモノデナイノデアリマス、又假ニ其援護ヲ行フトシマシテモ斯ノ如キ援護法ハ頗ル消極的ノモノデアツテ兵力保行使ノ意義ニ反シテ居ル、ノデアリマシテ有事ノ際海軍ハ其全力ヲ擧ゲテ敵海上武力ノ剿滅ニ努メ、而シテソレニ依ツテ積極的ニ通商ヲ保護スルモノデアリマスカラ、商船ハ直接ニ援護ヲ受ケナイト言ツテモ別ニ躊躇スル必要ハ無イ、安ンジテ其本務ニ從事シテ然ルベキデアリマス、但シソレガ爲ニ商船ノ所在ハ海軍關係ノ向ニ通報ニナルコトガ最モ必要デアリマシテ、絶エズ所在ヲ御通報ニナリサヘスレバ、海軍ノ當事者ハ必ズソレニ對シテ適當ナ措置ヲ執ルコトヲ怠ラナイノデアリマス、此度ノ事件ニ付キマシテモ實ハ屢々其注意ヲ促シタノデアリマスガ、發着航海ノ通報ガ大體カラ申シマスト、極メテ不完全デアツタノハ私ドモノ特ニ遺憾トスル所デアリマス。

ソレカラ今一ツ御注意ヲ仰イデ置キタイノハ、徵發事務條例ノ外ニ明治三十一年海軍省令ヲ以テ新タニ船舶ヲ製造シ或ハ購入スル場合ニ其「スベシフイケイション」ヲ海軍大臣ニ出ス規定ニナツテ居リマスガ、随分古イモノデ

アリマスセイカ、一向有效ニ働イテ居ラス様ニ思ハレマス、ソレカラ船ニ大改造ヲ加ヘタル場合ニ於テハ何トモ規定ハゴザイマセヌガ之ハ御依頼デアリマスガ何卒軍令部ニ御報告アランコトヲ願ヒマス、私ノ所デハ各府縣カラ出マス汽船表ト當事者カラ出マス汽船圖ニ依リマシテ、ソレヲ唯一ノ材料トシテ計畫ヲ立テ、居リマス、所ガ實際手ニ入ツテ調べテ見ルト書キ物トハ非常ニ違ツテ居ルコトガ往々アリマス、今回ノ事件ニ於キマシテモ其ノ相違ノ爲メ困却シタ事實ガ澤山アリマシタ、一例ヲ舉ゲマスレバ或ル船ニ付テ、速力ノ點ニテ兎角懸念ニ堪ヘマセヌノデ、問ヒ合セテ見マス、船主ノ方カラ速カハ滿載狀態ニ於テ責任速力——責任ト云フ文字マデ付ケテ大丈夫ト云フ意味ノ回答ガアリマシタカラ初メテ安心致シソレデハ之ヲ徵用シテ此向キニ使ハウト云フコトニシテ、イザ横須賀ノ軍港ニ到着シテ見ルト、船長ハイヤ、ソレハソレダケ速力ハ出マセヌ、曾テ新シイ時分ニハソレダケ出タノデアルガ、今日ハドウシテモソレダケノ速力ヲ出スコトガ出来マセヌト言ハレマシタノデ大ニ目算ガ外レマシタガ艦隊ノ出帆ハ決マツテ居リマシテ、ドウシテモ延ス譯ニイキマセヌ、セメテ其船ヲ「ドック」ニデモ入レマシタナラバ、一「ノット」位ハ高メルコトガ出来タノデアリマスケレドモ已ニ入港時日ガ豫定ヨリ後レテ居ルノデアリマシタ爲メ此上一晝夜ノ入渠ヲ許スコトガ絶對ニ不可能デアリマシタカラ、トウ「ドック」ニ入レズニ其儘艦隊ヨリ半日先キニ出スヤウニ致シマシタ、所ガドウシテ艦隊ノ手足纏ヒニナツテ仕様ガナイノデ途中デソレヲ離シタ例モアリマス、斯ウ云フヤウナコトハ詰リ絶エズ嶄新ノ御報告ヲ得テ居リマスレバ、ソレニ依ツテ相當ノ計畫ヲ立テルコトガ出来マスケレドモソレガ一度報告サレタギリニ何等修繕改良ニナリマシテモ其儘ニ過サレテ居リマス、イザト云フ場合ニ大ナル齟齬ヲ來タスノデアリマスカラ、將來大改造ヲ加ヘラレ、或ハサウデナクモ海軍省ノ定メテ居リマス規定ニ當ル場合ガ起リマシタナラバ、其都度御報告ヲ仰ギタイノデアリマス

マダ申上ゲタイト思フコトガアリマスケレドモ、大分時間モ經チマシタカラ之デ御免ヲ蒙リマス、誠ニツマラヌコトヲ申上ゲテ定メテ御聽觸リデアツタラウト思ヒマス(拍手)

座長寺野精一君 是カラ御討論ヲ願フノデアリマスガ、チヨット十分カ十五分休憩イタシマス。座長寺野精一君 引續イテ開會(休憩後午後九時)イタシマス、本問題ニ付テ此際暫サンノ御意見ヲ御發表願ヒタイト思ヒマス、成ルベク多數ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマスカラ、大凡御一人十五分グラキノ程度デ御遠慮ナク御話ヲ願ヒマス、豫テ斯ウ云フ場合ニ一度申上ゲタコトデアリマスガ、本會合ハ學會トシテ種々研究審議イタシテ居ルノデアリマスカラ、ココデ多少脱線シタ言論ガアツテモ此場限リデ御聽流シヲ願ヒマス、此會デ誰ガアア云フコトヲ言ツタトカ、其講演ニ付テ造船協會ガアトカラ御叱リヲ受ケルコトデハ困リマスカラ、其點ハ豫メ申上ゲテ置キマス何卒此席限リノ言論ト云フコトニ御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ神戸ノ杉谷博士カラ此問題ニ付テ御意見ガ提出ニナツテ居リマスカラ、此際ソレヲ朗讀イタシマス。

杉 谷 安 一 君(寺野博士代讀)

今岡渡邊兩氏ノ『歐洲戰爭ト船舶』ト題スル講演ヲ拜讀シ左ニ豫テ考ヘ居タル事柄ヲ思出シタル儘書列ネテ諸君ノ御教示ヲ乞ハントス

我海運業ノ海外發展……ハ國民トシテ誰モ大賛成ナレドモ之ヲ如何ニシテ發展セシムルカガ問題ナリ……發展策モ種々アルベシ、然シ海外貿易ヲ盛ニスルハ一大難事ナルベシ……貿易ヲ増スト云フハ内國産業ヲ發達セシムルニアリ……國産工業ヲ發達セシムルニハ……外國製品ト競争シ之ニ打勝ニアリ……競争ニ勝ツニハ薄利多賣ヲ主トセザルベカラズ、而シテ薄利多賣ハ如何ニシテ實行シ得ベキカガ大問題ナリ、誰モ口ニハ稱ヘ得ルモ實行ハ中困難ナリ……實行ノ方法ハ即チ……益分業ヲ獎勵スルニアリ、各其道ニ熟達シタル經營者、技術者ヲ選ミ各特長ノ任ニ當ラシムルニアリ

新造船ノ注文……good, quick, cheapヲ旨トシ出來得ル限リ經濟的ノモノヲ建造スルヲ要ス、決シテ無駄ノ設備ヲ爲スベカラズ、之モ矢張り外國製ト競争シ得ルヲ必要條件トスベシ。

設計簡約……内地製方外國ノモノニ比シ装置設備ノ贅澤ナルハ彼我國情ノ相違船員ノ風習ノ異ナルニ依ルハ勿論ナレドモ、日本ニテ船員ガ船主又ハ長者ノ命ニ "pass life" ノ答ヲ爲ス美風ナク、長者ノ命ニ我意ヲ加ヘザレバ氣ガ濟マヌ風アリ、甚ダ好マシカラザル事ナリ、之等ガ嵩シテ宛行レタル物ヲ其儘ニ使用スルヲ好マズ、必ズ我意ニ適スル變更、改造ヲ爲シ無駄ナ費用ヲ船主ニ拂ハシムル事トナル。

船主モ各自ノ欲スル處ノ好ヲ捨テ、大差ナクバ或一定ノ船型アラバ其型ニ據ルコトヲ努ラレタシ、最近大阪鐵工所ガ船主ノ希望ヲ排シ、同型ノ貨物船十二隻ヲ建造スルト聞ク、洵ニ適切ノ處置ト思ヒ大ニ賛成スル所ナリ。

工費ノ節約……造船所ノ設備ヲ出來得ル限リ小サクシ、隨テ資本ヲ少ナクシ經費ヲ節スルニ努メザルベカラズ、之モ口ニスルハ容易ナレドモ實行ハ困難ナリ、唯經驗アル技士、熟練セル職工ヲ選拔スルノ外ナシ……則チ公德アル人贅澤、無駄ナル事柄ヲ知ル人ヲ選ブコト。

少シク筋違ノ嫌アレドモ常ニ腦裡ニアル處ヲ左ニ述ベシ。

茲ニ國民全般ニ希望スル事……家庭ニ於テモ又下小學校ヨリ上大學校ニ至ル迄、生徒ニ贅澤、無駄ノ行爲ガ總テノ産業(バカリデハナケレドモ)ニ甚大ナル悪影響ヲ及ボスコトヲ常ニ小供ノ時ヨリ腦髓ニ浸渡ル様教育、修養セラレンコトヲ父母、教育者ニ望ム、日本人程實ニ無駄ナル事ヲ爲スモノ全世界ニアル間敷、此事ハ實ニ國家ノ安危ニ關スル程ノ重要事ナレドモ、世人餘リ氣ニ止メザル風アリ、甚ダ歎ズ可キ次第ナリ、此思想ガ充分國民ノ腦裡ニ浸込マザル間ハ獨、英、諸國等ト製産工業上對抗スル事最モ困難ナリト思フ。

補助工業ノ促進……之ハ分業ヲ盛ニシ……windlass, winch, steering engine, telegraph, chain cable, sidescuttle, pump, nautical instrument, lifeboat 等ハ小規模ノ工場ニ於テ製作ノコトトシ、各其特長ヲ發揮シ good, quick, cheap ノモノノ産出ニ努メラレンコトヲ望ム。

大阪物……多クノ場合粗製品ヲ意味ス……ハ大ニ改善シ相當代價ヲ以テ良質ノ物品供給ヲ望ム……先年 engine telegraph ヲ大阪某工場ニ注文セシ事アリ、船ニ取付ケテ試験シタルニ「ベル」ノ音コソト云フ故不審ニ思ヒ

取調タルニ Bell ハ鉛ニテ製シアリタルヲ發見シ、其後ハ注文ヲ絶チタリ……如斯事實ハ補助工業ノ促進ヲ妨ゲ
 寒心スベキ行爲ナリ……粗製濫造ヲ慎ムベシ
 内地製鐵所ノ擴張……之ハ是非擴張アラシムコトヲ望ム、而シテ工業用材供給ヲ容易ナラシメンコトヲ期待ス……
 之モ資本ヲ少ナクスル爲分業トシテ薄板、厚板、セクシヨン等ヲ別々ノ所ニテ製造スル方得策ナランカ。
 要スルニ今岡、渡邊氏講演ノ御趣意ハ大賛成ナリ、實行ノ點ニ於テ中々困難ナレドモ、當業者大ニ努力ス可キ機
 會ナリト信ズ

松方幸次郎君

皆サン、私ハ今日今岡博士其他ノ御方ノ講演ヲ讀ミマシタカラ、何カ宜イ討論ガアルダラウト思ツテ伺ヒマシタ
 所ガ偶然ニモ私ニモ何カ話ヲセヨト云フ寺野博士ノ御話デアリマス、私ハ脱線シガチナ者デ、此所デ喋舌ルト或
 ハ又獎勵金ヲ貰ヒニ出タ時ノ種ニナツテ叱ラレルコトガアツテハ大變ダカラ御免蒙リタイト申シマシタ、所ガ今
 日ハ無禮講デアアルサウデアリマス、第一今夕私ハ此所ニ來テ變ナコトト思ツタノハ、是ガ日本ノ造船業ニモ澤山
 行ハレテ居ル所謂無駄ナコトヲスルコトデアアル、今岡サンハ何故ニ喋舌ラレタカ、私ニハ疑問デアアル、既ニ詳細
 ニ述ベ盡サレテアル講演ノ筆記ハ、見テ實ニ感服ニ堪ヘナイノデアアルガ、斯ル「エラポレー、エスセー」ガ配付サ
 レテアル以上、直ニ之ニ對シテ討論スレバ可ナリト思フノニ、更ニ御話シガアルノハ、重複ナ無駄ナコトデア
 アルマイカ、私ハ又例ノ日本式カト思ツテ聽イテ居ツタノデアアルガ、是ガ施イテ造船事業ノ上ニモ行ハレテ居ル様
 ニ思ハルルノハ、私ノ甚ダ遺憾トスル所デアアル、「バイブ」ニシタ所ガニツアル、甚シキニ至ツテハニツノ「バイ
 プ」ガアレバ、マア平時ノ用ニ備ヘテ行ケルガ、念ノ爲メニモウツ敷イテ置カストイケナイト云フノハ、日本
 ノ「デザイン」ノ缺點ダト私ハ思ツテ居ル、是ガアル間ハナカノ船ガ廉ク出來ナイ、前年私ノ所デ山城丸ヲ造リ
 マシタ時ニ、郵船會社ガ西洋ヘ注文サレタ近江丸ノ「タイプ」ノ「アレンジメント」ト比較シテ見ルト云フコトデ、

態々横濱マデ人ヲ派シテ見ルト、西洋ニ誂ヘラレタ近江丸ノ方ハ頗ル簡單ニ出來テ居ルノニ、一々注文主ノ承認ヲ得又ハ變更サレタルモノハ實ニ贅澤過ギルト認メザルヲ得ナカッタノデアル、即チ杉谷君ノ言ハレル如ク西洋人ガスレバ宜イガ、日本人ガスレバソレデハイケナイト云フ様ナ風ガアリハシナイカト思フ、是ハ私共ノ甚ダ遺憾トスル所デアル、此點ハ單リ商船バカリデナイ、軍艦ナドニ至ツテハ實ニ甚シイモノガアル、現ニ本年始メ新造シタル驅逐艦ニ使用セル「バルブ」ヤ「コック」ヲ今度他ノ軍艦ニ使用シタイト思ツテ用意ヲスルト、今度ハ又改正サレタ「バルブ」ノ「デザイン」ガ出テ來ル、ソレハ「ウエート」ヲ輕クスル爲ニ薄クシナケレバナラヌト云フ、成ル程宜イ議論デアル、然ルニ一方ニ於テハ「スチーム」ボイラー」ニ「バルブ」ヲ取付ケル所ノ座金ハ榛名艦ノ時ニハ座金ガ附イテ居ラス、今度戰艦伊勢ニハ座金ガ附イテ來テ重量ヲ増スコトニナツテ居ル、同一デナイカ知ラヌガ、或ハ皆サンノ經驗デ座金ノ必要ガアルカモ知レヌガ、榛名艦ノ時分ニハ現ニソレガ無クテ宜イナラ、今度モ無クテ宜シクハナイカト私共ハ思フ、私ハ又今岡サンナドノ結論ニ付テ一ツ造船事業ノ將來ノ發達上御研究ヲ願ヒタイト思フモノガアル、ソレハ即チ人物養成——是ハ重モニ座長ナドノ御責任デゴザイマシセウガ、此頃大學カラ出タ人ハ誠ニ惡クテ困ル、ナゼ惡イカト云フト、自分ハ學校カラ出タ人ノ通弊ヲ能ク知ツテ居ル、是ハ歐羅巴ノ學校ヲ出テ見テモ其通り、私モ亞米利加ノ學校ヲ出タノデアリマスガ、學校ヲ出タ時ハ矢張エラソウナ考デアリマシタ、私ノ所ニ學校卒業生ガ來ルト鼻端ヲ折ルニ二三年掛リマス、ソレデ學校ニ居ル時ノ養成ノ方法ハドウ云フ風ニナツテ居ルカ、私ノ所ニ來テ殊更ニ「デザイン」ナドヲ研究スル人デモ大體ノ「ゼネラル、アレンジメント」ノ圖面ヲ書クコトハ容易ク喜ンデ書カレル様デスガ、込ミ入ツタ「デテール」ニ入ツタ「デザイン」即チ「ウアイキング、デザイン」トナルト、書クコトヲ大變イヤガル、其結果工場ニ行ツタ時ハ一向分ラヌ、是ガ私ハ日本ノ造船業ノ將來ノ發達ニ對シテ非常ナ缺點デアルモノデヤナイカト感ズル、他ノ物質的ノ發展ハ其人達ガ出來サヘスレバ自然ノ結果出來ルト思ヒマス、併シナガラ今日ノ有様デ物質的ノ發展ハドコガ必要カト云フト、杉谷君モ云ハレ、又今岡サン達ガ御示シニナツテ居ル製鐵所ノ發展デアル、製鐵所ハ商船ヲ建造スル民間ノ製造所カラ

見レバ殆ンド役ニ立タヌ、ナゼナラバ軍器ノ獨立ガ主デアルト言ツテ海軍省陸軍省其他鐵道院ト云フ御役所ノコトガ決マラナケレバイカヌ、甚シキニ至ツテハ本年ノ如キ海軍ノ豫算ガ將來ドウナルカ、此冬ノ議會デ御決定ニナラヌ間ハ、私ドモノ最近ノ事業ニ付テ約束ト云フモノハテント話ニナラヌ、然ルニ今日私ノ受取リマシタ電報ニ依リマス、英吉利ノ政府ハ鐵材ノ輸出ヲ禁ジタト云フコトデアル、永年ノ製鐵所擴張案ト云フ問題ガ不幸ニシテ豫算ノ一部分ニ故障ガアツタ爲ニ製鐵所モ卷添ヘテ食ツテ發展ヲシナイ、併シ今年カラシテ來年ノ四五月ニナリマシテ「フアーネス」モ五十噸ノモノガ四ツ殖ヘルト云フコトデアルカラ、ドウカナリマセウ、物質的ノ方カラ言ヘバ製鐵所ノ發展、精神の方カラ言ヘバ人物養成、殊ニ技師トナツテ行クベキ大學ノ卒業生、マア學問モ宜イ加減ナモノデゴザイマセウガ、モウ少シ實ノアル學問ヲ教ヘテ貰ヒタイ、「カルキユレーシヨン」バカリデハ空ニ流レ易イ、大學デハ學理ノ深イ所ヲ究メル目的カ知ラヌケレドモ、歐羅巴デ羅甸「グリーキ」ヲヤルノニ「メシタル、ツレーニンク」ヲモヤルト云フ風ニ、學校ニ居ル間ハ何カ「メンタル、ツレーニンク」ト云フヤウナ即チ經濟的ト云フ觀念ヲ嚴シク言ツテ戴イタナラバ、學校カラ出タ時モ經濟的思想ガ十分腦裡ニ收ツテ居テ大變宜クハナイカト思フ、全體日本人ノ缺點ハ國民性トシテ經濟的ノ觀念ニ乏シイコトデアラウト私ハ思ヒマス、ソレガ施イテ職工マデアアルノデスカラ、經濟的ト云フコトガ子供ノ時カラ頭ニアル歐羅巴ノ人達ト競争シテ世界ノ造船國ニナルト云フコトハ私ハ思ヒモ寄ラスコト、實ハ心配スルノデアル、ソレデ私ノ所ノ工場ノ中ニモ寶函ト云フモノヲ作リマシテ、一方ニ人ガ石炭山ニ入ツテ石炭ヲ掘リ、又鐵ノ鑛石デモ難儀シテ掘ツタモノヲ皆鍛鍊シテ鐵ヲ造ツタ、即チ屑金デモ國ノ寶デアアルソレヲ土中ニ踏ミ潰シテ無駄ニシテ吳レルナ、寶デアアルカラ大事ニシテ吳レト云フヤウニシテ養成シツ、アル、ドウカ造船界ニ於キマシテモ此點ヲ充分注意シ、歐羅巴殊ニ獨逸ト云フヤウナ國ト競争スルコト故、猶更日本ノ國民性ヲシテ此ノ點ニツキ誰モ彼モノ別ナク教ヘテ發展サシテ貰イタイト私ハ希望スルノデアル、即チ造船事業ノ發展ハ精神のニ言ヘバ人物ノ養成ガ一番大事デアル、物質的のニハ今日ノ狀態カラ言ヘバ製鐵所ノ發展、此二ツガアツタナラバ、先ヅサウ西洋ニ敗ケルヤウナコトハアルマイト考ヘテ居

其次ニハ少シク餘談デアリマスガ、今夕郵船會社ノ御講演ニ就テ、「ハイスビード」ノ船モ將來獎勵金ガ無暗ニ減
 ゼラレタラ客船ハ遂ニ少數ニナルト云フ議論デアリマスガ、私ハサウハ思ハヌ、一體「ハイスビード」バスセンデヤ
 「、ボート」ハ金ガ儲カルト云フコトハ抑モ大間違ヒデハナイカト思ヒマス、併ナガラ軍事上貿易上ノ關係カラ政
 府ハソレニ相當ノ保護ヲ與ヘテ拵ヘテ置カナケレバナラス、又將來會社ノ方カラ云ヘバ自分ノ信用ヲ維持スル所
 カラシテ、良イ船ヲソコヘ浮ベテ置イテ側ラ貨物船デ利益スルノガ本當デアアル、歐米ノ鐵道會社ニ於キマシテ此
 「バスセンデヤ」、トレイン」デ鐵道ノ經濟ヲ有ツモノデハナイモノト私ハ思ヒマス、鐵道ノ經濟ト云フモノハ皆
 貨物車デ有ツテ居ル、サウシテ「バブリック、アッコンモデーション」ニスル「バスセンデヤ」、トレイン」殊ニ一
 等客車ノ如キハ鐵道會社トシテ引合フモノデナイガ、一方ニ公共ノ利益便利ニ提供シ一方ニハ鐵道會社ノ信用ヲ増
 ス爲メ益々乗客ノ「コムフォート」ヲ増スト云フニアリテ、之ト同ジク海ニ浮ンデ居ル汽船ニ付テモ同ジ結果ガア
 リハシナイカ、即チ良イ鐵道列車ガ走ツテ居ルト云フコトハ其鐵道會社ノ信用ヲ保チ其廣告ヲ「バブリック」ニス
 ル目的デアアル、郵船會社ガ益々發展スレバ發展スルホド、商船會社ガ發展スレバ發展スルホド、必ず「ハイスビー
 ド」ノ「スターマー」ガ出テ來ルト云フコトガ今日ノ趨勢ダト私ハ考ヘテ居リマス。

種々話ガ違フヤウニナツテ恐縮デゴザイマスガ、無禮講ダカラ御免ヲ蒙リマス、十五年規定ハ私ハ贊成デアアル、
 ソレカラ造船會社デアツテ船ヲ造ルノガ十五箇年グラキナ船ニナツタナラバスウ總テガ日進月歩シツ、アルトキ
 ニハ必ず不經濟ニナル、私ノ友人デ其途ニナカク巧者ノ御方デ金ヲ儲ケルコトガ上手デアアルガ、金ガアツタラ
 其ノ方ハドウカト云フト、ソレホド古船ヲ使フト仰ツシヤラナイ、先達テ私ノ所デ出來マシタ豊橋ハ一萬五百噸
 十二「ノット」、石炭ハ四十噸デゴザイマス、歐羅巴ニ行キマス、今度ミタヤウニ「ロースビード」デ英國ニ於テ石
 炭ガ高クナレバ「エコノミー」ト云フコトハ甚ダ大事ナ問題ニナル、リバブルノ名高イ船主ノ言ツタ如ク、船ト
 云フモノハドウシテモ三年目ニ賣ラヌトイケナイ、ソレハナゼカト云フト、「ロイド」ノ「スペシアル、サーヴエー」

ノ來ル前ニ賣ラヌト本當ノ利益ガ無イト云ツタ、是ハ益田孝サンガ私ニ話シタ、サウ云フヤウナモノデ古イモノハ田舎ヘ行ク、マア日本ハ田舎ト思ヘバイザ知ラズ、今日ハ日本ハ名ダケデモ一等國ヂヤカラ、是ハ心配ニナル軍事ノ方ハ一等國デアツテ三等國デハナイトシテモ十箇年デ船ヲ賣ツタ方ガ大會社ノ方針ニ適ヒマスカラ、私ハ十五年說ニ賛成デアル、又航海獎勵金ト云フモノ、應用モ私ハ間違ツテ居リハシナイカト思ヒマス、是ハ先キ程中里大佐ノ言ハレタ通り南遣支隊ハ非常ニ「スピード」ニ付テ御困難デアルト言ハレマスガ、私ノ考ヘデハ海軍省ノ誤リデハナイカト思ヒマス、ナゼカト云フト、獎勵金ナドニ付テハ海軍省ト云フモノハ當然隊ヲ容レナケレバナラヌト思ヒマス。

獎勵會ナドノ出來タ趣意ト云フモノハ貿易ヲ發達サセル、時トシテハ軍事ノ爲メニ徵用セラレル、日本デ紙デ與ヘタ金ヲ外國ヘ行ツテ硬貨デ持ツテ歸ル財政ノ計畫モ斯ウ云フ關係デアル、今マデ海軍省デハ新造船ニ付テ造船獎勵金ハ單リ遞信省ノモノダト御考ニナツテ居ッタノガ御誤リデハナイカ、私共ハ當然軍事上ノ關係カラ海軍ハ陸軍ト共ニ此事ニ付テハ隊ヲ容レラレルノガ當前ダト思ヒマス、然ルニ先程御話シニヨルト今後ハ新造船ニ付テハ軍事上ノ關係カラ隊ヲ容レル、又特別ニ獎勵金ヲ與ヘル方法ヲ講ゼネバイカスト云フヤウナ御考ヲ御述ベニナリマシタガ、私ハ今日マデソレハナサルベキ筈デアツテ、今日遅クトモ是ガ出テ來タノハ誠ニ有難イコト、實ハ考ヘマス、今度日獨戰ニ於テ「デリック」短クテ閉口サレタト聞キマスガ、實際「デリック」ノ如キハ注意スベキモノト思フ、實ハ私ノ所デ大運丸ト云フ船ヲ造ツテ大變失策イタシマシタ、其時ノ目的ハ石炭ガ高クシテ唯無暗ニ「コール、コンサンブション」ノ量ノ少イノヲ好ンデ「エコノミー」ト云フコトデアリマシタ、其時ハ量ノ少イノヲ船主ガ好ンダ、ソコデ私ノ所デ所謂「エコノミー」デナクテ、石炭消費量ノ少イ船ヲ造ラウト云フ考ヘデ、無暗ニ「エンヂン」ヲ小サクシタノガ失策デアリマタ、然シ大運丸ノ「デリック」ハ十尺餘舷外ニ出テ荷物ノ積卸シニ便利ナル爲メ、荷物ヲ損セズシテ荷主モ満足シ、又軍事用ニモ石炭ノ積入レノ時ニ便利デアル、ソレ故ベラボウニ出スヨウニナリマシタガ、此「デリック」ノ短イコトハ日露戰爭ノ時分ニ鎮海灣ニ於テ石炭ヲ積入レルニ、矢張り今

日御話ノ通り其時ハ捕獲サレタ船舶ハ大變宜ク積ンダ、所ガ其以前日本ニアツタ古船ハ皆落第デアツタト云フ、是ハ造船獎勵金ヲ受ケルトカ、航海獎勵金ヲ受クルトカ云フ船ニ付テ、今後日本ハ今マデ船腹ガ殖ヘサヘスレバ喜ブト云フ外ニ實際軍事上ノ關係アル品物ニ付テハ能ク遞信省海軍省陸軍省ナドガ話ヲサレテ御決メニナツタナラバ船主ノ方モ喜ビ、有事ノ日ニハ必ず御用ニ立ツコトガアラウト思ヒマス、今日私ハ御話ヲ聽キニ來タノデ、決シテ郵船會社ノ御話ヲスルノデモナク、又中里サンノ御話ニ付テ海軍省ガ今マデホツチャラカシテ置カレタト思フコトヲ申上ゲル積リデハナカツタノデス、併シ動モスレバ獨逸ナドハ軍國主義ト申スカ知レマセヌガ、私ハ先キホドノ中里サント同ジ說デアリマス、一カラ十マデ軍國主義デハナイガ、動モスルト日本ノヤリ方ハ往々平和ノコトバカリデアツテ、戰爭ノ事ヲ考ヘテ居ナイト云フコトガアラウト思ヒマス、治ニ居テ亂ヲ忘レズト云フコトハ古イ教ノ言葉デアリマスガ動モスレバ其考ヘガナイ、私ナドノ工場ハ民間ノ工場デ、有事ノ日ニハ海軍ノ御用ヲ勤メネバナラヌノデアリマスガ、軍艦新造ノ經驗ナキ職工ヲ軍艦ノ中ニ連レテ行ツテ見テモ、ドツチガ艦デアルカ、ドツチガ頭デアルカ分ラヌ、此ハ此機會ニ於テ中里サンニ御願ヒスルコトハ甚ダ脱線モ走ヲ掛ケタモノカ知ラスガ、亞米利加ナドノヤウニ民間ノ工業ヲ獎勵スルト云フ考ヘデ「タンクスチーマー」ノ如キハ其船ヲ造ツタ經驗アル私ノ同業者ノ三菱ナドニ御註文ニナツテハ如何ナモノデアラウカ、ドウカ己レノ所ノ工場ヲ如何セント云フ議論ニ依ラズ、今ノ杉谷君ノ說デハナイガ、成ルベク専門家ノ所ニ其船ヲ御註文ニナツタラ從ツテ有事ノ日ニハ御用ニ立ツヤウニナリハシナイカ、動モスレバ己レノ所ノ工場ヲ如何ニセント云フ議論ガアリガチノモノデ、實ニ割據論ガ多イ、是ハ總テノ御都合上出ルモノデ、私共門外漢ハドウ斯ウスルト云フ譯ニイキマセヌガ、分業論ガ出レバ私ハ賛成スルガ併シ一カラ十マデ賛成スルコトハ出來マセヌ、即チ今ノヤウナ鉛ノ這入ツタヤウナ窓ノ框ノ所……私ノ友人ガ言フ、餘リ白イカラチヨット「ハンマー」ノ小サイノデ叩イタラチャント割レテ仕舞ツタ、詰リ「コツパー」ニ鉛ヲ入レ過ギタ、サウ云フ譯デ資本ノ少イ此貧乏國ニ於テハ分業ガ十分發展スルマデ信ヲ置イテ依頼スルマデニハナカカ〜到リマセヌ、現ニ私ノ所デハサウデアリマス、同業者ノ先輩デアル三菱ニ

於テモ其通り、第一ニ人ガイカヌノデアリマス、ソレハ造船事業デ言ヘバ一番ムツカシイノハ鑄物デアリマスガ鑄物ニ精シイ人ハ實ニ僅デアリマス、此點カラ見マスト鑄物バカリシテ居レバ宜イ、今日鑄物ヲシテ又明日他ノ仕事ヲサセルヤウナ譯デナク、仕事ヲ専門ニスルト云フヨリハ人間ヲ専門的ニ造ルト云フコトニナレバ、又造船事業ノ發展ノ一原因トナルト思ヒマス、脱線ニ脱線ヲ加ヘマシテ、今日申シタコトハ甚ダケシカラヌト云ハレタラ恐縮デゴザイマスガ、脱線話ト御考クダサレテ御免ヲ蒙リマス。(拍手)

附記

時間ガナクシテ御話シスルコトガ出来マセデシタガ、今岡サンナドノ結論ノ一ツニ將來ノ「エクスベリメンタル、タンク」ヲ設クルコトガアリマシタガ、之ハ考物ダラウト思ヒマス、現ニ米國ノフオール、リバー造船所デ輕裝巡洋艦建造ノ節、ワシントンヤデニーヤ獨逸ノバルカン造船所ノ「エクスベリメンタル、タンク」デ研究計畫シタル「スクリユー」ヨリモ、同所ノ技師長「エドワード」ト云フ人ガ「エクスベリメンタル、タンク」ナシデ「デザイン」シタ「スクリユー」ガ最良結果ヲ得タト云フ事ヲ聞キマス、又其例ハ外ニモ數多アルト聞キマスガ、「エクスベリメンタル、タンク」ノ成績ヲ實地ニ出現スルト云フ事ハ、名高キ前ノ三ヶ所ノ造船所デモ左様デアリマスカラ、其ノ他ノ新ラシキ所ニテハ餘程考ヘモノト思ヒマス、御參考迄ニ附記シマス。

所謂社外船主ノ地位ト新造船ニ對スル感想

岡崎忠雄君

私ハヨク世間ノ問題ニナリマスル「トランブスチーマーオーナー」デ、謂ハユル社外船主ノ一人デアリマシテ、今度御調査ニナリツツアルコトモドウスレバ専ラ我々ニ廉イ船ヲ供給スルコトガ出来ルカト云フ御親切ナル御調査デアルト感謝致シテ居マス、付キマシテハ之ヲ註文スル私達ノ考ヘト云フモノヲ申上グルコトモ又何カノ御參考ニナルコトデアラウト思ヒマス、若シ時間ガアリマスレバ、實ハ私自身ガ豫テ考ヘテ居リマスコトヲ少シ詳シク申上

ダタイト思ツテ居リマシタケレドモ、先刻座長カラ十五分ト云フ要求ガアリマシタノデ、到底委シク申上ゲルコトハ出來スト思ヒマス。

私ハ先ツ單簡ニ貨物船ヲ使用スル目的カラ御話シ申シタラ貨物船ヲ持ツテ居ル私達ノ根柢ガ能ク分ツテ宜カラウト思ヒマス、貨物船ノ經營ト云フコトノ論ニナリマス、或ハ多岐ニ亘ルカモ分リマセヌガ、要領ヲ申スト貨物船ヲ經營イタシマス方法ハ大約三ツアラウト思ヒマス、第一ニ定航、定航ト申スト御分リナラヌカ知レマセヌガ、貨物船ガ或一ツノ「ライン」ヲ有ツテ居ル、其「ライン」タルヤ「メールサービス」ノヤウニ日ヲ決メテヤラナイ、「ライン」ノ上ヲ略々一定シタ期間ニ於テ走ツテ居ル、私ノ方ノ西廻定航ハソレデアル、日本ノ定航船ハ皆補助ガ付イテ居ル、補助ト云フモノハ要スルニ郵便ノ輸送ガ條件デアル爲ニ矢張り「メールサービス」ニナツテ居リマス、貨物本位ノ「サービス」ニハ郵便ノ輸送ガアリマセンガ故ニ確定的ニ何日何時ニ出帆ト云フ様ナ定期ノ必要ガナイ、タゞ略一週一回トカ十日ニ一回位ノ割合ニ其線ノ上ヲ航走スレバ宜敷ノデアリマス、此經營方法ハ外國ニハ澤山例ガアリマスガ日本ニハ其實例甚ダ稀デアリマス、私ハ脫線カ知レマセヌガ、南洋郵船ノ如キ、郵便ヤ客等ハ我國ヨリ瓜哇ニ至ルニハ數多キ歐洲線デ新嘉坡ニ至リ其處デ「トランシツプ」スル方ガ早く且ツ便利デアルカラ寧ろ貨物本位ノ定航船ニシタラ宜カラウト思フノデアリマス。其經營方法ヲ探ル場合ニハ貨物船ノ新造ハ甚ダ出來易イ恐ラク唯今松方サンノ御話ハ此「フレーターサービス」デアル、詰リ一ツノ「ライン」ヲ有ツテ居ツテ良イ荷物デ高イ運賃ヲ得ラレル、重モニ「コンファレンス」ニ這入ル船デアル、此種ニ使ハレタ船ハ我國ニ澤山輸入サレテ居リマスカラ其發達改善ノ跡ガヨク解リマス例ヲ以テ申シマスレバ英國青筒線ノ如キモノデ千八百八十年代漢口ノ茶ヤ印度ノ香料ガ貴重品デアツタ時分ハ二千噸型デアツタガ、今ハ壹萬噸級ノ船ニナツタト云フ經路デ見テモ明デアリマス。

第二ニハ運ブベキ荷物ノ性質カラ來タ經營ノ方法デ、詰リ石炭ヲ持ツテ居ル人ハ石炭ヲ運ブ特別ノ船ヲ捨ヘル、材木ヲ持ツテ居ル人ハ材木ヲ運ブ特別船ヲ捨ヘル、鑛石ヲ持ツテ居ル人ハ鑛石ヲ運ブ特別ノ船ヲ捨ヘル、或ハ一フ

ルーツ」ヲ運ビ、或ハ家畜ヲ運ビ又ハ「フロズンミート」ヲ運ブ船ヲ捨ヘテ其目的ニ使用スルノデアル、此經營方法ニ使用サル、貨物船ノ新造ハラクデアル、ト云フノハ一定ノ運賃ヲ割當テルニ船價ノ上カラ計算スルニ容易デアルカラデアリマス。

所ガ第三經營方法デアル「トランパー」ニナルト、是レハ面倒デアル、ナゼ面倒デアルカト云フト、第一番ニドウ云フ風ナ船ヲ捨ヘテ使用スルカト云フ問題デアル、「トランパー」デアレバ一定ノ目的ガ無い、或ハ石炭ヲ運バナケレバナラス、材木ヲ運バナケレバナラスト云フコトガアリマセウ、或ハ豆ヲ運ビ、或ハ小麦ヲ運ビ、或ハ砂糖ヲ運バナケレバナラス、ソレデ石炭トカ材木トカ云フモノハ「シングルデツカー」ガ便利デアルケレドモ、其他ノ豆粕トカ米、砂糖等ハ「ツキンデツカー」ガ宜イ、物ニ依ツテ「スリーデツカー」ガ宜イコトガアリマス、最モ使ヒ途ノ多イ船ヲ捨ヘタイノガ「トランプオーナー」ノ一番苦心スル所デアリマス、第二番目ニハ「フレート」ノ「フラクチュエション」ガ多イ爲ニ利廻リノ計算ガ甚ダ困難デアル、投資セントスル動機ヲ非常ニ阻害スルモノデアル、サウ云フ風ナモノデアツテ謂ハユル社外船主ハ貨物船經營法第三番目ノ非常ニムヅカシイ位置ニ立ツテ居ル、今日マデ我々が世間カラ古船ヲ買フト非常ナ攻撃ヲ受ケテ居ツタニ拘ラズ、今日猶中古船ヲ買フノハ是ハ船主ノ罪デナイ、否今日海運ノ發達ハ私ドモニ向ツテ國家カラ感謝シテ戴カナケレバナラスト斷言スルニ憚カラス、ト云フノハ日本ノ經濟界ガ今マデサウ云フコトニ放資スル程度ニ達シテ居ラス、例ヘバ日本ハ一等國デアルト申シマス、然ルニ汽車ヲ御覽ナサイ速力ノ點カラ云フテモ輸送力ノ點カラ云フテモ廣軌ガ優秀デアルニ係ラズ尙ホ狹軌鐵道デ甘ンゼネバナラス、又一般交通機關カラ云フテモ自働車ノ利益デアルニ係ラズ道路ノ惡イ間之レガ使用ガ充分ナラズ殊ニ日本デハ自働車ハ一種ノ贅澤物デアルカノ如ク見做サレテ居ル貧弱ナル現在過去ノ經濟狀態ニ於テ獨船ノミヲ「アツブ、ツイ、デート」ノ船ニスルト云フコトハ餘ホド困難デアル、詰リ古船デ自然のニ今日ノ境遇マデ漕ギ着ケタト云フノデアアル、我々ハ一個ノ「エコノミックマン」デアル故ニ經濟ヲ離レテ理論ニ生キルコトハ出來ナイ、特別ニ何カ保護ガアレバ出來マスガ、自身ガ金ヲ投ジタ以上ハ自分ノ利廻リニ當ラヌケレバ出來ナイ、

私ドモガ幾ラ紙ノ上デドウモ日本船主ハイカスト言ハレテモ理論ハ兎ニ角實際デハ云フ人が無理デアアルノデアリマス、先刻日本ノ船舶ノ發展ハ不自然デ其内容ハ貧弱ト云フ御話デアリマスガ、是ハ尤モデアリマスケレドモ、サウ云フコトヲヤツテサウシテ自由競争ノ結果今日ニナツタ、日露戦争ニ御用船ヲ當ニ貧弱ナル船ガアレダケ殖エタ、戦後近海ノ運賃ガ下落シタ御互ニ引籠ツテ居テハ繫船ノ外ナイ、破産ノ外ハナイ、是デハ困ルト言ツテ我我ハ汗水垂ラシテ發展シタノハ南洋ノ開發デアアル、日露戦争ノ時ニ不自然ナガラモアレダケ船ヲ買ハナケレバ今日南洋ノ發展ハ出來ナイノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ船主自身ノ富ノ力デ無カッタノデアリマス、今デハ個人船主ト云フ中ニモ百萬以上ノ財産ノ者ガ随分澤山アリマスガ、兎ニ角今マデハ極僅デアリマス、ソレニ第一金融機關ノ制度ガアリマセヌ爲ニ船ニ對シテ金ヲ貸ス人が無イ、仕方ナク自分ノ「ポケット」カラ出サナケレバナラス、所ガ今デハ船主ノ富ガ大變殖エマシタノデ、今日デハ銀行ガ安心シテ五十萬デモ百萬デモ信用シテ金ヲ貸シテ呉レル、今マデハソノナコトハ無イ、金ヲ貸シテ呉レナイカラ船主自身ノ懐カラ出サナケレバナリマセンカラ新シイ船ガ宜イト思ツテモ手ノ出シヤウガナイノデアリマス、斯ウ云フコトモ御推察ヲ願ハナケレバナラス。ソレカラ又荷主ノ船ニ對スル態度ハドウカト云フト、外國人ハ先ヅアナタノ船ハ何年ノ船デアリマスカト云フ問題ガ起ル、所ガ日本デハ三千噸積ムトカ或ハ四千噸積ムトカ云フクラキナコトデ船齡ニ餘リ重キヲ置ナイ、船主ガ良イ船ヲ持ツテ居テモ惡イ船ヲ持ツテ居テモ運賃ノ上ノ計算ハ大シテ違ハナイコトガアル、僅ニ横濱ノ石炭荷役ノ時餘リ荷役ノ仕ヨクナイ船ニ人夫賃ノ割増シヲ出スコトガアル位デアリマス、詰リ經濟上ノ感ジガ左程迄「シリマス」デナイノデアリマス、東洋近海ニ於テハソレデ宜シウゴザイマスガ、今日ハ幸ヒ世界ノ戰亂ニ依ツテ刺戟サレテ日本ノ船ガ遠ク歐米ニ行キマシタ結果、新シイ船ガ非常ニ宜イト云フコトハ段々頭ノ中ニ浮ンデ來タノミナラズ、船主ソレ自身ノ懐ガ豊ニナツタ爲ニ新造船ヲ捨ヘル氣運ノ熟シタコトハ疑ヒナイ、私ハマダ新造シテ居リマセヌカラ斯ウ云フコトヲ申ス資格ガ無イカ分リマセヌガ、私ノ知ツテ居ル或人ニ相當年齢ノ船ヲ買ツタラドウカト言ツタ者ガアルカラ、自分ハ是ダケニナツタカラ何時迄モ古船ハ面白クナイ新シイ船ヲ造ルノダト言ツ

タト云フコトデアリマスガ、此言葉ハ船主社會ノ意思ヲ現ハシテ大ニ味ガアルノデアリマス、今日マデハ貧乏デアツタカラ古船デ辛抱シテ居ツタ、今日ハ富力ガ出來タカラ新シイ船ニ替ヘルト云フ氣運ニ向イタト云ハナケレバナリマセン此點カラシテ私ハ幸ニ造船家ノ方々ガ新造船ヲ廉ク「エコノミカル」ニ拵ヘテヤルト云フコトノ御攷究ヲ得マスコトハ大ニ時機ニ適シタル企デアルト申上タク同時ニ半面ニ於テ船主自身ノ新造船ニ對スル慾望ガ殖エテ來タノデアリマスカラ、今後ノ造船ト云フコトモ大分今マデト違ツテ來ルコトト思ヒマス。序ニ其「エコノミカル」ノ程度ニ付テ「スピード」ノ問題デアリマスガ、是ニハ種々説モアリマセウ、私ドモハ之ニ對シテ多少「スピード」ガ殖エツツアルト云フコトハ承知シテ居リマス、又之レニ付キマシテモ多少説モ持テ居リマスガ、是ハ唯今申上ゲマセヌ。之レヲ要シマスニ我々船主ガ新造セズシテ古船ヲ買ツテ居リマシタト云フコトハ、今日マデノ状態ニ於テ、何モ保護ガ無い、自分デヤツテ行カナケレバナラス、事情ノ下ニ於テ船主トシテ已ムヲ得ザル状態デアルト云フコトヲ御觀察願ハナケレバナラント申上ゲル次第デアリマス。

ソレカラ今度愈々新シイ船ヲ拵ヘルコトニナツタ、ソレデハ遠ク出デ外國船ト競争シテドレダケ日本人ガ他ニ發展シ得ルカト云フコトヲ極簡單ニ申上ゲテ見タイノデアリマス、是ハ製造ト云フ上デハアリマセヌ、船主トシテ申シマスノデ、船主ノ心理状態ヲ研究スルコトモ多少何カノ御參考ニナルト思ツテ申上ゲマスガ、外國船ト競争スル上ニ付テ日本船主ノ缺點ハ第一番ニ於テ世界の知識ノ足ラナイコト、之ニハ私ナドモ汗顔ノ至リニ堪エマセヌガ、是ハ我々研究シテ其足ラザルヲ補フト致シマシテ、一番先キニ起ル問題ハ日本船デアアル故ニ嫌ハレルト云フコトハ免カレナイ、詰リ日本ト西洋トハ其習慣ト云フモノガ違ヒマスカラ、成ルタケナラバ同ジ船デモ諾威船ヲ使フ、ソレハ自分ノ生活状態ガ似テ居ルカラ使ツテ日本船ハ後廻ハシニナリマス。

ソレカラ其次乗組員ノ問題デアリマスガ、我海員ノ勞働效程ノ外國人ニ比シテ見劣リノスルコトハ如何ニシテモ残念デアリマス事實デアルカラ致方ガナイ、之レハ一般勞働者ノ「エフキエンシー」問題ト共ニ御研究ヲ願ハナケレバナリマセン。次ニドウモ日本船ハ水ガ多ク入ル、今マデ「ツラブル」ガ起ルノハ日本船ガ水ヲ餘計持ツテ行

クカラデアアル、水ヲ餘計持ツテ行ク爲ニ「デットウエート」ナリ「スベイス」ニ關係ガアル、近頃一噸八十志ト言ツテ居ル時ニ日本人ハ餘計ニ水ヲ持ツテ行ツテ水ヲ多ク使フ爲ニ夫レ丈ケ荷物ガ積メナイト云フ苦情デアリマス、其實例ヲ申シマスト大分以前デアリマスガ愛國丸ト記憶イタシマスガ、濠洲へ「チャーター」致サレマシタ時ニ五百何十噸ノ水ヲ持ツテ行ツテ「ツラブル」ヲ起シテ運賃ヲ差引レタト云フコトガアリマス、ソレカラ第三番ハ食料ノ點デアリマス、ソレハ日本人ハ米ヲ食ヒマス、ソレデ米トカ或ハ漬物トカ云フモノハ割合ニ多ク持ツテ行キマス東洋近海ニ於テハサウ云フモノハ廉イノデアリマスガ、歐羅巴トカ亞米利加ニ行ク場合ハ一種ノ貴重品ニナル、向フデハ一種ノ舶來品トシテ非常ニ高ク付クノデアリマス、ソレデ私ハ寧ロ英吉利ノヤウニ「スチアード」ハ「サ―チフケート」ヲ有スルモノニシナケレバイカスト思フノデ、若シ此食料問題ヲ解決シタラ日本ノ船舶ニ付テ餘ホド利益デアラウカト考ヘテ居リマス。

ソレカラモウ一ツハ海外ニ行ツタ時分ニ日本ノ領事館ガ甚ダ不親切デアルト云フコトハ我々苦痛トスル所デアリマス、殊ニ遠方ニ行ク迄モアリマセヌ、上海アタリデモ大ニ此苦情ガアルノデアリマス、日本船ト外國船ト「ツラブル」ガ起ツテモ日本船ガ勝ツタコトハ無い、兎角ニ外國ニ對シテ日本領事ノ態度ガ事ナカレ主義デ、マアソシナニ喧マシク言ツテハ困ルト抑ヘ付ケル主義ガ明カニアル、私ハ多クノ實例ヲ知ツテ居リマス。要スルニサウ云フ風ナ缺點ガアリマスカラ、今後ハ船主トシテ新造船ヲ拵ヘテ戴クトシテモ此點ヲ互ニ研究シテ此障碍ヲ除キタイト思ヒマス。

ソレカラ此ハ聊問題ガ違ヒマスガ今度新タニ出來タ政府ノ戰時保險、是ハ此中ニ這入ルヤウデアリマスカラ申上ゲマス、日本ノ船舶ヲ保護スル爲ニ拵ヘタモノデアルカ、或ハ貿易ヲ保護スル爲ニ拵ヘタモノデアルカ、私ハソコニ疑ヲ有ツテ居ル、若シ是ガ日本船舶ヲ充分ニ保護スル爲メデアツタナラバ日本船ガ外國人ニ「チャーター」サレタ場合ハ均シク保護ノ恩典ニ浴サナケレバナラス、ソレガ日本人ノ荷物ヲ積マナケレバナラヌト云フ局限ガアル爲ニ日本船ハ海外ノ發展ニ困ツテ居ル、甚ダオカシイノハ、我船舶ガ東洋カラ歐羅巴ニ米ヲ積ンデ行クノニ全

船腹ヲ外國人ガ「チャーター」シテ居ルニ拘ラズ其中ノ十噸二十噸ヲ日本人ノ船長ノ名義ニシテ置ク即チ假裝スルノデアアル甚ダオカシナ話デアリマス、ナゼナラバ、サウシナケレバ此船ハ日本政府ノ規定シタル戰時保險ノ保護ヲ受ケルコトガ出來ナイ、則チ日本政府ノ戰時保險ノ條件ニ適スル爲ニ日本人ノ荷物ヲモ輸送スルト云フコトカラシテ日本人船長ノ名義ニシテ置クト云フノデアアル、是ハ實際デアリマス、又「カージフ」カラ石炭ヲ積ンデ歸ル時ニ矢張前述ト同様一部分ヲ日本船長ノ名前ニシナケレバナラヌノデアリマス、ソレハマダ出來ルカラ宜イガ、外國人ニ船ヲ月極貸シタ場合ニハ絶對出來ナイ、ソレデ日本人ガ外國人ノ船ヲ月極貸ヲ致シタ時分ハ自分ノ責任デ戰鬪區域ニ入ラナケレバナラヌカ又ハ倫敦デ不馴ナ保險ヲ附ケルカ、サウデナケレバ借手ノ方デ運賃ヲ廉クスル、此三ツニ出テナケレバナラヌ、實ニ困マルノデアリマス。以上數項ニ亘リ申上ゲマシタ、我船舶海外發展ノ前ニ横ル障碍ヲ除去致シマスルコトニ就キマシテハ無論船主ソレ自身ガ研究ヲシナケレバナリマセヌガ、幸ニ造船協會アタリデ種々御研究ニ依ツテ我々ノ爲ニ「エコノミカル、ポート」ヲ拵ヘルコトノ問題ヲ御提供ニナツタ御親切ト共ニ是等ノ障碍ヲモ除ケルヤウニ共ニオ考下サツタナラバ船主ハ益々海外發展ニ力ヲ盡シ得ル、從ツテ新シイ船デ外國船トノ競争ガ出來ルヤウニナリマス、是ハ詰リ註文者ト云フ方ノ立場カラ申上ゲマシタ感想デアリマシテ、是等ノコトハ私ノ極僅カナ知識ト短イ間ノ經驗ニ依ツタコトデアリマス、委シク申上ゲタイノデアリマスケレドモ、實ハ餘リ時間ヲ長クシテハ只今ノ御制限ニ反スルト思ツテ極メテ急行的ニヤリマシテ、意ノ盡キヌ所ハ誠ニ残念デゴザイマスガ、取敢ヘズ極簡單ニ順序不同デ定メテ御分リニナラヌ所ガアラウト思ヒマスガ、何分宜シク……(拍手)

市 村 富 久 君

私ノ如キ素人ガ造船問題ニ口ヲ出スコトハ甚ダ潜越ノ次第デ且脱線ト申スベキモノデアリマスガ海運業造船業ノ發達センコトハ私共モ切望スル處デアアルノミナラズ海運經濟問題ハ私ノ專攻科目タル海商法ノ基礎ヲ爲スモノデ

アリマスカラ其等ノ關係ヨリシテ平生思フテ居ルコトヲ一筆書キ位ニ申上ゲ萬一何等カノ御役ニ立ツタナラバ幸ト考フル次第デアリマス、海商法專攻ト申シマシテモ別段深く研究シテ居ル譯デモアリマセンガ併シ現今ノ法律ニ付テハ不滿ノ點モアリマスカラ先ヅ其方カラ述ベタイト思ヒマス。

第一ニ先刻松方サンカラ實用的ニ手ツ取早クヤル利益ヲ御話アリマシタガ私ハ今日ノ法律ニ對シテモ松方サンノ御批評同様ノコトヲ云ヒ度イ點ガ多々アルト思ヒマス、法律ヲ作ルニ當ツテ外國ノ立法例ヲ參考スルノハ結構デスケレドモ單純ナル比較法學ハ殆ンド無意味デアリマス、外國法ヲ參照スルハ結構デスガ、法律ノ背後ニ存在スル經濟關係ト法律トノ關係ヲモ見ズシテ單純ニ法ノ形ノミノ可否ヲ論ジマスルトキハ動モスレバ多數立法例即數十年前ノ法律ノ倣倣ニ終ツタリ、是等ノ規則ノ上ニ立テラレタル學說ニ拘泥シテ經濟上ノ利益ハソツチ除ケニシテ、ヤレ何主義ガ可ナリトカ彼主義ガ論理一貫ストカ云フ様ナ空論ニ耽リ結局ハ所謂「船頭多クシテ船山ニ登ル」デ法律ノ規則ト經濟トハ大衝突ヲ來スニ至ルコトガアリマス、此ノ如キ弊害ハ少クトモ海商法ノ範圍ニ於テハ我國ノ立法上ニ之アリト信ズルノデアリマス、所謂法理論ナドノ内ニハ偶然ニ出來タ規定ノ上ニ表ハレタ波紋ノ如キモノモアリマス、波紋ノ如キモノ自然科學上ノ現象トシテ試驗水槽ニ於ケル「レヂスタンス」ノ研究ノ對象トモナリマシヨ一ガ法律ノ規定ノ上ニ表ハレタル波紋ハ往々ニシテ自然的現象トイハンヨリハ却テ規則ノ用文構造ノ拙ナリシニ由テ生ズル偶然ノ一般的デナイモノモアリマスルカラ商事ノ如キ日進月歩ノ事柄ニ關スル商法ノ如キモノハ單ニ論理上ノ批評ニ止マラズシテ一足飛ビニ直チニ現在ノ社會ノ實狀ニ適スルヤ否ヤニヨリテ可否ヲ批評スル必要ガアルト思ヒマス、故ニ海商法ノ如キモノニ付テハ私ハ海運業ノ實際ニ當ル人ガ現行法ノ非實用的ナル點即缺點ヲ指摘シテ其改正ヲ促スコトニ努力スル方ガ宜カローカト思ヒマス、私ノ議論ハ或種ノ法律家カラ見レバ殆ンド破壊ノ說デアルト批評スル者モアローシ又退化論デアルトイフ者モアリマシヨ一、ケレドモ商法ヲ論ズルニ當ツテ商業經濟ヲソツチ除ケニスル理由ハ何ウシテモ無イト思ヒマス、然ラバ商法ヲ説明スルニ當ツテ經濟的基礎ニ立脚シテ説明スル者ガアルカ、海商法ヲ說クニ海運經濟ヨリ出發スル者ガアルカト云ヘバ殆ンド斯ノ

如キ人ハ無イノデアリマス、日本デ商法ノ議論ナドヲ致シマスト所謂學者ハヤレ佛國商法第何條ニ何ウトカ獨逸商法第何條ニ斯ウトカ云フテ説キマスガ佛國商法ハ文化三年頃獨逸商法トテモ文久時代何レモ海運事情ノ大分今日ト異ツタ時代ノ產物デアリマス、是等ノ材料ノ上ニ立ツタ學說ハ無用デハアリマセンガ如何ニ進歩スルトシテモ其ノ價值モ大抵知ルベキノミデアリマスカラ私ハモウ少シイ材料ノ上ニ立脚シテ日本ノ海商法ヲ革新スル必要ガアロト思ヒマス、今一例トシテ船主責任問題ニ付テ現狀ヲ申シマスト今日ノ現行法デハ船主ハ決シテ安心シテ事業ハ出來ヌノデアリマス、不經濟極ルノデアリマス、若シ他人ノ船舶トノ衝突事件デモ起リ相手船デモ沈没スル如キ事ガ出來スルト其損害ノ程度大ナル場合ニハ船主ハ自船ノ方ノ處置ノ善惡ニ拘ラズ多クノ場合ニハ其衝突シタ船ヲシテ立往生ヲ爲サシメネバナラヌノデアリマス、之ハ多數立法例ニ從テ佛國法ニ倣ツタ結果デアリマスガ經濟眼ヨリ見たナラバ何トモ御話ニナラヌ次第デアリマス、併シ立往生ノ實例ハ正ニアルノデアリマシテ此席ニテ只今御話ヲセラレマシタ岡崎サンナドモ苦キ經驗ヲ嘗メラレタコトガアツタ様ニ思ヒマスルノミナラズ、現在立往生ヲ爲シツ、アル船モアリ、又タ立往生ヲ爲セナカツタ爲メ船主ハ困ツタ立場ニ立到ツテ居ルノモアリマス、此點ニ付テハ獨逸商法ヲ採用シテモ立往生ノ憂ハ無クナルデアリマシヨウ、ケレドモ若シ英國法ニデモ倣ツタナラバ船主ハ一層安心シテ事業ニ當リ得ルト思フノデアリマス、私ガ船主責任問題ニ付テ英國ノ主義ニ贊成スルノハ畢竟保險ノ方法ニヨリテ萬一ノ憂ニ備ユルノ途ガ十分ニ立ツテ居ルカラデアリマス。只今保險ト申シマシタガ私ハ商法ノ基礎トシテハ極廣イ意味デ保險的思想トイフコトハ極大事ナコト、思フノデアリマス、商法ノ基礎トシテハ着實ナル經營法ニ重キヲ置ク必要ガアリ、着實ナル經營方法トシテハ萬一ノ危險ニ備ユルコトハ極ク必要ト考フルノデアリマス、商事上ノ損失ニモ種々アリマシヨウガ或ハ船舶ノ衝突ニ於ケル例ノ如ク其發生ト否トハ一寸シタ偶然ノ事ニ懸リ又タ其發生スルヤ否ヤスラ分ラヌ即不確定ナルニ拘ラズ、イザ發生シタトイフ場合ニハ其害甚ダ多クシテ營業ノ基礎スラ動カス様ナ傾向アルモノモアリマス、斯ノ如キ損害ノ如キハ成ルベク經常ノ費用ヲ以テ濟シ崩シノ出來ル様ニ致シタイノデアリマシテ、ツマリ不確定ナル大損害ヲ確定的經常支出ニ轉

化セシムトイフ保險的思想ハ商事經營上最モ必要ナコトト思ヒマス、斯ウイフ點ニ着目シテ商法ヲ作ルコトハ最モ必要デアリマスガ前述船主責任問題ニ於ケル現行法ノ如キハ此點ヨリ見ルト甚ダ不充分デアリマシテ、又タ其不充分ナル點ハ獨リ船主責任問題ノミデハナイノデアリマス、造船業發達ノ爲メニハ私ハ右述ブル如キ商法中甚ダ「トラブル」多キ規定ノ改正ヲナスコトガ最モ必要ト思フノデアリマス、餘リ時間モアリマセンカラ他ノ商法問題ハ略シマシテ商法改正ニ次デ第二ニ申述ベタキコトハ、コレハ自分ガ經驗ノナイコトデ單ニ讀書ノ際感ジタコトデアリマスガ、英國ノ書物ヲ見マスト此國ニ於テハ「コンマーシャル、インテリヂェンス」トイフモノニハ古來非常ニ力ヲ盡シテ居ル様ニ思ハレマス、此コトハ海上保險ノ發達ヲ謀ルコトニモ密接ナル關係ガアリマシテ私ハ此ノ「コンマーシャル、インテリヂェンス」ノ改善トイフコトハ貿易海運海上保險ノ何レノ發達ノ爲メニモ必要ト考ヘマス、通信施設トイヒマシテモ通信省ガ作ツテ居ル電信トカ電話トカイフ如キモノノ機械ノ精巧ナルヲ得レバ足ルトイフノデハナクツテ實際其ノ機械ニヨツテ通報セラルル事柄ノ内容ヲ改良シ且ツ其ノ發信ヲ廣ク且迅速適切ニスル必要ガアルトイフノデアリマス。

次ニ申述ベタキハ「シツピング、エキステエンヂ」ノコトデアリマス、此ノ設備モ我國ニハ極メテ必要ト思ツテ居リ且ツ此處ニ御出デノ島田君カラ漢堡ニ於ケル「ベルセ」ノコトナド伺ヒマシテ一層其ノ必要ヲ感ズルノデアリマス、而テ如何ニシテ「シツピング、エキステエンヂ」ヲ作ルカハ其方法カラシテ研究ノ必要ガアロト思ヒマス。最後ニ申述ベタキハ保險市場設立ノ必要デアリマス、若シ保險ノ市場モ出來「シツピング、エキステエンヂ」モアリ通信施設モ改良セラレ商法モ改メラレタナラバ銀行業者ニ於テモ船舶ニ對シテ一層安ンジテ放資スルコトモ出來新造船ノ獎勵ニモ成ルダローカト思ヒマス、勿論銀行家ノ放資ヲ促スニハ銀行家自身ノ海事思想ノ發達ヲ謀ル必要ガアリマスガ海事思想ノ發達方法ハ保險發達ノ問題トモ密接ノ關係ガアリマスカラ此點ニ付テ次ニ聊カ述べ度イト思ヒマス。

日本ニ海上保險ノ市場ヲ作ルコトハ甚ダ必要ト思ヒマスガ此事業ハ實ニ容易ナラザル大事業ト思ヒマス、市場ヲ

作ルトイフテモ世界海上保險ノ中心タル「ロンドン」ノ「マーケット」ヲ奪ハウトイフ如キコトハ出來ナイ相談デア
リマシテ私ノ申ス處ロモ斯カル大規模ノコトヲ云フノデハナイノデス、併シ日本ニ於ケル海上保險ニ付キテハ日
本ノ保險者ノ仕事ノ効率ヲ更ニ大ナラシメ、船一隻及其船積荷位ノコトハ容易ク日本ノ保險者ニシテ消化シ得ル
如クシ度イノデアリマシテ此レヲ致シマスルニ付テハ先立ツモノハ金デス、併シ金バカリデ保險ハ出來ヌノデア
リマシテ私ハ海上保險ノ發達ニハ保險技術ノ發達ガ非常ナ影響ヲ有スルモノト思フノデアリマス、保險技術者「ア
ンダーライター」ノ良イノガ輩出スレバ海上保險ノ資金ノ供給ノ方ハ割合ニ容易トカト思フノデアリマシテ私ハ
日本ノ海上保險發達策トシテハ技術者養成ガ最モ急デアルト考ヘマス、目下ノ處デモ極少數ノ技術者モアリマス
ガ私ハ此等ノ人々ハ或意味ニ於テハ國寶トイフテヨイト思フノデアリマス、其人物養成ノ策トシテハ今日ノ處デ
ハ保險ハ法人デナクテハ出來ヌ事トナツテ居リマスケレドモ私ハ個人保險ヲ許スガ最モ善イカト思ヒマス、株式
取引所ガ出來テ有價證券ノ金融力ノ増加スルコトハ誰モ知ツテ居ル處デアアルガ其株式ノ仲買人ノ如キ所謂株屋ナ
ドニハ——私ハ株ノコトハ善ク知りマセンガ——素養トイツテモ別段ニエライ學校教育ナドモ受ケテ居ラズトモ
株屋トナツテカラ餘リ多クノ歲月ヲ費サズシテ株式金融等ノコトニ付テハ精通シ非常ナル特殊智識ヲ有スルニ至
ル者ガアルト思ヒマス、其原因ハ株ノ一錢一厘ノ騰落ガ忽チ自分ノ懷中ニ影響スルカラデアロト思フノデアリ
マス、實物教訓ト眞劍勝負デ鍊エルコトハ特殊技術者ノ良イ者ヲ比較的迅速ニ作ル所以デアリマシテ又此方法ガ
開ケタナラ海事思想モ利害關係上自然ニ迅速ニ普及發達スルト思フノデアリマス、今日海上保險技術者モ無イデ
ハアリマセンガ極メテ少イノデアリマス、人間ノ事デスカラ何時如何ナル變ガ其人ニ起ラヌトモ限ラナイノデ考
ヘテ見レバ我國ノ貿易海運ノ上ニハ心細イ次第デアリマス、保險ヲ個人ニ許スコトハ一方ニハ大ナル弊害モアリ
マシヨウガ利ト害トヲ比較シタナラバ利ノ方が多クハナイカト思フノデアリマス併シ是レハ日本ニ保險ノ「マー
ケット」否ナ殆ンド副中心トモイフベキモノヲ作ルニ付テノ自分ノ考ダケデアリマシテ其考ノ當否トイフコトト
保險市場建設ノ必要トイフコトハ自ラ別問題デアリマス、私ハ如何ナル方法ヲ以テ此市場ヲ作ル可キヤノ策ハ官

民共同シテ大ニ研究セネバナラスコトト思フノデアリマシテ敢テ私ノ個人保險策ヲ最上策ナリト斷言スル程ニ研究シテ居ルノデアリマセン只ダ必要ヲ説テ策ヲ説カヌハ空論ニ涉ル嫌ガアリマスカラ愚案ヲ申述べタニ過ギマセン、孰レニ致セ「コンマーシヤル、インテリヂェンス」ノ方法ヲ改良シ「シッピング」海上保險等ノ市場ノ様ナモノガ出來マシタナラバ抵當流レノ處分モ容易トナリ新造船ニ對スル放資ノ道モ比較的容易トナリ海運造船ノ事業モ進歩スルデアロカト思フノデアリマス。

渡邊行太郎君

チヨット申上ゲマス、私ハ今岡博士ノ御指導ヲ仰ギマシテ本講演ノ一部ノ調査ニ從事イタジタ者デゴザイマス、本講演ノ結果トシテ本夕ノ如キ斯界ニ優レタ各位ノ御高説ヲ拜聽スルノ榮ヲ得マシタノハ誠ニ仕合セト存ジマス、既ニ本問題ニ付テハ今岡博士カラ縷々述ベラレタ通りデアリマシテ、後輩ノ私ドモガコレ以上何モ申上ゲルコトハ無いノデアリマスガ、唯本夕皆サンノ御高見ヲ拜聽シマシタニ付テ御禮旁々思ヒ付ヒタ儘ヲ申上ゲタイト存ジマス、郵船會社ノ寺島サンカラ種々海運界ノ消息ニ付キ御商賣柄委シイ専門的御觀察ヲ拜聽スルコトガ出來マシテ、私ドモ多々利益ヲ得マシタコトヲ偏ニ感謝スル次第デアリマス、同氏ノ如キ海運界ノ「オーソリチー」タル方ガ造船ノ發達ト云フコトニ付テ一面ヨリ十分御盡力ヲ仰グコトヲ御願ヒ致シタイト思ヒマス、唯同氏ノ御話ノ中ニ命令航路船ノ十五年期間延長ノ御話ガアリマシタ、又松方社長カラソレニ付テ御議論ガゴザイマシタ、成ルホド御經營者トシテハ御尤モナ御話ト思ヒマスケレドモ、海運業ノ發達ト云フコトヲ目的トシテ居ル補助法ノ立場ト致シマシテハ松方サンノ御話ノ如ク三十年ナリ四十年ナリ同シ船デ同シ航路澤山ナ獎勵金ヲ貰ツテ居ルト云フコトハドウカト思ヒマス、其意味ニ於テ私ドモハ矢張り十五年位ガ相當デアラウト考ヘマス、尤モ是ハ國家ノ大キナ政策上ノ問題デ私ドモ若輩ガ彼此レ申上ゲル限リデアリマセヌガ、考ヘ付イタ儘ヲ申上ゲマス。次ニ海軍ノ中里大佐カラ軍事的ノ見地ヨリ商船ニ對スル種々ノ要件ニ就テ詳細ナル御説明ガアリマシテ、私ドモ

大ニ利益ヲ得タコトヲ感謝致シマス、從來私ドモハ學校ヲ習ヒマシタリ、或ハ學校ヲ出マシテカラ商船關係ノ範圍ニ入ツテ其間ニ於テハ商船ヲ商船トシテ見ル方面ノコトバカリデ、一方軍事的ニ之ヲ用キル場合ハドウ云フコトガ必要デアルカ、今マデ一向聞クコトノ機會ヲ得ナンダノデアリマス尤モ自分トシテハ最近青島事變ニ際シテ宇品ニ居リマシテ陸軍ノ軍事上ニ使ツタラドウ云フコトガ必要デアルカト云フコトハ想像シ得ナイデモアリマセヌシ、又時ニハ先輩各位ナリ或ハ専門ノ方面ノ方カラ斷片的ニ承ツテハ居リマスガ、今夕ノ如キ海軍軍事上ノ纏マツタ御意見ヲ伺ツタコトハ初メテデアリマシテ、誠ニ仕合セテ致シマシタ、是非ドウカ今後トモ斯ウ云フコトハ成ルベク各方面カラ御研究ニナツタコトヲ御發表ヲ願ツタラ一層結構ト思ヒマス、獨逸ノヤウニ何デモ軍事的ノコトバカリト云フ譯デアリマセヌガ、學校ナドデモ軍船用商船ノ研究ガ出來ルヤウナ時代ガ來レバ結構ト思ヒマス、此軍事上ノ船ト經濟上海運ニ使用スル船トノ調和ト云フモノハ甚ダムヅカシイ問題デアラウト思ヒマス、一方ニ直グ間ニ合ウト云フモノハ、ドウシテモ一方經濟的ニ使フ上ニ缺點ノアルコトハ免ガレナイ、唯今御話ニナツタ櫻丸ノ如キハ餘リ軍事的ニノミ意ヲ注イダ結果アノ様ナ失敗ヲ來シタコトト思ヒマス然シ日露戰役ノ結果、義勇艦隊ガ必要デアルト云フコトハ大多數ノ國民ノ叫ビカラ、アノ船ガ出來上ツタモノデ、當時ハ義勇艦ナルモノ、性質ナリ之ニ關スル研究ガ行届イテイマセンデシタカラ二十節以上デ走り大砲ヲ幾門カ据エ付ケル設備ガアリ又彈丸ヲ運ブニ便利ナ構造ヲ有スル等ノ船デナケレバ義勇艦トハ言ヘナイ様ニ思フテ居マシタ、其當時ニ於テアア云フ船デナケレバ義勇艦ト認メラレナカッタト考エマス、アノ時ニ若シ單ニ専門的ニ石炭ヲ運ビ油ヲ運ブ船ヲ造ツタナラバ義勇艦建造ノ寄附金ヲシタ人ハ満足ヲ表サナカッタト思ヒマス、今日ニ於テハ色々批難スル人モアリマスガ新造當時ハ一言ノ批難ヲ聞カナカッタノハ此事實ヲ證シテ餘リアルモノト考エマス、成ルホド今カラ考ヘレバ甚ダ高價ナル犠牲デアリマスガ、義勇艦隊ト云フモノハ決シテア、云フ船ガ理想ノモノデナイト云フコトガ一般ノ頭ニ深く染込ミマシタ、サウ云フ點ニ於テ消極的ノ利益ガアツタト言ツテモ差支ナイト存ジマス、若シアノ船ガナマジツカ間ニ合フ船デアルト、第四第五ノ櫻丸ガ出來マシテ、不得止平時ニドシク使ハナケレ

バナラスト云フコトハ國家的不經濟ナコトト思ヒマス、幸ニシテ極端ナル不經濟ヲ發揮シマシタ爲ニ今後ハ例令義勇艦ナリトテモ平生デハ相當經濟ノ船ヲ造ラナケレバナラスト云フコトヲ國民ノ頭ニ深ク染込マシメマシタ、之ニ付テハアノ船ハナカク國家的功勞ノアル船ト言ツテ宜イト思ヒマス。

ソレカラ次ニ商船ノ調査事項ニ付テ縷々御説明ガアリマシテ、誠ニ御尤モナコトト思ヒマス、是ハ唯今デハ陸軍ナリ海軍ナリノ方デソレ御係リガアリマシテ、御調査ニナツテ居ルコトデアリマス、然シ御用船ニナリマスト各船主ハ争ツテ陸海軍ノ命令ニ恐縮シテ唯々諾々當局ノ命之レ違ハザランヲ努メテ居リマスガ、平生ニ於テハ何等陸海軍ニハ有難味ガ無イ從ツテ之等ノ商船連中カラ精細ナル報告ヲ取りマシテモ、ソレガ寸毫モ誤リガ無イモノヲ得ントスルコトハ期シ難イコトト思ヒマス、ナゼカト云フト、郵商船ノ如キハ立派ナ監督ガアルカラ、無論當局者ノ要求ニ應ジテ要件ノ内容ヲ咀嚼シテ其必要ニ應ズルダケノ報告ヲ提出スルコトガ充分出來ルト思ヒマスガ、現時ノ社外船ニ於キマシテハ各船主ガ立派ナ監督者ヲ置イテアルモノハ殆ンド數フルニ足リマセン、サウ云フ連中ヲ捉ヘテ一片制裁ノ無イ件名書ヲ送ツテ間違ヒノ無イコトヲ書ケト云フコトハ間違ツテ居ル、是等ハ相當ノ機關ノ設ケアル方面ニ其調査ヲ御託シニナルコトガ一番機宜ヲ得タル適切ノコトデナイカト思ヒマス、軍事關係ノコトデモ是等ノコトハ是非劍ヲ持ツタ人ガヤラナケレバナラスト云フ理由ハ無イ、假令劍ヲ持タヌモノデモ軍備ノ研究ニ付テ力ヲ盡スト云フコトハ當然デアツテ豈獨リ陸海軍當局者デナケレバヤツテハイケナイト云フ理由ハナイノデアリマス、私ハ遞信省ニ居リマスガ、遞信省デハ是等ノ方面ノ研究ニ對シテハ専門的ニ便利ナ澤山ノ機關ト機會ヲ有ツテ居リ、又相當ノ人間ヲ有ツテ居リマスカラ、此方面ノコトガ必要デアルナラバ、遞信省ト陸海軍省ノ間ノ御相談ニヨツテ立派ナ調査ヲシテ行クコトハ易々タルモノデアラウト考ヘマス。

其次ニ松方社長ノ四角八面ニ、誠ニ痛快ナル肯綮ニ當ツタ御經驗談ヲ拜聽イタシマシテ、思ハズ喝采ヲ致シテ居リマシタ所ガ御議論ノ一片ガ我々技術者ノ頭ニ懸ツテ居ルコトニ氣ガ着キマシテ、甚ダ恐縮シタ次第デアリマス、是非今後ハ松方氏ノ御言葉ノ如ク我々ハ一生懸命ニナツテ其百分ノ一デモ萬分ノ一デモ御希望ニ適フヤウニ努メ

タイト考エマス、尙ホ人物養成ノ必要ニ付テ縷々御述ベニナリマシタガ、是ハ無論結構ナコトデアリマシテ、豈獨リ造船界ノミナラズ總テノ方面ニ於テ人物養成ハ必要ナコトデアリマス、殊ニ技術者ハ技術ニ奮勵スルノミナラズ、一面其人格ヲ養ヒ精神的向上スルコトガ必要デアツテ立派ナ人ガドシク出テ參リマシタナラバ造船業ノ如キ技術工業ノ經營ハ松方氏ヲ煩ハスマデモナイ、技術者ガ社長トナツテ彼ノ川崎造船所ヲ經營シテ行クト云フ時代ニ是非立至ラセタイト考ヘマス。(拍手)

次ニ又同氏カラ補助金問題ニ付テ海軍省アタリカラモ意見ヲ持チ出スノハ必要ガアル、ナゼ今マデ海軍ハ黙ツテ居ツタカト云フ御話ガアリマシタ、是ハ頗ル御尤モナル御説デアリマス、併シ補助金ハ軍事ノ際即チ一朝事ガアツタナラバ、軍事上ノ效果ハアルガ平常ニハ之ガ爲ニ不經濟ナルヲ免レヌト云フ様ナ即チ國家ノ大事ニ赴ク場合ノ爲ニ平生ノ損失ヲ犠牲トスルヤウナ船ヲ造ツテ置クコトヲ目的トシテ、サウ云フ船ヲ助成スル爲ニ補助金ガ必要デアリトスルナラバ、成ルホド同氏ノ御説ハ御尤モデアリマス、併シ日清ノ戰役ヨリ以後日露ノ戰役ニ際シテモ我が日本ハ船舶ノ數ガ足リナカツタ、海運業ハ甚ダ萎靡シテ振ツテ居ナイ、ドウシテ船舶ヲ増加シテ海運ノ發達ヲ圖ラウカト云フ時代ニ於テハ積極的ニ海運ノ發展ヲ期スルコトガ補助法ノ主眼デアツタラウト考ヘマス、ソレデ海軍省アタリガナゼ補助金問題ニ首ヲ突込マナカツタト云フ御議論ハ其當時ノ立場トシテ少シ無理ナ御註文デハナカツタカト考ヘマス、是ハ失禮ナ意見ヲ申上ゲテ松方氏ノ遠大ナル御議論ニ對シテ反駁ヲ加ヘタコトハ甚ダ相濟マスデアリマスガ、偏ニ御説ヲ致シマス。

次ニ岡崎氏ノ社外船主トシテ從來何等ノ補助ヲ受ケナイデ粒々營々御經營ノ御苦心ヲ積ンデ現時ノ有數ナル社外船主トシテ有力ナル發展ヲ占メラレルニ至リマシタ御話シハ實ニ謹聽イタシマシテ、思ハズ襟ヲ正シタ次第デアリマス、是非同氏ノ如キ經驗豐富ナル方ガ海運ノ發展ハ勿論、ソレト併セテ一面造船事業ノ發展ニ對シテ御盡力ヲ仰ギタイ次第デアリマス。

尙ホ最後ニ海法ノ大家ナル市村法學士カラ海法ニ對スル御感想ヲ述ベラレマシテ、誠ニ面白ク拜聽シタシタ次第

デアリマス、一片ノ法律ノ不備ナル爲ニ數百ノ事業經營者、數萬ノ專門従事者ヲシテ働キテ少ナカラシムルヨウナコトガアラウト思ヒマス、法律ト云フモノハ成ルベク如何ナル場合デモ如何ナル方面ニ向ツテモ便利デアリ、而カモ肯綮ニ當ツテ要ヲ得タルモノトスルコトガ最も必要ナコトデアラウト考ヘマス、同氏ノ如キ平生親シク實際問題ニ當ツテ居ル御方ガ國家的事業タル船舶ニ密接ナ關係ヲ有ツテ居ル海法ニ對シテ十分盡力セラルルコトヲ我々ハ是非御願ヒ致シタイノデアリマス。

結局先輩各位ノ御議論ヲ拜聽イタシマス、今岡博士ノ結論ノ海運ノ發展、造船業ノ發展ト云フコトニ對シテハ皆サン何等御異議モ無イコトヲ承知イタシマシテ、誠ニ愉快ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス、斯ル問題ハ到底一二ノモノガ彼此レジタバタ致シテモ出來ナイ問題デアリマス、是非本席ニ集ツテ居ラレルヤウナ斯界各方面ニ於テ「オーソリチー」タル各位ガ共同一致シテ御盡力ヲ仰ガナケレバナラスコトト考ヘマス、數ナラス私ナドモ是非其驥尾ニ附シテ何カ御役ニ立ツコトノ機會ヲ得、又御役ニ立チタイモノト考ヘテ居ル次第デアリマス。(拍手)

加 茂 正 雄 君

私ハ今岡博士並渡邊學士カラ此前ノ臨時講演會ニ於テ御話ニナリマシタコトニ付テ唯今ハ別ニ意見ヲ述ベヨウト云フ考ヘハ有ツテ居リマセヌ、座長初メ皆サンニ對シテ私ノ希望ヲ述ベタイト考ヘマス、ソレハ此御講演ハ時節柄非常ニ興味ノアルコトデアリマスシ、殊ニ結論ニ於テ今岡博士ノ述べラレタコトハ日本造船業ノ將來ニ甚大ナ關係ヲ有ツテ居ルコトデアリマシテ、唯斯ル席上ニ於テ議論ヲ闘カハシタバカリデオ終ヒニスベキモノデハナイ、此際如何ナル方策ヲ施コスコトガ必要デアルカト云フコトニ就テ今日我々が眞面目ニ研究スベキ價値ノアルコトト思ヒマス、是ニ關シテハ今晚コチラニ出テ居ラレマス造船所ニ關係ノ方ニ其他先刻カラ御話ヲ伺ヒマシタ海軍方面ノ方或ハ郵船會社ノ方或ハ造船所ノ經營ニ従事セラルル方或ハ個人船主又ハ他ノ方面ノ方ニ於テ又相當御説ノアルコトト考ヘマス、併ナガラ殘念ナコトニハ今晚ハ大分時間モ過ギテ居リマスノデ、其爲ニ遠慮サレテ居ル

方モ多々アルヤウニ見受ケマスシ、尙又初メニ此會ヲ開カウト云フコトヲ「プロポーズ」サレマシタス波博士モ御病氣ノ爲ニ御出デガアリマセス、其他「エキスペリメンタルタンク」ニ付テモ意見ヲ述ベタイト申シテ居ラレマシタ堤博士モ御都合ノ爲ニ出ラレナイト云フコトデアリマスカラ、モウ少シ具體的ノ研究ヲ致ス爲ニ少クモ尙ホ一回造船協會デ「デスカッション」ヲ御開キニナリマシテ、専攻技術家ノ養成、造船材料ノ供給、船舶試験所ノ設立等ニ關シテ十分御討議アランコトヲ、先輩諸君ヲ差置イテ甚ダ僭越デアリマスガ、私カラ希望シテ置キマス、渡邊君ハ今晚「デスカッション」ニ加ハラレタ方々ニ對シテ既ニ御意見ヲ御述ベニナツタヤウデアリマスガ、今岡君ニ於テハ尙ホ之ニ御附加ヘニナルコトガ多々アラウト考ヘマスカラ、切ニ協會ニ於テ私ノ希望ヲ納レラレンコトヲ祈リマス。(拍手)

今岡純一郎君

今夕ハ私ドモノ講演ニ對シテ御批評御教訓ヲ受ケマシテ、我々ノ一片ノ論文ガ斯ク多大ノ御注意ヲ受ケマシタコトニ付テ衷心感謝ニ耐ヘマセン、唯今加茂博士ヨリ再度此會ヲ開イテヤラウト云フ御提言ハ一層感謝ヲ表スル次第デアリマス、要ハ議論ヨリハ實行ニアラウト存ジマス、前段寺島氏ノ御演說中ニ「ナショナルポリシー」ト云フ御言葉ガアリマシタガ、私ハ其御言葉ニ感動スル次第デアリマス、一體日本ノ國ハ何ガ國是デアルカト云フコトハ皆疑問ヲ有ツテ居ルヤウデアリマス、何デモ一ツ國是ヲ決メテ其國是ニ從ツテ殖産興業ナリ政治ナリ法律ナリ總テ行ハレテ行カナケレバ國ガ世界の競争ガ出來ナイト、生意氣デハアリマスガ、平素考ヘテ居リマシドウカ此海運業造船業ノ一端ダケデモ日本ノ國是ニ從ツテ進ンデ行クヤウニ世間一般ニ實行シテイッタナラバ國家ノ爲ニ大ナル利益デアラウト思ヒマス、今一應討論會ヲ開イテ下サルト云フ次第デアリマスカラ、ソレ等ノ諸高説ヲ承リマシタ上デ又私ノ考ヘヲ申上グルナリ、或ハ會誌ノ上デ寺島君、中里大佐、松方君、岡崎君、市村君ナドノ御所見ニ對シテ申上グルコトニ致シテ今夕ハ是デ御免ヲ蒙ルコトニ致シマス、種々有難ウムイマシタ。(拍手)

座長寺野精一君 大層時間ガ過ギマシタカラ、マダ此興味アル問題ニ付キマシテ御意見ノアル方モ多々アリマセウガ、今晚ハ是デ散會イタシマス、就キマシテハ其前ニ一言申上ゲテ置キタイコトハ、唯今加茂博士カラ御動議ガアリマシタコトデ、實ハ今日ハ本問題ノ討論ヲ願フト同時ニ造船業ノ發展方法ニ付テノ具體的ノ結論マデ願ハウト思ヒマシタガ、餘リ問題ガ大キ過ギマスカラ、更ニ日ヲ決メマシテ之ヲ研究的ニ討論スル會ヲ開キタイト云フ考ヘデアリマス、今日御出席クダサレマシタ方ハ成ルベク御線合セナサレテ其時モ御出席クダサルヤウニ願ヒマス、又今夕ハ長崎ノ江崎君、神戸ノ三木君等ノ如キ此實行方法ニ付テ種々抱負モアリ、又御經驗モアル方々ガ御出席ニナツテ居リマスガ、具體的ノ討論ニ這入ラス爲ニ御意見ヲ御述ベニナルニ至ラナカツタノハ洵ニ殘念デアリマス、就テハ此問題ニ關スル御意見ハ他日更ニ書面等デ御發表ヲ願ヒタイト思ヒマス、要スルニ多年造船協會ノ懸案タル「如何ニシテ日本ノ造船業ヲ發達セシムルヤ」、「如何ニシテ日本デ船ヲ廉ク造ルコトガ出來ルヤ」ト云フコトハ、今日ノ此好機會ヲ逸シテハ又再ビ研究スルコトガ困難デアルト思ヒマス、是非此千載一遇ノ機會ニ其解決ヲ着ケテ本邦造船業ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ發達セシムル方法ヲ講ズルコトハ我々斯業ニ從事スルモノノ義務ト思ヒマスカラ、ドウカ諸君、其趣意ヲ御賛成クダサレテ、再ビ討論會ヲ開キテ充分研究セラレ、又同時ニ本問題ニ關係アル總テノ材料ヲ御提供アランコトヲ希望致シマス、終リニ臨ミマシテ本日私ハ座長ヲ勤メマシテ會場整理ニ不注意デアツタ爲ニ多少辯論ノ中ニ脱線ノ氣味ガゴザイマシテ、稍々穩カナラヌ言論モアツタカ知レマセヌガ、ソレハ私ノ不行届キト云フ點ニ對シテ御宥恕ヲ願ヒタイト思ヒマス、今日ハ是デ散會イタシマス。(拍手)

第二回ノ討論(大正四年七月十三日學士會ニ於テ午後六時三十分開會)

座長寺野精一君 是レカラ開會致シマス、今日ハ前週ニ開キマシタ今岡君、渡邊君ノ「歐洲戰爭ト船舶」ニ對スル討論會ノ續キデゴザイマスガ、前回ノ討論會ニハ各方面ヲ代表サレタ方々ノ、戰爭ノ影響ニ付テ色々有益ナ御講演ヲ願ヒマシタノデ、時間ガ少シ足リマセヌカツタ爲ニ、今岡君ノ結論トシテ出サレタ事項ニ付テ具體的ニ皆サンノ御

意見ヲ伺フコトガ出来ナカッタノデ今日此會ヲ開イタ譯デゴザイマスガ、要スルニ戦争ノ結果トシテ益々内地造船業ヲ發達サセナケレバナラスト云フ必要ハ、ドノ方面カラ論ジラレテモ異論ノナイコトデアリマシテ、此間中各方面ノ御意見ヲ伺ツテ其必要ヲ確メタ次第デゴザイマス、デスカラ今日造船業ヲ獎勵スル必要ト云フコトニ就テハ、殆下此上ニ論究スル餘地モナイヤウニ考ヘマスカラ、今後ハ如何ニシタナラバ其目的ヲ達シ得ルカト云フ今岡君ノ結論トシテ導カレタ事柄ニ付テ具體的ノ御討論ヲ願ヒタイノデアリマス、今日ハ成ルベク多數ノ御方ノ御意見ノ御發表ヲ願フ爲ニ、御銘々ノ御論議ハ簡略ニ切詰メテ戴イテ、多數ノ御方ノ御意見ノ御發表ヲ願ヒタイト思ヒマス。

藤 島 範 平 君

具體的ニ別段申上ゲル事モナイノデアリマスガ、此時局ノ爲ニ千載ノ一遇トモ申シマセウカ、日本ノ造船界ガ是マデニナイ二十三萬何千噸ト云フヤウナ多數ノ注文ヲ引受ケテ居ルト云フコトハ實ニ慶賀ニ堪ヘナイ次第デアリマス、併ナガラ此造船界ノ活躍ハ、目下ノ時局ニ際シ、日本海運界ノ要求シテ居ル總テヲ充タシテ居ルカト申シマス、自分ノ考ヘデハ遺憾ナガラサウデハナイト思フノデアリマス、目下ノ備船料及古船賣買相場カラ見マシテ若シ日本ノ造船界ガ今少シ發達シテ居ツタナラバ、二十三萬噸ニ止マラズ尙多數ノ新造船ノ注文ヲ受ケルコトガ出来タラウト思フノデアリマス、何故之ニ止マツタカト申シマス、詰リ日本ノ造船ノ能力ガ少ナイ、船ガ早ク出来ナイト云フコトガ重モナル原因デアラウト思フノデアリマス、若シ日本ノ造船所ガ今少シ多數ニアリ竝ニ材料、主トシテ鋼鐵ヲ今少シ早く供給スルコトガ出来タナラバ日本ノ造船ハ此度ノ如キ場合ニハ尙々澤山、短イ期間ニ出来マセウカラ、日本ノ船主ハモツト新造船ヲ注文シタラウト思フノデアリマス、單ニ日本ノ海運界ニ止マラズ、今日ハ外國カラモ日本ノ造船所ヘ新造注文ノ照會ガ來タト云フコトヲ承ツテ居ルノデアリマス、是等ハ今日新造船ノ値段ガ高イト云フコトハ承知ノ上デ來ル譯デスカラ、其要ハ詰リ早く船ヲ得タイ、外國ニ於テハ

討

論

歐洲戰爭ト船舶ニ對スル討論

新造船ハ中々急ニ出來ナイカラト云フノデ、値段ハ高クトモ早く得タイト云フ爲ニ日本ヘモ注文ヲ發セントスルノデアリマシヨウ、造船所ハドウ云フ返事ヲナサレタカ詳シク承ツテ居リマセヌケレドモ、今日ノ狀況ハ逆モ先方ノ要求致シマスガ如キ時間ニ於テ新造船ヲ供給スルコトガ出來ナイノデ、サウ云フ話ノ成立ツノハ大分ムツカシイコトデアルト思ヒマス、ソレデドウシテモ今後造船業ト云フモノヲ盛ンニシテ參リマスニ就テハ、「キヤバシチー」ヲ殖スト云フコトガ一番必要ダラウト思フ、ソレニハ先ヅ造船所ガ殖エルト云フコトノ方法ヲ執ラネバナルマイ、造船所ガ殖エルト同時ニ鋼鐵ノ供給ヲ容易クスルト云フ、此二點ガ極メテ必要ナコトダラウト思フノデ、製鐵所ノ擴張ト云フコトハ極論サレテ居リマスガ是ハ最モ必要ナコトデアリマス、私ハ雷ニ官立トシテ擴張ヲシロト申スノデアリマセヌ、私立事業トシテモ製鐵所ガ、全部ノ製鐵事業デナクテモ、部分々々ダケノモノデモ宜シイカラ事業ノ起ルコトヲ希望スルノデアリマス、ソレデ造船所ガ増加スルト云フコトハ、現ニ此度ノ時局ニ際シテモ先ヅ造船所ガ三箇所殖エタヤウニ感ジテ居ルノデアリマス、ソレハ大阪鐵工所、是ハ前カラ相當ノ大造船所デアリマスケレドモ、是マデ三千噸迄位ノ船ヲ造ツテ居ラレタノガ一躍八千噸或ハ一萬噸ノ船ヲ造ルヤウニナツタ、是ハ大ナル造船所ヲ開イタト認メテ宜イダラウト思フ、同ジク大阪鐵工所ノ因ノ島デモ此度ハ三千噸臺ノ船ヲ造ルヤウニナリ、三菱ノ和田岬ノ造船所デモ七八千噸ノ船ヲ造ルヤウニナリマシテ、ドノ造船所ニシロ一度御造リニナレバ今後續ケテヤラレルダケノ設備ヲナサルノデアリマスカラ、今後船主ガ新造船注文ノ必要ニ際シタ時ニハ之ニ應ズルコトガ出來ル、從ツテ今申上タ所デモ從來ヨリモ殖エタト認メテ宜カラウト思フ、所ガ今日ハソレデ宜イデスガ、先年「トローラー」新造ノ極メテ盛ンナ時ニハ、小サイ造船所デアリマスケレドモ大阪方面ニ於テ多數造船所ノ活躍ヲ見タノデアリマス、然ルニ「トローラー」熱ノ終熄ト共ニ今日デハソレ程活躍シテ居ラヌヤウニ見受ケルノデアリマス、是ハドウ云フ譯デアアルカ餘ホド考慮ヲ要スルコト、思ヒマス、詰リ造船所ガ殖エルニハ、平生モ造船所ガ成立ツテ行クト云フダケノコトニスルコトガ必要デアラウト思フノデス、ソレニハ詰リ造船ノ獎勵、方法ノ如何ニ依ラズ造船ノ獎勵ト云フモノガマダ、必要デナイカ、吾々が船價調査會等デ

極力言フテ居リマス、材料ヲ廉ク供給スル爲、關稅ヲ撤廢スルトカ、平時ニサウ云フコトヲシテ置カナケレバ造船所ガ出來テモ成立ツテ行ケナイ恐レガアルト思フノデス、此ノ關稅ノ撤廢ト内地製鐵業ノ擴張ト云フコトハ一見大變矛盾スルヤウデアリマスケレドモ、一種ノ造船獎勵ト見レバ決シテ矛盾スルモノデハナカラウト思フノデアリマス、段々内地ノ製鐵業ガ盛ンニナツテ、各所ニ各種ノ製鐵所ガ起ルト云フコトニナレバ關稅ヲ撤廢シテ居ツテモ外國ノ鐵ガ入ツテ來ナイト云フ時代ガ來ルノデアラウト思フノデス、此ノ如クニシテ多數ノ内地製船業ガ平時ニ於テモ成立ツテ行クコトニ全力ヲ盡スト云フコトガ造船業發展ノ上ニ極メテ必要デアルト認メルノデアリマス。

ソレカラモウ一ツ船腹ノ増加ト云フコトガ第一ノ造船業發展ノ策ト言ヘマスヤウデスガ、是亦無論必要ナコトデアリマシテ、造船所ガ出來タトシテモ船ヲ注文スル人ガナケレバイカヌノデアリマスカラ、益々海運ヲ發達サセテ船ノ要ルヤウニスルコトガ必要ニ相違アリマセン、此海運ヲ發達サセルト云フコトニ付キマシテハ、成ルベク日本ノ船ガ自由ニ各地ニ行ケルト云フコトヲ第一ニシナケレバナルマイ、ソレデ日本ノ船ガ外國船ニ比較シテ多少ニテモ不便ノ所ガアルヤウナコトハ、ドウシテモ改メテ行クト云フコトガ必要ダラウト思フノデス、サウ云フ事ハ澤山デゴザイマセウガ、差當リ私ノ考ヘマスノデハ例ヘバ載貨吃水線法ノ制定ノ如キガ急務ノ一ツデハナイカト思フノデス、ソレハ御承知ノ通りニ今日英國ノ載貨吃水線ハ殆ド國際的ノヤウナコトニナツテ居ツテ、英吉利ノ如キハ其本國及屬領ノ港灣ヲ出入スル船舶ハ載貨吃水線證書ヲ提出シナケレバ「クリヤランス」ヲ吳レナイト云フコトニナツテ居ル、今岡君ノ「ペーパー」ニモ内地ノ船ニシテ此度「ロイド」ニ「クラス」シタモノガ多數アル様デスガ其理由ノ一ツハ此載貨吃水線法ノ結果デアルト思フノデアリマス、若シ我國ニ於テ各國ト互認ノ出來得ル載貨吃水線法ガアリマシテ遠洋航路ノ船舶ハ悉ク其證書ヲ有ツテ居ルヤウナコトニナツタナラバ、保險其他ノ關係上「ロイド」ニ「クラス」シナケレバナラヌヤウナ船ハ別トシテ、大多數ノ貨物船ハ餘ホド便宜ヲ得ルデアラウカト思フノデアリマス、「ロイド」ニ登録シ且ツ遞信省ノ検査ヲ受ケルト云フヤウナコトハ實ハ非常ニ困ルノデスカラ

「ロイド」ニカカラナイデモ、日本ノ検査ダケデ濟ンデ居ツタナラバ、日本ノ船ガ諸方ヘ行クノニ非常ニ便宜ヲ得ルデアラウト思ヒマス、是ハ單ニ一例トシテ申上ゲタノデアリマス。

此ノ如キ事ハ、幾ラモアルデセウガ尙一例トイタシマシテハ航行期間ノコトデアリマス、是モ是カラノ日本船舶ガ海外ニ向ツテ發展スルト云フコトニ必要ダラウト思フ、是カラハ歐羅巴ヘ行ツテ復航、濠洲ヘ行クトカ或ハ亞米利加ヘ渡ツテ「バナマ」ヲ通ツテ歸ルトカ、世界的ノ航路ヲ執ルヤウナ船ガ多クナルダラウト思フデスガ、サウスルト航路ノ湮程ノ長クナル爲ニ、一年ニ三航海トカ、半年ニ一遍トカ云フノデナク、一航海ニ六ヶ月半カカル七ヶ月カカル、八ヶ月カカル、尙一航海ヲスルニハ航行期間ガ少シ足ラナイト云フヤウナモノガ大分出來ルヤウナ風ニナリハシナイカト思フノデス、勿論不定期船ニシテ行キ先キノ都合ニテ遅レタト云フヤウナモノハ外國駐在領事館ノ證明ヲ受ケルト云フ方法モアリマスルケレドモ、或ハ定期船ニアツテモサウ云フモノガ、出來ハシナイカ是等ニ對シテハ何カ便利ナル方法ヲ用キテ、餘リ損失ヲ受ケズニ商賣ガ澤山出來ルヤウナコトニスル必要アリト思フノデアリマス。

次ニ設備ノ節約ト云フコトガアルノデスガ、是ハ從來段々問題ニナリマシテ私共ハ始終引合ヒニ出サレルノデアリマスガ、之ニ付テハ此間杉谷君モ言ハレマシタ通り無駄ナコトハ無論止メナケレバナラスノデアリマスガ、是ハ純粹ノ貨物船、所謂「トランブ」ト、同ジ貨物船デモ多少定期船ノ傾向ヲ帶ビタモノトハ幾ラカ違ヒマスノデ、一番廉イモノヲ以テ總テニ當嵌メルト云フコトハ出來難イト思フノデアリマス、又船室ノ設備等モ船主ニ依テ多少趣ヲ異ニスル點モアロウト思ヒマス、ソレデ無駄ナ事ハ無論止メナケレバナリマセヌガ、甲船主ノ船ト乙船主ノ船ト多少設備ガ違フト云フ事ハ種々ノ事情ノ爲メニ實ニ已ムヲ得ナイコトデアラウト思フノデアリマス。(拍手)

加 藤 知 道 君

今岡君ト渡邊サントノ「歐洲戰爭ト船舶」ト云フコトニ付キマシテ、眞ニ有益ナル御講演ガアリマシタニ付テ、此

前モ之ニ付テ討論會ガアリ、今日モ引續イテ討論ガアリマシテ色々有益ナル御答ヲ承リマシタガ、私ハ別段ニ意見トシテ申上ゲルヤウナコトモアリマセスガ、唯茲ニ今岡サント渡邊サントノ御話ニナツタ結論ノ中ニ付テ幾分考ヘタコトモアリマスカラシテ、敷衍的ニ附加ヘルト云フ風ナ意味デ少シ申上ゲテ見タイト思ツテ居リマス。船主ノ注文ト云フコトニ付テ、今年ハ非常ニ澤山ナ注文ガアリマシタケレドモ、是ハ固ヨリ特殊ノ現象デアリマスルカラ、是ガ果シテ永年續イテ行クカドウデアルカト云フコトハ一向分ラナイコトデアルドウト思ヒマスガ唯斯云フ事ガ一ツノ習慣ヲ造ルト云フコトニハ大變都合ノ好イコトデアルカラシテ、内地ノ船主ガ内地ノ造船所ニ注文シテ出來ルダケ多クノ船ヲ造ルト云フ習慣性ガ出來ルト云フコトニナレバ非常ニ進歩ニナルカト思フノデアリマス。

ソレカラシテ設計ノ簡約ト云フコトニ付キマシテハ造船所モ船主モ大ニ考究ヲ重ネ、當局ノ方々モ非常ニ之ニ付テハ御苦心ニナリマシタ結果、詰リ今日デハ貨物船ト云フモノニ對シテノ材料ヲ節約シタト云フコトハ、著シク眼ニ見エテ來タト言フテ宜イダラウト思フデス、其點ニ於テハ此機ニ當リマシテ其局ニ當ラレマスル皆サン方ニ厚ク御禮ヲ申シテ置キマス。

ソレカラシテ工費ノ節約ト云フコトガアリマスガ、吾々造船業ニ携ハツテ居ル者ハドノ位ノ工費ヲ節約シテ居ルカト云フコトニ付テハ少シ御話ヲ申上ゲタイト思フテ居リマス、此賃料ノコト其他ノコトニ付テハ此前渡邊サンノ御話ガアツタヤウデアリマスガ、造船職工ノ一日ノ賃料ハ無論日本ノ方ガ廉イ、廉イノデアルケレドモソレニ付テ「エフヒシエンシー」ハドノ位ト云フコトハ御話ガナイヤウデアリマスガ、私ノ調べマシタモノニ依リマスト云フト、船價調査會ノ時ニモ申上ゲタヤウニ思ヒマスガ、當然日本人ノ「エフヒシエンシー」ハ向フノ人ノ「エフヒシエンシー」ト違ヒマス、日本人一人ニ對シテノ西洋人一人ノ「エフヒシエンシー」ハ一倍八位ニナル、是ハ此前モ申上ゲテ置キマシタガ長崎デノ三年バカリノ統計ヲ取ツタモノト英國ノモノト比較シテノ結果デアリマス併ナガラ其後尙同ジヤウニ勘定ヲシテ平均ヲ取リマスト矢張り一倍八位ノモノニナツテ居リマスカラシテ、先ヅ

長崎デノ職人ノ現在ノ有様カラ言ヒマスト西洋人ハ一倍八位ノ仕事ヲスルト云フコトニ言フテ宜イダラウト思ヒマス、ソコデ賃料ハ廉イノデアリマスケレドモ「エフヒシエンシー」モ勘定ノ中ニ含メテ置イテ戴カヌト大ナル間違ガ起リハセヌカト思ヒマスカラ一言申上ゲテ置キマス。

ソレカラシテ長年ヤリマシタ統計ヲ取リマシテ「レーボア」ハドンナ風ニ減ツテ居ルカト云フコトヲ調べタノデアリマスガ其結果ハ至テ不同ニシテ、或時ニ非常ニ減ツテ居リマスケレドモ又一向減ツテ居ナイ時モアリマス、私ノ調べマシタノハ可ナリ古イ時ノ、明治三十二年三十二年三十二年アタリノ「レーボア」ト今日ノ「レーボア」トヲ、比較ヲシテ見タノデアリマスガ、船ノ型ガ異テ居リマスノデ比較スルノニ方法ガ著キマセヌ故ニ同ジ位ノ大サノ船ニ使ヒマシタ「スチール」ノ重量ニ付テ比較ヲシタノデアリマス「スチール」ノ外ノモノデハ設備ガ色々違フノデ比べルコトガ出来マセヌカラ、大體ノ考ヲ得ラレル爲ニハ、「スチール」ノ一噸ニ對シテノ工費ヲ比ベテ見タナラバ大體御了解ガ出来ルダラウト思ツテ居ツタノデアリマス、扱其比較ヲ致シマスルニハ今年三月船卸シヲ致シマシタモノヲ土臺トシマシテ、ソレヲ一ト取リマシタモノ、比較ヲ申上ゲルノデアリマス、サウシテソレヲ一トシマスト三十二年頃ニハ一倍八位ノ「レーボア」ヲ要シタノデアリマス、三十四年ニナリマシテハ一倍四、三十五年ニモ一倍四位ノ見當デ、サウ云フ風ニ減ツテハ參リマシタケレドモ、三十九年頃ニナリマスト一倍九、四十年ニナリマシテハ二倍三、或ハ二倍三八ト云フヤウナ風ニ非常ニ高イモノガ出来テ來タノデアリマス、ソウシテ復段々三十二年頃カラ順當ニ減ツテ來タノデアリマシタガ「カーヴ」ニ引キマス此三十九年四十年頃ニナツテ非常ニ高イモノニナツテ、「カーヴ」トシテハ甚ダマヅイ「カーヴ」ガ出来テ來タノデアリマス、併ナガラ是ハ或一ツノ變調デアリマシテ、四十年頃ハ造船所デ引受ケマシタ船ノ噸數ガ非常ニ多クナツテ、皆様御承知ノ通り此時代ニハ天洋地洋ヲ初メ郵船會社ノ加茂「くらす」ノ四艘ガ一緒ニ集ツテ參リマシタカラ非常ニ人間ヲ殖サナクテハナラヌヤウニナリマシタ、ソレモ素人ヲ重モニ入レテ仕事ヲサスト云フヤウナ風デ「アンスキルドレーボア」ヲ大變多ク使ヒマシタ、其爲ニ「エフヒシエンシー」ガ悪クナツタノデ一時ハ二倍四近クニモナリマシタ、ケレドモ明治四十二年頃

ニナツテカラハ復大ニ減リマシテ一倍二八位ニ下ツテ來タノデアリマス、ソレカラ段々下ツテ四十二年ニハ一・二、四十四年ニハ一・一七ト云フ風ニナツテ、三十三年三十四年ニ比ベマスト段々下ツテ來ル傾キヲ此時ニ見タノデアリマス、ケレドモ又船ヲ引受ケタ噸數ガ急ニ多クナツタト云フヤウナ時ニナリマス其時ニハ「カーヴ」ハ復直グニ高クナリマシテ一倍四、一倍五ト云フ風ニ逆戻リニ上ツテ參リマシタケレドモ、サウ云フ順當ニ行カナイ時ノモノヲ除キマシテ順當ニ行ツタモノダケヲ見マス、大體今日ノ一ト云フモノト、三十二年ノ一倍八、三十四年ノ一倍四ト云フモノトヲ比較シテ見ルト、其間ニ於テ段々下ツテ來タノデアリマス、ソコデサウ云フ風ニナツテ參リマシテ今日ハ相當ニ設備モ整頓シテ參リマシタシ、ソレカラ工費ノ節約ト云フコトヲ考ヘタ結果、其位マデニ減ラスコトガ出來タノデアリマスケレドモ、此先キドノ位マデ減ラセルカト云フコトハ大分問題デアリマシテ、私ノ考ヘデハ此先キ餘リ減ラスコトハ出來マイカト思ツテ居ルノデアリマス、設備ガ整ツタナラバ餘ホド「レーボア」モ減ルダラウト云フ御考ヘモアルヤウデアリマス、無論設備ノ良イノト惡イノトハ非常ニ違ツテ設備ノ良イノハドウシテモ廉ク出來ルノデアリマス、茲ニ調べマシタ中ニ、豊岡ト富山トノ「エフヒエンシー」ヲ見マス、偶然デアアルカモ知レヤセヌガ、豊岡ハ「ガントリークレーン」ノ下デ拵ヘ、富山ハ普通ノ「バース」デ造ツタノデアリマスガ、之ヲ比較シテ見マスト豊岡ノ・九九ニ對シテ富山ハ一デアリマス、ソレダケノ違ヒガ偶然ニモ「カーヴ」ニ現ハレテ來タ次第デアリマス、姉妹船デハ初テノ船ハ通常ニ番目三番目ノ船ヨリモ工費ガ高クナルハ普通デアリマスガ、豊岡九ハ姉妹船ノ初メテノ船デアリマシテモ却テ二番目ノ船ヨリ「レーボア」ガ少ナクカ、ツタト云フコトハ、幾分設備ガ良カツタト云フコトニ關係シタモノデアラウカト思ハレマス、サウ云フ風デ今日唯口ニ工費ノ節約ト云フコトヲ言ヒ出シテ、此先キ幾ラデモ節約ガ出來ルト云フヤウナ風ノ御考ヘデアアルカモ知レマセヌケレドモ、差當リ私共ノ考ヘマス所デハ、吾々ノ工場デハ是以上ニ工費ヲ減ラシテ唯今一デアツタモノガ・五〇トカ・五五トカニナルト云フコトハ考ヘラレナイヤウニ思フノデアリマス、ドウシテモ唯今カラ研究スベキモノハ、工費ノ節約ニ付テ考ヘルノモ無論デアリマスガ、其他ノモノニ付テ考ヘナケレバナルマイト思フテ居ル

討

論

歐洲戰爭ト船舶ニ對スル討論

ノデアリマス。

ソレニ關聯シテ補助機關ノコトデアリマス、補助機關ハ成ルベク一ツ所デ造ツテ出來ルダケ工費ヲ廉クシタナラバ自然ニ廉ク出來ルダラウト云フコトデアアルノデアリマスガ、詰リ補助機關ヲ拵ヘルト云フコトニ付テハ、今マデ餘リ經驗ノアル所ハ少ナイノデアリマスカラシテ、是カラ造リ始メルト云フヤウナコトニナリマス、丁度造船所ガ船ヲ造ル時ニ、十四五年前ハ工賃ガ割合ニ餘計カ、ツタト同ジニ餘計ナ費用ガカ、リハシナイカト思フノデアリマス、デアリマスカラ是モ廉ク出來ルト云フニハ餘ホド時ヲ要スルコトデハナイカ知ラヌト思ツテ居ルノデアリマス。

ソレカラシテ此材料ノコトデ、内地製鐵事業ノ擴張ト云フコトガアリマスガ、製鐵所ヲ擴張シテ行クコトノ必要ハ無論申スマデモナイコトデアリマスガ、製鐵所ノ擴張バカリデナイ、材料ノ供給ニ付テ、日本デハ始終申シマス通り運賃、關稅其他諸係等ノ「ハンヂキヤツプ」ヲ持ツテ居ルノデアリマスカラ、其「ハンヂキヤツプ」ヲドウカシテ早く取除ケテ仕舞ハナクテハ、ドウシテモ日本ノ造船業ヲ、英國ノ造船業ト同等ニスル迄ノ發達ヲ望ムコトガ出來ヌヤウニ思フノデアリマス、兎ニ角先達御話モアリマシタ通りニ英國ニテ鐵ノ輸出ヲ禁ジラレテ、ドウシタラ宜イダラウト思ツテ甚ダ當惑シタノデアリマスガ、幸ヒ或特許ニ依テ輸出スルコトヲ許サレテ居リマスカラ差當リドウニカ供給ガアルダラウト思ツテ稍々安心ハシテ居リマスケレドモ、船ノ重モナル材料ガ特ニ注文シテカラ六箇月モ先キニ漸ク手ニ入ル材料ガ來ルカ來ナイカト云フテ心配スルト云フノハ殘念至極デアリマス。

又先程藤島サンカラ、成ルベク造船所ヲ殖ヤシタラドウデアラウカト云フ風ノ御説モアリマシタガ、今日ノ澤山船ヲ造ルト云フコトハ特發的ノコトデ、此先キ平和ノ時ニナリマシテドレ位ノ船ノ注文ヲ得ラレルカト云フコトハ今カラ想像ハ出來マセヌガ、私ノ考ヘデハ餘リ、現在ノ設備デ足リナイト云フ程ニ澤山船ノ注文ガアルカ否ヤト云フコトハ甚ダ疑ツテ居ルノデアリマシテ、サウシマシテ日本ノ船ノ高クナル一ツトシマシテハ、是モ船價ノ調査會ノ方デ申シタヤウニ思ヒマスガ金利トノ關係ガ非常ニアリマシテ、日本ノ「ブランド」ト云フモノハ外國ノ

「ブランド」ニ比ベマス、機械ナドハ三割位ハ日本ノ方ガ高イダラウト思フ、又金利其物ニ對シテ考ヘルト、英吉利ハ四分或ハ四分五厘デアルノニ日本ハ七分或ハ八分ト云フ風ノ金利デ、同ジ「コンデイション」ニ持ツテ來ルニハ日本ノ方ガ餘計働カナケレバナラヌ、モト／＼元金ニ於テ「ブランド」ガ三割モ高ク、金利ガ英國デ四分、四分五厘トイフ、ニ日本デハ七分五厘、八分ト云フノデ、倍ダケノ働キヲシナケレバ同ジ結果ヲ得ナイト云フコトニナツテ居リマス、然ラバ日本デ今日「ブランド」ラドノ位活用シテ居ルカト云フコトニ付テ問題ガ起リマシヨウガ此ハ明ニ分リマセヌガ、大體ニ於テ言ヒマス、英國ノ或四ツ五ツノ工場ノ「グロスアウトプット」ト「ブランド」ノ割合ヲ調べテ見マシタノニ先ヅ七割位ノ「アウトプット」ガアル、中ニハ十割位ノモアリマスガ、先ヅ平均七割位ノ仕事ヲシテ居ルノデアリマス、長崎アタリデノ「アウトプット」ハ此等ノ工場等ヨリ餘計アリマスノデ仕合せヲシテ居ルト、調べタ時分ニハ稍々安心シタヤウナモノノ、醜ツテ考ヘマス、金利ノ方カラ言フト其割合ニハ仕事ヲシテ居ラヌノデアリマスカラモウ少シ奮勵シナケレバナラヌト思フテ居リマス、サウ云フ風ニ現在デハ「ブランド」ト「アウトプット」トノ關係ガ英國ノ倍デナケレバナラヌト云フノニ、現在ハ決シテ倍ハシテ居リマセヌ努力ガ足りナイノカ知ラヌガ倍ホドニナツテ居リマセヌカラ、此先仕事ガ「コンスタント」デアツテ、造船所ガ殖エタナラバ益々仕事ヲスル割合ガ減リ造船所ノ維持ハ益困難ニナルダラウト思ヒマス、チョット一言……。(拍手)

寺野君

チョット伺ヒマスガ「レーポア」ノ比較ハ工手間デスカ賃銀デスカ

加藤君 是ハ賃銀デスカ

原君 チョット加藤サンニ伺ヒマス、唯今西洋トノ比較ハ一・八、一・八二ト云フ御話デアツタデスガ、ソレハ船價調査會デモチョット伺ツタデスケレドモ、併シハツキリシタ所ヲ能ク承知シテ居リマセヌガ、ドウ云フ「ベイス」カラ出タノデスカ

加藤君 「アッサンブション」ガ大分多イト突込マレルト返答ニ困ルヤウナ譯デスガ、又松方君ガ居ラレルトソナ古イモノハト言ハレマシヨウガ、今日ハ幸ヒ松方君ガ御出デアリマセヌカラ種ヲ明カシマスガ大分古イ即チ「セ

ンサス、オフ、プロダクシヨシ、アクト」ニ依リテ報告セラレタル千九百七年度ノ「プロダクシヨシ、オフ、ブリチツシ、シッパード」ノ「レポート」ヲ本ニ立ツテサウシテ賃銀ヲ出スニハ一時間幾ラト云フ位ノモノニシテ勘定シタノデアリマス、ソレデ其時ノ「バー、バーソン」ノ「バー、デー」ノ「アウトブット」ノ間ノ材料ハ四圓三十三錢位ノ割合ニナリマス、私ノ方デヤリマシタノハ四十二年三年四年デスガ、其時分ニ出來上ツタ船ニ付テカカツタ人間ト云フモノハ英吉利ノ値段トハ全ク違ツテ居ルデアリマスカラ「コレクシヨシ」ヲシナケレバナラス「コレクシヨシ」ヲスルニハドウ云フ風ニスルカト云フコトニ付テ、此處ニハ數字ガアリマセヌガ、色々ノ出來上ツタ船ニ付テ其船ノ「インボイス」ニ依リ運賃關稅其他ノ諸係リトカ云フヤウナモノヲ調べテ、ソレヲ引去リ、ソレカラ日本デ買フ品物ハ先程申上ゲマシタ通り「ハンデキャップ」ヲ持ツテ居ルモノガアリマスカラ、サウ云フモノヲ「アッシュム」シテ引去ツテ計算シテ數字ヲ出シタノガー・二六ニナル、ソコデ今ノ私ノ方デ得マシタ「バー、バーソン」ノ「バー、デー」ノ爲シタル「アウト、ブット」ノ内ノ材料ヲ一・二六デ割ル、割ツタモノガ日本ノ一人デシタ分量ニナリマス、其仕事ノ分量ヲ比較シタ結果ガー・八二、一・八ト云フモノニナル、土臺ガ甚ダ確カナイノデアリマスカ色々ナモノヲ「アッシュム」シテ「アベレージ」ヲ取ツタノデス、詳シクハ今申上ゲラレマセヌガ略ボ近イモノデハナイカト信ジテ居ルノデアリマス。

原君 千九百七年ノ英國ノ統計ニハ「レーボア」全體ガ出テ居ルヤウデアリマス、其中ニハ「オヒス」ノ人間モ入ツテ居ル、色々ナモノガ入ツテ居ルヤウニ承知シテ居リマスガ、サウ云フモノモアナタノ方ノ「レーボア」ノ中ニハ入ツテ居リマスカ。

加藤君 「オヒス」ノハ入レテ居リマセヌ。

原君 ソレカラ日本ニ比シ向フノ「レーボア」ハ案外ニ少ナイノデアリマスガ……

加藤君 ソレハ職人ガ割合ニ少ナイトイフノデアリマスケレドモ賃銀ニ比較シテ「アベレージ」ヲ取ツテ居リマ

スカラ、其方カラ比べレバ同ジコトニナリマス。

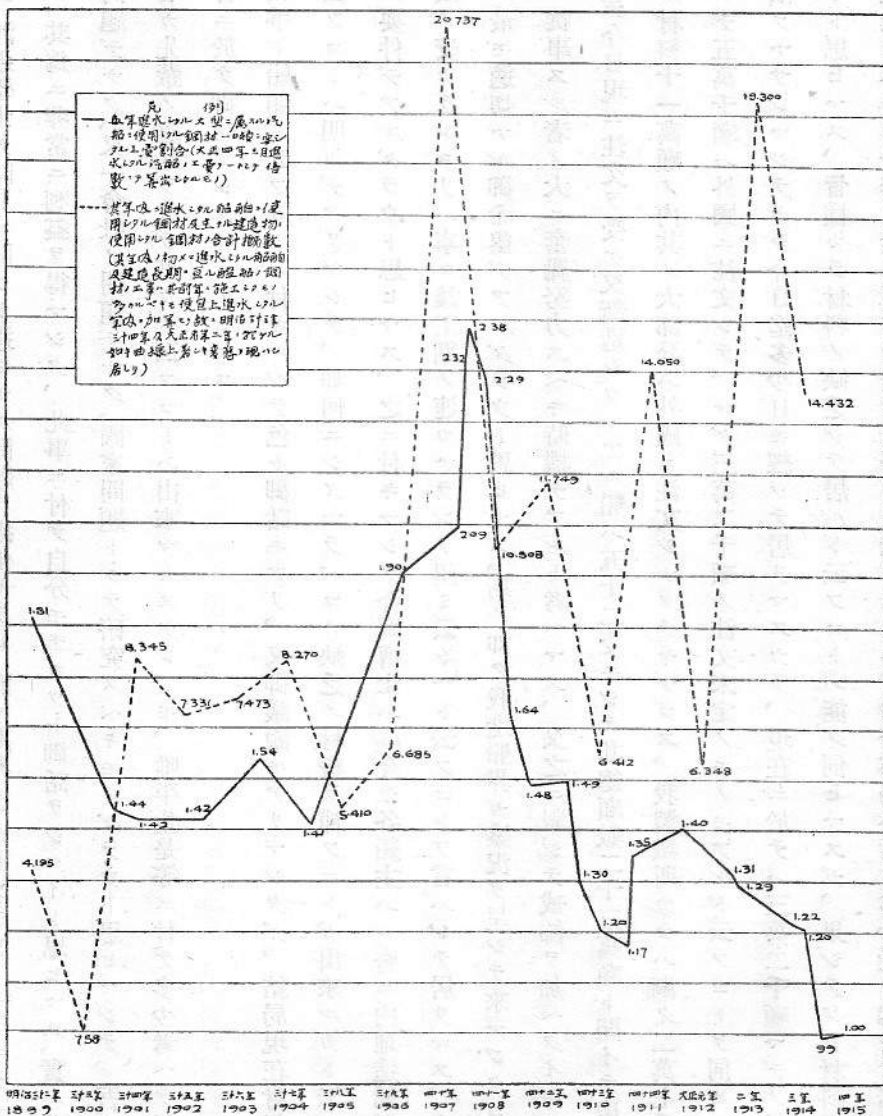
鐵 工 事

工費及工費ト使用鋼材ノ數量トノ關係

使用鋼材噸數
 21,000
 20,000
 19,000
 18,000
 17,000
 16,000
 15,000
 14,000
 13,000
 12,000
 11,000
 10,000
 9,000
 8,000
 7,000
 6,000
 5,000
 4,000
 3,000
 2,000
 1,000
 0

工費倍數
 2.50
 2.40
 2.30
 2.20
 2.10
 2.00
 1.90
 1.80
 1.70
 1.60
 1.50
 1.40
 1.30
 1.20
 1.10
 1.00
 90

討論 歐洲戰爭ト船舶ニ對スル討論



東 海 勇 藏 君

今回岡博士、渡邊學士ガ時局ニ關シテ適切ナル問題ヲ提供セラレ、而モ斯界ノ「オーソチリー」ガ「ヂスカッション」ヲサレマシテ、其爲ニ非常ニ利益ヲ得マシタ、此事ニ付テ自分モテヨツト御話ヲシタイト思ヒマス、實ハ此問題ハ單リ個人ノ問題デナク、又一會社ノ問題デナク、國家問題トシテ研究スベキモノダラウト思ヒマシテ、吾々ノ如キ經驗ノ淺イ者ガ先輩ノ意見ヲドウ斯ウト云フコトハ出來マセヌケレドモ、唯平生是等ニ付テ多少考ヘテ居リマシタ事ヲ此機會ニ於テ御話ヲシタイト思ヒマス。

今マデ歐洲戰爭ト船舶ト云フコトニ付キマシテ色々御話モアリ、又御議論モアリマシタガ、結局現在材料ノ缺乏シテ居ルト云フコトハ明カデアリマシテ、如何ニシタナラバコノ缺乏ノ材料ヲ補フコトガ出來ルカト云フコトハ最モ必要ナル要件デアラウト思ヒマス、之ニ付キマシテ岡博士ハ「今ヤ各船主ハ一齊ニ内地造船所ニ新造注文ヲ發シ價ノ安カラシヨリハ寧ロ竣工期ノ速カナラシク望ミ云々」ト云フコトヲ言ハレテ居リマス、今日ノ時局ニ對シテハ最モ適切ナル御希望デアラウト思ヒマス、斯ノ如ク我造船界ガ盛況ヲ呈シテ來マシタコトハ、吾々造船事業ニ從事スル者ノ大ニ奮勵努力スベキ時機デアルト考ヘマス、又之ニ對シテ戒飾ヲ加ヘタイモノト思ツテ居リマス、デ今日現ニ注文ヲ受ケ又新造シツ、アル船ハ五十二隻ニシテ其總噸數二十三萬噸ト聞イテ居ル、併シ此レニ要スル材料十一萬噸ノ内其ノ大部分ハ外國ニ注文シナクチャナラヌ、我製鐵所カラハ漸ク二萬七千噸ノ材料ヲ得ルダケデ五萬千噸ハ外國ニ注文シテ、マダ三萬二千噸ノ注文未定ノモノモアルト云フコトヲ伺ヒマシタガモウ此ノ講演ヲナサレマシテカラ今日迄多少日モ經ツテ居リマスカラ、現在ニ於テハ三萬二千噸マデノ材料ハ恐ラクアルマイト思ヒマス、皆様カラ材料ノ缺乏シテ居ルト云フコトハ能ク伺ヒマスガ、果シテソウ材料ガ缺乏シテ居ルカ、又此ヲ得ルニ最善ノ策ヲ講ジテ居ルカ否ヤト云フコトハ、自分等局外者ノ多少疑ヲ起シテ居ルノデアリマス、世ノ中ノ商賣人ガ政略上能ク不景氣々々ト云ヒ、或ハ材料ガ無イトカ何トカ云フコトヲ能ク言ヒマス

ガ、サウ云フ手ニカ、ツテ居ルノデヤナイカト云フ懸念モアリマス、是ハ餘リ僭越ナコトデアリマスケレドモ果シテ材料ノ缺乏ト云フコトガ、今日焦眉ノ急ニ迫ツテ居ルト云フコトデアリマシタナラバ、今少シク官民共ニ此問題ニ付テ熱注シタナラバ何トカ解決ノ方法ガアルマイカト云フ疑念ガアリマス、サウ言ヒマスト眞ニ抽象的ノ事ヲ申上ゲルヤウニ取レマセウケレドモ、今日日本デ製鐵事業ニ經驗ノアルモノハ兎ニ角製鐵所デアリマス、併シ其外ニハ何處ニモアルマイカ、此問題ガ私ニ今申ゲムトスルコトヲ考ヘサセタ原因デアリマス。

ソレハ吳工廠ニハ製鋼部ト云フモノガアリマシテ、是ハ御承知ノ通り「アーマー」ヲ造ル所ノ工場デアリマス、ケレドモ製鐵業トハ大分縁ノ近イモノデアリマシテ、ヤリマシタナラバ三十「ボンド」以上位ノ板ヲ伸シ得ルコトハ出來ルダロウト思フ、併シ立派ナ材料ガ得ラレルヤ否ヤト云フコトハ私ニハ保證ハ出來マセヌ、又果シテ此材料ヲ製鋼部ガ引受ケ捲ヘテ吳レルカト云フコトモ私ニハ分リマセヌ、然シナガラ今國家問題トシテ之ヲ考ヘテ見レバ、輸入ノ困難ナル今日缺乏ヲ訴ヘ居ル材料ハドウシテモ日本デ之ヲ造ラナケレバナラス、製鐵所デ餘力ナキニ於テハ吳ノ製鋼部デ板ヲ伸スコトヲ頼ムヨリ外途ハナリマセヌ、全體同ジ製鐵材料ニシマシテモ「プロテクシオン」ノ材料ト、「ストレングス」ノ材料ト二種アリマス、是ノ「ストレングス」ヲ要スル場所ニ用フル材料ト防禦甲板ノ如キ「プロテクシオン」ニ使フ材料トハ一々之レニ對スル例證ヲ擧ゲテ區分スルコトハ出來マセヌケレドモ、兎ニ角一艘ニ對シテ二千噸乃至ハ三千噸ノ材料ハ「プロテクシオン」ニ使用セラルルノダラウト思フ、此材料モ皆製鐵所ニ注文ヲシテ居リマス、ケレドモ若シ日本ガ實際ニ於テ必要ダト云フナラバ、此防禦材料ダケデモ吳ニ餘力ガアツタナラバ相談ガ出本ナイダラウカ、是ハ何レ此學會及我日本ニ於ケル諸會社ノ有力者ガ御互ニ御協議ニナツタナラバ絶對ニ出來ナイ問題デモアルマイダラウト思マヒス、之ヲヤリマシタナラバ今日ノ苦ンデ居ル一部分ヲ補フコトガ出來ルダラウト思フ、モウ一ツ製鐵所ハ大正元年ニ四萬六千噸ノ材料ヲ厚板ト薄板トデ供給シタト云フコトデアリマス、今日ハ無論製鐵所ノ「キャバシチー」ハ其時ヨリ殖エテ居ルダラウト思フ、又現ニ今回ハ製鐵所ノ擴張工事ノ費用モ議會ヲ通過致シマシタカラ、カネノ、此計畫ハ成立ツテ居ルコトデアルカラ多少ハ準備シテ居

ルコトダラウト思ヒマス、此際ニ此準備ノ速成ヲ促シ、又一方ニ於テハ日本デ今日斯ノ如キ盛況ナル造船事業ヲ起スト云フコトハ開闢以來ノコトデアリマシテ、日本デ戰爭ヲスルト同ジ考ヲ有ツテ然ルベキモノデアアル、戰爭ハ單リ軍人ノミノ專有ニアラズ國民皆其精神ヲ以テヤラネバナラス、製鐵所モ此精神ヲ以テ、今日ヨリ殘業ヲスルナリ徹夜工事ヲヤルナリ、何カノ方法ヲ以テ工事ヲ促進シマシタナラバ、今日ノ製産力ヨリハ二割三割、恐ラクハ五割以上モ増スコトニナラズヤト自分ハ考ヘテ居リマス、斯ノ如クニシテ一方カラハ製鐵所ヲ促シ、又御互ニ協力シテ、國家トシテ此材料ガ是非必要ダト云フコトヲ世間一體ニ認メサシテ材料蒐集ヲ獎勵シタナラバ、何トカ解決ノ著ク問題デアアルマイカト思ヒマス、是ハ唯自分一己ノ考ヘデゴザイマス、若シ斯ノ如キ有力ナル學會ガ此問題ニ付テモウ少シ奮發サレマシタナラバ、此千載一遇ノ好機ヲ逸セズ、注文ヲ受ケテ居ル船ダケハ恐ラク斯ノ如キ努力ヲ以テ出來ルダラウト、聊カ卑見ヲ呈スル次第デゴザイマス。

ソレカラモウ一ツニハ、是ハ多少軍事問題ニナルカモ知レマセスケレドモ、私ハ全クソレヲ離レテ申上ゲル積リデゴザイマス、軍艦製造ト云フコトハ餘リ世人ガ深く考ヘテ居ラヌヤウニ思ハレルノデゴザイマス、或場合ニ一隻ノ軍艦ヲ造ル、二隻ノ軍艦ヲ造ル、是ハ無論國防問題カラ出ルノデ吾々ノ容喙スベキ點デアリマセスケレドモ日本ノ國力「キヤバシチー」ハ如何ナル程度ノモノデアルカト云フコトヲ考ヘテ然ル後ニ製艦事業ヲヤラナケルバナラス、此點ニ對シテハ世人ノ注意ガ缺ケテ居リハシナイカト思ハレルノデアリマス、迺モ日本ノ現在ノ状態ニ於テ四艘ノ戰艦ヲ同時ニ造ルト云フコトハ、戰時事變ノ際ヲ外ニシテハ絶對ニ出來ナイコトダラウト思ヒマス、又一方カラ見マシテモ私立會社ハ商船ノ製造ノミヲ以テシテハ、一旦事有ル時ニハ軍艦ヲ急造スルニ當リテ困難ヲ感ゼネバナラス、元來商船ノ製造ハ「フラクチエーション」ガ非常ニ多イノデ、或場合ニハ非常ニ閑デアアル或場合ニハ非常ニ忙シイト云フコトガアル、其爲ニ眞ニ十分ナル成算ハツキカネルカ知レマセスケレドモ、民間ノ會社カラ成ルベク海軍ト連絡シテ船臺ヲ空カセナイヤウニスル方法ヲ執ツタナラバ、經驗アル職工ガ飛散スルト云フヤウナコトナク、愈々ト云フ場合ニ何處デモ軍艦ヲ造ルコトガ出來ル時期ニ立至ラウト思ヒマスドウシテ

モ日本ノ今日ノ國力ニ對スル製艦策ト云フモノハ、民間ノ工業カラ割出シテ出來テ來ナクチャナラヌト考ヘテ居リマス、曾テ英國ニ於テ獨逸ニ對抗スル爲メ海軍擴張論ノ盛ナリシ時「ブレシレイション、イステイバー、ゼン、アインシュ戰爭ハ軍備ヨリ不廉ナリ」ト云フコトヲ言ツテ居リマシタ、日本モ國力増進シ來リタレバ相當ニ門戸ヲ張ラナケレバナラヌ時代到來セルヲ以テ海軍ノ擴張ト云フコトモナクチャナルマイト思フ、徒ニ擴張ヲシタイト言ツテモ經費ノ續カナイモノハ到底出來ベキモノデナカラウ、ソレハ國力ニ基イテ防務會議ニ於テ國防問題モ決マルデアリマセウカラ、ソレ等ト相合致シテ製艦策ヲ建ツベキモノデアラウダラウト思フ、斯ノ如クシテ官民トモニ此海軍問題、製艦問題ト云フコトニ對シテ注意ヲ拂フヤウニナリマシタナラバ、日本ノ工業モ餘ホド進歩ヲ見ハセヌカト思ヒマス、是ハ自分ノ卑見カモ知レマセヌケレドモ、今日獨逸ノ各種ノ工業ノ盛大ヲ來シマシタ點ハ、獨逸皇帝ノ製艦策ニアルコトト思フノデアリマス、軍艦ヲ造ル場合ニ於テハ總テノ工業ニ影響ヲ及ボシマス、總テノ工業ハ是ガ爲ニ發達致シマス、ソレ故ニ日本ニ於テモ此軍艦ヲ造ルト云フコトハ日本ノ工業ヲ發達サセ、日本ノ工業ノ勃興ヲ促ス所以デアアルマイカト思ヒマス、此問題ハ吾々工業界ニ居ル者ノ率先シテ攻究スベキ問題デアアルマイカト思フノデアリマス、此處デ鳥渡申上テ置キタキコトハ先達アタリヨリ海軍ガ仕事ヲ壟斷スルト云フヤウナコトモ聞キマシタヤウデスガ、今日日本ニ於テ戰艦以上ノモノヲ造リ得ル「キヤバシチー」ヲ有ツテ居ル所ハ、民間ニ於テハ川崎、長崎ノ二箇所、海軍ニ於テハ横須賀ト吳ノ二箇所ヨリアリマセス、此四箇所ニ於テ出來ルノデスガ何年デ軍艦ガ出來ルカ、是モチヨツト分リマセヌガ、今日ノヤウナ期限ノ長イ造リ方ヲシテ居ツテハ迪モ戰時ノ如キ急ノ間ニ合フマイ、成ルベク製艦ノ期限モ短クシナケレバナラス、其爲ニハ海軍モ民間モ共ニ經驗ヲ得ナクチャイカヌノデアリマス、又戰艦ヲ造ルニシテモ海軍モ民間モ互ニ甲乙ノナイヤウニヤラナクチャナルマイダラウト思フ、現ニ民間ノ發達ハ吾々モ認メルノデアリマスケレドモ今日軍艦ヲ造ルコトニ於テハドウデアアル、自分等ハ商船ヲ造ツタ經驗ハアリマセヌケレドモ、軍艦ニ於テ遙ニ民間ヨリ以上ニアルダラウト思ヒマス、今日ハ海軍カラ民間ニ其經驗ヲ傳ヘテ居ルヤウナ次第デアル、此際ニ當ツテ海軍ハドウデモ宜イ、民間ヲ發達サセロト云フヤウナコトハ無理ナ議論デ

討

論

歐洲戰爭ト船舶ニ對スル討論

アル、日本ニ戰艦ノ造船所ガ澤山アツテ、海軍ハ袖手傍觀シテモ差支ナイ時代ニナリマシタナラバ兎ニ角、今日ハ斯ノ如キ時代デアリマセヌ、現ニ歐洲事件ヲ見テモ其國デ使フ物ハ其國デ造ル位ノ決心ガナクチャナラヌ、四艘ノ戰艦以上ニ出來ナイ「キャバシチー」ヲ以テ甘シズル時代アルマイ、是ハドウシテモ海軍モ民間モ暫クハ共ニ併行シテ行カナケレバナラスコトデアラウト思ヒマス、扱テ此製艦策ガ決マリマシタナラバ自然ニ補助工業ト云フモノモ決マツテ來ルダラウト思フ、今日補助工業ノ進マナイ所以ハ何處ニアルカト申シマスト小資本ノ人ガ唯時機ニ投ジテヤルト云フヤウナ方法ヲ講ジテ居ルノデアリマス、是ガ引續イテ注文ヲ受ケルコトガ出來マシタナラバ、有力ナ人間ヲ加ヘマシテ補助工業ヲ促進スル時期ガ來ルダラウト思ウ、海軍其他デ注文ヲ受ケマシテモ、其船ガ出來タナラバ後ハ望ミガナイト云フヤウナ今日ノ状態ニアツテハ、補助工業ヲ熱心ニヤルコトハ出來ナイダラウ、折角出來上ツタ工場モ倒レルト云フノハ多クハ此點ニ歸スルダラウト思ヒマス、日本ノ國力ニ對スル軍艦ヲ造ルト云フコトガ決マリマシタナラバ、又獨逸ノ如ク艦齡ヲ定メテ十五年ニ戰艦ヲ換ヘル、十八年ニ戰艦ヲ換ルト云フヤウナ風ニシテ、一年ニ一艘若クハ二艘ヅ、ノ補充船ヲ造ツテ置クト云フ風ニ決マリマシタナラバ、ソレニ相應スルダケノ「キャバシチー」ヲ有スル工場ガ出來ナクチャナラヌ、其工場ガ出來レバ段々經驗ヲ得ルト同時ニ擴張スルコトガ出來ル、是ガ今日ノ補助工業ノ發達ヲ促進スル一番良イ策デヤナイカト考ヘテ居リマス。

次ニ工費ノ節約、是ハ先程加藤サンカラモ色々有益ナ御話ヲ伺ヒマシタ、併シ自分ノ考ヘトハ多少違ツテ居リマス、唯今長崎ニ於ル色々ナ經驗ノ御話ガアリマシタガ、吾々ガ軍艦ヲ造ツタ場合ノ經驗ハ遙ニ違ツテ居リマシテ無論加藤サンノ今日ノ御話ハ三十二年ノ一・八ニ對シテ、四十三年ニハ一ニナツタ、其間ニハ色々ナ「フラクチェーシヨン」モアリマシタガ、海軍デ筑波ヲ拵ヘマシタガ日本デ甲鐵艦「アーマードシップ」ヲ造ツタ初メデゴザイマス、ソレカラ今日ハ三萬噸以上ノ戰艦ヲ造リ得ル、單リ海軍ノミナラズ民間ニ於テモ之ヲ造ルヤウニナリマシタ、此工費ヲ比ベマスト非常ナル「セービング」ガ出來テ居リマス、私ハ今日ソレニ對スル「インホメーシヨン」

ヲ持ツテ居リマセヌガ、自分ノ記憶ニ依テ見レバ進水マデニ使ヒマシタ工數ハ、筑波ハ一噸ニ對シテ約百人デア
リマスガ、比叡其他ノモノヲ見マスト四十人前後ニナツテ居リマス、斯ノ如ク「レーボア」ノ「セービング」ガ海軍
ニ於テハ出來テ居リマシテ、是ガ殆ド漸々減ジテ行ツテ居ルノデアリマシテ、途中デ高クナツタトカ何トカ云フ
コトハアリマセヌ、無論職工一人ニ對スル所得ハ幾分カ違ツテ居リマス、違ツテ居リマスケレドモ二割足ラズニ
過ギマセヌ、併ナガラ工數ノ差ハ二倍半モ違ツテ居リマス、斯ノ如クナツテ來タノハ職工ノ經驗ト先輩ノ指導ガ
重モナル原因デアリマス、又一ツニハ設備モ大變良クナリマシタ、是ガ日本ノ製艦業ノ進歩ヲ促シタ所以デアリ
マセウ、自分ノ知識ノ範圍ニ於テ日本ノ職工ト西洋ノ職工ヲ比ベマスニ何等「エフセシ」ニ差ガアリマセヌ、
寧ロ日本ノ方ガ上等デハナカラウカト思フ位デス、而シテ此所得ヲ考ヘマスト、日本ノ職工ハマダ八十二三錢デ
九十錢マデニ行カナイノデアリマス、西洋人ハ三倍以上ノ給金ヲ貰ツテ居リマス、三分ノ一ノ工費デ出來ル譯デ
アリマス、併シサウイカナイ原因ハ他ニアリマス、工費ハ斯ノ如ク減ツテ居リマスケレドモ日本ノ諸經費ハ非常
ニ要リマス、無論私ノ前ニ申上ゲマシタノハ實際カカツタ工數ダケデアリマシテ、機械ヲ運轉サセル、或ハ器具
ヲ造ル、海軍デ申ス附屬費ニ關係スル工數ハ入ツテ居リマセヌ、ソレ等ヲ悉ク入レマシテモ一割五分以上ニハナ
リマセヌ、併シ直接工費以外ノ經費ハ餘ホドカカツテ居ルダラウト思フ、色々餘計ナ人間ハ要リマス、西洋人
ガスルヨリモ隨分餘計ナ人ガアリマス、諸會社ニ於テモ恐ラクサウデアラウト思フ、實際ノ工費ニ就テハ恐ラク
ハ各造船所ニ於キマシテモ十年前ト比ベマスト今日ハ著シク減ツテ居ルダラウト思フ、唯經常費ガ減ラヌ爲ニ吾
吾ガ如何ニ苦心ヲシテモ、其苦心ハ水泡ニ歸スルニ過ギナイノデアリマス、是ハ會社ノ經營者ハ宜シク吾々以上
ニ奮勵シテ、經常費ヲ減ラスト云フコトニ對シテ盡力シテ呉レナケレバ永久日本ノ工業ハ進歩セスト思フノデア
リマス、唯今加藤サンモ工費ノ節約以外ニ何カアルヤウニ言ハレマシタガ、恐ラクハ其點ニ付テ言ツテ居ラレル
ノデハナカラウカト思ヒマシテ、私モ此點ニ對シテハ至極同感デゴザイマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラ日本デ
工費ガ高クナルト云フコトハ、實ニ吾々技術家ガ一大耻辱ヲ受ケテ居ルモノデハナカラウカト思ツテ居リマス、

然ラバ統計ハドウデアルト仰ツシヤラレルダラウト思フ、私ハ統計ヲ信ジマス、併シ全然信賴致シマセヌ、何故ナレバ其統計ハ果シテ「エフヒセンシー」ノ最モ良キ統計デアルヤ否ヤ、今日ノ工業ニ於テ夫レ以上ハドウシテモ人ヲ減ラスコトガ出來ナイカ、「フエヒセンシー」ヲ増スコトガ出來ナイカト致シマシタナラバ、マダ〳〵餘裕ガアルダラウト思フ、自分等ノ關係シテ居タ工場デ言ヒマス、海軍ハ更ニヨリ以上減ラスコトガ出來ルダラウト思ヒマス、吾々ハ眞ニ微力ナル者デアリマシテ加フルニ永年ノ間同ジ仕事ヲヤツテ居リマセヌ、始終色々ナ仕事ヲヤツテ居リマス、斯ノ如キ吾々ノヤリマシタモノガ「ベスト」トハ自分デモ思ツテ居リマセヌガ、「エフヒセンシー」ハ漸次進ンデ居ルト云フコトハ認メマス統計ノ示ス所ニ依レバ西洋人ヨリ「レーボア」ニ付テ遙カニ優ツテ居ル點モアルダラウト思ヒマス、併シ體力ヲ比較シマスト日本人ト西洋人トハ非常ニ差ガアリマス、併ナガラ今日ハ體格バカリノ問題デアアリマセヌ、機械ノ設備ガアリマス、「ハイドロリック」、「ニューマチック」電動力ト云フヤウナモノガアリ、物ヲ引上ゲルニハ「ガントリックレーン」ガアリ、「リフチングクレーン」ガアル、人ノ力が幾ラ「エライ」ト云ツテモ機械力ニハ到底及ビマセヌ、體力ヲ輕スル譯デハ決シテナイガ結局頭ノ良イ者が最モ早ク仕事ヲスルノデアアル、殊ニ日本人トシテノ特色ハ、日本人ハ如何ナル者デモ大工ノ心得ガアル、西洋人ニ比ベマスト餘ホド器用ナ點ガアル、日本人ニ此大工ノ心得ガアルト云フコトハ、日本人ガ世界ニ於テ造船事業ニ最モ適當ナル人間デアルト信ジテ居リマス、西洋人ニハチヨツト出來ナイヤウナコトヲ日本人ハ雜作ナクヤル、此日本人ヲ十分ニ働カスト云フコトハ其上ニ立ツテ居ル人間ノ指導如何ニアルコトト思ヒマス、日本人ハ不思議ナ能力ヲ有ツテ居ル、西洋人ニハ今日ヨリ、ヨリ以上ノ事ヲ望ムハ難事ナレドモ、日本人ハ指導者ノ如何ニヨリテハドンナ事デモヤル、日本ノ戰爭ニ強イ所以ハ畢竟其處ニアルノ職工ニアツテモ、實ニ吾々ノ豫想以外ノ仕事ガ出來ルコトガアリマス、會社若クハ此事業ニ當ル人々ガ何トカ十分ニ是等ノ點ニ注目サレタナラバ日本ノ職工ナル者ハ驚クベキ仕事ヲスルト思ヒマス、今日「エフヒセンシー」ト云フコトヲ非常ニヤカマシク論ジテ居ラレマスガ、歸スル所「フエヒセンシー」モ幹部ガ働カクテハ十分ナル好果ヲ得ルコトモ出來ヌト云フノデ、私モソレニ同感デアリマス、

今日日本ノ工業ヲ見マスト、技手萬能主義デアリマス、組長萬能主義デアリマス、組長ガイケマセヌ、技手ガイケマセヌト言ツタ時ニハ何モ出來ナクナル、斯ウ云フコトヲシテ居ルカラ日本ノ工業ハ進マナイ、日本ノ工事費ガ高クナルノデアリマス、吾々ガ直接ニ働イテ、吾々ガ其職工ヲ動かスダケノ手段方法ヲ講ジテ、千人ノ職工ガアリマシタラ千人ヲ悉ク其命令ニ従ハセテヤルト云フヤウナ訓練ガ出來マシタナラバ總テノ問題ハ解決ガ出來ルダラウト思フ、是等モ一朝一夕ニハ出來マセヌケレドモ、今後大學ノ教育ニ於テモ是等ノ點ヲ幾ラカ研究シテ「ペーパーエンヂニア」ヲ造ルヤウナコトデナク「プラチカル、エンヂニアリング」ノ「アイデア」ヲ入レナケレバナラヌト思フ、是等ノ事カラ段々ヤツタナラバ十年以上經タナクテモ日本ノ工業ハ世界ニ冠タルモノニナルダラウト思フ、又自分ノ經驗シタ所デ見ルト軍艦ノ外板甲板其他ノ「プレシニング」ニ對シテ「マーキング」スルノヲ見ルト一方ノ「サイド」ハ唯一ト鉋ヲカケサヘスレバヨイノニ一時若クハ一時半ノ餘裕ヲ置イテ「マーキング」ヲナシ「シイヤ」ニカケタル上鉋ヲカケ居ルノヲ見タ、是等ハ「マーキング」ノ際一方ダケデ濟ムノデアルカ職人ハ無意識ニヤツテ居ル、斯ウ云フ點ハ極些細ナ事デアルケレドモ、斯ノ如ク節約スベキ點ヲ注意シテ働カセタナラバ、唯今加藤サンハ二倍ニ働カスコトハ出來ナイト言ハレルケレドモ、私ハ二倍ニ働カスコトモ出來ルダラウト思フ、又經濟ト云フ頭ガナイト云フ例ハ新造船内ニハ無論電燈モ諸方ニツケテ居リマスケレドモ、二重底其他極窮屈ナ場所ニハ常時人ガ入ツテ行カヌモノデアリマスカラ、入ル時ニ限り蠟燭ヲツケテ行ク、ソレデ蠟燭ヲ與ヘテ居リマス所ガ私ノ實驗シタノハ、「ダブルボトム」ニ手ヲ入レテ見マシタ所ガ生蠟燭ガ八十本位少シモ使用セラレズニ汚水ノ中ヨリ出テ參リマシタ、是等ハ職工ニハ官ノモノ會社ノモノハ自分ノ經濟ニ直接ニ關係セヌ故價格ノナキモノノ如ク考ヘ材料ノ大切ト云フ觀念ヲ頭ニ有ツテ居マセヌノデ、マルデ捨テルヤウナ濫用ヲヤツテ居リマス、是レモ皆サンガ注意ヲシテ、如何ナル材料デモ貴イモノデアルト云フコトヲ頭ニ有タシテ職工ヲ訓練シマシタナラバ工事費ハ大分減ツテ來マス、斯ノ如キ事ハドウシテモ技手任セデハイカナイ、組長任セデハイカナイ、幹部ガ方針ヲ授ケテ、職工ハ其命ゼラレタル範圍ニ於テ自分ノ能フ限りノ「ベスト」ヲ盡スト云フコトニ訓練セナケレバ仕

事ノ「フエセンシー」ヲ増進スルコトハ出來ナイ、幹部ノ職務ハ其命ジタル仕事ハ果シテ命令通り實行サレテ居ルカラ時々指導監督ヲスルニアリマス、サウシテドウシテモ自分ノ命令ガ行ハレナイト云フヤウナ場合ニ於テハ其原因ヲ攻究シテ指導スルナリ又ハ新ナル方法ヲ講ズルト云フヤウナコトヲヤリマシタナラバ大分仕事ガ違ツテ來ル、技手任セ、組長任セラシテ居テハ其命令ヲ聞クニハ聞クガ如何ニシテ之ヲ行ツテ居ルカト云フコトニ對シテハ經驗アルモノニ對シテハ好果ヲ奏スルガ新規ノモノニアリテハ眞ニ情ケナイ状態デアリマス、實行ガ出來ナイノニドウニカスウニカゴマカシテ報告ヲシテ居ル場合モアル、斯ノ如キ次第デアルカラシテ今日一艘船ヲ造ツテヤリ損ツタ所ヲ、其次ニソレヲ改メルコトガ出來ズシテ同ジャウナ失敗ヲ重ネテ居ル、是ハ日本ノ工業ニ對シテ考ヘナケレバナラヌ重大ナル點デハアルマイカト思ヒマス。

最後ニモウ一ツ御話シテ置キタイコトハ、補助工業デ「ウエンドラス」トカ「ウインチ」トカ云フモノガ段々出來ルヲ御同慶ニ耐ヘマセヌガ錨鎖工事ト云フモノハ今日ノ場合マダ困難デ、ウマク出來マセヌ、大阪ニハ是ノ工場ガアリマス、又日本錨鎖株式會社ト云フモノモ近頃出來マシタケレドモ二吋以上ノ「ケイブル」ヲ造ルコトハ出來ナイ、又此材料ハ英吉利カラ舶來シタモノデナケレバイカナイノデアアル、今日「スチール」デ機械的ニ造ル「チエーン」ガアリマシテ、現ニ獨逸アタリデハ使ツテ居リマス、私ガ丁度英吉利ニ居リマシタ時分ニ「ジョン、ブラウン」デモ此ノ機械ヲ持ツテ居リマシタガ、英吉利デハソレヲ容易ニ使用シテ居ラヌヤウデアリマシタ、當時自分等モ幾分カ懸念ヲ有ツテ居リマシタ、ト云フノハ「フラット、バー」ヲ重ネテ熔接シテ製造シタモノナレバ其「ラミネーション」ハ永年使用ノ結果腐蝕ヲ生ジテ使用ニ耐ヘナクナリハセヌカノ虞ガアツタカラデス、處ガ今日デハ使用以來十年モ經チマスケレドモ、不幸ニシテ自分ハ其方面ニ關スル知識ガアリマセヌ爲ニドウ云フ事ニナツタカ詳シク知リマセヌガ結果ノ不良ト云フコトモ耳ニセズ漸次歐洲諸國ニ於テモ使用シテ居ル様ニ見受ケマス、是等モ日本ノ如キ幼稚ナル工場デ「チエーン」ヲ造ル、三吋以上ノ「ケイブル」ヲ造ルト云フコトハ多大ノ費用ト經驗トヲ要スル、是ハ寧ロ機械的ニ造ルモノヲ撰定シタ方ガ良クハナイカ、官民協同ノ上デ是等ノ問題ニ對シテ攻究シタ

ナラバ成效スルニ至ルモノト思ヒマス、多少保存期間ニ於テハ短イカモ知レマセヌケレドモ、今日ノ船デハ三十年モ四十年モ使ヘマセヌ、二十年モ使ヘレバ結構デアル、廉ク出來ルモノトセバ船ノ一生ノ中ニ一遍位換ヘテモ宜カラウト思フ、願クハモウ少シ研究シテドンナ「ケール」デモ日本デ外國ノ力ヲ藉ラズ出來ルト云フコトニシタイト思ヒマス、ソレカラ「ワイヤローブ」是モ日本デ出來ルコトニナリマシタ、吾々ハ眞ニ愉快ニ感ジマス、ケレドモ上等ナモノハ舶來品ヲ使ツテ居ル、ソレモ開戦以來ノ一ケ年ノ今日、材料ハ全クナイ、眞ニ心細イト云フトガ今岡博士ノ論文ニモゴザイマス、是ハ情ケナイコトデアリマス、併シ聞ク所ニ依リマスト住友デハ引拔鋼管ヲ造ツテ居ル、其材料ニハ瑞典「スチール」ヲ使ツテ居リマシタ、所ガ是モ戦争ノ爲ニ輸入ガ杜絶サレ餘ホド研究ノ結果、日本ノ製鐵所デ出來ル材料ヲ以テ造ツタ、サウシテ瑞典「スチール」ニ比ベテ負ケナイモノガ出來ルト言ツテ居リマス、斯ノ如ク住友デモ日本ノ材料デ立派ナ「テューブ」ガ出來ルト云フコトヲ言ハレテ居ル以上ハ「ワイヤローブ」モ出來スコトハアルマイ、現ニ普通ノ「ワイヤローブ」ハ製鐵所ノ材料ヲ使ツテ居ル、今少シ研究シタナラバ上等品モ内地製品ヲ以テ補フコトガ出來ハセヌカト思ヒマス、是等モ各學會ニ於テ研究ノ歩ヲ進メタナラバ、吾々ハ心強ク内地製品ヲ使フダラウト思ヒマス。

製鐵所ノ「キャバシチ」ガ足りナイト云フコトハ皆サンノ御説デ、四ツモ五ツモ欲シイモノデアル、併シ今急ニハ出來マセヌ、又擴張工事が出來マスト十二萬噸以上ノモノヲ造ルト云フコトヲ聞キマスケレドモ是亦足りマセヌカラ、日本デハ年々ドレ位ノ鐵板ガ要ルカト云フコトヲ御調べニナツテ、製鐵所デ出來ルノデ足りナイ物ヲ民間デ造ルト云フヤウナコトモ、此學會ノ決議ニ依テ、有力ナ方面ニ運動ヲ致シマシタナラバ、暮年ナラズシテ斯ノ如キ計畫ガ出來ルダラウト思ヒマス。

眞ニ貴重ナ時間ヲ吾々ノ如キ者ガ下ラナイ事ヲ申上ダマシテ皆様ノ清聴ヲ煩ハシマシタ。(拍手)

加藤君 吳デ「スチール」ヲオヤリニナルニ付テ、ドノ位オ造リニナルコトガ出來ルヤウナ御見込デゴザイマス

カ。

東海君 ソレハ一向存ジマセヌガ、私が申上ゲタノハ吳ニハ造リ得ル「キャバシチー」ガアルト云フコトヲ御紹介申上ゲタノデ、果シテ吳デ造ルカドウカト云フコトハ私ニハ言フコトガ出來マセヌ。

加藤君 「アーマー」以上ニ十分餘力ガアラウト云フ御見込デゴザイマスカ。

東海君 今日「アーマー」ダケデモ非常ニ忙シイノデ、ソレダケノ餘力ハナイカモ知レヌ小口徑砲楯用甲鐵ヲ造ルノ經驗アレバ是ト多少材質ヲ異ニスルモ比較的薄キ鋼板ヲ引キ延バスダケノ經驗ガアリマスカラ或種類ノ物ハ出來得ルコトト思ヒマス併シ民間ノ會社ヨリ直接注文ヲ受ケテ吳デ造ツテヤルト云フコトハ到底出來ナイ問題ト思フテ居リマス、唯日本國中搜シテ板ヲ造ル所ガ他ニ有ルカ否ヤト云フ點ニ對シテ心付イタコトヲ御話シタニ止マルノデアリマス。

加藤君 筑波デハ百人カ、ツタモノガ今日ハ四十人位デ濟ムト云フ御話デアリマシタガ、此先キドノ位マデ減ズルコトガ出來ルト云フ御見込デスカ。

東海君 チヨット申上ゲカネマヌガ、幾ラニ減ラスカ減ラサヌカト云フコトハヤル人ニ依ルダラウト思フ、三十五人デヤルト云フ計畫ヲシタナラバ其位ノコトモ出來ヌコトハアルマイ、人ニヨルコトデアリマスカラ、自分ガ局ニ當ラス場合ニ於テ幾ラト云フコトモチヨット言ヒカネルコトデアアル、又海軍ニ於テハ大分人ガ減ツテ居リマス、筑波ノ時代カラ比ベマヌト半分以下ニ減ツテ居リマス、今日ハ半分以下ニ減ツテ居リマスケレドモ製艦ノ期限ニ於テハ餘リ遅レテ居ナイ、豫算ノ年度割等ニ制限セラレザレバ寧ロ段々短クナツテ來テ居リマセヌカト思ヒマス。

加藤君 三十五人デ一人ノ賃料ハ

東海君 是ハ段々殖エテ參リマスケレドモ吾々ハ便宜上豫算編制上ニハ約一圓ト云フコトニ見テ居リマス、サウシテ全體ノ費用ニ於テハ艤裝ニハ時世ニ伴ヒ色々ノ要求ガアリマシテ餘ホド込入ツテ居リマスカラ比較モ取りニクイノデアリマスケレドモ、是レトモ段々減ツテ來ルト云フコトハ統計上ニ示シテ居リマス。

加藤君 ソレカラシテ西洋人ノ「エフセシシー」ハ日本人ト違ヒナイト云フコトデシタガ、ソレハ「メンアワー」デ御比ベニナツタノデスカ。

東海君 今例證ヲ取リマスレバ、曾テ朝日ノ場合ノコトヲ聞キマシタノニ、朝日ハ五十何人カ、ツタト云フコトモゴザイマシタ、金剛アタリノ例ヲ取リマスト大分、人ガカ、ツテ居ルヤウデゴザイマス、併ナガラ是ハ本當ノモノヲ報告シテ居ルヤ否ヤト云フコトガ分リマセヌカラ、果シテ幾ラト云フコトハ分リマセヌケレドモ、金剛ノ例デ見マスレバ比叡ノ方ハ遙ニ減ツテ居リマス、恐ラクハ四十人位デハ西洋デハ出来マイドラウト思ヒマス、併シ具體的ニ調べタコトデアリマセヌカラ確言ハ出来ナイ話デアリマスケレドモ、先ヅ自分ノ聞キマシタ範圍ニ於テハ劣ツテ居ナカラウト思ヒマス。

加藤君 唯今ノ事ニ付キマシテ、先刻私ノ申上ダタ「レーボア」ノコトハ足リナイ所ガアツタカ知リマセヌガ、東海サンカラ色々御話ガアリマシテ、筑波ノ時分ニハ百人カ、ツタモノガ今日ハ四十人デ濟ム、今日カラ比ベテ見ルト二倍半位カ、ツタ、今日ハ一デ出来ルト云フ御話デアツタノデアリマスガ、詰リソレニ能ク似タ話ガ先程御話申上ダタ天洋地洋、加茂「クラス」ノ四艘、櫻丸ト云フヤウナモノヲ造リマシタ時ニアル、詰リ急ニ仕事ガ殖エ、急ニ人間ヲ殖ヤスト云フ爲ニ、今日ニ比ベマスト一番地洋ガ多ウカツタノデ二倍三八モカ、ツタノデアリマス、ソレデ筑波ノ時ハ長崎デ天洋、地洋、其他加茂「クラス」ノ四艘ヲ造ツタ時ト同ジャウニ急ニ仕事ガ大キクナツタノデ私ノ想像デアリマスケレドモ「アンスキルドレーボア」ヲ御使ヒニナツタ爲ニサウ云フ風ニナツテ居ルノチャナイカト思フ、ソレニハ私ノ方デモ苦イ經驗ヲ有ツテ居リマスカラ、順當ニ仕事ヲシテ行ク時ニハ段々下ツテ來ルト云フコトヲ申上ダタノデ「カーヴ」ヲ作ツタノモアリマスガ、其「カーヴ」ヲ見マス注文ガ多クテ其年ニ使ツタ「スチール」ガ多クナツタ、急ニ多クナツタ時ニハ必ズ「レーボア」ガ多クナツテ上ツテ居ル、詰リ「スチール」ノ多イ少ナイニ依テ「カーヴ」ガ「ホーロ」シテ行ク譯ニナツテ居ルノデアリマシテ、「スチール」ガ順當ニ五千噸、六千噸、七千噸、八千噸ト云フヤウニ上ツテ行ケバソレ程ノ影響ハアリマセヌケレドモ、天洋地洋ノ時ナド

ハ六千噸カラ二萬噸ト云フヤウニナリマシタカラ、「レーボア」モ今日カラ比ベマスト二倍三八ト云フ譯ニナツタ
ノデアリマシテ、先程申上ゲタ趣意ハ、人夫ノ節約ヲスルト云フテモ、唯口デ節約ヲスルト云フテモ果シテドノ
位ノ節約ガ出來ルカト云フコトニ付テ、私ノ考ヘデハ此以上大シタ節約ハ出來マイ、今日一ノモノガ・五トカ・五
五トカニハナルマイト云フコトヲ申シタノデアリマシテ、或ハ半分ニ出來ルト仰ツシヤツタヤウデアリマシタガ
唯今承ルト四十人ガ三十五人ト云フ位ニナル、結局一割位節約ガ出來ルト云フ程度ニテ迪モ半分ニハナラヌ即チ
稍々私ノ思フテ居ル數字ト似タヤウナ數字ガ出テ來タノデアリマス、チヨツト一言附加ヘテ申上ゲマス。

原 正 幹 君

先程カラ加藤サン、及東海サンカラ職工ノ能率ノ事ニ付テ有益ナ「インホメーション」ガアリマシテ結論ト致シマ
シテ加藤サンハ此以上ニ増ス餘地ハナカラウ、東海サンノハ大ニ増ス餘地ガアルト云フ風ニ承ツタノデアリマス、
西洋人ト日本人トノ間ノ職工ノ「レーボア」ノ「フェセンシー」ト云フコトニ付テハ、私モ多少考ヘテ居ルノデア
リマスガ、其細カイ事ハ造船彙報ニ出シタイト思フテ先般出シテ置キマシタカラ其方ニ讓ツテ置キマスガ、其大體
ト致シマシテ日本人ト西洋人ト生産力ガ同ジデアルト云フ結論ニハ達シナイノデアリマス、寧ロ加藤サンノ御説
ノ如ク日本人ハ西洋人ノ生産力ノ半分デアルト云フ風ニ考ヘラレマス、デ加藤サンノ御説ノ一・八二、一・八ト仰ツ
シヤルノハ色々ナ「アツサンブション」ノ下ニ立テラレテ居ルノデアリマシテ、私ハ二ト一位ノ違ヒデハアルマイ
カト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ一ツハ熟練ノ程度ト云フコトニ於テ敵ハナイト云フ色々ナル諸君
ノ知ラレテ居ル例モアルノデアリマシテ、ソレノミナラズ職工ノ體力ト云フコトニ付テ非常ニ「ハンデキャップ」
ガアル、併ナガラ東海君ノ言ハレル如ク色々ノ設備ニ依テ補フコトガ出來ルカ知レマセヌガ、同ジ設備ノ下ニ兩
方ヲ比較シテ見ルナラバ、遺憾ナガラ彼等ノ體力ニハ敵ハナイノデアリマシテ、詰リ鋌ヲ打ツニシテモ彼等ノ打ツ
鋌ノ半分、或ハ三分ノ一シカ打テナイ、「マーキング」ニシテモ、「ブリーチング」ニシテモ、色々ナ點ニ於テ體力

ノ伴フ仕事ニ對シテハ、日本人ハ西洋人以上ノ能力ヲ發揮スルコトハ出來ナイト考ルノデアリマス、此體力ト云フコトニ付テハドノ點ヲ比較シテ宜イカト云フコトハ私共ニハ分リマセヌガ、併シ吾々ガ日常取テ居ル食物、其食物カラ得ル所ノ滋養分量、即チ「エネルギー」ト云フモノヲ取ツテ比較スルト云フコトガ最も近イノデハナイカト考ヘマス、ソレデ日本ニ於ケル職工ノ取ツテ居ル食物ヲ考ヘテ見マスト、私自身ハソレニ付テノ調査ノ報告モ持ツテ居リマセヌケレドモ、併シ其専門ノ方、新陳代謝學ノ「オーソリチー」デアアル所ノ額田醫學博士ノ說ヲ採リマシテ、及千九百十二年ニ「グラスゴー」市ニ於テ調査シマシタ「グラスゴー」ノ職工ノ營養狀態ニ付テノ報告、此二ツノ物ヲ採ツテ比較シテ見マセバ、我職工ノ取ツテ居リマス滋養分ト云フモノハ「グラスゴー」ノ職工ノ取ツテ居ル滋養分ト云フモノノ約五割六分カト思ツテ居リマス、詳シイ數字ハ覺エテ居リマセヌガ、詰リ體內ニ取入レル「エネルギー」ノ量ガ既ニ我職工ハ五割ナニガシデアアルノデアリマス、其取得タ「エネルギー」ガ體內ニ於テ如何ニ消費サレテ、如何ニ實際ノ力ニナツテ出テ來ルカソレハ分リマセヌガ、併ナガラ若シ同ジ熟練ノ程度デアツタナラバ、サウシテ同ジ「プロポーション」ニ消費サレテ出テ來ルトシタナラバ、其生産力ハサウ云フ比例デ出テ來ルノデハナイカト思ヒマス、即チ我職工ハ彼ノ五割ナニガシニ止マルノデアルト斯ウ云フ風ニ考ヘマス、ソレデ加藤サンノ言ハレタ所ノ、現在ニ於テノ一・八ト云フコトハ即チ四割ナニガシ、五割近クデアリマスカラ、熟練ノ方カラ言ヒマシテ彼ト同ジ程度ニ達シタナラバ、體力上一割ナニガシハ増進スル餘地ガアルノデアリマス、況ヤソレ以上ニ熟練ノ程度、今東海君ノ言ハレル如ク、大工ノ如キハ彼ヨリ餘計ニ熟練ノ程度ガアルトスレバ其以上ニ進ムコトガ出來ルノデアアルノデアリマス、又是ハ體力ノミナラズ造船所内ノ設備ニ於テモ、彼ト必シモ同一トハ考ヘラレマセヌ、材料運搬ト云フヤウナ點ニ付テ、我造船所ガソレガ爲ニ無駄ニ使ツテ居ル「レーボア」モ澤山アルノデゴザイマス、是ガ尙減ツタナラバ生産力モ現在以上ニナリ得ルト云フコトハ明カニ言ヘルノデアリマス又一・八乃至二ト云フモノノ比較ノ中ニハ人足ト云フモノモ入ツテ居ルノデアリマシテ、是等ヲ取ツテ仕舞ツタナラバモウ少シ日本ノ職工ノ「エフヒセンシー」ハ多クナルノデアリマス、即チ此能率ト云フモノニ付テハ非常ニ増

ストハ認メラレナイノデアリマスガ、併シ是レ以上ニ増ス餘地ガ澤山アルト云フコトハ、机上ノ空論カモ知レマセヌガ私共ハ信ジテ疑ハナイノデアリマス。

其次ニ目下ノ時局ノ問題ニ付キマシテ、皆サンノ御考ヘハ唯二ツシカナイデアラウト考ヘマス、第一ニ造船材料ノ供給如何、第二ニ補助工業ノ供給如何、是等ガ十分ニ行ツタナラバ、此時局ニ際シテモ將來ニ於テ十分活動スルコトガ出來ルト云フ結論ニ對シテハ、ドナタモ異存ノナイコトデアラウト思ヒマス、然ラバ其造船材料ヲドウシタラ宜イカト云フコトヲモウ少シ研究ヲナサレテ、又補助工業ニ付テノ獎勵ト云フコトニ付テモ具體的ノ案ヲ色々御考ヘニナツタナラバ、此問題モモウ少シ實際的ニナルデアラウト考ヘマス、是等ノ點ニ付キマシテハ船價調査會ニ於テ度々有力ナル有志者諸君ノ間ニ議論ガ繰返サレタコトデアリマシテ、今更私共ガ申スマデモアリアセヌデ、此方面ニ向ツテモット他ノ方法ヲ考ヘラレムコトヲ切望スル次第デゴザイマス、又船舶試驗所ニ付テ今岡サンノ希望ガ最後ニ書イテアリマス、此點ニ付テハ至極同感デアリマスガ、實ハ是等ノ如キモノハ、民間ニ於テ設立スルト云フコトモ一ツノ方法デアリマスガ、併ナガラ最高ノ學府デアル帝國大學ノ如キモノガ是等ノ設備ヲ一ツ有ツテ、民間ノ依頼ニ依テ調査ヲスルト云フ様ナ事ノ方面ニ向ハレム事ヲ切ニ祈ルノデアリマス。(拍手)

堤 正 義 君

前會ニ出ルコトガ出來マセヌデ遺憾デゴザイマシタガ、承ハル所ニ依リマスト色々名論卓説ガ澤山ニ出タト云フコトデゴザイマス、ソレニ附加ヘマシテ私ハ何モ申上ゲルコトハゴザイマセヌ、唯講演者ノ結論トシテ出サレマシタ六箇條ノ中「イ」カラ「ニ」マデノ箇條ニ付キマシテハ、曾テ船價調査會ニ於キマシテ研究ヲサレタコトモゴザイマスシ、尙此本論竝ニ討論ニ於キマシテ色々名論モ出テ居ルコトデゴザイマスカラ、是ガ世間ニ紹介サレタナラバ十分ニ其目的ガ達セラレルノデハナイカト思ヒマス、デ最モ肝要ナル所ノ材料ノ問題ニ付キマシテハ今夕モ大分御議論ヲ拜聽致シマシテ益々必要ナコトヲ感ズルノデアリマスガ、最近ニ日本鐵鋼協會ニ於キマシテ製鐵

事業振興ニ關スル調査ト云フコトヲ御始メニナリマシタ、今夕御來會ニナツテ居ル俵博士、竝ニ此方ノ「オーソ
リチー」デアル所ノ香村博士、服部博士、今泉博士等ガ皆從事サレマシテ、色々材料調査、ソレカラ又製鐵事業
ノ方針、經濟關係ノ調査、或ハ「スタンダード」ノ事ニ付イテ、或ハ「テスト」ノ事ニ付テ色々御研究ニナリマシ
テ、尙本會ノ理事デアル所ノ寺野博士ト野呂博士ガソレヲ總括シテ研究サレルト云フコトニナツテ居リマス、本
協會トシテ色々研究シマスコトモ無論必要デアリマス、或ハ又其結果ヲ以テ此日本鐵鋼協會ニ助力ヲシテ目的ニ
向ツテ進メテヤルト云フコトモ必要デアラウカト思ヒマス、或ハ此會ノ會員諸君ガ銘々ノ御意見ヲ寺野博士マデ
御提出ニナリマシテモ、此目的ヲ達スル上ニ利益ニナリハシナイカト思ヒマス、チヨツト此事ヲ御紹介申シテ置
キマス。

尙此船舶試驗所設立ト云フコトニ付キマシテチヨツト考ヘタコトモアリマシタガ、此問題ニ付キマシテハ本討論
會ノ主唱者デアリ且ツ吾々ノ尊敬シマス所ノ先輩斯波男爵ガ之ニ對シテ「プロボーザル」ヲナサルト云フコトデ、
私ト期セスシテ意見ガ一致シマシタ次第デゴザイマス、其事ハ斯波男爵カラ言フテ戴クコトニ致シマス。(拍手)

男 爵 斯 波 忠 三 郎 君

私ハ先頃今岡博士、渡邊工學士ガ御講演ニナリマシタ時ニ此「ペーバー」ヲ戴キマシテ、結論ニ書イテアル所ヲ拜
見致シマシタ、所ガ至極結構ナ御趣意ノヤウニ存ジマシタ、其席デ色々「ヂスカッション」モ出サウデアリマシタ
ガ、時間モ大變經ツカラト云フ座長ノ御注意ガゴザイマシテ十分ナ「ヂスカッション」ガ出來ソウニゴザイマセヌ
デシタカラ、私ガ座長ニ申上ゲマシテ、大變ニ有要ナコトノヤウニ思ヒマスカラ、「ヂスカッション」ノ會ダケ別
ニ御開キ下サルヤウニト云フ希望ヲ述ベマシタ、所ガ幸ヒニ御許シ下サイマシテ、先般其會ヲ御開キニナリマシ
タ所ガ先般大層有益ナ御討論ガアツタヤウニ伺ヒマシタ、其節私ハ不幸ニシテ病氣ヲヤツテ居リマシテ出席ガ出
來マセヌデゴザイマシタガ、併シ私ガ申上ゲタ爲ニ御開キ下スツタコトハ私ノ衷心感謝スル所デゴザイマス、私ガ

左様申上ゲタ次第八、此御講演中ニ付テ皆様ノ御議論モ色々ゴザイマセウガ、成ルベク手ツ取り早ク本會等ニ於テ實行ニ著手ノ出來ルモノガ若シアツタナラバドウカシテソレヲ實行スルカト云フコトヲ一ツ研究シテ戴キタイト云フコトノ希望ヲ述べタカツタノデアリマス、製鐵事業ノ發達ヲ促スト云フヤウナ事トカ、又一般ノ造船業ハ如何ニ發展スベキデアルカト云フヤウナコトニ付テハ先頃カラ色々伺ヒマシテ、至極御尤ナ御説デゴザイマシテ如斯大キイ問題ハ大キイ問題トシテ、本會ノ如キ有力ナル造船ニ關スル會ニ於テハ常ニ攻究セネバナラヌコトト思ヒマスガ先ヅ第一ニ本會ニ於テ著手シテ見タラ如何カト思ヒマスコトハ、今岡君ノ結論中ノ一番オ終ヒノ「ヘ」ト云フ所ニ書イテアル船舶試驗所設立ト云フコトデアリマス、是ハ申スマデモナク「エキスベリメンタルタンク」ノコトデ、先年、明治三十九年デアリマシタガ、マダ海軍デ「エキスベリメンタルタンク」ヲ設立セラレナイ前、三菱造船所ニ此「タンク」ガマダ設立サレヌ前ダツタト思ヒマス、日本ニ「エキスベリメンタルタンク」ガ無ケレバ、造船家ハソレニ依テ研究スルト云フ道具ガナイノデアルカラ、根本的ニ造船術ノ發達ヲ希望スルナラバ、先ヅ第一ニ「エキスベリメンタルタンク」ヲ設立スルコトガ急務デアラウト云フ、本會ニ於テノ決議ト云フ譯デハナカツタト思ヒマスガ、會ノ多數ノ意嚮デアツタト思ヒマス、ソレデアルカラ本會ニ於テ必要ナル理由ヲ世間ヘ向ツテ鼓吹スルト云フコトヲヤラウヂヤナイカ、同時ニ又當局者ニ對シテ建議ヲシヤウヂヤナイカト云フコトニナリマシテ、確カ會長ノ御名前デ總理大臣ト學術ノ當局文部大臣、ソレカラ船舶關係ノ遞信大臣、農商務大臣、海軍大臣、大藏大臣、ソレダケヘ建議書ヲ出シタコトガアリマス、サウシテ建議書ダケデハ「タンク」ガ何デアルカ分ルマイカラ當局ヘ行ツテ説明シタガ宜カラウ、ソレト同時ニ議會ノ有力ナ團體ヘ持ツテ行ツテ、斯ウ云フ事ヲシタガ「タンク」ハ斯クノノモノデアルト云フコトノ分ルヤウニ説明シタラ宜カラウト云フヤウナ注意ヲ受ケマシタノデ、寺野博士、及バスナガラ私モ貴族院ノ土曜會トカ研究会トカ云フ所ニ説明ニ罷出タコトモアルヤウニ記憶シテ居リマス、其後「タンク」ハ三菱ニ一ツ出來、海軍ニ一ツ出來マシタガ、其頃ノ海軍大臣ハ齋藤海軍大臣ダツタト思ヒマスガ、造船協會ノ建議ニ對シテハ可ナリ御同情ヲ有ツテ居ラレタヤウデアリマシタガ、先ヅ海軍

デ拵ヘルヤウニナツタト云フコトヲ後デ同大臣カラ承ツタコトデアリマス、先ヅ海軍デ出來タノデ、日本デハサ
 ウ同時ニ澤山拵ヘル譯ニハイクマイカラト云フヤウナコトモアリマシタ、ガ出來テ見マスト三菱造船所ハ御自身
 ノ所デ御拵ヘニナル船ノ試験ノ爲ニオ忙シイヤウデアルシ、又海軍ノ試験所ハ軍艦ノ試験ノ爲ニ中々忙シクテ、一
 般ノ依頼ニ應ジテ色々ナ研究ヲシテヤルト云フヤウナコトハ中々實際ニ於テムツカシイヤウデアリマス、デアリ
 マスカラ今岡君ノ「サゼツション」ノヤウニ誰デモ「アクセツシブル」ナル試験所ノ必要ナルコトハ皆サンモ御認メ
 ニナルコトデアラウト思フノデアリマス、果シテサウ云フ必要ガアルナラバ是ハドウカ云フ方法ニ於テ、本會ノ
 如キ有力ナ團體ガ、運動ト言ツテハ語弊ガアルカ知レマセヌガ、何處カニ一ツ拵ヘル様ニ其方針ニ向ツテ進ンデ
 行フデハナイカト云フコトヲ多數御集リノ席上ニ於テ皆サンノ御意見ヲ伺ヒ、又ソレニ對シテ私モ及バズナガ
 ラ相當ノ意見ヲ有ツテ居リマスカラ述べタイト考ヘルノデアリマス、假リニ私ノ考ヲチヨツト述べテ見マズレバ
 何處ニ設立スルト云フヤウナコトハ第二ノ問題ト致シマシテ、ドウ云フ方法デ設立スルト云フヤウナコトモ第二
 ノ問題ト致シマシテ、豫テ本會ニ於テ船價調査會ノ委員ヲ置レタヤウナ風ニ、出來ルナラバ委員デモ御設ケニナ
 ツテ、其委員ノ調査ヲ待ツテ、サウシテ其委員ノ調査ニ依テ、ドウカ云フ形式ヲ執ツテヤルト云フヤウナコトニ
 シタナラバ或ハ早道デハナイカト思フノデアリマス、之ニ付テマタ「デスカッション」ノ會ヲ開クト云フコトハ、
 隨分多クノ議論ガ出テ第二回ヲ開キ第三回ヲ開クト云フヤウナコトニナルト、會合ニ會合ヲ重ネテ却テドンナモ
 ノデアラウカト思フ、手ツ取り早イヤリ方トシテハ何名カノ委員ヲ御設ケニナツテ、ソレニ依テドウ云フ方法デ
 ヤルカト云フヤウナコトヲ調査セシメタナラバ如何カト考ヘマス、是ハ私ノ希望デアリマスガ、今日此會合ノ席
 ニ於テ多數ノ決議ヲ以テドウトカ云フ性質ノモノトハ違ヒマスケレドモ、造船協會ニ對スル私ノ希望トシテ述べ
 ルノデアリマス、其方法ニ付テ皆サンニ何カ御意見ガアラバ、此際御述べニナツタナラバ此事ガ成立スル曉キニ
 於テ大變ニ有力ナ參考ニナルト考ヘマス。

モウ一ツ、本會ニ於テ出來ル事ナラヤツテ行カウト云フ主義カラ申シマスト、今岡君ノ「ペーパー」ノ中ノ「ニ」ノ

補助工業ノ促進ト云フ所ニ書イタ事デアリマス、分業的工業ガ漸次其緒ニ就テ造船業ノ發達ト共ニ好況ニ向ヒツアルノハ喜ブベキ現象デアルガ、尙益々補助工業ヲ促進シナケレバナラスト云フ御趣意ニ伺ヒマシタ、御尤ノコトデ、先程モ皆サンノ「ヂスカッション」中ニアリマシタガ、之ニ付キマシテ私ハ現在斯ウ云フ懸念ハナカラウカト思フノデアリマス、ソレハ近頃隨分民間デ色々ナ物ガ出來ルノデス、斯ウ云フ物ハ出來ナイト思ツタモノデ、名モ知レナイ工場ニ於テ立派ニ出來テ居ルト云フコトガ多々アルノデアリマス、昨年ノ大正博覽會ノ結果ナドヲ見マス、斯ル物ガ日本デ出來ルカト思フヤウナモノモ可ナリ出來テ居ルト云フヤウナ風デ、是ハ造船者ト云フソレヲ使フ方ノ側トノ疏通ヲ缺イテ居ルト云フヤウナ懸念ガナイカトイフコトヲ思ツテ居ルノデアリマス、早イ話ガスクノ物ハ日本ニ無カラウカラ外國品ニ仰グト云フヤウナコトモ是マデハアツタラウト思ヒマス、即チ使フ方ノ者ガ製造所ヲヨク知ラナイ、又製造所ノ側モ、斯ウ云フ風ニシタナラバ船ノ屬具トシテ、或ハ船ノ「オギシアリー」トシテ満足デアルカ否カト云フコトヲシツカリ吞込ンデ居ナイ、吞込ンデ居ナイ所デナイ全ク知ラナイ製造者モアルダラウト思ヒマス、デアリマスカラ本會ノ如キ何處ニモ偏ラナイ學會ト云フヤウナモノガ、ソレ等ノ諸工場ヲ成ルベク調査シテ、斯クノノ物ハ斯クノノ工場ニ於テ、是レ位ノ程度ニ於テ出來ルト云フヤウナコトノ調査ヲシテ見タラドウカト、思フノデアリマス、ソレカラ私ガ、船價調査會ノ席上デタシカニ申上ゲタコトガアリマスガ、日本品デアツテ、在來一般ニ日本デ使ツテ居ルモノデアツテ、船ノ屬具トシテ、十分ニ使ヘル物ガアリハシナイカ、サウ云フ物ニ對シテノ調査ト云フモノハ是マデ餘リ行届イテ居ナイカト考ヘマス、先頃モ造船協會ノ講演會ノ席デ湊學士ノ「ローブ」ノ講演ガアリマシタ、其節棕柁繩ナドノ御話モ出マシタガ、棕柁繩ハ外國ニ無イモノデ、日本ニアツテ船ニ澤山使ツテ居ルト云フコトハ、何處カニ良イ所ガアツテ使フノデハナイカ、他ニ良イ物ガアルノニ使ハナイデソレヲ使ツテ居ルノハ何處カニ良イ所ガアツテ使フノデハナイカ、例ヲ引イテ申シマスレバオ醫者ガ是マデ、藥ハ何デモ外國デ出來タ藥デナクチヤナラヌヤウニ思ツテ居ツタガ、近頃ハ人蔘ノ研究ヲスルトカ、煎藥ノ研究モスルト云フヤウニ、日本品デアツテ是マデ始終使ツテ居ツタモノハ何カ

效能ガアルノチヤナイカト云フヤウナ研究モ段々シテ居ルヤウニ、造船家モ、造船デナクテモ日本デ一般ニ或目的ニ向ツテ使ツテ居ルモノガ船ノ屬具トシテ使ヒ得ルモノハナイカト云フコトノ研究ハマダ少シク至ツテ居ラヌヤウニ考ヘル、ソレ故ニ本會ノ如キ會合ニ於テサウ云フ事ノ調査ヲスルト云フコトモ無益ナ事デハナカラウト考ヘルノデアリマス、是モドウカ云フ方法デ、本會ノ如キモノニ於テ實現ナスツタナラバ大變結構デハナイカト思フノデアリマス。

私ノ申上ゲル事ハ今岡君ノ「ペーパー」ノ「チスカッション」ト云フヨリハ寧ロ之ニ關聯シタ希望ヲ述ベタノデアリマス、是ガ若シドウカ云フコトニ實現サレルヤウニナリマシタナラバ眞ニ幸ヒト考ヘルノデアリマス。(拍手)

寺野君 斯波君ノ御提議ニ御意見ハゴザイマセヌカ

末 廣 恭 二 君

重大ナ實際問題ニ付テ御議論ガアリマスガ、實際ノ問題ニ付テハ丸デ盲目デアル所ノ私ガ何等口ヲ挿ムベキコトハゴザイマセヌケレドモ、多少自分ノ畑デアルト思ヒマス問題ガ只今斯波男爵ノ御演說ノ一部ニゴザイマシタカラソレニ付テ一應私ノ考ヲ申上ゲ様カト思ヒマス、ソレハ今岡サンノオ讀ニナツタ「ペーパー」ノ御趣意ト多少離レルカモ知レマセヌ、今岡博士ノ「ペーパー」ハ重モニ商船ノ方ノコトニ關シテ居ルト考ヘラレマス、「エキスベリメンタルタンク」モ商船ト云フ見地カラ御議論ニナツテ居ルノデゴザイマス、成ルホド此「ペーパー」ニ書イテアリマス通り、近頃ハ米國ヤ英國デハ段々ト商船ノ、而モ「カーゴボート」ノ「ライン」ナドニ付テ、研究ガ届イテ來テ色々新シイ說ナドモ出ルヤウデアリマス、我國デモ今迄ノ様ニ唯一ツノ船ニ付テ研究ヲスルト云フコトバカリデナク「ゼネラル」ニ、一般ノ船ニ對シテ研究シテ、恰モ「テイラー」ヤ「ペーカー」ガヤツテ居ルヤウナコトヲシナケレバナラスト云フコトハ商船ニ對シテ痛切ニ感ズルコトデアリマス、併シソレヨリモウ一層必要ナコトハ軍艦デハナイカト思ヒマス、併シ海軍ニ於テハ立派ナ「エキスベリメンタルタンク」ヲ御持チニナツテ居リマス、軍艦

ノコトニ付テハ十分御研究ノ歩ハ進ンデ居ルコト私ハ信ジテ居ル、御發表ハゴザイマセヌケレドモ、夫レハ軍事上ノ秘密ノ爲ニ御發表ニナラヌコト、思ツテ居リマス、併シ實際ト關係アル研究丈テハ技術及學術ノ大進歩ヲサセルニハ不充分デハナイカト思ハレマスドウシテモ根本研究ヲスルト云フコトニナリマス、實際ト聯關シテ居ツテハ時ニヨリ却テ不都合ナコトニナルコトガアルト思ヒマス、ソレハ人情ノ上カラ誰シモサウデアアルガ、殊ニ我我日本人ハ手取り早く應用ガ出來ナイト承知ヲシナイ、根本研究デモヤツテ居ルトソナ事ヲシテ居ツテ何ニナルト云フヤウナ事ガ直グロニ出テ來ル此點ハ西洋人ヨリハ氣ガ短イヤウニ思フ、コウ謂フ氣風デアアルカラ深ク實際ニ關係シテ居ル人デハ、速ニソレヲ實際ニ應用シヤウト云フ念慮ノ爲メ自然ニ個々ノ研究ニ陷ツテ仕舞ヒマシテ、大體ヲ綜合シテノ研究ハツイ疎カニナリ易クナツテシマイマス、カ、ル例ハ西洋ニデモアリマス、「ナシヨナル、フイジカル、ラボラトリ」アタリデハ根本的ノ研究ガ澤山ニ出來マスケレドモ、「デニー」アタリカラハソレガ發表サレナイト云フコトハ明カナ證據デゴザイマス、併シ私ハ何モ哲學的ナ世間トハ沒交渉ノ空疎ナ研究ヲセヨトイフノデナイ飽迄モ實用ヲ主トセヌバナラヌガ夫レガ根本的ノモノデナケレバナラヌトイフノデアリマス、扨私ノ考デハ研究ハ商船ヨリ寧ろ軍艦ニ對シテ必要デハナイカト思ヒマス、殊ニ潛航艇ト云フヤウナモノニ對シテハ學理的ニ研究スル餘地ガイクラモアリハシナイカト思ヒマス、ソシテ船ノ研究ヲスルトイフカラハ單ニ一部分ノ抵抗論ノミニ關スル「エキスベリメンタルタンク」ニ於ケル研究ノミニ止メタクナイト思フ、殊ニ軍艦ニ對シテハ抵抗推進トイフコト以外ニモ研究ヲセネバナラヌコトガ澤山アル、例ヘバ「ローリング」ノ問題モ其一ツデ、「ローリング」ヲ成ルタケ輕減スルト云フコトヲ西洋デハ考ヘテ居リマスガ、マダ完全無缺ト云フ域ニ達シテ居ラヌ、其他「バイブレーション」ヲ止メルト云フコトモ一ツノ問題デアアル、「バランス」ヲ如何ニ完全ニ行テモ「プロペラ」ノ爲ニ起リマスカラ、是等ヲ止メルト云フコトモ一ツノ研究ノ題目デアラウト思ヒマス、其他「レンジフハインダー」トカ潛航艇ニ必要ナ「ペリスコープ」、「ジャイロコンパス」ナドニ關スル研究モ必要デアロト思ハレル、船體ハ申スニ及バズ其屬具ニ關シテ「ファイテングエフヒシエンシー」ヲ殖ヤス様ナ、新シイ研究ガ出來レバ非常ニ

有利デアラウト思ヒマス、是等ハ今デハ英吉利ガ同盟國ト云フノデ幸カ不幸カ大分ヨク教ヘテ呉レマスケレドモ、今後イツ迄モ此狀態ガ續イテ行クヤ否ヤト云フコトハ疑問デ、續イテ行ツタ所ガ多少御遠慮申サナケレバナラス場合モ出來テ來ハシナイカト思フ、サウ云フ場合ニナレバドウシテモ此方ガ獨立シテ行カナケレバナラス、自分ノコトハ自分デヤツテ行カナケレバナラス時代ハソロ／＼近ヅイテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ船舶研究ノ設備ハ獨リ「エキスベリメンタルタンク」ノミニ止メナイデ、船舶ニ關スル廣イ研究ヲスル場所ヲ設ケルヤウニ爲シタイト私ハ希望致スノデス、併シ軍事ニ關スルコトハ直接ノ關係アル海軍工廠ニ御任セスル方ガ宜イト云フ御考モアリマスケレドモ、當事者デハ痛切ニ必要ヲ感ジテ居ル爲ニ、多少急ギ過ギルコトガアリハシナイカト考ヘマス、元來學術ノ研究ハ一年經ツテ結果ガ舉ルヤラ、二年經ツテ完結スルヤラ或ハ數十年經ツテモ結果ガ舉ラヌヤモ知レヌモノデアアル、コウ云フ悠長ナコトハ當事者ガヤツテ居ルコトハ出來ヌ又當事者ガヤルベキモノデハナイカト思ヒマスカラ、一ツノ獨立船舶研究所ガ出來ル様ニ會員諸君ガ御盡力アランコトヲ希望致シマス獨立トイフテモ其形式迄モ獨立ノ必要ハナイ其研究ガ目先キノコトバカリニ止マツテシマウ様ニ實際家カラ掣肘ヲ受ケルコトガ無イ以上ハ其所屬ノ如キハ海軍省デモ遞信省デモ私立デモ何デモ差支ハ無イト思ハレマス、近頃唱導サレテ居リマス理化學研究所ナドハ蓋シ一般工業ニ對シテ同様ノ目的ヲ有スルモノカト思ヒマス私ハ理化學研究所設立ノ下相談ノトキ少シク關係ヲシテ居ツテ其時ニ關係者ニ船舶研究ノ必要デアル事ヲ申テ置キマシタガ微力ナ私ノ如キ者ノ言フタ事ハ一同ガ耳ニ留メテ居ラレナカツタヤウニ思ハレマシタ、此造船協會アタリノ名前ヲ以テ建議デモスレバ、多少サウ云フ御連中ノ覺醒ヲ促スコトガ出來ルカト思ヒマス、今岡サンノ提供サレタ問題トハ多少離レテ居リマスガ、此機會ヲ以テ一言申上ゲテ置キマス。

中 里 重 次 君

私ハ今夕ハ拜聽ニ罷出タ次第ゴザイマスガ、只今初メテ斯波男爵ノ警咳ニ接シマシテ御説ヲ承リマシタ處其

ノ御意見ニ對シテ至極御同感ニ堪ヘナイノデゴザイマスカラ、一寸申上度イト思ヒマス尙私ノ身分カラ申上ゲタ
イト思ヒマスガ私ハ軍令部デ專ラ戰備ノ事、分リ易ク言ヒマスト出師準備ノ職務ニ從事シテ居ル者デゴザイマス
ガ、ドウモ造船材料バカリデハゴザイマセス、百般ノ海軍々需品ニ對シマシテ、是マデ内地ノ品物ガ極メテ少ナ
イ、大部分ハ舶來品ヲ使ツテ居ルト云フコトヲ豫ネ、聞イテモ居リマスシ又調ベテ見マスト隨分澤山ノ外國注
文ヲヤツテ居ルヤウデゴザイマス、所デ今度事件ニナリマシテ、同盟國ノ英吉利カラハ輸入モゴザイマスケレド
モ、向フデハ此方以上ニ「セリヤス」ナ戰争ヲシテ居ルモノデアリマスカラ、自分ノ立場カラ見テ日本ニ輸出スル
ノ暇モナイヤウナ物モアルヤウデアアル、其次ハ亞米利加ト云フコトニナリマスガ、亞米利加カラ輸入スルト云フ
コトハ隨分高イト云フ點モアル、今度ノヤウナ場合デモ「エムデン」一艘ヲ協商側ノ四十何艘ノ軍艦デ追ツ駈ケ廻
ハシテ居ツタ、ソレニモ拘ハラズアレマデ活動シテ通商貿易ヲ邪魔シタ譯デゴザイマスカラ、今後何レノ國ト戰
争ヲ致シマスカ、獨逸トヤルカ、亞米利加トヤルカ、或ハ露西亞トヤルカ佛蘭西トヤルカ知レマセヌガ、若シ戰
争ガアルトスレバ、「エムデン」ノヤウナモノ二艘カ三艘デ、太平洋ナリ臺灣海峽ナリヲ、アバレラレタ日ニハ殆
ド輸入ガ杜絶スルト云フ悲境ニ達スルコトガアラウト考ヘテ居リマス、從ツテ内地品デ、單リ軍需品ノミナラズ
一般ノ使ヒマス物モ出來ルダケ内地品デ賄ヲツケルト云フコトハ諄々シク申上ゲルマデモナイ最モ大事ナコトデ
アラウト思ヒマス、サウ云フ譯デアリマシテ私モ唯今ノ役所ヘ入りマシタ當時ハ、内地品ノ利用サレル物ガ少ナ
イト云フコトヲ承ツテ居リマシタカラ非常ニ心細ク考ヘテ居リマシタガ、近頃段々地方ヲ廻ツテ見マシテ、諸
所ノ工場ヲ見テ見マス、唯今男爵ノ仰ツシヤル通り、私共ノ知ラナイ所デ隨分立派ナ物ガ出來ル會社ヲ澤山見付
ケマシタ、ソレデ事件以來大阪商工會、神戸商業會議所、橫濱商業會議所等デ物資ノ調査ヲオヤリニナツテ居ツテ、
其「レポート」ヲ毎月頂イテ居リマスガ、ソレヲ拜見シマス、コンナ物モ出來ルノカ、アレモ出來ルノカト云フ
ヤウニ、マダ大體カラ言ヒマス、足りヌ物盡シデハアリマスケレドモ、其中ニハ私共ノ知ラヌ間ニ飛ンデモナク
發達シテ立派ニ供給ノ出來ル物ガ澤出アルノデゴザイマス、各工場ニ「プロダクト」トカ材料ノ關係トカト御依頼

シテ始終調査致シテ居ルノデゴザイマスガ、中々私共ノヤウナ素人ガ只調査書ヲ見タダケデハ迪モ満足ナ成績ハ得ラレマセスカラ、男爵ノ仰ツシヤルヤウニ、直接船ニ關係シマシタ附属品、「オキシアリマシナリ」其他ノ品物ニ對シテ内地製品ヲ調査シテ或ハソレヲ一般ニ紹介スルト云フヤウナコトノ方法ヲ御執リ下サルコトハ局外ノ私共カラ申シマシテモ非常ニ望ム所デアリマスカラ、是非サウ云フヤウナ「プロポーズ」ハ實現セラルルヤウニ、希望致スノデゴザイマス、チヨット私ノ希望ヲ申上ゲテ置キマス。

(拍手)

今岡純一郎君

私共兩人ガ聊カ調査致シマシタ結果ヲ公表シマシタニ過ギナイ「ペーパー」ニ對シテ、斯克二回マデモ討論會ヲ開イテ下サイマシテ、我國ニ於ケル斯界ノ「オーソリチー」ガ縷々御意見ヲ御述ベ下サイマシタコトハ、私共兩名ノ光榮ハ勿論デゴザイマスガ、是ハ問題ガ時局ニ聊カ適當シテ居ツタ次第アラウト存ズルノデアリマス換言スレバ是ハ全ク時勢ノ變遷、即チ日本ノ今日ノ地位ガ斯ノ如キ問題ニ付テ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ時代ニ遭遇シタ結果デアラウト存ジマス、今夕各大家ノ御討論ニ對シテ、唯瞬間のニ御答ヲスルノハ餘リ輕卒ノ嫌ヒハアリマスケレドモ、兎ニ角是ガ雜誌ニ出マスマデハ相當ニ時日モカ、ルコトデアリマスカラ、各大家ノ御意見ノ中、私ノ頭ニ響キマシタ點ニ付テ、御禮ヲ申上ゲルト同時ニ御答旁々一言申上ゲタイト思ヒマス、暫時御清聽ヲ煩ハシマス。

第一ニ藤島氏ガ御述ベニナリマシタ中、直接ニ私ノ職務上ニ關係シテ居ル問題ガ二點ゴザイマシタ、ソレハ「ロードライン」ノ問題、此問題ニ付キマシテハ年來私モ苦心ヲシテ、何トカシテ早く日本デ此問題ヲ解決シタイ、サウシテ同時ニ之ニ對スル實行ノ經費ヲ得タイト云フノデ、年々其要求ヲシテ居ルノデアリマスケレドモ、不幸ニシテ色々ノ事情ノ爲ニ延ビ、ニナツテ居リマス、殊ニ一ツハ今度ノ戰爭ガナカッタナラバ英吉利ノ倫敦デ「ロードライン」ノ萬國會議ガアル筈ニナツテ居リマシタノデ、其會議ノ結果ヲ見テ實行シタ方ガ便宜デアラウ、斯

ウ云フ考ヘカラ多少其會議ト結付ケルコトノ爲ニ幾ラカ延引ノ氣味ガゴザイマシタガ、今日ハ悠々トシテ居ル譯ニモ參リマセズデ、會議ノ如何ニ拘ラズ日本デ實行シタイト云フ考ヲ持チマシテ其計畫中デアアルノデアリマスガ唯今申上ゲマシタ通り經費問題ト關係シテ居ルモノデスカラ、是サヘ通りマシタナラバ御希望ニ副フヤウナ時機モ遠カラズ來ルカト存ジマス、第二ハ航行期間ヲ適當ニ按排セヨト云フ御注文、是モ適當ナル御要求ト考ヘルノデアリマス、多少其點ニ付テ唯今研究中デアリマスカラ、是モ近イ將來ニ出來得ル限り、法律ノ許ス範圍内ニ於テ何トカ解決ヲ著ケタイト云フ考ヲ有ツテ居リマス。

次ニ加藤君ガ、色々「エフヒエンシー」ノ實例ニ付テ述ベラレテ、私共多大ノ利益ヲ得マシタ次第デゴザイマス、明治四十三年ノ法律改正以來造船獎勵法ニ依テ製造シテ居ル各船舶ノ、實際ニカ、ツタ工費ノ明細書ハ造船所ヨリ遞信省ニ差出サル、事ニナツテ居ルノデアリマス、然シ此點ニ付テハ從來日モ淺ク、船ノ數モサウ澤山ナイノデアリマスガ既ニ今日デハ多少數モ殖テ來マシタカラ私共ノ方デモ注意シテ研究ヲ致シマシテ、不明ナル點ハ各造船所ニ就テ伺ヒマシテ、サウシテ如何ニ日本ハ工費ガ減少シツ、アルカト云フ問題ヲ研究シタイ考ヘデアリマス、唯今加藤氏ノ御述べニナリマシタ實績ニヨリマシテモ、確カニ日本ノ工費ハ漸次減ジツ、アル、將來尙減ズルヤ否ヤト云フコトハ問題デハアラウト思ヒマスケレドモ、兎モ角モ三十二年頃ニハ一・八デアツタモノガ最近ニ出來タ郵船會社ノ七千噸豐岡丸「クラス」デハ一ニ減ジテ居ル然ルニ三十二年頃ニ船舶ニ使ツタ材料ノ「クオンチチー」ト今日ノ材料ノ「クオンチチー」トヲ比較スルト餘ホド減ツテ居リマスカラ材料一噸當リデナク、船一艘デ比較スルトヨリ多ク減ツテ居ル、材料一噸當リ工費ノ上デモ一・八ト一デアアル、船一艘ノ工費全額ニ付テハヨリ以上減少ヲ來タシテ居ルニ違ヒナイ斯ウ考ヘルト兎ニ角日本ノ造船業ハ非常ニ進歩シテ來タト思フ、私ノ申上ゲタ工費ノ節約ト云フノハ材料一噸當リノ工費ノミナラズ船全體カラ見テ工費ガ減ルト云フコトモ入ツテ居ルノデアリマス、確カニ此點ニ付テハ成功シツ、アルト認メマス、先刻加藤氏ガ手帳ヲ御見セ下サイマシタガ、ソレニ「カーヴ」ガ出テ居リマス、若シ御差支ガナケレバ造船協會ノ會誌ニ御出シテ願ツテ御發表ニナルコトヲ望

ムノデアリマス。次ニ東海氏ノ御演説ハ、實ニ私共ノ「ペーパー」ハ主トシテ商船ヲ本位トシテ論ジマシテ、海軍ニ御關係ノ方々ニハ殆ド一顧ノ値モナイコトト存ジテ居リマシタノニ、圖ラズモ曩ニハ中里大佐、今日ハマタ東海氏ノ御演説ガゴザイマシテ眞ニ有難ク存ジマス、殊ニ東海氏ノ御議論ハ眞ニ痛快ニ感ズル次第デアリマス、先般造船協會ノ船價調査會ニ於テ小幡造船總監ガ矢張り「エフホシエンシー」ノコトニ付テ御話ニナリマシタ、今日ノ東海氏ノ御話ト對照致シマスト同ジコトノヤウニ私共拜聽致シマシテ、日本人ノ「エフホシエンシー」ハ西洋人ニ比ベテ左程悲觀スベキモノデナイト云フ結論ヲ實際ノ成績カラ認メラレテ居ルト云フコトハ頗ル愉快ニ感ズル點デアリマス、此點ニ付テ加藤君ト東海君トハ多少御意見ニ違ヒガアルヤウニ見受ケラレルノデアリマスガ、要點ハ日本人全般ノ體力ニ今日ハ足リナイ點ガアルノヲ、ソレヲ「エンホース」シテ行ク方法如何ニ存スルヤウニ思ハレルノデアリマス、私ハ丁度適切ナル例トシテ、最近ニ日本ノ或船主カラ聞キマシタ實例ヲ想ヒ出スノデアリマス、ソレハ日本ノ社外船主ガ外國船ヲ買入レマシタ場合ニ、同ジ東洋人ノ火夫ヲ使ツテ居ル船ガ、外國人ノ手ニ在ル間ハ頗ル「エフホシエンシー」ガ良イ、ソレガ日本ノ船主ノ手ニ渡リマス、同ジ船デ同シ火夫デ、同ジ航路ヲ使フノニ「エフホシエンシー」ガ下ルト云フコトヲ聞キマシタ、頗ルオカシナ話デ、同ジ人間ガ同ジ船デ、同ジ炭ヲ焚イテ航海スルノニ、西洋人ノ手ニ在ルトキハ九湮出タモノガ日本人ノ手ニ移ルト八湮半シカ出ナイ、是ハ實際ノ例ダサウデアリマス、是ハ東海氏ノ御意見ノ如ク上ニ立ツ者ノ鞭撻ノ仕方ガ悪イ、人ノ使ヒ方ガ下手ナ爲デアルト云フ實例ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、唯今ノ御議論ト船主ノ實際談トハ或點ニ於テ一致シテ居ルト云フコトヲ認メルノデアリマス、勿論「エフホシエンシー」ノ問題ハ、造船所ニシマスレバ其設備ノ完全シテ居ルヤ否ヤガ日本ニ於テハ大ニ關係シテ居ルト思ヒマス、勿論單ニ職工ノ員數バカリ減ツタカラト云ツテ、全體ニ於ケル「エコノミカルポイント」カラ見テ「エフホシエンシー」ガ上ツテ居ルヤ否ヤ、「ガントリークレン」ノヤウナモノデハ人ノ數ガ減ツタカモ知ラスケレドモ、アノ高價ナル設備ヲ果シテ普通ノ「カーゴポート」ガ負擔シ得ルヤ否ヤト云フコト

ハ非常ニ問題ダラウト考ヘルノデアリマス、設備ガ良クテ「エフヒエンシー」ガ上ツタト云フノデハ樂觀ハ出來ナイ、設備費ノ負擔ト一方ニ職工ノ減少ト云フ問題ハ、同時ニ引クルメテ議論ヲシナイト正鵠ヲ得ナイカト考ヘテ居リマス、ドウシテモ設備ニ對スル金利若クハ「デプレシエーション」ニ要スル金ト一方ノ工費ガ減ルト云フコトハ同時ニ研究ヲスル必要ガアルト考ヘルノデアリマス。

次ニ原君ガ頗ル面白イ例ヲ以テ、稻葉博士ノ研究ト「グラスゴー」ノ「レポート」ニ依テ比較シテ、食物ノ上ニ於テ西洋人ト日本人トハ比較ニナラナイ情ケナイ有様デアルト云フコトヲ述ベラレマシタ、若シ是ガ事實デアルナラバ單ニ職工ノ問題デナク、日本人ハ世界的ニ生存シ得ルヤ否ヤト云フ大問題デアラウト考ヘルノデアリマス少シ本協會ノ問題カラ飛放レルヤウニ感ズルノデアリマスガ、併シ是等ハ又其途ノ人ガ研究サレヤウト考ヘマスカラスウ云フコトモ或ハ醫學社會ノ參考ニナルカモ知レナイノデゴザイマスカラ、此處デ結論ガサウ云フコトニナレバ御出シニナツタラ宜カラウト思フ、之ニ付テ私ノ感ジマシタ點ハ、稻葉博士ハドウ云フモノヲ以テ日本人ノ食料ノ標準ニサレタカ存ジマセヌガ、東京ノ人力車夫ハドウカト云フト比較的美イ物ヲ食ツテ居ル、又私ガ大阪ノ造船所ヘ行ツタ折ニ晝飯ニ職工ノ辨當ヲ覗イテ歩イタコトガアリマス、其折ノ經驗デ私ハ寧ロ驚イタ、大阪ハ食道樂ト云フコトハ聞イテ居リマスガ中々好イ食事ヲ取ツテ居ル、職工ノ辨當ニ肉ノ入ツテ居ナイモノハナイノデアリマス、今日役所ノ係員ノ中デ辨當ニ何ヲ持ツテ來ルカト云フト麩包ニ砂糖デ濟マシテオルモノガ澤山アル職工ノ食事ヲ之ニ比較スルト中流社會ヨリ上ニナル、是等ノ點ニ付テ稻葉博士ノ御調べノ基礎ハドウナツテ居ツタカ、私ハ其點ヲ疑フノデアリマス。

次ニ斯波君ノ御提議ニ付テハ、私共ハ自分ガ此「ペーパー」ヲ演ベマシタ立場カラ、是非此問題ハ委員ヲ御設ケ下サイマシテ實行ノ方法ヲ講ゼラレルコトヲ衷心望ムノデアリマスカラ、厚ク斯波君ノ御提議ニ對シテ御禮ヲ申上ゲルノデアリマス。

次ニ末廣君ノ學者的ノ立場カラノ御議論ハ御尤ナル御議論デアリマスガ、私ノヤウナ俗事ニ携ハツテ居ル者ハ俗

物ノ意見ヲ代表シテ申上ゲルノデアリマス、學者ノ意見トハ多少其點ガ違フト考ヘルノデアリマスガ、日本ト云フ國ハマダ過渡時代デ、總テノモノガ幼稚ナ時代ニアルノデアリマスカラ、遠大ナル學理ノ研究ト云フコトハ、實ハ行ヘレバ結構デアリマスガ、ソレヨリ明日ノ事ガ問題デアル、明日ノ事サヘ出來テ居ナイノデ、三年先キノ事ヲ考ヘルヨリ、手ツ取り早ク直グニ實際ニ應用スベキ問題ニ手ガ著ケラレナイノデアリマスカラ、兎ニ角實行ノ出來ル問題カラデモ早クヤツテ行カナケレバ追ツ附カナイ日本ノ狀態デアル、唯今末廣君ノ御意見ハ學者的ノ見地カラハ頗ル御尤ト存ジマス、ソレモ結構デアリマスケレドモソレニ行クニハ色々ノ設備ガ要ル、金ガ無イ、唯今ノ所實行ガ如何カト案ジラレマスカラ、俗論ノ通リノ宜サ、ウナ風ニ持チカケテ、サウシテ其端緒ヲ開イタナラバ、他日末廣氏ノ希望セラレルヤウナ完全ナモノヲ拵ヘル卵ヲ今日ニ於テ拵ヘル、斯ウ云フコトデ、私ノヤウナ極粗笨ナル頭カラハ手ツ取り早イ方ガ宜イ、主義ニ於テ末廣氏ノ説ニ反對デハナイガ、實行方法ニ付テハ餘リムツカシイ注文ヲセラレズニ、日本ノ社會ニハ爲スベキ事ガ多イノデアリマスカラ、手ツ取り早イ方ガ宜イ、又ソレデモ遅クハナイト考ヘルノデアリマス。

今夕再ビ中里大佐ノ御討論ヲ拜聽シマシテ一層光榮ニ感ズル次第デアリマス、一々御尤ナルコトデ吾々其道ニ從事スル者ハ大ニ努力シタイト思フノデアリマスガ、其中ニ、中里氏ノ言葉尻ヲ捉ヘルヤウデ恐入リマスガ、局外ト云フ御言葉ガアツタ、私ハ海軍武官デアラレル中里大佐ガ造船協會ノ局外者ト云フ御觀念ハ少シ奇異ニ感ズルノデ、英吉利アタリノ造船協會デハ海軍ノ士官ガ何レモ「メンバー」ニ入ツテ居ル、局内ノ人トナツテ議論ヲ闘ハシテ居ラレル、願クハ再度御臨席ヲ下サレタ中里大佐、其他海軍御當局ノ方ハ局外ト云フ觀念ヲ御去リ下スツテ、局内トオナリ下スツテ斯ウ云フ問題ニ付テハ共ニ俱ニ國ノ爲メニ御盡力アラムコトヲ希望スルノデアリマス。

ソレ等ノ點ヲ綜合致シマスト、實ハ造船協會ト云フ名前ハ、今日ノ時代ニハ窮屈過ギルカラ、若シ出來得ルナラバ、モウ少シ廣イ名前ニ變ヘテ賞ヒタイサウシテ實際カラ考ヘテ造船家バカリデハ仕事ガ出來ナイノデアリマス

各方面カラ寄ツテ貰ツテ色々議論ヲ開カハサナケレバ本當ニ造船業ノ發達ハ出來ナイノデアリマスカラ、船舶協會トカモウ少シ廣イ名前ニシテ各方面ノ人ガ吾々ト一緒ニナツテ國家ノ爲ニ盡サレルヤウニナルコトヲ望ムノデアリマス、私ハ此問題ニ對シマシテハ、此處ニ居ラレル寺野博士ニモ大學ノ造船學科ト云フ名前ハ宜シクナイ造船協會ナル、本會ニモ申述ベルノデアリマス、ドウカ願クハ今少シ廣イ意味ニシテ、社會ノ幾多ノ人々ガ本會ニ入ツテ戴イテ、共ニ俱ニ造船業ノ發達ニ盡サレテ、唯今ノヤウナ局外ト云フ御言葉ハ何レノ方面カラモ起ラナイヤウニ願ヒタイト存ジマス。諸君ノ高遠ナル御討議ニ對シテ無禮ヲモ願ミズニ甚ダ咄嗟ノ間ニ頭ニ浮ビマシタ事ヲ申上ゲマシタコトハ幾重ニモ御詫ヲ申上ゲマス。(拍手)

座 長 寺 野 精 一 君

マダ御討論ガゴザイマスカモ知レマセスガ、大分時間モ經チマシタシ、今岡君モ一ト通答辯ヲナサレタル次第デゴザイマスカラ、之レニテ本會ヲ閉デマスガ、閉會前ニ一應皆サンノ御演說ニナツタ事柄ニ付テ造船協會ノ當局者トシテノ意見ヲ申述ベヤウト思ヒマス。

先程來今岡君ノ結論ニ對シテ種々御討議ガアリマシタガ何レモノ條項ハ極メテ必要デアルト云フコトヲ裏書サレタ次第デ、吾々ハ益々研究ノ歩ヲ進メナケレバナラスト御認メニナツタコトト考ヘマス、就キマシテハ造船協會ハ豫テカラ日本デハ如何ニシテ船舶ノ製造費ヲ廉クシ得ルカ、言ヒ換ヘテ見レバ、日本ノ造船業ヲ如何ニシテ發達サセ得ルカト云フコトヲ年來考ヘテ居リマシテ、其爲ニ船價調査會ト云フモノヲ設ケテ、二ケ年ニ涉リ色々調査ヲ致シマシタ結果一ツノ決議案ガ出來テ居リマス、其決議理由書ハ隨分長ウゴザイマスカラソレハ他日會報デ發表シマスガ爰ニ其要項ダケヲ申シ述ベマスト、各委員ガ慎重ニ調査シタ結果、日本内地製造ノ船舶代價ノ不廉ナル原因ハ左ノ通りデアルト云フテ五箇條ヲ擧ゲテ居リマス、ソレヲ讀上ゲテ見マスト

第一 造船用材ノ供給不便ニシテ價格不廉ナルコト

第二 艤裝品ノ供給不便ニシテ價格廉ナラザルコト

第三 船舶ニ關スル金融困難ナルコト

第四 検査監督複雑ニシテ内國製造貨物船ニ對スル設備過大ナルコト

第五 工程能率低キコト

詰リ今岡君ガ結論トシテ言ハレタコトモ船價調査會ノ決議シテ居ルコトト略同一デアリマス、右ノ決議ヲ相當ノ方法デ弘ク發表シヤウトシテ、昨年ノ六月八日ニ此決議案ヲ確定シマシタガ、其文章及字句ヲ修正スル必要ガアツテ、此處ニ御出ニナル郵船會社ノ寺島君ナドニ御願シテ大分添削シテ戴キマシタ、而シテ之レヲ發表セムトスル時期ニ丁度歐洲戰亂ガ突發致シマシタカラ、暫ク日本造船業ニ及ボス影響ヲ傍觀シテ居マシタ所ガ、今岡君ノ講演ノ通り非常ナ好影響ヲ被ツテ、其結果トシテ吾々ノ心配シテ居ツタ事柄モ一部分ハ偶然デアリマスガ、一時的デアリマスガ、解決サレタ様ナ次第デアリマシタカラ、再ビ昨年十一月八日カラ十日マデ三日間、本協會總會ニ引續テ船價調査會ヲ開キマシテ『時局ノ造船業ニ及ボス影響』ト云フコトニ付テ、各造船業者カラ代表者ヲ出シテ戴イテ色々研究審議シタコトガアツタノデス、而シテ其節ニ『日本造船業ヲ獨立セシムル方法如何』ト云フコトガ問題ニナリマシテ本邦造船業ヲ發達サスベキ任務ヲ以テ成立ツテ居ル造船協會トシテハ是非此問題ノ解決ニ付テ從前ノ船價調査ト同ジ方針デ更ニ研究ヲ進メナケレバナラヌト云フコトヲ考ヘテ居ツタノデゴザイマスガ、今回ノ今岡君ノ講演ト、二回ノ討論會ニ於ケル諸君ノ御演說ニヨリテ益々其必要ヲ認メタ次第デゴザイマス。

第一ニ、從來カラ今日ニ至ルマデ未ダ解決サレヌ問題ハ製鐵業ニ關スル件デアリマス、如何ニセバ内地ニ於テ鐵鋼材ヲ十分ニ供給サレ得ルカト云フコトガ造船業發達ヲ圖ルニ就キテノ第一要件デアルト云フコトハ既ニ諸君ガ御述べニナツテ居ル次第デアリマシテ、更ニ私ガ申述べルマデモアリマセヌ、然シ此ノ點ニ就テハ唯今堤博士カ

ラ言ハレタ通り、近頃日本鐵鋼協會ニ於テ内地製鐵業振興策ヲ研究シテ居ラレマスカラ、本協會ハ鐵鋼協會ト聯絡ヲ保ツテ、需要者トシテ有ラユル條件及希望ヲ提出シテ鐵鋼協會ノ參考ニ供シタイト考ヘテ居リマス、ソレガ爲メニ今日ハ特ニ俵博士ニ御臨席ヲ願ツタ次第デアリマスガ、本會多數會員ガ斯フ云フ事ヲ希望シテ居ルト云フコトヲ御聽キニナツタナラバ一層内地製鐵業發達ノ必要ヲ御認メニナルコトト思ヒマス、ドウカ鐵鋼協會ニ於テハ造船業者ガ非常ナル苦痛ヲ感ジテ居ル點ニ御同情下スツテ本問題ノ解決ニ付テ一日モ早く具體的ノ方法ヲ御研究ニナラムコトヲ偏ニ希望致シマス、ソレニ付テハ本會ニ於テ、豫テ各造船所ヨリ一ケ年約如何程位ノ材料ヲ要セラレルカ、又要セラルル材料ノ品目ハ何々デアアルカト云フコトニ付テ詳細ニ御調査ニナツタモノヲ戴イテ集メテ居リマスガ、各造船所共其後時局ニ關スル御經驗モアリマセウカラ、多少トモニ訂正ヲ要スル點ガアリマシタラ至急ニ御訂正ヲ願ヒタイノデアリマス、其材料ヲ取纏メテ鐵鋼協會ニ提供シテ内地製鐵業振興ノ方法ヲ研究シテオ賞ヒシタイト思ツテ居リマス。

第二ニ補助工業ノコトハ、前ニ述べタ決議案デ申シマス艤裝品ノコトデアリマシテ、之ニ付テ斯波男爵ガ船價調査會ニ於テモ同様ノ事ヲ言ツテ居ラレマス、即チ必シモ同ジ品物デナクトモ、日本内地ニ似寄ツタ物がアルナラバソレヲ使用スレバ宜イデヤナイカト云ハレテ、極卑近ナ例トシテ、斯波君ガ甚ダ面白イ例ヲ引イテ居ラレタデス、何デモ原料ハ日本デ出來ルモノデヤツタラ宜イデヤナイカ、例ヘバ靴ノ代リニ刺子ノ足袋ト云フヤウニ代用品ヲ工夫ナタラ宜カラウ』ト云フ一言ニシテ十分盡サレタモノト思ヒマス、サウ云フヤウニ内地品使用ノ方法ヲモウ少シ研究スルト云フコトハ造船業獨立ノ爲メニハ極メテ必要ナコトデアリマスカラ、本會ハ斯波男爵ノ御動議ノ通り、又他ノ諸君御賛成ニナツタ通り、委員ヲ設ケテ此點ヲ調査シタイト考ヘテ居リマス、何レ役員會ニ諮リマシテ進行ノ方法ヲ講究シタイト思ヒマス。

ソレカラ試験水槽ノコト、及ビ末廣博士ノ御提議ニナツタ研究所ノコトデアリマスガ、「タンク」ノ設立ニ付キマシテモ先刻斯波博士ノ言ハレタ通り、明治三十九年ニ會長ノ名義デ關係ノ各大臣ニ建白書ガ出テ居リマス、是モ

御參考トシテ會報ニ載セテ置キマスガ、其當時ノ政府當局者ニ向ツテ、造船業發達ノ一要素トシテ研究所ヲ置ク必要ガアルト云フコトヲ縷々陳ジテ居ッタノデアリマス、併シ此ノ時分ニハマダ日本ノ造船業ガ一般社會カラ重要視サレテ居ラス時デアツタ爲メニ、不幸ニシテ何レモ御採用ニナラナカッタノデアリマス、然シ今日ハ明治三十九年頃トハ世ノ中ノ事情ガ違ツテ居リマスシ、又世間ノ同情モ變ツテ居リマスカラ、造船協會ガ主トナツテ一般ノ船舶業ニ關係ノアル方々ノ御賛成ヲ得テ其設立ノ目的ヲ達シタイト考ヘテ居リマス、實ハ私共教職ヲ奉ジテ居ル者ハ此ノ件ニ就テ年々當局ニ懇願ヲシテ居リマスガ、容易ニ吾々ノ希望ハ實行サレナイノデアリマスカラ、世ノ中ノ同情、輿論ニ御縋リ申シテ、外部カラ應援シテ戴クト云フコトガ極メテ必要デアルト思ヒマス、「タンク」ナリ船舶研究所ノ必要ト云フコトハ一般ニ認メラレテ居リマスガ、其緩急トカ設立ノ方法、位置等ニ付テハ今岡博士ノ御意見モアル様デ之レハ攻究ヲ要スルコト考ヘマスガ、兎ニ角一部分デモ早ク實行ノ機會ニ接シタイトモノデス、又サウ云フ設備ガ出來テモ人間ガ急ニ出來ルモノデアリマセヌカラ、之レニ要スル適當ノ人物ヲ養成スルコトモ必要デアルト云フコトニ付テモ外部ノ應援ヲ得ルコトハ、吾々教職ヲ奉ジテ居ル者ノ側ニトツテ非常ニ有力ナル助ケデアリマスカラ、是等ハ諸君ノ御提案ニ基キテ造船協會デ實行方法等ヲ研究シタイト考ヘテ居リマス。

ソレカラ最後ニ今岡君カラシテ、造船協會ト云フ會名ハ其意味ガ狭キニ失スルト云フ御話ガアツタ、此議論ハ實ハ度々今岡君カラ伺ツテ居ルコトデ、工科大学ニ於テモ吾々同僚ハ此問題ニ就テ研究シテ居リマス、素ヨリ造船ト云フテモ船體ヲ造ルト云フダケノ趣意デハナイノデアリマスガ、文字カラ判斷セラレテ、如何ニモ狭イ専門デアルカノ如クニ誤解ヲサレル、名前ガ誤解ヲ招ク重モナル原因デアルナラバ、名前ヲ變ヘルノモ必要ナコトデゴザイマスカラ、是モ役員會ニ於テ、充分研究シテ成ルベク其實ヲ現ハス方法ヲ執リタイト思ヒマス。

ソレニ關聯シテ、今回ノ討論會ヲ開キマスニ付テ、船舶業ニ關係アル各方面ノ方が多數御出席ニナツテ、種々御討論下サレタコトハ本會ニトツテ洵ニ光榮ノ至リデゴザイマスガ、尙將來本協會ノナスベキ種々ノ研究ニ付テモ

討 論 歐洲戰爭下船舶ニ對スル討論

會員トナラレテ一層御盡力アラムコトヲ希望スル次第デゴザイマス。
要スルニ此講演ハ非常ニ大問題デアリマシテ、到底幾ラ議論ヲシテモ盡キマセヌ、併シ造船業發展ノ必要デアルト云フコトハ萬人ガ認メテ居ルコト、考ヘマスカラ、唯其實行ノ方法ニ就テ只今申上ゲタ通り、或者ハ鐵鋼協會ト聯合シ、或者ハ造船協會デ委員ヲ設ケ審議研究ヲ經テ相當ナ案ヲ立ルト云フコトヲ以テ結末ヲ著ケルノ外ハナイト思ヒマス、就キマシテハ尙御意見ヲ有ツテ居ラレル方ハ、ドウカ委員會ノ方へ御提出ニナリマシテ、委員ノ研究ヲ成ルベク容易ナラシムルヤウニ御盡力ヲ願ヒタイノデアリマス。
最後ニ御來會ノ各位ニ御挨拶ヲ申上ゲマス、今晚ハ炎暑ノ候ニモ拘ラズ多數ノ方々ガ御臨席下スツテ、殊ニ海軍ノ御當局、陸軍ノ御當局、其他總テ船舶ニ關係ノアリマス各方面ノ方々ガ御出席ニナツテ、本問題ニ付テ色々御討議下サレタコトハ本會ノ非常ニ光榮トスル所デ感謝ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス、又會員諸君モ暑イ時分ニ多數御集リ下サレタコトハ、偏ニ斯業ヲ愛セラルル御熱心ニ出タコト、信ジマス、本會ノ當局者トシテ、諸君ガ斯ク御熱心ニ本會ノ事業ニ御盡力下サルト云フコトハ愉快ニ堪ヘマセヌカラ、此機會ニ於テ厚ク御禮ヲ申上ゲマス。
(拍手)午後九時三十分閉會

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続きます。これは元の画像の解像度や印刷の質によるもので、正確な文字を抽出することは困難です。）

參考資料

決議案

本會ハ内國製造商船代價不廉ノ原因ヲ救治シ本邦造船業ノ發達ヲ企圖セムガ爲メ左記諸項ノ實施ヲ必要ト認ム

一、造船用材料ノ輸入税ヲ免除スルコト

二、艤裝品ノ輸入税ヲ免除若クハ輕減スルコト

三、勸業銀行ヲシテ船舶ヲ抵當物件トスル低利資金ノ貸付ヲ開始セシムルコト

四、民主ノ船級協會ヲ設立シ貨物船ノ検査ヲ委任スルコト

五、官民合同ノ海事研究機關ヲ組織シ一般海事ノ改良發達ヲ圖ルコト

右決議ス

大正三年六月日

造船協會船價調查會

理由書

緒言

本邦造船業ハ近年長足ノ進歩ヲ爲シ一時殆ンド新造商船ノ輸入ヲ杜絶スルノ勢ヲ示セシニ一昨年來海運界ノ盛況ニ伴ヒ再ビ多數ノ外國船ヲ購入スルト共ニ海外ニ新造船ヲ注文スルモノ續出シ最近三年間ニ其數約二十隻總噸數七萬ヲ超ユルニ至リ多年政府ノ獎勵ヲ加ヘラルルニ拘ラズ我造船業ハ事實ニ於テ未ダ獨立スル能ハズ斯業ニ従事スル者豈忤怩タラザルヲ得ムヤ

抑々本邦船主ノ多數ガ從來外國ヨリ古船ヲ購入シタル目的ハ比較的小資本ヲ以テ目前ノ利益ヲ收ムルニ在リシヤ言ヲ俟タズ然ルニ其古船ハ短期間ニ於テハ利益ナルモ長期間ニ於テハ到底新船ニ若カザルコト多年ノ經驗ニ依リ

テ之ヲ覺知シ且ツ時運ノ進歩ハ益々新船ヲ有利ナラシムル事情アルヲ以テ近時ニ至リテハ適々古船ヲ購入スル場合ニ在テモ成ルベク船齡ノ若キヲ選ビ資本潤澤ナルモノハ進デ新船ヲ購入スルノ傾向トナレリ是レ我海運界ノ進歩ニシテ吾人ノ深ク欣ブ所ナリト雖モ其新造ハ一部命令航路用ノ優等客船ノ間ニ内地造船所ニ託セララルアルノ外需要最モ多キ一般貨物専用ノ船舶ハ尙ホ概ネ供給ヲ外國ニ仰ギツツアリ而シテ本邦船主ガ其製造ヲ内地造船所ニ託セズシテ遠ク外國ニ注文スルハ主トシテ

(甲) 内國製造船舶ノ代價ガ外國製ニ比シテ不廉ナルコト

(乙) 新造船ノ供給期限ニ於テモ内國造船業者ハ外國同業者ニ及バザルコト

ノ二點ニ在ルモノノ如シ而シテ此等ノ缺點ヲ改ムルニアラザレバ本邦造船業ハ終ニ發達ノ期ナカラムトス、本會深ク之ヲ憂ヒ昨年來船價調査會ヲ設ケ各造船所、船主及海員團體代表者、海事行政當局者、技術教育者等ヲ網羅シ慎重研究ノ結果内國製造船舶代價不廉ノ原因トシテ左ノ諸項ヲ舉グルニ至レリ

一、造船用材ノ供給不便ニシテ其價格不廉ナルコト

二、艤裝品ノ供給不便ニシテ價格廉ナラザルコト

三、船舶ニ關スル金融困難ナルコト

四、検査監督複雑ニシテ内國製造貨物船ニ對スル設備過大ナルコト

五、工程能率ノ低キコト

以下少シク之ヲ解説セムトス

一、造船用材ノ供給不便ニシテ其價格不廉ナルコト

本邦ノ製鐵事業ハ多年官民ノ非常ナル努力アルニ拘ラス其發達極メテ遅々タルノ歎ナキ能ハズ現時官立枝光製鐵所ノ產出ハ年額約二十萬噸ニシテ其多クハ軍用材(軍艦兵器トモ)軌條、製釘材料、市場向普通鋼材ニ係リ内地造船業者ノ需要スル所謂「ロイド」規程合格品ト稱スル鋼材ハ僅々一萬噸内外ニ過ギズ而シテ民間造船所ノ要ス

ル額ハ六七萬噸ヲ下ラズ其不足額ハ之ヲ外國ヨリ輸入シツアルナリ然ルニ其輸入材料ニハ一噸ニ付拾圓以上ノ關稅ヲ課セラル之ヲ歐米諸國ガ造船材料ノ輸入稅ヲ全然免除セルニ比スレバ實ニ霄壤ノ差ニシテ一ハ無稅ノ材料ヲ用キ一ハ有稅ノ材料ヲ用ユ只此一事實ヲ以テスルモ其造出スル船價ニ多大ノ懸隔ヲ生ズル固ヨリ當然ノミ斯ノ如クニシテ内地造船業ノ興隆ヲ望ムモ豈夫レ得ベケンヤ

蓋シ此等ノ課稅ハ國庫ノ收入ヲ圖ルノ外一而内地製鐵事業ノ保護ヲ意味スルヤ論ナシ吾人モ亦内地製鐵事業ノ成功ヲ希フニ於テ決シテ人後ニ落ツルモノニアラズ其一日モ速ニ品質價格共ニ外國製ニ優ル製品ヲ供給スルニ至ラムコトヲ望ムヤ切ナリト雖モ如何セム現時ニ於ケル内國製品ノ狀態ハ既ニ述ベタル所ノ如ク民間需要額ノ六七分ノ一ヲ供給スルニ過ギズ而シテ將來ニ於テモ吾人ノ希望ヲ充タスノ期ハ前途遼遠ナルモノ、如シ聞ク所ニ依レバ枝光製鐵所ノ擴張工事完成後ハ一年ノ產額三十五萬噸ニ達セシムル計畫ナリト然ラバ現今ノ產額ニ比シ十五萬噸ヲ増スモノニシテ其中ヨリ造船業者ニ供給シ得ル所幾分カ増加スベシト雖モ之ト共ニ造船業者ノ需要額モ亦將來増加スベキヲ以テ製鐵所ガ果シテ其所要額ノ全部ヲ供給シ得ルヤ否ヤ疑ナキ能ハズ且造船ニ要スル形鋼ノ如キハ其種類雜多ニシテ一種類ノ需要僅々數十噸ニ止マルヲ常トシ多キモ數百噸ニ過ギズ故ニ英國ノ如キ年々數百噸ノ造船材料ヲ製造スル國ニ在リテモ特種ノ形鋼ハ小數ノ専門工場ニ於テ製造シ此等ノ工場モ亦全英國ノ注文ヲ集メテ漸ク適當ノ數量ニ達シ始メテ經濟的ニ製造シ得ルモノナリ本邦ニ在テハ其需要更ニ僅少ナルベキ國情ノ下ニ特ニ巨額ノ費用ヲ投ジ之ガ製造ヲ企ツルハ不經濟ノ甚シキモノトス吾人ヲシテ内地製鐵事業ノ經營ニ付テ計ラシメバ吾人ハ言ハムトス内地製鐵所ハ宜シク其全力ヲ需要最モ多クシテ製作容易ナル鋼板類ノ製造ニ注ギ需要少キ形鋼ノ如キハ姑ク其供給ヲ外國ニ仰グベシト夫レ造船材料中内地ノ製出乏シク又輸入ニ待ツヲ利便トスルモノノ少ナカラズトセバ之ガ關稅ヲ免除スルヲ造船業獎勵ノ第一義ト爲サザルヘカラズ。

即チ吾人ノ製鐵事業ニ對スル希望ハ(一)内地ニ於ケル鐵鋼材供給ヲ迅速且容易ナラシムル方法ヲ講ジ(二)需要少額ニシテ内地ニ於テ到底經濟的ニ製作スル能ハザル材料ニ對シテハ全然關稅ヲ免除シ其輸入ヲ容易ナラシメ(三)

内地ニ於テ供給シ得ル鋼材モ出來得ル限り生産費ヲ節約シ外國品ノ市價ト大差ナキニ至ラシメ結局關稅ヲ撤廢スルモ製鐵業ノ存立ヲ期シ得ル方針ヲ執ラレムコト是レナリ素ヨリ製鐵業モ造船業モ國家ニ取テ必要ナル程度ハ相同クシテ毫モ輕重スルベカラズ政府ガ自ラ製鐵事業ヲ經營セラル、ハ民營ノ困難ナルガ爲メニシテ特ニ製鐵事業ニ偏依スルノ精神ニアラザルヤ言フ俟タズ然ルニ實際ニ於テ造船材料ハ内地製鐵事業保護ヲ意味スル輸入稅ヲ課セラレ造船業ガ宛カモ製鐵事業ノ犧牲タルノ觀アルハ條理ヲ失スルノ甚シキモノニシテ吾人ガ關稅撤廢ヲ主張スル所以ナリ今此等輸入品ノ關稅ヲ免除スルモ尙一噸拾數圓ノ運賃及雜費ヲ負擔スルヲ以テ内地製品ハ之ニ對シテ優ニ競争ノ餘地ヲ有シ決シテ壓倒セラルルノ虞ナカルベシ。

此他造船用木材ニシテ到底内地ニ於テ產出スル能ハザルモノ少カラズ斯ノ如キモノハ永久ニ外國ノ供給ヲ仰グモ亦已ムヲ得ザル所ナリ現行關稅法ハ此種木材ニ對シテハ特ニ低率ノ課稅ヲ爲セリト雖モ吾人ハ内地造船業ヲ發達セシムル爲メニ全然之ヲ免除セムコトヲ希望セザルヲ得ズ。

二、艤裝品ノ供給不便ニシテ價格廉ナラザルコト

近來内地ニ於ケル製作工業漸次發達シ艤裝品ノ一部ヲ製出スルニ至リタレドモ其種類尙ホ甚ダ少ナク且其製作品ノ多クハ一二工場ノ試驗的製品ニアラザレバ則チ各造船所ノ副產物タルニ過ギズ未タ以テ本邦造船業者ヲシテ之ニ倚賴シテ安ゼシムルノ程度ニ達セザルナリ之ニ反シ外國ニ在テハ此種製品ヲ専門トスル製造所アリテ遍ク世界一般ノ需要ニ應ズルヲ以テ其產額極メテ多ク從テ其生産費ヲ輕減シ廉價ニ之ヲ供給スルヲ得、斯ノ如キモノハ寧ロ當分外國ヨリ輸入スルヲ得策トスベク殊ニ各種專賣品及特種品ハ本邦ニ於テ之ト同一若クハ之ニ代ルベキモノ製出ヲ見ルニ至ル迄ハ其供給ヲ外國ニ仰ガザルヲ得ズ故ニ吾人ハ艤裝品中各種專賣品及特種ノ船體屬具補助機ノ如キハ造船業者ノ自由撰擇ニ一任シ而シテ内國製造船價ヲ低廉ナラシムルガ爲メニ此等物品ノ輸入稅ヲ廢止シ若クハ輕減スルノ必要ヲ認ムルモノナリ

三、船舶ニ關スル金融困難ナルコト

海事ニ關スル金融機關ノ不備ハ本邦造船業不振ノ原因ニシテ間接ニ内地製造船舶ノ代價ヲ不廉ナラシムル因由タリ夫レ本邦船主ハ既ニ新船ノ利益多キヲ覺リ且船舶改良ノ必要ヲモ認ムルニ拘ラズ今尙古船ヲ購入スルモノ其迹ヲ絶タザルハ一ニ資本ノ潤澤ナラザルニ由レリ本邦海運業ハ興起以來日淺シトセザルモ世人ノ之ニ對スル觀念ハ尙ホ舊時ノ誤謬ヲ脱セズ甚シク之ヲ危險視スルガ爲メ船舶ニ對スル金融機關ハ殆ンド絶無ト謂フモ不可ナシ從テ海運業者ハ極メテ不利ナル條件ニ依ルニアラザレバ資金ノ供給ヲ得ルコト能ハズ是レ本邦海運界ノ最大弱點ニシテ内地造船業ノ振ハザル所以ナリ吾人ハ造船業振興ノ爲メニ新造船船ニ對スル低利資金融通ノ途ヲ開クヲ急務ト信ジ其方法トシテハ政府ガ勸業銀行ニ命ジテ船舶ヲ抵當トスル低利資金ノ貸付ヲ開始セシメ之ガ爲メニ發行スル債券ニ對シテハ相當ノ便宜ヲ與ヘラレムコトヲ希望ス此ニ勸業銀行ヲ舉ゲテ興業銀行ヲ舉ゲザルハ齊シク產業獎勵ノ趣意ニ於テ低利資金ノ貸付ヲ爲ス特種銀行ナリト雖モ船舶ニ對スル貸付對物信用ナルヲ以テ勸業銀行ノ系統ニ屬スト思料スルニ由ルノミ。

今船舶ヲ抵當物件ト爲スニ方リ債權ノ安全ヲ確保スルガ爲メニ其船舶ニハ必ズ保險ヲ付スルヲ要スルモ現行商法中船舶ノ衝突ノ際其委付ニ關スル規程稍々明瞭ヲ缺キ船主ガ責任免除ノ爲メニスル委付ヲ行ハザル限り先取權ノ效力ハ保險金ニモ及ブノ虞アリ而カモ其委付ヲ行フ手段トシテハ我商法ニ於テハ委付ノ登記ヲ一種ト爲セルヲ以テ船舶沈没ノ場合ニハ手續上困難少ナカラズ爲ニ抵當權ヲ薄弱ナラシムル嫌ナシトセズ此等ハ宜シク英國法ニ準據シテ改正ヲ加ヘ船主責任及先取特權ノ及ブ範圍ヲ明確ナラシメ抵當權者ノ債權ヲ確實ナラシムル必要アリ貸出ヲ受クベキ船舶ノ資格其他規約ニ就テハ勸業銀行ト海事當局者トノ間ニ協議決定セラルベキモノナルモ吾人ハ總噸數一千噸以上ノ内地新造汽船ニ對シ保險價格ノ約八割ヲ最小限度トシ年利八歩以內十箇年以上ノ年賦拂ノ如キ條件ヲ以テ一般のニ貸付ヲ履行セラレンコトヲ希望ス。

四、検査監督ノ複雜ニシテ内地製造貨物船ニ對スル設備過大ナルコト

船舶検査制度ノ複雜ナルハ内地製造貨物船ノ代價ヲ高カラシムル一原因ニシテ現行法ガ旅客船ト貨物船トヲ問ハ

ズ皆同一規程ヲ以テ取締ラムトスルニ基クモノナリ抑々旅客ノ運搬ニ從事スル客船ニ對シテハ貴重ナル人命ノ安全ヲ期スルガ爲メニ種々嚴格ナル規程ヲ設ケテ政府自ラ之ヲ監督スルハ當然ノ義務ナレドモ貨物船ニ至リテハ單ニ船員保護ノ見地ヨリ相當ノ取締ヲ爲セバ足ルモノニシテ船體機關ノ構造設備ニ屬スルモノハ直接干渉スルノ必要ナカルベシ而シテ現行ノ検査規程ニアリテハ財産保護ノ爲メ客船ト同一程度ノ検査ヲ爲スモ貨物運搬ノ安全ヲ保證スベキ検査ノ如キ往々之ヲ等閑ニ付スル傾アルハ本末輕重ヲ誤ルノ感ナキ能ハズ又造船規定ノ如キモ船舶ノ用途ニ應ジ適當ノ斟酌ヲ加フル要アルニ現行法ハ客船貨物船ニ論ナク粗々同一ノ構造ヲ要求スルノ結果自ラ内國製造貨物船ヲ高價ナラシム故ニ吾人ハ先ヅ貨物船ノ構造検査ヲ民間ノ船級協會ニ委任シ四圍ノ狀況ヲ酌量シ簡易適切ナル規程ヲ設ケテ其構造設備ヲ検査セシメ其成績ニ應ジ等級ヲ付シ實際ノ狀態ヲ明示シテ保險業者及海運業者ノ利用ニ供シ一ハ以テ老朽船舶淘汰ノ途ヲ開キ二ハ以テ純粹ナル新式貨物船ノ出現ヲ助長シ尙ホ船主、造船所、海運業者ノ間ニ介立シテ公平ナル見地ヨリ船舶ヲ評價シ或ハ新造船ヲ監督セシメ由テ直接間接ニ船舶改良ノ實ヲ舉グルハ、我海運業ノ健全ナル發達ヲ圖ル機宜ノ方法ナリト信ズ即チ政府監督ノ下ニ一ノ船級機關設立ノ必要ヲ唱フル所以ナリ。

又從來本邦ノ船舶検査及製造監督ニ對シ往々相互非難ノ聲ヲ耳ニスルハ當事者間ニ意思ノ疏通ヲ缺クニ由ルモノ、如シ而シテ之ガ爲メニ當ニ検査監督機關運用上ノ障礙タルノミナラズ官民共ニ無益ノ勞力ト時日ヲ徒費シ延テ船價船費ニ影響セル場合少シトセズ之ガ匡救ノ一策トシテ吾人ハ官民合同ノ海事研究機關ヲ設ケ各方面ノ人士ヲ網羅シテ委員會ヲ組織シ重要ナル事項ハ常ニ衆議公論ニ依リテ決定セムコトヲ望ム斯ノ如クスレバ船舶法規ノ如キ最モ時勢ニ適スルモノヲ制定スルコトヲ得ベク一般海事ニ關スル制度ノ改善亦之ヲ期待スルヲ得ベキナリ。

現今本邦高等海員ノ多數ハ曾テ旅客船ニ於テ其技術ヲ練習セル關係ニ因リ貨物船ノ設備ニ對シテモ習慣上旅客船ヲ標準トスル傾向アリ之ガ爲メ自ラ貨物船ニ對スル設備ヲ過大ナラシメ延テ其船價船費ヲ増大スル嫌ナシトセズ而シテ是レ本邦製貨物船ノ船内設備ガ外國製ニ比シテ過大ナル一原因ナリトス此事タル海員ノ多年ノ習慣ヨリ來

ルモノナルガ故ニ將來ニ於テハ海員ノ教育上考慮ヲ要スベシ。

五、工程能率ノ低キコト

本邦造船業者ガ新船ノ供給期限ニ於テ外國同業者ニ遠ク及バザルガ爲メニ本邦船主ノ注文ヲ吸收スル能ハザルノ一事ハ吾人ノ甚ダ遺憾トスル所ナリ又本邦ニ於ケル造船工費ハ技術ノ熟達ニ伴ヒ逐年其割合ヲ減ジタリト雖モ諸外國ニ比シ絶對的低廉ナル賃銀ヲ以テシテ尙未ダ外國同業者ニ及バサルハ慨歎ニ堪ヘザル所ナリ此等工程能率ニ關スル問題ハ吾人自家ノ責任ニ屬スト雖モ爰ニ世人ノ諒察ヲ請ハザルベカラサルハ本邦ニ於テハ造船ノ未ダ盛ナラザルガ爲メ船舶ニ關スル副工業幼稚ニシテ造船業者自ラ之ヲ製造セザルヲ得ザルノ結果外國同業者ニ比スレバ過大ノ設備ヲ要シ爲メニ生産品ニ對スル經費ノ割合ヲ増嵩シ且現今内地ニ於テ建造セラル、船舶ハ其種類形狀大小ヲ異ニシ外國同業者ガ殆ンド専門的ニ同型船舶ノミヲ多數ニ製造スルニ比シ工事上少カラザル混雜ト費用ヲ要シ自ラ船價ニ影響スルト共ニ竣工ニ日子ヲ要スル理由アルコト是レナリ此等ハ内國ニ於ケル造船盛ナルニ至ラバ自ラ醫セラルベシ目下當面ノ務トシテ技術教育ヲ普及シ工場ノ管理ニ科學ヲ應用シ以テ生産費ノ低廉ト生産力ノ増進ヲ圖ル等幾多研究ヲ要スル事項アリ即チ吾人ガ前項ニ提唱セル海事研究機關ニ依リ此等諸懸案ヲ解決スルヲ適當ナリト信ズルモノナリ。

結

以上述ブル所ノ如ク本邦造船業ハ多年政府ノ獎勵アルニ拘ハラズ唯少數ノ特定航路用ノ優等客船ト沿岸航行ノ小汽船ヲ製造スルニ止マリ多數ノ貨物專用船ハ概ネ供給ヲ外國ニ仰グノ状態ニ在リ而シテ是レ主トシテ内國製造商船ノ價格外國製ニ比シテ不廉ナルニ因ルガ故ニ吾人ハ其不廉ノ原因ト認ムル造船用材及艤裝品ノ輸入税ヲ撤廢若クハ輕減シ以テ船價ノ基礎ヲ廉ナラシメ勸業銀行ヲシテ新造船ニ對シ低利資金ノ貸出ヲ開始セシメ以テ船主ノ資本ヲ潤澤ナラシメ又民立ノ船級協會ヲ設立シ貨物船ノ検査ヲ委託シ以テ其手續ヲ簡易ニシ別ニ官民合同ノ海事研究機關ヲ組織シ以テ工場ノ經營其他海事一般ノ審議研究ヲ爲スヲ必要ト認メ茲ニ之ヲ決議スル所以ナリ。

關稅ノ事タル國庫ノ收入ニ關スルヲ以テ吾人ト雖モ一概ニ之ガ撤廢ヲ欲セズ然レドモ造船材料ニ對スル輸入稅ノ賦課ハ明ニ造船獎勵ノ政策ト矛盾セルヲ示シ且現今ノ狀態ニ放任セバ外國製造船舶ノ代價トシテ海外ニ支拂ハル、モノ年々巨額ニ上リ五年若クハ十年ノ通計ニ於テハ其額必ズ造船材料ニ對スル輸入稅免除額ノ比ニアラザルベシ是レ實ニ國家經濟上看過スベカラザル問題ニアラズヤ故ニ吾人ハ寧ロ其輸入稅ヲ免ジテ内地造船業ヲ發達セシムルヲ國家ニ取リテノ得策ナリト斷言スルニ躊躇セザルナリ。

國防上ノ關係ニ至リテハ更ニ重且大ナルモノアリ夫レ造船業ハ海運業ト同ジク元來國家の事業ニシテ其興廢ハ直ニ國富ノ消長ニ影響スルノミナラズ實ニ國防ノ強弱ニ關係ス即チ船舶ハ所謂戰時禁制品ニシテ國家一朝他國ト事ヲ構ユルノ日ハ之ヲ中立國ヨリ輸入スルヲ得ズ故ニ平素唯々船舶ノ供給ヲ外國ニ仰ギ自國內ニ其造出力ヲ養ハザレバ百萬ノ兵アリト雖モ之ガ輸送機關ヲ缺クガ爲メニ戰局ノ不利ヲ來シ其極或ハ國家ノ存立ヲ危クスルニ至ラムトス是レ歐米諸國ガ造船材料ノ輸入稅ヲ免除シ一般商品ト全然區別スルノミナラズ其他有ユル點ニ於テ極力之ヲ援助シ造船業ノ基礎ヲ確實ナラシメ以テ軍器ノ獨立ヲ期スル所以ナリ本邦ノ如キ海國ニ在テハ軍事上船舶ニ待ツ所一層大ナルモノアルベク從テ造船業ト國家トノ關係ハ更ニ密接ナルモノアリト謂ハザルベカラズ然ルニ從來本邦ニ於ケル造船獎勵ハ其聲ノ高キニ比シテ其實之ニ副ハザルノ嫌ナキ能ハズ、何トナレバ從來航海獎勵法發布當時ニ在テハ外國航路ニ使用スル船舶ニ對シ一般ニ獎勵金ヲ下付シ其外國製ニ係ルモノニハ規定額ノ二分ノ一ヲ給スル制度ニシテ事實上内國ニ於ケル造船ヲ獎勵スルノ效果少ナカラザリシモ明治四十一年ニ至リ航海獎勵法ヲ廢シ之ニ代ユルニ遠洋航路補助法ヲ以テシ特定ノ命令航路ニ使用スルモノ、外其保護ヲ全廢セラレタル以來ハ一般貨物船ハ何等ノ恩典ヲモ受ケザルノミナラズ造船獎勵金ハ其制尙存續スト雖モ一面造船材料ニ輸入稅ヲ課セラル、ヲ以テ之ト相殺スレバ殆ンド恩典ノ實ヲ見ザレバナリ即チ本邦造船業ハ事實ニ於テ何等保護獎勵ヲ受ケザルト異ナラズ或ハ外、外國同業者ニ壓迫セラレ内、關稅ノ重課ニ苦シミツ、アルモノト云フモ不可ナキガ如シ豈ニ驚クベキ事實ニアラズヤ吾人ガ關稅撤廢ノ急ヲ唱ヘ低利資金融通ノ要ヲ説クハ畢竟制度ノ不備ヲ補ヒ實際ニ獎勵ノ

效果アラシメムコトヲ庶幾スルニ過ギズ之ヲ以テ歐米諸國ノ造船業ニ對スル保護獎勵ニ比スレバ素ヨリ尙遙ニ遜色アリ吾人ハ偏ニ其足ザラムコトヲ恐レ此點ハ特ニ朝野ノ注意ヲ請フ所ナリ。

夫レ現今ノ造船獎勵金ハ造船材料ニ對スル課稅ト相殺シ恩典ノ實ナク今後輸入關稅ヲ免除セラルルニ至リ始メテ獎勵ノ效果ヲ生ズルモノナルガ故ニ關稅ノ免除ヲ理由トシテ獎勵金ヲ減額スルガ如キハ不條理ノ甚シキモノトス當ニ減額スベカラザルノミナラズ苟クモ造船業ノ發達ヲ企圖セバ其獨立ノ域ニ達スル迄ハ現行率以上ノ獎勵金ヲ下附スルノ必要アルハ識者ノ夙ニ認ムル所ナリ歐米ノ造船所ハ造船ノ注文ヲ吸收スルガ爲メニハ船主ノ便宜ヲ圖ルコト多ク英國ノ如キハ船價ノ年賦拂ヲスラ承諾スル場合アリ況ンヤ其ノ船價ノ特ニ廉ナルモノニ於テオヤ之ニ對シ幾多不利ノ點ヲ有セル本邦船造業者ヲシテ單ニ從來ノ如キ少額ノ獎勵金ノミヲ以テ對抗競争セシメムトス是レ難キヲ強ユルモノニアラズシテ何ゾヤ故ニ吾人ハ此際造船獎勵ニ關スル施設ノ改善ヲ要スルト共ニ造船獎勵金ヲ増額スルヲ急務ト認ムルモノナリ而シテ造船材料ニ對スル輸入稅ノ免除若クハ輕減ニ伴ヒ輸入船舶ニ對シテモ亦相當減稅ヲ爲スハ最モ公平ノ處置ナルベシト信ズ。

今ヤ巴拿馬運河ノ開通ト支那大陸ノ開發ニ伴ヒ本邦ハ太平洋ニ於ケル船舶ノ供給及修繕地トシテ當然其權柄ヲ掌握セザルベカラザル秋ニ際シ國內ノ造船業ハ萎靡振ハズ當ニ他ニ向テ船舶ヲ供給スルノ力ナキノミナラズ自國所要ノ船舶モ概ネ之ヲ外國ヨリ輸入シツ、アリ是レ豈ニ海國タル天然ノ形勝ヲ利用スル所以ノ途ヲ得タリト謂フベケンヤ特ニ憂フベキハ軍器ノ獨立完カラズ國防上遺憾少ナカラザル一事ニシテ吾人ハ今次歐洲ノ動亂ニ因リ輸入杜絶ノ苦痛ヲ經驗シ感慨殊ニ切ナルモノアリ茲ニ大聲疾呼スルモノ奚ゾ獨リ造船業者ヲ庇保スルガ爲メナラムヤ希クハ官民ノ協力ニ依リ上掲數項ノ要件ヲ速ニ實行セラレ内地造船業ヲシテ鞏固ナル發達ヲ致サシメ以テ軍器ノ獨立ヲ完フシ國防上ノ缺陷ヲ療醫スルト同時ニ正貨流出ノ禍源ヲ杜ギ國家經濟上ノ危險ヲ芟除セムコトヲ切望ニ堪ヘザルナリ(終)

建 白 書

謹シテ某某内大臣閣下ニ白ス我邦ノ海運事業ハ戰勝ノ餘威ヲ以テ長足ノ進歩ヲナシ今ヤ優ニ世界大海國ノ榮班ニ入ルニ至レリト雖モ造船事業ハ纒カニ發達ノ曙光ヲ見ルノミニシテ未ダ海運ノ進歩ニ伴フニ至ラズ艦船ノ補充ダニ不足ヲ感ズルモノアリ之ヲ彼ノ歐米諸國ノ海運造船ノ二事業ガ相竝ンデ盛大ナルニ比スレバ某等斯業ニ從事スルモノハ忸怩タラザルヲ得ザルナリ 閣下等ノ海軍造船所ノ擴張及ビ商船新造ノ獎勵ニ力ヲ盡サル所以亦實ニ此ニアルヲ信ズ抑モ我邦ノ造船事業ニシテ現今ノ狀態ヲ以テ足レリトシ唯先進國ノ後塵ヲ拜スルノミヲ以テ甘ンズレバ則チ休ム苟モ斯業ヲシテ海運事業ト相竝馳シ世界優秀ノ地位ヲ占メンニハ必ズヤ造船術ニ學理的根柢ヲ與フル船型實驗渠ノ設備ナカル可カラズ其ノ斯業ノ進歩ニ缺ク可カラザル者アルコトハ別紙説明書ニ於テ概説セルガ如シ既ニ私立造船所ノ一二ハ此ノ必要ヲ認メテ新設ノ企アルヲ聞キ某等ハ斯業發達ノ爲メ喜悅ノ念禁ジ難キモノアリ然リト雖モ船型實驗ハ特リ民業ニ委シテ放置スベキモノニアラズ民業ニテハ研究ノ結果ヲ秘シテ社會ノ公益ニ供セザルノ弊アリ是レ營利ノ上ヨリ又止ムヲ得ザル所ニシテ諸先進國ニ於テモ比々然ラザルナシ故ニ一般造船術ノ改善發達ハ一ニ之ヲ公設實驗渠ニ俟タザル可カラズ而テ船型實驗ヲ開始センニハ甚深ノ學識ト該博ナル經驗トヲ兼ネ有スルノ技術家ヲ得ザル可カラズ實驗渠新設ノ困難ハ此ニ存ス恰モ好シ目下工科大學御雇教師トシテ我邦ニ在留セル「パーピス」氏ハ英國ニ於テ船型實驗ニ關シ長年月ノ經驗ヲ有スルノ士ナリ故ニ技術家其人ヲ得ルニ就テハ目下些ノ困難アルコトナシ 閣下願ハクハ此ノ好機ヲ利用シテ公設實驗渠ヲ新設シ以テ造船事業ノ發達ニ資セラレンコトヲ茲ニ別紙説明書及ビ試ミニ立案セル經費豫算書ヲ添ヘテ誠悃ノ微意ヲ具陳ス 頓首再拜

明治三十九年二月 日

造船協會々長男爵 赤 松 則 良

第五回懸賞論文募集

本會ニ於テ三好獎學資金ノ一部ヲ支出シ第五回懸賞論文ヲ募集ス苟モ造船造機ノ業務ニ從事セラル、諸君ハ其蘊蓄ヲ吝マス奮テ投稿セラレンコトヲ望ム
應募規程左ノ如シ

- 一、敢テ問題ヲ定メス造船造機ノ進歩發達ニ資スルモノハ之ヲ採用ス其題目ハ提出者ノ隨意タルヘシ
 - 二、應募ノ論文ハ必ス自己ノ考案研究若クハ經驗ニ係ルモノタルヘシ但シ特許ヲ得タル意匠考案ニ對シテハ審査ヲ加ヘサルモノトス
 - 三、應募者ハ總テ匿名タルヘキコト但シ通信ヲ受クヘキ代表者ヲ指定スルコトヲ要ス
 - 四、原稿ハ邦文若クハ英文ニ限ルコト、シ其字數ヲ制限セズ
 - 五、原稿提出期限ハ大正四年十二月三十一日トス
 - 六、提出ノ原稿ハ返戻セズ
 - 七、應募ノ原稿ハ造船協會ニ於テ囑託シタル審査委員ノ審査ニ付シ優等ト認めタルモノニ授賞ス但シ賞與金合計金七百圓以内トス
 - 八、應募論文ノ著作權ハ造船協會ニ移リタルモノトス
 - 九、當選發表ハ大正五年三月以後トス
- 右報告ス

大正四年九月

造船協會

大正四年九月二十九日印刷

大正四年九月三十日發行

東京市京橋區山城町十五番地
工學會 內

發行所 造船協會

編輯兼發行者

沖野 定賢

東京府豐多摩郡澁谷町大字
下澁谷三百八十六番地

印刷者

島 連太郎

東京市神田區美土代町
二丁目一番地

印刷所

三 秀 舍

東京市神田區美土代町
二丁目一番地